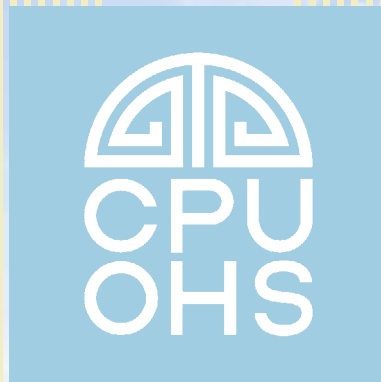


令和2年度版  
(通巻第12号)

# 千葉県立保健医療大学

教育研究年報



Annual Report of Education and Research  
Chiba prefectural University  
Of Health Sciences  
2020



## 令和2年度教育研究年報の発行にあたって

千葉県立保健医療大学(本学)は2009年に千葉県立衛生短期大学、千葉県医療技術大学校を再編整備し、看護学科・栄養学科・歯科衛生学科・リハビリテーション学科からなる4年制の県立大学として開学し、将来の健康長寿社会の創造に寄与できる保健医療専門職を育成するとともに、千葉県の保健医療政策に求められる地域に根差した保健・医療・福祉の連携拠点として県民の皆様の健康に貢献してきております。

令和3年は新型コロナ感染に伴って1年延期された東京オリンピック・パラリンピックが開催されましたが、新型コロナ感染症はおさまらず、海外からの観客は無く、競技も無観客という大変残念な形での開催となりました。ただ、アスリートの皆様の活躍は我々を大いに励ましてくれました。しかしながら、デルタ株の感染拡大に伴って襲来した第5波の影響は甚大で、多くの自宅待機者を生み、不幸な転機をとった方々が少なからず出たことは医療者の一員として大変残念であり、無念でもありました。幸いなことに9月に入り、新型コロナワクチン接種及び皆様の行動制限の広がりが相まって、感染は急激に鎮静化し、10月1日には全国的に発出されていた緊急事態宣言・蔓延防止重点措置も解除され、やっと日常生活も落ち着きをみせてきました。本学も活動指針である警戒レベルを下げ、学園生活も正常化に向かっています。

さて、この教育研究年報(年報)は本学が開設された平成21年度末に第1号が刊行され、各教員が毎年の業績を振り返り、更なる発展に資するものです。加えて、認証評価機関による大学評価の重要な審査項目になるもので、各教員の再任審査時にも必須の資料となっています。ただ、平成27年10月に受審した大学基準協会(基準協会)による機関別認証評価の結果は適合でありましたが、『教育研究年報』の在り方を含めて厳しい指摘を受けております。現在 本学では自己点検評価委員会を中心として、検証体制を構築し、PDCAサイクルを稼働して教育の恒常的な改善に繋げる努力をし、その成果を『教育研究年報』にも反映させております。

本学は平成30年度に策定された千葉県保健医療計画で新たに保健医療政策の連携拠点の整備対象となっており、行政や県内関係機関と連携・協働し、保健医療に関するシンクタンク機能を発揮することや、一般県民への公開講座をはじめとする地域貢献など県民の保健医療福祉の充実に寄与することが一層求められており、我々は本学の原点に立ち返り、その達成に向けて愚直に努力を続ける所存です。

令和3年12月

学長 龍野 一郎



# 目 次

## 第1部 大学組織の活動記録

I	千葉県立保健医療大学の概要	2
1.	千葉県立保健医療大学の沿革	2
2.	大学の理念・目的	2
3.	健康科学部の目的	2
4.	千葉県立保健医療大学 運営組織図	5
II	年間記録（一年の歩み）	6
1.	令和2年度学事歴および行事	6
2.	各学科定員等	6
III	管理運営の状況	7
1.	評議会の活動報告	7
2.	大学運営会議の活動報告	8
3.	教授会の活動報告	10
4.	各種委員会等の活動報告	13
5.	各学科・専攻の管理・運営活動報告	53
6.	事務局の活動	57
7.	FDの実施状況	57
IV	教育活動	59
1.	共通教育	59
2.	看護学科	59
3.	栄養学科	60
4.	歯科衛生学科	61
5.	リハビリテーション学科理学療法学専攻	61
6.	リハビリテーション学科作業療法学専攻	62
7.	学生による授業評価	64
8.	大学全体	65
V	学生の受け入れ状況	67
1.	学生の受け入れ方針	67
2.	年度当初の重点課題	68
3.	入学者選抜状況	69
4.	学生募集のための取り組み	70
5.	学生の在籍状況	71
6.	評価（成果および改善すべき事項）	72
7.	次年度の方策	72
VI	学生支援	73
1.	年度当初の重点課題等	73
2.	活動内容	73
3.	キャンパスハラスメント	75
4.	各学科・専攻の取り組み	75
5.	令和2年度千葉県立保健医療大学卒業時調査	79

6. 評価（成果および改善すべき事項）	80
7. 次年度の方策	81
<b>VII 社会連携・社会貢献</b>	<b>82</b>
1. 社会との連携・協力に関する方針	82
2. 年度当初の重点課題	82
3. 活動内容	82
4. 評価（成果および改善すべき事項）	89
5. 次年度の方策	89
<b>VIII 教育研究等環境</b>	<b>90</b>
1. 年度当初の重点課題	90
2. 施設・設備の整備状況	90
3. 図書館の状況	91
4. 研究倫理を遵守するための措置	91
5. 評価（成果および改善すべき事項）	91
6. 次年度の方策	91
<b>IX 研究活動報告</b>	<b>92</b>
1. 看護学科	92
2. 栄養学科	92
3. 歯科衛生学科	92
4. リハビリテーション学科理学療法学専攻	92
5. リハビリテーション学科作業療法学専攻	92
<b>X 内部質保証のための取り組み</b>	<b>93</b>
1. 年度当初の課題	93
2. 評価（成果および改善すべき事項）	93
3. 達成事項と次年度の方策	93

## 第2部 教員の教育研究活動記録

・学長	97
学長 田邊 政裕	99
・看護学科	101
教授 石井 邦子	103
教授 佐藤 紀子	106
教授 西野 郁子	109
教授 河部 房子	112
教授 浅井 美千代	115
教授 神田 みなみ	117
教授 杉本 知子	119
教授 片平 伸子	122
教授 藤原 慶一	124
教授 小宮 浩美	126
准教授 雨宮 有子	128
准教授 三枝 香代子	131
准教授 細谷 紀子	133

准教授	川城 由紀子	136
准教授	植村 由美子	138
准教授	西村 宣子	140
准教授	北川 良子	143
准教授	田口 智恵美	146
講 師	成 玉恵	148
講 師	石川 紀子	150
講 師	植田 麻実	153
講 師	今井 宏美	155
講 師	富樫 恵美子	157
講 師	加藤 隆子	159
講 師	川村 紀子	161
講 師	佐伯 恭子	163
講 師	大内 美穂子	165
講 師	杉本 健太郎	167
助 教	中山 静和	169
助 教	椿 祥子	171
助 教	増田 恵美	173
助 教	相馬 由紀子	175
助 教	内海 恵美	177
助 教	山本 千代	179
助 教	坂本 明子	181
助 教	櫻井 理恵	183
助 教	杉本 亜矢子	185
助 教	渡辺 健太郎	186
助 教	泰羅 万純	188
・栄養学科		<b>191</b>
教 授	細山田 康恵	193
教 授	東本 恭幸	196
教 授	井上 裕光	198
教 授	菊池 裕	200
教 授	谷内 洋子	203
准教授	荒井 裕介	207
准教授	金澤 匠	209
准教授	河野 公子	211
講 師	海老原 泰代	213
講 師	鈴木 亜夕帆	215
助 教	阿曾 菜美	217
助 教	生魚 薫	219
助 教	田村 友峰子	221
助 教	岡田 亜紀子	222
助 教	峰村 貴央	224
・歯科衛生学科		<b>227</b>
教 授	麻賀 多美代	229
教 授	酒巻 裕之	232
教 授	大川 由一	236
教 授	島田 美恵子	239
教 授	石川 裕子	242

准教授	金子 潤	244
准教授	荒川 真	247
准教授	河野 舞	249
講 師	麻生 智子	252
講 師	鈴鹿 祐子	255
講 師	山中 紗都	258
講 師	佐久間 貴士	260
助 教	栞原 涼子	262
・リハビリテーション学科理学療法学専攻		<b>263</b>
教 授	三和 真人	265
教 授	雄賀多 聡	268
准教授	堀本 佳誉	270
准教授	大谷 拓哉	272
講 師	江戸 優裕	274
助 教	酒井 克也	277
・リハビリテーション学科作業療法学専攻		<b>281</b>
教 授	岡村 太郎	283
教 授	山本 達也	285
准教授	安部 能成	288
准教授	藤田 佳男	291
准教授	有川 真弓	294
講 師	吉野 智佳子	297
講 師	松尾 真輔	300
助 教	成田 悠哉	302

## 資料

資料 1	履修規程別表	304
資料 2	令和 2 年度非常勤講師一覧	358



# 第 1 部

## 大学組織の活動記録

# 第1部 大学組織の活動記録

## I 千葉県立保健医療大学の概要

### 1. 千葉県立保健医療大学の沿革

千葉県立保健医療大学は平成21年4月に開学した。幕張にある千葉県立衛生短期大学と仁戸名にある千葉県医療技術大学校が再編整備され、1学部2キャンパスの4年制大学になったものである。前身の2校は順次閉学され、平成23年4月からは保健医療大学のみでの運営になった。

保健医療大学開学までの道のりを振り返ると、4年制大学への要望はすでに衛生短期大学の佐藤学長（2代目、昭和62年4月～平成5年3月）の頃からあったものの、県庁内に検討会ができたのは平成15年になってからである。平成17年4月に保健医療大学準備室が健康福祉部医療整備課内に設置され、これは課相当の保健医療大学設立準備室に改組された。この間、保健医療大学整備検討委員会が設置され（平成17年7月）、整備計画が策定された（平成18年7月）。

平成20年3月に文部科学省に認可申請書を提出し、同年10月末に大学設置認可の通知があり、同年12月の県議会を経て（大学設置管理条例の議決）、直ちに入学募集・入学試験を行うという実に目まぐるしい1年であった。こうして多くの方々のご努力、ご支援のもとに平成21年4月に開学の日を迎えることができた。

### 2. 大学の理念・目的

千葉県立保健医療大学は、保健医療に関わる優れた専門的知識及び技術を教授研究し、高い倫理観と豊かな人間性を備え、地域社会に貢献し、保健医療の国際化に対応できる人材を育成するとともに、研究成果を地域に還元することにより、県民の保健医療の向上に寄与します。

#### (1) 高い倫理観と豊かな人間性を持った人材の育成

生命の尊厳を深く理解し、専門職としての高い倫理観を育み、人間を総合的に理解し、多様性を認めあう広い視野を持った人材を育成します。

#### (2) 健康づくりなどの保健医療に関わるすぐれた専門職の育成

すぐれた専門的知識・技術を習得し、一人ひとりの状況に応じた健康づくりなどの多様な保健医療を研究・企画・評価する能力を持った人材を育成します。

#### (3) 地域社会に貢献し、保健医療の国際化に対応できる人材の育成

地域に開かれた大学において、県民、保健医療関係者と広く連携・交流を行い、地域社会に貢献する意識態度を醸成します。また、国の内外を問わず国際的な視野を持って活動できる人材を育成します。

#### (4) 県の健康づくり政策のシンクタンク機能

健康づくりなどの保健医療の政策課題に関する実践的研究を行い、その成果を地域に還元し、県の健康づくり政策に貢献します。

### 3. 健康科学部の目的

健康科学部は、本学の理念・目的を達成するために以下の人材育成を学部の目的、学位授与の方針とします。

- (1) 生涯にわたり総合的に保健医療を発展させようとする意欲を持った人材の育成
- (2) 科学的真理を追究する力を持った人材の育成
- (3) 専門的知識、技術、実践力及び指導力を身につけた人材の育成
- (4) 多様な分野で他の専門職と自在に連携、協働できる人材の育成
- (5) 総合的な健康づくりの推進力となり、保健医療の発展に寄与できる人材の育成

なお、学部の目的を達成するためには大学が定める所定の期間在学し、大学・学部の理念・目的に沿って設定された学科・各専攻の授業科目を履修し、卒業要件に満たす単位を修める必要があります。

## 〈学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）〉

### I 倫理観とプロフェッショナリズム

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に倫理的な原則を遵守し、専門職としての責務をはたすことができる。卒業生は以下ができなければならない、

- 1.1 対象者の人権を尊重し、多様な価値観や社会的・文化的背景を理解し、思いやりをもって接することができる
- 1.2 対象者のニーズを優先的に考え、誠実かつ公正に対応できる
- 1.3 社会的・法的責任を自覚して、専門職としてその責務を果たすことができる

### II コミュニケーション能力

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に対象者とそれを支える人、保健・医療・教育・福祉職に対してお互いの立場を尊重した人間関係を構築し、生き生きとしたコミュニケーションをとることができる。卒業生は以下ができなければならない、

- 2.1 対象者とそれを支える人の個人的、文化的、社会的背景を尊重し、信頼関係を構築できる
- 2.2 対象者とそれを支える人、保健医療専門職からの有効な情報収集と伝達ができる
- 2.3 同一専門職や他の関係職種との間で文章による情報の伝達と共有ができる
- 2.4 国内・外からの情報を入手して、保健医療に活用し発信できる

### III 実践に必要な知識

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に高い教養を身に付け、専門領域の実践に必要な知識を有し、それを健康づくりの支援に活用することができる。卒業生は以下の知識等を有し実践に活用できなければならない、

- 3.1 学際的な幅広い教養と知識
- 3.2 保健・医療・福祉に関する基礎的な知識
- 3.3 各専門領域における実践活動の基盤となる基礎的知識
- 3.4 各専門領域における実践活動の根拠となる臨床的知識
- 3.5 各専門領域の基礎的知識・専門的知識に基づいた、対象者への適切なアセスメント方法
- 3.6 対象者に合わせた適切なアプローチ方法に関する知識

### IV 健康づくりの実践

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に個人・家族・地域に対し健康的またはその人らしい生活を送るための問題解決と健康増進に向けて、根拠に基づいた適切で有効な健康づくりの支援を提供できる。卒業生は以下ができなければならない、

- 4.1 必要な情報を身体・心理・環境の面から正確に収集、管理できる
- 4.2 収集した情報を専門的知識によりアセスメントできる
- 4.3 アセスメントに基づき健康づくりの目標を設定できる
- 4.4 対象者の状況に合わせた健康づくりの提供計画を立てることができる
- 4.5 対象者が主体的・自律的に健康づくりに取り組めるように説明・支援できる
- 4.6 最新の科学的エビデンスに基づいた健康づくりを提供できる
- 4.7 健康づくりの提供計画に基づき、安全かつ正確な技能により実施できる
- 4.8 目標の達成度や対象者の反応に基づき、健康づくりの評価・修正ができる

### V 健康づくりの環境の整備・改善

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に人々の健康的またはその人らしい生活を送るための問題解決と健康増進に向けて、健康を志向する地域環境（人・物・制度）の整備・改善に努めることができる。卒業生は以下ができなければならない、

- 5.1 健康と生活環境との相互作用をアセスメントし、社会・生活の場である地域環境（人・物・制度）の改善に向けて実践できる
- 5.2 健康づくりの提供にあたり、保健医療制度下での経済性・効率性を考慮することができる
- 5.3 現存の支援・サービスの整備・改善に必要な企画・提案ができる

### VI 多職種との協働

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に対象者を中心とした安全で質の高い保健・医療・福祉を実践するために、自身の役割を認識し、多職種との相互理解を深めながら行動することができる。卒業生は以下ができなければならない、

- 6.1 多職種の特門性と対象者の多様な価値観を理解し、尊重することができる
- 6.2 多職種と交流し、良好な関係を構築することができる
- 6.3 多職種と状況に応じて適切に協働し、問題解決できる
- 6.4 ヘルスケアチームにおける自身の立場・役割を理解し、責任ある行動をとることができる

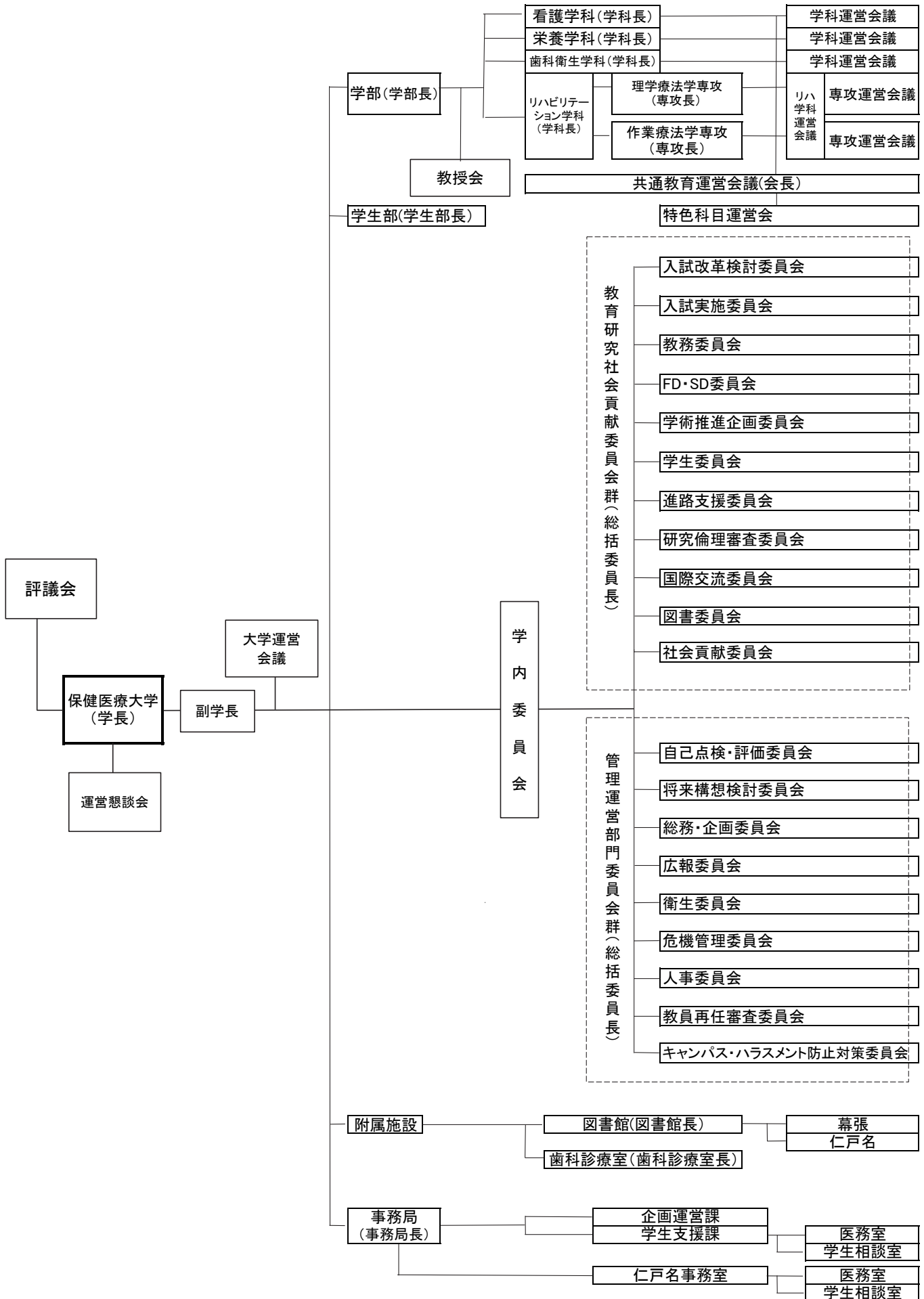
## VII 生涯にわたる探究心と自己研鑽

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に論理的思考による探究心を身につけ、自己研鑽に励み、自己および専門職として生涯にわたり成長できる資質を示すことができる。卒業生は以下ができなければならない、

- 7.1 常に探究心をもち、臨床的あるいは科学的問題を発見し、解決に取り組むことができる
- 7.2 自己主導型学習により常に自己の向上を図ることができる
- 7.3 ワークライフバランスを考えたキャリアを設計し、その達成に向けて自己管理できる
- 7.4 専門職としての自己課題を明確にし、その成長に向けて努力できる

(平成 30 年 1 月 15 日改変, 同 4 月 1 日施行)

4. 千葉県立保健医療大学 運営組織図 (令和2年4月1日～)



## II 年間記録（一年の歩み）

### 1. 令和2年度学事歴および行事

行 事	日 程
入学式，新入生ガイダンス	6月17日(水)
在校生ガイダンス	コロナウイルス感染拡大の影響により不開催
前期授業期間	5月11日(月)～8月21日(金)
前期履修登録期間	5月11日(月)～5月20日(火)
前期末試験	8月24日(月)～8月28日(金)
夏季休業	8月22日(土)～9月30日(水)
オープンキャンパス（WEB開催）	9月14日(月)～
前期試験結果発表	9月7日(月)
後期授業期間	10月1日(木)～2月10日(水)
後期履修登録期間	9月23日(水)～10月8日(木)
公開講座	コロナウイルス感染拡大の影響により中止
大学祭（いずみ祭）	コロナウイルス感染拡大の影響により中止
開学記念日	10月28日(水)
特別選抜(推薦・社会人)入学試験	11月21日(土)
3年次編入学試験	11月22日(日)
冬季休業	12月24日(木)～1月3日(日)
大学入試センター試験	1月16日(土)，17日(日)
後期末試験	2月9日(火)～2月18日(木)
一般選抜2段階入学試験	2月25日(木)
後期試験結果発表	2月26日(金)
卒業式	3月10日(水)
春季休業	3月20日(土)～3月31日(水)

### 2. 各学科定員等

#### 1) 入学定員，収容定員，在籍者数（令和3年3月1日現在）

学部名	学 科 名	入学定員	総 定 員	在籍者数
健 康 科 学 部	看護学科	80人	340人 (編入学20名含む)	332人
	栄養学科	25人	100人	100人
	歯科衛生学科	25人	100人	103人
	リハビリテーション学科 (理学療法学専攻)	50人 (25人)	200人 (100人)	199人 (101人)
	(作業療法学専攻)	(25人)	(100人)	(98人)
合 計		180人	740人	734人

#### 2) 履修規程別表 資料1参照，非常勤講師担当教員授業科目表 資料2参照

### Ⅲ 管理運営の状況

#### 1. 評議会の活動報告

A	議長名	田邊 政裕・保健医療大学長
B	評議員名	來生 新・放送大学長 水野 創・株式会社ちばぎん総合研究所取締役社長 小栗 一徳・公認会計士・税理士小栗事務所所長 加瀬 博夫・県健康福祉部長 雄賀多 聡・保健医療大学副学長 石井 邦子・保健医療大学健康科学部長 森竹 津四志・保健医療大学事務局長
C	部会名と部会員名	なし
D	所掌事項	1 本学の設置の目的を達成するための基本的な計画に関する事項 2 学則その他重要な規程の制定又は改廃に関する事項 3 本学の予算及び決算に関する事項 4 学部、学科その他の重要な組織の設置又は廃止及び学生の定員に関する事項 5 教員の人事の方針に関する事項 6 本学の教育研究活動等の状況について本学が行う評価に関する事項 7 その他本学の運営に関する重要事項
E	年度当初の重点課題	
・所掌事項の遂行.		
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	9月8日	1 学長選考規程施行細則の一部改正について 2 学長候補者学内意向調査実施要領の一部改正について 3 学長候補者選考を行う旨の公示について 4 学長候補者推薦依頼の公示について 5 学長候補者学内意向調査委員会の設置について 6 学長候補者の選考方法の細目について
2	11月19日	1 学長候補者の選考について 2 学科長及び専攻長選考関連規程の一部改正について 3 学部長選考関連規程の一部改正について 4 学則別表の一部改正について
3	令和3年 3月23日	1 学長の人事評価について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価（成果および改善事項）	
<p>・第二期重点施策（Ⅰ県民の健康づくりをリードする人材の育成、Ⅱ健康づくり政策に対するシンクタンク機能の強化と地域貢献、Ⅲ社会のニーズに迅速かつ柔軟に対応できる大学運営体制の構築）の主な取組については、ほぼ目標通りの成果を達成することができた。</p> <p>・次期学長を規定に基づいて選考し、決定することができた。</p>		

I	次年度の方策
<p>・第二期重点施策に対してPDCA サイクル稼働させ、新学長の統括の下で関連する各学科・専攻、委員会が責任をもって達成に向けて取り組む。</p>	

## 2. 大学運営会議の活動報告

A	議長名	田邊 政裕・学長
B	構成員名	雄賀多 聡・副学長（兼）管理運営部門群総括委員長 石井 邦子・学部長（兼）教育研究社会貢献等委員会部門群総括委員長 西野 郁子・学生部長 三和 真人・図書館長（兼）リハビリテーション学科長（兼）理学療法学専攻長 大川 由一・歯科診療室長 佐藤 紀子・看護学科長 細山田 康恵・栄養学科長 麻賀 多美代・歯科衛生学科長 岡村 太郎・リハビリテーション学科作業療法学専攻長 島田 美恵子・共通教育運営会議会長 森竹 津四志・事務局長
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 学長からの諮問事項に関すること 2 評議会及び教授会に諮る案件の事前調整に関すること 3 学科間の調整に関すること 4 その他大学運営に係る企画及び調整に関すること
E	年度当初の重点課題	
・上記（評議会活動報告）		
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和2年 4月22日	1 遠隔授業について
2	令和2年 4月27日	1 令和2年度オープンキャンパスの取扱いについて
3	令和2年 5月25日	1 令和2年度幕張キャンパス防災訓練について 2 6月以降の授業の開講について
4	令和2年 6月1日	1 緊急事態宣言解除に伴う学生の入構禁止解除・授業開始等の方針について 2 新入生ガイダンスについて
5	令和2年 6月29日	1 連携拠点としての本学の役割について 2 第二期重点施策の中期計画・目標について 3 令和2年度後期の授業科目開講方針について
		主な報告
		1 2019年度の実績について
		1 授業開始について
		1 令和元年度実績の報告の確認 2 令和2年度の連携拠点としての目標の説明（シンクタンク機能強化、地域貢献、時代のニーズに合わせた人材育成） 3 令和2年度健康診断について 4 臨時的任用職員について
		1 教員選考規程の改正について 2 教員採用におけるチェック体制について 3 学生調査の結果について 4 利益相反委員会について（中間報告） 5 第一期重点施策の課題（令和元年度重点施策・改善計画実施状況報告含む）
6	令和2年	1 授業科目開講方針及び感染防止対策実施状況



	7月6日	について	
7	令和2年 7月27日	1 令和3年度予算要求について 2 令和2年度後期の授業科目開講方針について 3 令和3年度入学者選抜における新型コロナウイルス感染症への対応について	1 ハラスメントの防止について 2 第1回キャリアセミナーの開催について
8	令和2年 8月31日	1 利益相反管理部会の設置について 2 令和3年度入学者選抜一般入試の追試験について	1 学長候補者選考関係規程の一部改正について 2 第二期重点施策中期計画・目標における小項目の修正について
9	令和2年 9月28日	1 教員組織編成方針について 2 令和3年度の学年暦について	1 大学 IR コンソーシアムの共通学生調査結果(2019)について 2 利益相反管理部会の設置について 3 幕張キャンパス事務棟煙突改修工事について
10	令和2年 10月26日	1 教員組織の編成方針について 2 学部長選考関係規程の一部改正について 3 学科長・専攻長選考関係規程の一部改正について	
11	令和2年 11月30日	1 令和2年度公開講座の開催について 2 学位授与の方針及び教育目標について	1 新型コロナウイルス検査報告に関するフロー等について
12	令和2年 12月21日	1 学位授与の方針及び教育目標について	1 大学のガバナンス向上について(教員のコンプライアンス強化, 委員会活動の活性化, 連携拠点としての取組み等について)
13	令和3年 1月25日	1 インジェ大学との交流協定延長について 2 大学のガバナンス向上について 3 令和3年度大学運営会議の開催日程について 4 令和2年度卒業式及び令和3年度入学式について	1 令和3年度 理学療法学専攻 授業担当者の変更について 2 令和3年度 作業療法学専攻 授業担当者の変更について 3 令和3年度 歯科衛生学科 授業担当者の変更について 4 令和2年度 教員向けアンケートの実施について(施設・設備について)
14	令和3年 2月22日	1 令和3年度前期 授業科目の開講方針について 2 令和2年度卒業時調査について	
15	令和3年 3月29日	1 教員組織編成方針の変更について 2 キャンパス・ハラスメント関連規程の一部改正について 3 学内共同研究規程の一部改正について	1 令和2年度入学者選抜に関する検証結果について 2 令和2年度国家試験合否結果について
G	行事開催記録		
	開催日	行事名称及び行事の内容	
		なし	
H	評価(成果および改善事項)		
	・上記(評議会活動報告)		
I	次年度の方策		
	・上記(評議会活動報告)		

### 3. 教授会の活動報告

教授会は健康科学部すべての教授によって組織され、学部長が招集し、議長となって運営した。開催頻度は月1回を定例とし、必要に応じて臨時教授会を開催した。令和2年度教授会の主な議題は下表のとおりである。

A 年度当初の重点課題			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・効率的な教授会運営を目指す。</li> <li>・ペーパーレス化やリモート会議、メール会議の導入により、教授陣及び事務局の負担軽減を図る。</li> <li>・大学運営や教育研究活動の重要事項が共有されるように、報告事項の運営方法を検討し、決定する。</li> </ul>			
B 会議記録			
	月日	主な議題	主な報告事項
1	令和2年 4月6日	1 リハビリテーション学科理学療法学専攻：講師の資格審査結果 2 栄養学科・教育学：准教授の公募 3 リハビリテーション学科理学療法学専攻：准教授の公募	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評議会報告</li> <li>・運営会議報告</li> <li>・教員の抗体価検査料の予算要求</li> <li>・学内共同研究費の採択結果</li> <li>・COVID-19 対策会議の設置</li> </ul>
臨	令和2年4月 (メール)	1 既修得単位の認定	
2	令和2年 5月11日	1 リハビリテーション学科理学療法学専攻：講師の選考 2 リハビリテーション学科理学療法学専攻：准教授の資格審査結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営会議報告</li> <li>・卒業生の進路・国試合否結果</li> <li>・COVID-19 感染症が発生した場合の消毒について</li> </ul>
3	令和2年 6月1日	1 リハビリテーション学科理学療法学専攻：准教授の選考 2 栄養学科・教育学：准教授の資格審査結果 3 看護学科・成人看護学領域：講師の資格審査結果 4 栄養学科・応用栄養学：教授の教員資格審査委員会の設置 5 栄養学科・解剖生理学：教授の教員資格審査委員会の設置 6 リハビリテーション学科理学療法学専攻：教授の教員資格審査委員会の設置 7 リハビリテーション学科理学療法学専攻：助教の教員資格審査委員会の設置 8 栄養学科：助手（臨時的任用職員）の教員資格審査委員会の設置 9 教員再任審査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員資格審査委員会報告（看護学科臨任助手の辞退、看護学科育休助手の決定、看護学科助教の応募なし）</li> <li>・運営会議報告</li> <li>・認証評価受審機関の決定（大学教育質保証・評価センター）</li> </ul>
4	令和2年 7月6日	1 栄養学科・教育学：准教授の選考 2 看護学科・成人看護学領域：講師の選考 3 栄養学科・応用栄養学：教授の公募 4 栄養学科・解剖生理学：教授の公募 5 リハビリテーション学科理学療法学専攻・整形外科学：教授の公募 6 リハビリテーション学科理学療法学専攻：講師の公募 7 リハビリテーション学科理学療法学専攻：助教の公募 8 看護学科・精神看護学領域：助教の教員資格審査委員会の設置 9 看護学科・母性看護学領域：助教の教員資格審査委員会の設置 追加：看護学科・成人看護学：講師の教員資格審査委員会の設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営会議報告</li> <li>・共同研究発表会のオンライン開催</li> <li>・共同研究費の執行延長可</li> <li>・人事評価について</li> </ul>
5	令和2年 9月7日	1 リハビリテーション学科理学療法学専攻：講師の資格審査結果 2 リハビリテーション学科理学療法学専攻：助教の資格審査結果 3 看護学科・成人看護学領域：講師の公募	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営会議報告</li> <li>・令和3年度一般選抜入試における追試験の実施</li> <li>・いずみ祭の中止</li> <li>・利益相反管理部会の設置</li> </ul>

		<p>4 看護学科・精神看護学領域：助教の公募</p> <p>5 看護学科・母性看護学領域：助教の公募</p> <p>6 栄養学科・教育学：准教授の教員資格審査委員会の設置</p> <p>7 看護学科・内科学：教授の教員資格審査委員会の設置</p> <p>8 令和2年度9月卒業判定</p> <p>9 指定規則改正に伴う令和3年度以降入学生の看護学科カリキュラム変更</p> <p>追加1：リハビリテーション学科理学療法学専攻：講師の教員資格審査委員会の設置</p> <p>追加2：リハビリテーション学科理学療法学専攻：助教の教員資格審査委員会の設置</p>	<p>・新しい大健康プログラムの実施 (11月7日)</p>
6	令和2年 10月5日	<p>1 栄養学科・応用栄養学：教授の資格審査結果</p> <p>2 栄養学科・解剖生理学：教授の資格審査結果</p> <p>3 看護学科・内科学：教授の公募</p> <p>4 栄養学科・教育学：准教授の公募</p> <p>5 リハビリテーション学科理学療法学専攻：講師の公募</p> <p>6 リハビリテーション学科理学療法学専攻：助教の公募</p> <p>7 リハビリテーション学科理学療法学専攻・整形外科学：教授の教員資格審査委員会の設置</p> <p>8 大学入学者共通テスト特例追試験受験者の第一段階選抜</p> <p>9 教授会の日程変更と追加開催</p> <p>追加：栄養学科・応用栄養学：教授の教員資格審査委員会の設置</p>	<p>・運営会議報告</p> <p>・教員資格審査委員会報告（栄養学科臨任助手の採用）</p>
7	令和2年 11月2日	<p>1 栄養学科・解剖生理学：教授の選考</p> <p>2 看護学科・成人看護学領域：講師の資格審査結果</p> <p>3 看護学科・母性看護学領域：助教の資格審査結果</p> <p>4 リハビリテーション学科理学療法学専攻・整形外科学：教授の公募</p> <p>5 栄養学科・応用栄養学：教授の公募</p> <p>6 看護学科・精神看護学領域：助手の教員資格審査委員会の設置</p> <p>7 次期学部長候補者選考に係る予備選挙管理委員会の設置</p> <p>8 学則別表【看護】の一部改正</p>	<p>・運営会議報告（学科長専攻長選考関係規定の一部改正，学部長選考関係規定の一部改正）</p>
8	令和2年 11月30日	<p>1 学校推薦型選抜・社会人特別選抜・3年次編入学試験合否判定</p>	
9	令和2年 12月7日	<p>1 看護学科・成人看護学領域：講師の選考</p> <p>2 看護学科・母性看護学領域：助教の選考</p> <p>3 看護学科・内科学：教授の資格審査結果</p> <p>4 栄養学科・応用栄養学：教授の資格審査結果</p> <p>5 栄養学科・教育学：准教授の資格審査結果</p> <p>6 リハビリテーション学科理学療法学専攻：講師の資格審査結果</p> <p>7 看護学科・精神看護学領域：助教の資格審査結果</p> <p>8 リハビリテーション学科理学療法学専攻：助教の資格審査結果</p> <p>9 教員再任審査</p> <p>10 教授会の開催日時変更</p>	<p>・運営会議報告</p> <p>・教員資格審査委員会報告（理学療法学専攻助教の応募なし）</p>
10	令和3年	<p>1 次期学部長候補者の選考</p>	<p>・運営会議報告</p>

	1月4日	<ul style="list-style-type: none"> <li>2 看護学科・内科学：教授の選考</li> <li>3 栄養学科・応用栄養学：教授の選考</li> <li>4 栄養学科・教育学：准教授の選考</li> <li>5 リハビリテーション学科理学療法学専攻：講師の選考</li> <li>6 看護学科・母性看護学領域：助教の選考</li> <li>7 看護学科・精神看護学領域：助教の選考</li> <li>8 リハビリテーション学科理学療法学専攻：助教の選考</li> <li>9 看護学科・高齢者看護学領域：教授の教員資格審査委員会の設置</li> <li>10 看護学科・在宅看護学領域：教授の教員資格審査委員会の設置</li> <li>11 看護学科・成人看護学領域：助手（臨時的任用職員）の教員資格審査委員会の設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次期学科長専攻長の推薦依頼</li> </ul>
11	令和3年 2月1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 次期学科長・専攻長候補者の選考に係る投票</li> <li>2 看護学科・高齢者看護学領域：教授の公募</li> <li>3 看護学科・在宅看護学領域：教授の公募</li> <li>4 栄養学科・教育学：准教授の教員資格審査委員会の設置</li> <li>5 歯科衛生学科：准教授の教員資格審査委員会の設置</li> <li>6 看護学科・成人看護学領域：講師の教員資格審査委員会の設置</li> <li>7 看護学科・精神看護学領域：助教の教員資格審査委員会の設置</li> <li>8 看護学科・精神看護学領域：助手（臨時的任用職員）の教員資格審査委員会の設置</li> <li>9 栄養学科：助手（臨時的任用職員）の教員資格審査委員会の設置</li> <li>10 令和3年度の教授会開催日程</li> </ul> 追加：令和2年度の教授会の開催日程	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営会議報告</li> <li>・令和3年度科目等履修生の募集中止</li> <li>・防犯カメラの運用開始</li> </ul>
12	令和3年 2月10日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 令和3年度一般選抜 第一段階選抜（足切り）</li> <li>2 次期学科長・専攻長候補者選考：理学療法学専攻長の選考（候補者選考結果報告含む）</li> <li>3 令和2年度卒業式</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務棟機械室の煙突工事日程の変更</li> <li>・令和3年度学内委員会委員長</li> </ul>
13	令和3年 2月26日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 令和2年度卒業判定</li> <li>2 令和3年度教授会開催日程（一部変更）</li> </ul>	
14	令和3年 3月4日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 令和3年度一般選抜合否判定</li> <li>2 栄養学科・教育学：准教授の公募</li> <li>3 歯科衛生学科：准教授の公募</li> <li>4 看護学科・成人看護学領域：講師の公募</li> <li>5 看護学科・精神看護学領域：助教の公募</li> <li>6 リハビリテーション学科理学療法学専攻・整形外科学：教授の教員資格審査委員会の設置</li> <li>7 栄養学科：助教の教員資格審査委員会の設置</li> <li>8 栄養学科：助手（臨時的任用職員）の教員資格審査委員会の設置</li> <li>9 令和3年度の教授会開催日程（一部変更）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営会議報告</li> <li>・教員資格審査委員会報告（看護学科臨任助手の決定）</li> <li>・卒業年次の授業料未納学生の除籍について</li> <li>・令和3年度閣内組織体制</li> </ul>

15	令和3年 3月17日	1 令和2年度 進級判定	
C	評価（成果および改善事項）		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要事項の審議を確実に言い、滞りない組織運営に講演できた。</li> <li>・ペーパーレス化とメール会議導入を実現し、教授会メンバーと事務局の負担軽減が実現できた。リモート会議は、会議室のネット環境、採決方法の確立ができず、次年度以降への繰り越しとなった。</li> </ul>		
D	次年度の方策		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の任用等、教育研究が着実に行われるように、必要な審議を行う。リモート会議の実現により、円滑かつ効率的な教授会運営を行う。</li> </ul>		

#### 4. 各種委員会等の活動報告

##### 1) 特色科目運営会

A	委員長名	石井 邦子・教授（学部長）
B	委員名	雨宮 有子・准教授（看護学科，千葉県健康づくり科目責任者） 河野 公子・准教授（栄養学科） 石川 裕子・教授（歯科衛生学科） 堀本 佳誉・准教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻，専門職間の連携活動論科目責任者） 藤田 佳男・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 島田 美恵子・教授（共通教育運営会議，体験ゼミナール科目責任者）
C	部会名と 部会員名	<b>【体験ゼミナール】</b> 部長：島田 美恵子・教授（共通教育運営会議） 部会員：三枝 香代子・准教授（看護学科） 植田 麻実・講師（看護学科） 井上 裕光・教授（栄養学科） 佐久間 貴士・講師（歯科衛生学科） 酒井 克也・助教（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 松尾 真輔・講師（リハビリテーション学科作業療法学専攻） <b>【千葉県の健康づくり】</b> 部長：雨宮 有子・准教授（看護学科） 部会員：荒井 裕介・准教授（栄養学科） 島田 美恵子・教授（歯科衛生学科） 酒井 克也・助教（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 藤田 佳男・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） <b>【専門職間の連携活動論】</b> 部長：堀本 佳誉・准教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 部会員：細谷 紀子・准教授（看護学科） 海老原 泰代・講師（栄養学科） 荒川 真・准教授（歯科衛生学科） 江戸 優裕・講師（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 吉野 智佳子・講師（リハビリテーション学科作業療法学専攻） <b>【社会実習（ボライティア活動）】</b> 部長：藤田 佳男・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 部会員：雨宮 有子・准教授（看護学科） 河野 公子・准教授（栄養学科） 石川 裕子・教授（歯科衛生学科） 堀本 佳誉・准教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻）

D	所掌事項	1 特色科目の運営に関すること 2 特色科目を通じた一体的な目標の達成と科目相互の連携に関すること 3 特色科目の評価と改善に関すること 4 特色科目の目標達成に向けた学生，教員へのFDに関すること 5 科目責任者の推薦に関すること
E	年度当初の重点課題	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度開設の「社会実習（ボランティア活動）」を実施し，評価する。</li> <li>・コロナ禍における教育方法を構築し，教育目標を達成する。</li> </ul>	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和2年 6月18日	1 令和2年度の運営会活動計画 2 令和3年度当初予算要求について
2	令和3年 1月19日	1 令和2年度 各特色科目の報告 2 次期運営会への引継ぎ事項
	開催日	体験ゼミナール作業部会の主な議題
1	令和2年 4月1日	シラバス確認 流れの検討 協力団体・担当教員の確認
2	令和2年 4月14日 (メール)	協力団体数 シラバス変更の確認（責任者業務：団体の確保 日程調整）
3	令和2年 4月27日 (メール)	シラバス確定
6	令和2年 5月8日 (メール)	マニュアルその1（1～3）作成 検討
7	令和2年 5月15日	第1回体験ゼミナール 開講 LL 教室に集合できる作業部員で進行方法の検討
8	令和2年 5月22日 (メール)	マニュアルその2（4～6）作成 検討
9	令和2年 6月23日 (メール)	マニュアルその3（7～12）作成 検討
10	令和2年 7月31日	報告会 マニュアル（13～14）Teams 上にアップ
11	令和2年 8月7日 (メール)	マニュアルその4（15 レポートの書き方・評価）作成
12	令和2年 8月21日 (メール)	令和2年度体験ゼミナール閉講 ※ レポート評価まとめ
13	令和2年 9月11日	9月4日体験ゼミナール成績提出後の協力団体へのアンケート内容審議
14	令和2年 12月17日	報告書作成 役割分担
15	令和2年	令和2年度報告書作成 令和3年度への引継ぎ



	12月28日 (オンライン)	
16	令和3年 1月7日	報告書原稿 学生支援課に提出 印刷・製本依頼
開催日		千葉県の健康づくり
1	令和2年 5月29日 (オンライン)	1 次年度予算要求書作成
2	令和2年 7月8日 (オンライン)	1 授業方法・内容の検討
3	令和2年 7月29日 (オンライン)	1 全学のCOVID-19対応方針決定に伴う授業運営の方向性の再検討
4	令和2年 8月11日 (オンライン)	1 運営方法・スケジュール確定 (講師依頼・履修者確認・グループ編成) 2 印刷資料の原稿確認 3 各担当講師への公文書依頼・WEB教材作成フォロー 等
5	令和2年 8月31日 (オンライン)	1 運営マニュアル, 配布資料一式, 課題データ管理方法 等の検討・決定
6	令和2年 9月24日 (オンライン)	1 履修学生の最終確認とグループ配置調整
7	令和2年 10月27日 (オンライン)	1 GWの管理方法の検討 (以後, 毎回のGW時に状況共有)
8	令和2年 12月11日 (オンライン)	1 次年度シラバスの検討
9	令和2年 12月18日 (オンライン)	1 予算執行確認
10	令和2年 12月23日 (オンライン)	1 報告書作成方法の方向性確認 (1/19 特色科目委員会の検討結果の報告)
11	令和3年 1月22日 (オンライン)	1 評価方法の確認・評価実施 2 報告書作成のスケジュール確認 (学長への原稿依頼)
12	令和3年 1月28日 (オンライン)	1 成績評価 (2/19 確定), 報告書の内容と送付先の確認 (2/5 確定・印刷発注) 2 今年度実績を踏まえた次年度への課題確認
開催日		専門職間の連携活動論
1	令和2年 6月24日	1 今年度の日程確認 2 昨年度の授業内容の確認 (昨年度実施要項を配布) 3 今年度の授業内容の確認 (昨年度実施要項を配布) 4 昨年度の終了時のアンケート結果の確認 5 今年度の作業部会の予算および大まかな作業日程の確認

		6 今年度のグループ編成案について
2	令和2年 7月31日	1 講義について 2 特別講義について 3 連携活動の実施方法 4 グループリーダー教員；要／不要 5 出席の確認 6 アンケートの実施
3	令和2年 8月28日	1 実施内容（教員用資料に基づいて）の確認 2 出欠の確認 3 チーム担当教員が記載する成績表は手書きでよいか（提案；手書きで行う）
4	令和2年 9月25日	1 役割分担 2 今後の予定 3 各学科専攻での Teams 使用のシミュレーションについて
5	令和2年 10月30日	1 教員説明会での検討事項 2 各学科専攻での Teams 使用のシミュレーションについて（資料2） 3 今後の予定
開催日		社会実習（ボライティア活動）
1	令和2年 4月3日	1 科目紹介オリエンテーション延期について（メール審議） 2 プログラム実施の是非について（同）
2	令和2年 5月1日	1 履修登録の見送りについて（メール審議）
3	令和2年 12月23日	1 次年度の科目責任者について（メール審議） 2 次年度のプログラム実施について（同）
G	行事開催記録	
開催日		行事名称及び行事の内容
1	令和2年 9月28日	第1回「専門職間の連携活動論」教員説明会
H	評価（成果および改善事項）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験ゼミナール、千葉県健康づくり、専門職間の連携活動論は、対面授業ができず、遠隔での開講となった。電話や手紙による訪問実習、リモートでのグループ討議と、初めての授業形態を試行錯誤で実施することとなったが、最終的に学習目標を達成することができた。</li> <li>・社会実習は、社会貢献委員会やUR担当者との綿密な打ち合わせをもって開講準備を進めたが、ほい大健康プログラムに学生が参加できなかったため、開講できなかった。</li> </ul>		
I	次年度の方策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・COVID-19感染状況に応じて、可能な範囲で対面授業を導入するとともに、遠隔授業のメリットを活かして、効率的かつ安全な授業を実施する。</li> </ul>		

## 2) 教育研究社会貢献委員会群

### (1) 入試改革検討委員会

A	委員長名 副委員長名	佐藤 紀子・看護学科長
B	委員名	三枝 香代子・准教授（看護学科） 東本 恭幸・教授（栄養学科） 金子 潤・准教授（歯科衛生学科） 三和 真人・教授（リハビリテーション学科長兼理学療法専攻） 藤田 佳男・准教授（リハビリテーション学科作業療法専攻） 神田 みなみ・教授（共通教育運営会議）



		井上 裕光・教授（共通教育運営会議） 酒巻 裕之・入試実施委員長
C	所掌事項	1 入試選抜方針・方法の改革に関する事項 2 入試結果の分析・評価に関する事項 3 その他学長が付託した事項に関する事項
D	年度当初の重点課題	
	<p>1 令和3年（2021年）度入学者選抜試験（令和2年（2020年）度実施）以降の面接試験の方法の確定：各学科専攻で検討した「調査書等を活用した新たな面接試験方法」の妥当性と適切性を検証し、実施できるようにする。</p> <p>2 志願者確保の評価：学科専攻別に、昨年度の志願者の動向・課題を分析し、APに基づく学生確保のための志願者確保対策を検討する。</p> <p>3 編入学制度の検討：大学認証評価において、定員を満たしていないことが指摘され、それに対する対応が求められている。看護学科の意向も踏まえ、定員の見直しも含めて今後の編入学試験の方針を検討し、運営会議に提出する。</p> <p>4 入学後の学生評価：入試選抜ごとに、学科専攻別に4年間の学修状況、国家試験合格状況、就職状況（県内・県外）について評価し、APに基づく選抜であったかどうかを検討する。</p>	
E	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和2年 6月11日	1 入試改革検討委員会規程及び今年度の目標 2 志願者推移の分析 3 2021年度（令和3年度）入学者選抜の面接方法について
2	令和2年 7月29日	1 令和3年度入学者選抜試験（今年度実施）の面接方法について 2 編入学制度について
3	令和2年 9月14日	1 令和3年度入学者選抜試験（今年度実施）の面接方法について 2 特別選抜の実施要領の一部修正について 3 編入学制度について
F	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
G	評価（成果および改善事項）	
	<p>1 各学科専攻での検討および2回の委員会を経て、新たな面接方法を確定させることができた。</p> <p>2 昨年度の志願者の結果も含め、過去5年間の志願者数・志願倍率の推移について特別選抜および一般選抜別に各学科専攻の状況を整理した。さらに考えられる影響要因および志願者確保対策における本学の強みと弱みを委員会で検討し、学校説明会資料として活用できるよう整えた。</p> <p>3 編入学生の過去のデータを整理し、看護学科の意向を踏まえ委員会案を整理したが、大学の方針としては、現時点では、廃止または定員削減を行う合理的理由がないことから、当面の間は受験生確保に一層努力し、定員充足をめざすこととなった。</p> <p>4 平成28年度入学生（昨年度の卒業生）の4年間の必修科目のGPA、国家試験合格状況、就職状況（県内・県外）について整理し、過去5年分を併せて入試選抜ごと・学科専攻別にAPに基づく選抜ができているかどうかを検討した。社会人の確保状況および一般選抜の退学者数の動向に注視する必要があることが確認された。</p>	
H	次年度の方策	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな面接方法の実施評価については、次年度より入試実施委員会で行っていくことになる。本委員会としては、引き続き4年間の学修状況、就職状況等のデータを入試選抜ごとに蓄積し、APに基づく選抜が適切になされているかの視点で評価し、入試方法の改善点を見出す。</li> <li>・志願者確保対策については、次年度より必要なデータを広報委員会に提供し、協力して推進していく必要がある。編入学制度については、引き続き、志願状況、入学者の学習状況や進路、編入学に関する社会的動向を注視し、令和6年度の入試改革本格実施に合わせた改革案を提示する予定である。</li> </ul>	

## (2) 入試実施委員会

A	委員長名 副委員長名	酒巻 裕之・教授（歯科衛生学科） 東本 恭幸・教授（栄養学科）
B	委員名	河部 房子・教授（看護学科） 川城 由紀子・准教授（看護学科） 細山田 康恵・教授（栄養学科） 麻生 智子・講師（歯科衛生学科） 大谷 拓哉・准教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 江戸 優裕・講師（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 藤田 佳男・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 吉野 智佳子・講師（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 東本 恭幸・教授（共通教育運営会議） 佐久間 貴士・講師（共通教育運営会議）
C	所掌事項	1 入学者選抜試験の計画・実施・採点・発表に関する事項 2 入試ミス防止に関すること（入試に関する報道対応を含む） 3 入試問題等の作成・公表に関すること 4 その他学長が付託した事項に関する事項
D	年度当初の重点課題	
1 公正かつ適切な入試の実施 2 質の高い試験問題の作成と試験問題開示の評価		
E	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和2年4月 （メール）	1 入試実施委員会年間スケジュールについて 2 令和2年度の入試実施委員会の目標 3 入試実施部会の予算について 4 令和3年度入学者選抜要項について
2	令和2年 5月12日	1 班別説明会について 2 学生募集要項（推薦入学・社会人・編入学）について 3 試験実施要領（特別選抜（学校推薦型・社会人）・編入学）について 4 委員会推進体制について
3	令和2年 6月8日	1 試験実施要領（特別選抜・編入学）について
4	令和2年 7月13日	1 令和3年度学生募集要項（一般選抜）について 2 大学入学共通テスト指定科目について 3 「志願理由書」「推薦書」記載内容指示について 4 令和3年度特別選抜及び編入学試験における試験室について 5 小論文答案における採点方法について
5	令和2年 8月27日	1 一般選抜追試験について 2 令和3年度一般選抜募集要項について
6	令和2年 9月14日	1 試験実施要領（特別選抜・編入学）及び任務分担について 2 各種監督マニュアルについて 3 令和3年度大学入学共通テスト実施について
7	令和2年 10月12日	1 令和4年度入試日程について 2 入学試験の試験場入場前の健康調査について 3 学校推薦型選抜・社会人特別選抜及び編入学の監督要領の修正について
8	令和2年 11月9日	1 令和3年度大学入学共通テストについて 2 令和3年度一般選抜実施要領について

9	令和2年 12月14日	1 特別選抜試験，編入学試験のアンケート調査について 2 令和3年度大学入学共通テストについて 3 令和3年度一般選抜実施要領について
10	令和3年 1月12日	1 令和3年度大学入学共通テストについて 2 令和3年度一般選抜実施要領について 3 委員会関係規定改正について
11	令和3年 1月20日	1 令和3年度一般選抜実施要領について
12	令和3年 2月8日	1 一般選抜における新型コロナウイルス感染症の感染対策並びに試験実施方法について 2 令和3年度（令和4年度入学者選抜）入試スケジュールについて
13	令和3年 3月8日	1 一般選抜試験アンケート調査について
F	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	令和2年 11月21日	特別選抜（推薦・社会人）試験
2	令和2年 11月22日	看護学科3年次編入学試験
3	令和2年 12月10日	センター試験全体説明会
4	令和2年 12月24日	センター試験業務班別説明会
5	令和3年 1月16日・17日	大学入試センター試験
6	令和3年 2月25日	一般選抜試験（前期日程）
G	評価（成果および改善事項）	
<p>1 委員会組織改正          本学の委員会組織改正に伴い，入試実施に関する所掌事項は入試実施委員会が行い，入試広報に関する所掌事項は広報委員会が行うことになった。</p> <p>2 公正かつ適切な入試の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成元年度のアンケート結果を踏まえて実施マニュアルを反映させ実施された。</li> <li>大学入学共通テストは，令和元年度に引き続き東都大学との共同実施で実施された。</li> <li>令和2年度入学者選抜における新型コロナウイルス感染症の感染対策について，文部科学省から発出された「令和3年度大学入学者選抜実施要項」「令和3年度大学入学者選抜に係る新型コロナウイルス感染症に対応した試験実施のガイドライン」に基づいて実施した。大学入学共通テストは大学入試センターの要項に則り，特別選抜試験（学校推薦型・社会人・編入学）並びに一般選抜試験では面接試験を実施することから，試験室入室前に受験者の健康確認（体温測定）を行った。</li> <li>新型コロナウイルス感染症等に罹患した入学志願者の受験機会を確保するため，一般選抜試験の追試験を設定した。一般選抜試験実施後に追試験受験の志願者がなく，追試験は実施されなかった。</li> <li>面接試験では，入試改革検討委員会で決定された評価基準を用いて実施された。</li> </ul> <p>3 アドミッション・ポリシーに則った受験生確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和元年度に実施した入学者選抜について，志願者数は学校推薦型158名（前年度比92.9%），社会人4名（前年度比133.3%），編入学8名（前年度比114.3%），一般選抜285名（前年度比93.4%）であった。</li> </ul> <p>4 質の高い試験問題の作成と試験問題開示の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成元年度に改編された作問ガイドを基に問題作成者に説明の上，問題作成を依頼した。小論文の問題作成において，3回の校正を予定していたが，さらなる質の担保を求めて校正を重ねて入試問題とした。</li> </ul>		

- ・一般選抜試験の追試験を設定したことにより、当初の作問数を増やして、一般選抜試験と同等の難易度となる小論文問題を作成した。
- ・採点について、採点ミスや採点者間の採点の突合方法について改善を要すると考えられた。
- ・試験問題の開示について、平成29年度3月末から前年度の試験問題を学内およびホームページで閲覧可能となっている。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染の影響から、部外者が入構できない期間の閲覧は認めなかった。

H	次年度の方策
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入試実施委員会内及び事務局との協力体制における問題点と改善点について、令和3年度に反映させること。特に、マニュアルの未整備やケアレスミスの防止策については、具体的改善策を提示する。</li> <li>・一般選抜においては、実施体制を強化して、従前の方法を見直し、業務を効率化することができた。次年度は、特別選抜の効率化（一日での実施）及び共通テストのマニュアルの見直しに着手する。</li> <li>・医務室業務について、医師、看護師の感染リスクを軽減する待機場所を設置と、連絡方法を検討する。</li> <li>・特別選抜を1日で実施する計画を検討する。</li> <li>・遠隔面接試験の実施について検討する。</li> <li>・WEB志願書等提出について検討する。</li> </ul>

### (3) 教務委員会

A	委員長名 副委員長名	神田 みなみ・教授（看護学科・共通教育運営会議） 酒巻 裕之・教授（歯科衛生学科）
B	委員名	北川 良子・准教授（看護学科） 雨宮 有子・准教授（看護学科） 石川 紀子・講師（看護学科） 細山田 康恵・教授（栄養学科） 海老原 泰代・講師（栄養学科） 酒巻 裕之・教授（歯科衛生学科） 石川 裕子・教授（歯科衛生学科） 堀本 佳誉・教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 酒井 克哉・助教（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 山本 達也・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 有川 真弓・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 島田 美恵子・教授（共通教育運営会議） 蓬田 盛弘・学生支援課長（事務局） 高野 雄一郎・学生支援課（事務局） 片平 宏樹・学生支援課（事務局）
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 教育課程の編成に関する事項 2 学年暦及び時間割の編成に関する事項 3 授業計画に関する事項 4 非常勤講師に関する事項 5 試験及び単位の認定に関する事項 6 授業評価に関する事項 7 学籍の異動（入学、進級、休学、復学、転学、留学、退学、除籍及び卒業等）に関する事項 8 科目等履修生、特別聴講学生、聴講生、研修生、研究生及び外国人留学生に関する事項 9 その他学長が付託した事項に関する事項 10 その他教務に関する事項

E		年度当初の重点課題
1 COVID-19 感染拡大に伴う遠隔授業の導入と運営を行う。 2 教務委員会関係の業務（ガイダンス、履修登録、試験、成績管理等）を遠隔で行う方法を検討し実施する。 3 新々カリキュラム導入2年目の進級判定業務を効率的に行う。		
F		会議記録（含む部会の開催）
開催日		主な議題
臨	令和2年 4月6日	COVID-19 感染拡大に伴う前期授業開始時変更により延期
1	令和2年 4月13日	1 既修得単位の認定について 2 学生の復学・休学・退学について 3 新規非常勤講師の任用について 4 令和2年度前期時間割の変更について 5 令和2年度学年暦の変更について 6 令和2年度前期履修登録のスケジュール（掲示用）の変更について 7 5月7日新入生ガイダンス（案）について 8 令和2年度教務委員会開催スケジュールについて
2	令和2年 5月18日	1 学生の休学・復学について 2 令和2年度前期時間割の変更について 3 進級に係る遠隔授業科目の同時間帯重複履修について 4 令和2年度後期入学科目等履修生の募集について 5 授業アンケートについて（実施方法・設問等） 6 「保医大の将来に向けて」重点施策と実現に向けた取り組み中期計画目標について 7 WEB 履修登録に代わる「履修登録申込 Form」について（資料なし） 8 遠隔授業初回実施状況調査について
3	令和2年 6月15日	1 実習施設の新規追加について 2 令和2年度後期入学科目等履修生等の募集について 3 令和2年度前期の授業評価アンケートについて 4 前期 Forms による履修登録申込の教務システム入力作業について 5 前期末試験について 6 後期の履修登録について 7 遠隔授業初回実施状況調査（5月実施）について 8 改正著作権法における授業目的公衆送信補償金制度の調査（6月実施）について
4	令和2年 7月20日	1 令和2年9月卒業判定について 2 学生の休学について 3 新規実習施設の追加について 4 指定規則改正に伴う令和3年度以降入学生の看護学科カリキュラム変更について 5 令和2年度前期末試験の実施予定科目およびスケジュールについて 6 令和2年度前期末試験結果発表（9月17日）の方法について 7 令和2年度後期履修登録の方法及びスケジュールについて 8 令和2年度後期非常勤講師新規採用について 9 令和2年度後期科目の担当者変更について 10 令和3年度学年暦（案）について 11 学生の必修科目の遠隔授業受講について 12 2020年度放送大学との単位互換科目（後期・7月出願分）について 13 来年度の非常勤講師への伺いについて 14 学生の公欠手続きについて（COVID-19 対応） 15 教育研究年報 令和元年度教務委員会活動報告について



		16 教務委員会FD・SDセミナー「教学マネジメント」の計画について 17 今年度後期の開講方法について
5	令和2年 8月24日	1 学生の復学と休学について 2 令和2年度後期新規非常勤講師の採用について 3 令和2年度後期時間割の変更（開講科目・担当者）について 4 令和3年度学年暦（案）について 5 令和2年度前期試験結果発表（9月7日）の方法について 6 令和2年度前期末試験日程について（事後報告） 7 令和2年度後期対面・遠隔の運用上の時間割について 8 令和2年度後期対面・遠隔試験の実施について 9 令和2年度後期履修登録，教科書販売について 10 第2期重点施策達成計画・目標（案）について 11 「授業目的公衆送信補償金制度」の額の認可に係る意見聴取について 12 令和2年度放送大学の出願状況について
6	令和2年 9月28日	1 学生の復学について 2 令和2年度後期新規非常勤講師の任用について 3 令和2年度後期時間割の変更について 4 新規実習施設の追加について 5 令和2年度後期履修登録希望Formsについて 6 令和元年度後期授業評価アンケート結果の配付について 7 令和2年度前期授業評価アンケートForms利用実施について 8 令和3年度学年暦（案）について 9 令和3年度授業時間割について 10 令和3年度「授業概要（シラバス）」の電子化について
7	令和2年 10月19日	1 学生の休学について 2 看護学科の別表変更について 3 新規実習施設の追加について 4 令和3年度の時間割について 5 令和2年度後期時間割の変更について 6 令和3年度シラバス依頼について 7 令和2年度後期科目履修登録手続きの状況について 8 令和2年度前期授業評価アンケートの状況について 9 令和3年度学年暦（案）について
8	令和2年 11月16日	1 学長からの説明事項 2 令和3年度前期科目等履修生等の募集について 3 令和3年度時間割の変更要望について 4 令和3年度時間割（修正案）について 5 令和3年度新入生・在学生ガイダンスのスケジュール案について 6 大学IRコンソーシアムの共通学生調査結果（2019）について 7 新規非常勤講師の任用について 8 令和3年度学年暦（案）について 9 令和2年度後期の履修登録状況について 10 教学マネジメントFD日程（1月27日（水））について
9	令和2年 12月21日	1 授業料未納者に係る除籍の取扱いに関する内規の改訂について 2 令和2年度後期期末試験日程について 3 令和3年度の時間割変更について 4 非常勤講師の新規任用について

		<ul style="list-style-type: none"> <li>5 学生の休学について</li> <li>6 令和3年度学年暦(案)について</li> <li>7 令和3年度前期の放送大学との単位互換について</li> </ul>
10	令和3年 1月18日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 教務委員会会則の変更について</li> <li>2 学生の休学について</li> <li>3 非常勤講師の新規任用について</li> <li>4 令和3年度の時間割変更について</li> <li>5 令和3年度放送大学との単位互換科目の検討について</li> <li>6 実習施設の新規追加について</li> <li>7 令和3年度前期科目等履修生の募集の中止について</li> <li>8 令和3年度シラバスの作成について</li> <li>9 教務委員会FD・SDについて</li> <li>10 令和2年度後期授業アンケートについて</li> <li>11 GPAの学年ごとの通知方法について</li> <li>12 令和3年度からの授業目的公衆送信補償金制度について</li> <li>13 令和3年度新生・在校生ガイダンスについて</li> </ul>
11	令和3年 2月26日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 令和2年度卒業判定について</li> <li>2 令和2年度後期追再試験日程(案)について</li> <li>3 令和3年度時間割の変更要望について</li> <li>4 令和3年度非常勤講師の新規任用について</li> <li>5 学生の休学と復学について</li> <li>6 令和3年度新生・在校生ガイダンススケジュール(案)について</li> <li>7 既修得単位の認定に関する規程の別表1・2の変更について</li> <li>8 令和3年度シラバス(大学の理念・目標)の変更について</li> <li>9 卒業判定及び進級判定の発表方法について</li> <li>10 後期末試験結果発表の方法について</li> <li>11 2020年度第二期重点施策達成状況点検・評価報告書について</li> <li>12 令和3年度教務委員会スケジュール(案)について</li> </ul>
12	令和3年 3月15日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 令和3年度3年次への進級判定について</li> <li>2 放送大学単位互換協定に基づく令和2年度修得単位の認定について</li> <li>3 学生の休学および退学について</li> <li>4 令和3年度非常勤講師の新規任用について</li> <li>5 実習施設の新規追加について</li> <li>6 令和3年度時間割の変更について</li> <li>7 令和3年度時間割表について</li> <li>8 令和3年度前期履修登録について</li> <li>9 令和3年度新生・在校生ガイダンススケジュール案について</li> <li>10 令和3年度教務委員会スケジュールについて</li> <li>11 令和3年度既修得単位認定の事前作業について</li> </ul>
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容)
1	令和3年 1月27日	教務委員会FD・SD「教学マネジメント指針について」 講師：田邊 政裕・学長
H	評価(成果および改善事項)	
1 COVID-19感染拡大に伴う遠隔授業の導入と運営を行う。 令和2年度4月には緊急事態宣言が全国に発令されており、数度の計画変更を余儀なくされ、最終的には5月に遠隔授業による授業開始となった。システム更改と同時に導入されたMicrosoft365を活用した遠隔授業の運営、支援、時間		

割の変更などを教務委員会で行った。さらに、実習施設の変更・追加も頻繁にあり、新規実習施設の申請も例年とは異なり直前に行った。臨地実習の学内演習への振り替えなどに対応した。

2 教務委員会関係の業務（ガイダンス、履修登録、試験、成績管理等）を遠隔で行う方法を検討し実施する。  
 キャンパスに学生が集合することが前提であったガイダンス、履修登録、試験、成績管理等を別の方法で行う方法を模索・検討しつつ実行に移した。前期・後期と異なる原則で行うなど状況に対応して行うことができた。

3 新々カリキュラム導入2年目の進級判定業務を効率的に行う。  
 本学初の3年次進級判定業務を無事に行うことができた。COVID-19 感染防止のために発表方法を変更した。

I	次年度の方策
1	COVID-19 感染防止に努めつつ、対面・遠隔授業の運営を行う。
2	教務委員会関係の業務（ガイダンス、履修登録、試験、成績管理等）を COVID-19 感染防止に努めつつ、対面・遠隔で行う方法を検討し実施する。
3	三つのポリシーに基づく教学マネジメント体制を推進する。

(4) FD・SD 委員会

A	委員長名	石川 裕子・教授
B	委員名	杉本 知子・キャンパス・ハラスメント防止対策委員長 佐藤 紀子・入試改革検討委員長 神田 みなみ・教務委員長 河部 房子・学術推進企画委員長 西野 郁子・学生進路支援委員長 細山田 康恵・研究倫理審査委員長 島田 美恵子・社会貢献委員長 神山 薫・企画運営課長（事務局） 赤塚 仁・企画運営課長（事務局）
C	部会名と部会員名	なし
D	所掌事項	1 学内の FD の推進に関すること 2 学内の FD の連携、調整に関すること 3 教授会が付託した事項に関すること 4 その他 FD に関すること
E	年度当初の重点課題	
	・教育研究者・大学教員としての資質向上を図るための FD・SD の現状を検証して課題を明確にする。	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和2年 7月9日	1 令和2年度活動計画 2 今後活動すべき FD・SD について
2	令和3年 1月29日	1 委員会規定について 2 重点施策について
3	令和3年 3月17日	1 令和3年度事業計画案について 2 FD・SD 委員会報告書案とアンケート案について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	令和2年 9月8日 (オンライン)	第1回イブニングセミナー「科研費 FD 講習会 科研費の採択に向けた計画調書作成のコツ」(学術推進企画委員会)
2	令和2年 12月9日 (オンライン)	「大正大学 EMIR の取り組みと課題—高等教育の IR を取り巻く潮流から大学 IR コンソーシアム調査の具体的な活用事例まで—」(IR 部会)



3	令和3年 1月7日 (オンライン)	第2回イブニングセミナー「医療系学部におけるシュミレーション教育の実際」(学術推進企画委員会)
4	令和3年 1月27日 (オンライン)	「教学マネジメント指針について」(教務委員会)
5	令和3年 2月18日 (オンライン)	第3回イブニングセミナー「認知症高齢者の口腔健康管理」(学術推進企画委員会)
6	令和3年 3月8～31日 (オンライン)	公立大学協会研修動画配信「大学のハラスメント対策について」(キャンパス・ハラスメント委員会)
7	令和3年 3月9日 (オンライン)	第4回イブニングセミナー「成人後を見据えた小児のリハビリテーション」(学術企画委員会)
H	評価 (成果および改善事項)	
<p>1 学内のFD推進に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年度に作成したFD・SDマップを使用し、これまで行った講習会がどのレベルに入るか検証を行った。その結果、FD・SDマップの教育、研究、社会貢献、管理・運営の4つの項目のうち、社会貢献についてのFD・SDが殆ど行われていないこと、教育の項目では、レベル3(複雑な事象に対応できる指導・管理能力を養う)の講習会が開催されていないことが明らかとなった。</li> </ul> <p>2 学内のFDの連携、調整に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各委員会が独自でFD・SD講習会を企画実施しており、大学全体としての調整が行われていなかった。今後、年間や数年単位でどのような内容のFD・SDを行うか、FD・SD委員会主導で企画することが必要である。</li> </ul> <p>3 教授会が付託した事項に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度、特に教授会から負託された事項はなかった。</li> </ul> <p>4 その他FD・SDに関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SD研修に関する検討を続けることになった。</li> </ul>		
I	次年度の方策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで作成したFD・SDマップを用いて、FD・SD委員会が必要と考えられるレベルおよび内容の研修を各委員会に依頼するというシステムを構築し、研修内容の充実を図る。</li> </ul>		

(5) 学術推進企画委員会

A	委員長名	河部 房子・教授(看護学科)
B	委員名	佐伯 恭子・講師(看護学科) 菊池 裕・教授(栄養学科) 荒井 裕介・准教授(栄養学科) 島田 美恵子・教授(歯科衛生学科, 共通教育運営会議) 河野 舞・准教授(歯科衛生学科) 大谷 拓哉・准教授(リハビリテーション学科理学療法学専攻) 江戸 優裕・講師(リハビリテーション学科理学療法学専攻) 山本 達也・教授(リハビリテーション学科作業療法学専攻) 吉野 智佳子・講師(リハビリテーション学科作業療法学専攻) 植田 麻実・講師(共通教育運営会議)
C	部会名と部会員名	【紀要編集部会】 部会長：菊池 裕・教授(栄養学科) 副部会長：河部 房子・教授(看護学科) 部会員：川城 由紀子・准教授(看護学科)

		<p>荒井 裕介・准教授（栄養学科）  島田 美恵子・教授（歯科衛生学科）  大川 由一・教授（歯科衛生学科）  三和 真人・教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻）  江戸 優裕・講師（リハビリテーション学科理学療法学専攻）  吉野 智佳子・講師（リハビリテーション学科作業療法学専攻）  成田 悠哉・助教（リハビリテーション学科作業療法学専攻）  山本 達也・教授（共通教育運営会議）  植田 麻実・講師（共通教育運営会議）</p> <p>【学内共同研究審査部会】  部会長：河野 舞・准教授（歯科衛生学科）  部会員：石川 紀子・講師（看護学科）  佐伯 恭子・講師（看護学科）  菊池 裕・教授（栄養学科）  荒井 裕介・准教授（栄養学科）  金子 潤・准教授（歯科衛生学科）  三和 真人・教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻）  大谷 拓哉・講師（リハビリテーション学科理学療法学専攻）  山本 達也・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻）  成田 悠哉・助教（リハビリテーション学科作業療法学専攻）  島田 美恵子・教授（共通教育運営会議）  植田 麻実・講師（共通教育運営会議）</p>
D	所掌事項	1 大学内の学術推進に関すること 2 学内共同研究等の募集及び審査等に関すること 3 外部資金の獲得に関すること 4 紀要の編集及び発行に関すること 5 その他学長が付託した事項に関すること 6 その他学術推進に関すること
E	年度当初の重点課題	
	<p>所掌事項および重点施策に関する活動を行う。特に以下の2点について重点的に活動する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 科研費をはじめとする外部資金の獲得を向上させるための学内支援のあり方を検討し、外部資金獲得の申請率 80%を達成する。</li> <li>・ 外部資金獲得につながる学内共同研究助成のあり方を検討する。</li> </ul> <p>重点施策：研究の活性化の基盤となる競争的資金の組織的獲得に向けたFDや若手研究者の支援体制の充実。  研究水準の向上・継続を図り、科学的根拠を施策に反映できる機能の発揮</p>	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和2年 4月20日 (メール)	1 令和2年度委員会方針と開催日程について 2 令和2年度委員会予算について 3 令和2年度学内共同研究審査結果について 4 令和2年度各専門部会部会長について 5 令和2年度科研費採択状況について
2	令和2年 5月18日	1 紀要投稿規程について 2 第11回共同研究発表会の日程調整・案内等について 3 紀要第11巻の送付先について
3	令和2年 6月15日	1 第11回学内共同研究発表会の事前調整について 2 退職した学内共同研究代表者の発表について 3 紀要第11巻の送付先について 4 紀要第12巻の編集方針等について

		<ul style="list-style-type: none"> <li>5 科研費の申請・採択に向けたセミナー開催について</li> <li>6 令和2年度学内共同研究費による研究実施について</li> <li>7 紀要第1～9巻のJ-STAGE公開について</li> </ul>
4	令和2年 7月20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 第11回学内共同研究発表会について</li> <li>2 紀要第12巻の募集開始について</li> <li>3 科研費の申請・採択に向けた支援制度について</li> <li>4 科研費の申請・採択に向けたセミナーについて</li> <li>5 令和2年度当初予算について</li> </ul>
5	令和2年 8月17日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 第11回学内共同研究発表会について</li> <li>2 紀要第12巻の編集について</li> <li>3 令和2年度第1回イブニングセミナーについて</li> <li>4 令和2年度のイブニングセミナー担当について</li> <li>5 令和2年度科研費助成事業説明会について</li> <li>6 科研費計画調書の学内公開について</li> <li>7 第2期重点施策2020年度行動目標について</li> </ul>
6	令和2年 9月14日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 紀要募集について</li> <li>2 共同研究発表会について</li> <li>3 学内共同研究に係る変更申請について</li> <li>4 今年度のイブニングセミナーについて</li> <li>5 令和2年度科研費説明会について</li> </ul>
7	令和2年 10月19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 第2期重点施策中期計画について</li> <li>2 第2回イブニングセミナーについて</li> </ul>
8	令和2年 11月18日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 学内共同研究について</li> <li>2 紀要編集について</li> <li>3 イブニングセミナーについて</li> </ul>
9	令和2年 12月21日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 2021年度学内共同研究費募集要項について</li> <li>2 イブニングセミナーについて</li> </ul>
10	令和3年 1月18日 (オンライン)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 学内共同研究の取り扱いに関する規程の改正について</li> <li>2 学内共同研究の取りやめについて</li> <li>3 学内共同研究の期間延長について</li> </ul>
11	令和3年 2月15日 (オンライン)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 2021年度学内共同研究費応募状況について</li> <li>2 2021年度の委員会開催日程案について</li> <li>3 共同研究辞退に係るペナルティについて</li> <li>4 科研費を含めた研究資金申請状況について</li> <li>5 学内共同研究費助成の課題について</li> <li>6 令和2年度重点施策・改善計画実施状況報告書について</li> </ul>
12	令和3年 3月15日 (オンライン)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 2021年度学内共同研究費の審査結果について</li> <li>2 学内共同研究の取り扱いに関する規程の修正について</li> <li>3 2020年度委員会達成状況点検・評価表について</li> </ul>
開催日		紀要編集部会の主な議題
1	令和2年 9月9日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 投稿予定論文の応募状況および編集担当者について</li> <li>2 編集部会の開催日程について</li> <li>3 紀要編集スケジュール、編集担当者・査読者の役割について</li> </ul>
2	令和2年 10月5日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 投稿論文編集者・査読者案の決定について</li> <li>2 査読依頼の手続きについて</li> </ul>
3	令和2年 11月4日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 査読結果および審査結果について</li> </ul>

4	令和2年 12月24日	1 再査読結果および審査結果について
開催日		学内共同研究審査部会の主な議題
1	令和3年 2月16日	1 学内共同研究審査スケジュールについて 2 審査要領の確認
2	令和3年 2月26日	1 学内共同研究審査結果について 2 意見伝達・ヒアリングについて
G	行事開催記録	
開催日		行事名称及び行事の内容
1	令和2年 8月28日	平成30年度共同研究発表会
2	令和2年 9月8日	第1回イブニングセミナー「科研費の採択に向けた計画調書作成のコツ」 児島 将康氏・久留米大学分子生命科学研究所 教授
3	令和3年 1月7日	第2回イブニングセミナー 「医療系学部におけるシミュレーション教育の実際」 阿部 幸恵氏・東京医科大学看護学科 教授, 東京医科大学病院シミュレーションセンター長
4	令和3年 2月日	第3回イブニングセミナー 「認知症高齢者の口腔健康管理」 會田 英紀氏・北海道医療大学 教授
5	令和3年 3月9日	第4回イブニングセミナー 「成人後を見据えた小児のリハビリテーション」 芳賀 信彦氏・東京大学大学院 教授
H	評価（成果および改善事項）	
<p>【所掌事項1：大学内の学術推進に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍にあることから共同研究発表会の開催形式を変更した。週間の期間を設けて、Teams 上での研究発表と質疑応答ができるよう、企画した。例年よりも発表時間をとることができ、Teams 上での質疑応答や意見交換も実施できた。</li> <li>・教員の教育力・研究力向上に向けたセミナーとして、4回のイブニングセミナーを開催した。いずれもオンラインでの開催となり、出席率を把握することは困難であった。また参加できなかった教員に対しては、セミナーを録画して後日視聴できるようにするといった対応を行った。オンライン開催は各教員の都合に合わせた参加ができることから概ね好評であった。</li> </ul> <p>【所掌事項2：学内共同研究等の募集及び審査等に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2021年度学内共同研究費の募集要項を検討、公募を行い、審査部会にて審査を行った。最終採択にあたり、ヒアリングを実施した。</li> </ul> <p>【所掌事項3：外部資金の獲得に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科研費計画調書作成のFDを企画・実施した。オンラインでの実施であり、出席率は正確には把握できなかったが、50～55人程度の出席であったと思われる。内容が大変具体的であり、実施後のアンケート結果においても満足度が非常に高かった（満足が80.6% やや満足が19.4%）。</li> <li>・教員の科研費申請を支援する取り組みとして、これまでの採択された研究計画調書を閲覧できる仕組みをととのえた。このシステムを利用した教員は5名であった。次年度以降も引き続き継続する。</li> <li>・今年度の科研費申請率は50.8%（昨年度より3.9ポイント増）、科研費以外の外部資金や学内共同研究費を含めた申請率は61.8%（昨年度より0.8ポイント増）であった。</li> </ul> <p>【所掌事項4：紀要の編集及び発行に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紀要第12巻の募集を行い、査読、審査等の編集作業を進め、滞りなく発行した。</li> </ul> <p>【所掌事項5：その他学長が付託した事項に関すること】特になし</p> <p>【所掌事項6：その他学術推進に関すること】特になし</p>		
I	次年度の方策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、外部資金獲得に向けた支援策を実施する。また、外部資金への申請率80%という目標を達成するための改善策についても、引き続き検討していく。</li> </ul>		

- ・シンクタンク機能の実現に向けては、学内共同研究による研究活性化につながるような方策について、将来構想検討委員会と連携し、検討する。
- ・教員の研究能力の向上に向けたイブニングセミナーの企画について、FD・SD委員会と連携し実施する。

(6) 学生委員会

A	委員長名	西野 郁子・学生部長
B	委員名	浅井 美千代・教授（看護学科） 植村 由美子・准教授（看護学科） 谷内 洋子・教授（栄養学科） 河野 公子・准教授（栄養学科） 金子 潤・准教授（歯科衛生学科） 鈴鹿 祐子・講師（歯科衛生学科） 大谷 拓哉・講師（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 安部 能成・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 藤原 慶一・教授（共通教育運営会議）
C	部会名と部会員名	なし
D	所掌事項	1 学生の福利厚生及び保健衛生に関すること 2 学生の課外活動に関すること 3 学生の奨学金等貸与に関すること 4 授業料等の減免に関すること 5 後援会及び同窓会に関すること 6 その他学長が付託した学生に関すること
E	年度当初の重点課題	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関からの情報や学生からの要望も捉えながら、所掌事務および学生支援計画に沿った活動を行う。</li> <li>・検討事項毎のリーダーに計画・運営をリードしてもらい、学生支援の充実や検討事項の解決を目指していく。</li> <li>・特に新型コロナウイルス感染拡大による学生生活への影響を把握し、例年よりも積極的な学生支援を行う。</li> </ul>	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和2年 4月13日	1 令和2年度の委員会スケジュールについて 2 令和2年度学生支援計画について 3 日本学生支援機構奨学生の推薦について 4 委員会予算について
2	令和2年 5月18日	1 2020年度学生支援計画について 2 次年度予算の策定について 3 学生向けセミナーについて 4 学生相談数の実態調査について 5 学生への調査について
3	令和2年 6月8日	1 次年度予算の策定について 2 学生向けセミナーについて 3 新入生ガイダンスについて
4	令和2年 7月13日	1 学生向けセミナーについて 2 健康診断について 3 学生ハンドブック等の配付について 4 体調不良時の公欠の取扱について
5	令和2年 9月14日	1 令和3年度学年暦について

6	令和2年 10月19日	1 自己点検・評価委員会 IR 部会依頼 年度 IR 指標について 2 軽音楽サークルライブについて 3 生協売店について
7	令和2年 11月9日	1 令和3年度自己健康管理ファイルについて 2 2020年度卒業時学生調査について 3 令和3年度学生ハンドブックについて 4 令和3年度健康診断・ワクチン接種計画について
臨	令和2年 12月3日	1 学生に対する新型コロナ対策の周知徹底について
9	令和2年 12月14日	1 令和3年度学生ハンドブックについて 2 令和3年度健康診断・ワクチン接種計画について 3 学生に対する新型コロナ対策の周知徹底の進捗状況について 4 日本学生支援機構「新型コロナウイルス感染症対策助成事業」によるクオカードの配付について
10	令和2年 2月8日	1 令和2年度卒業式について 2 令和3年度学生ハンドブックについて 3 令和3年度学生向けセミナーについて 4 学生に対する新型コロナウイルス対策の周知徹底の進捗状況について
11	令和3年 3月15日	1 令和2年度学生支援計画の結果について 2 令和3年度健康診断・ワクチン接種計画について 3 同窓会との連携について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	令和2年 8月31日, 9月12日	健康診断 (分散実施)
2	令和2年 7月27日～ 8月9日	学生セミナー 「はたらく前に知っておきたい労働法」
H	評価 (成果および改善事項)	
<p><b>【所掌事務 1-1：学生の福利厚生】</b></p> <p>1 令和2年度学生支援計画を立案し、以下のような活動を行った。学内整備において体育館で使用するためのスポットクーラーを予算要求した。学生の登校・対面授業が限定される状況において、学生会の企画・運営に助言し支援した。ブラックバイト対策に関する学生向けセミナーをオンデマンドで開催した。同窓会および学科・専攻の同窓会分会の活動を支援した。学生から教員への相談について実態調査を行い分析した。</p> <p>2 学生保険の加入状況を随時把握し学生指導を行った。</p> <p>3 「令和3年度学生ハンドブック」の内容を検討し、加除修正した。</p> <p><b>【所掌事務 1-2：学生の保健衛生】</b></p> <p>1 令和2年度健康診断を、新型コロナウイルス感染防止の点から時期を遅らせ、2日に分散で実施した。診断結果に基づき学生指導を行った。</p> <p>2 令和2年度ワクチン接種計画 (B型肝炎ワクチン・インフルエンザワクチン) を立案し実施した。また、ワクチン接種状況を継続的に把握し学生指導を行った。</p> <p>3 令和3年度健康診断の実実施計画について検討した。</p> <p>4 「令和3年度自己健康管理ファイル」の内容を検討し、最新情報を加筆するなど修正した。</p> <p>5 令和3年度健康診断前後の指導に係る資料を検討し、最新情報に改善した。</p> <p><b>【所掌事務 2：学生の課外活動】</b></p> <p>1 新型コロナウイルス感染拡大のため学生の入構や対面での活動が制限される中、いずみ祭の限定実施の企画相談 (開催は不可となった)、学生の課外活動への助言を行った。また、学生会と新入生との連絡などに例年でない教員による</p>		



支援が必要であった。

【所掌事務3：奨学金等貸与】

- 1 日本学生支援機構奨学生推薦のための学生面接を行った。

【所掌事務4：授業料等の減免】

- 1 臨時申請の授業料減免（前期・後期）について審議した。

【所掌事務5：後援会，同窓会】

- 1 学生支援のために後援会理事会と連携し，例年と同様の支援を得た。
- 2 新型コロナウイルス感染拡大による学生への支援に活用するため，後援会に新たに「緊急学生支援」の予算を依頼した。それにより，集団での健康診断が遅れたために学生が自費で受けた健康診断費用を後援会に負担してもらうことができた。
- 3 同窓会の再構築に向けて役員会へ助言し，分会長と各学科・専攻の教員間で連絡が可能になった。
- 4 卒業生への同窓会分会への入会に関して支援を行った。

【所掌事務6：その他】

- 1 大学運営会議からの依頼に基づき，新型コロナウイルス感染拡大による学生生活への影響に関する「学生調査」を6月初旬の1週間に行い，687名より回答を得て（回収率95.2%），遠隔授業開始3週間後の情報を把握・報告することができた。
- 2 新型コロナウイルス感染拡大により4月から学生の入構が禁止，引き続き遠隔授業となったため，感染拡大状況を見て6月に新入生ガイダンスを企画し実施した。新入生および教職員との顔合わせを含め，安全に実施することができた。
- 3 新型コロナウイルス感染状況が継続する中，学生の情報収集や感染防止対策の実行が適切になされていないことが判明し，学科・専攻毎の学生への情報提供・支援について，担任を中心とした体制の強化を検討し，その後，委員会で実行状況と学生の反応を確認することができた。
- 4 日本学生支援機構「新型コロナウイルス感染症対策助成事業」によるクオカードの配付について学生支援課と学生委員会で支援した。
- 5 令和2年度卒業式の運営について検討した。

I	次年度の方策
	<ul style="list-style-type: none"><li>・新型コロナウイルス感染状況の影響で学生生活での制限が長期化することにより，学生生活に適応できなくなる学生が表面化する可能性がある。不適応の防止や支援について，新たな方策が必要となる。また，課外活動についても新たな活動方法の検討が必要となる。</li><li>・同窓会については，令和3年3月に規約改正を含めた総会が終了し，令和3年度から各学科・専攻の支援計画に沿って，同窓会分会との連携を推進していく。</li></ul>

(7) 進路支援委員会

A	委員長名	西野 郁子・学生部長
B	委員名	田口 智恵美・准教授（看護学科） 金澤 匠・准教授（栄養学科） 麻生 智子・講師（歯科衛生学科） 江戸 優裕・講師（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 吉野 智佳子・講師（リハビリテーション学科作業療法学専攻）
C	部会名と部会員名	なし
D	所掌事項	1 就職及び進学に関すること 2 県内就職の推進に関すること 3 その他学長が付託した事項に関すること 4 その他学生の就職及び進学に関すること

E		年度当初の重点課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・所掌事務に関する活動を計画的に行う。特に、県内就職の推進や国家試験合格率100%（全学科）をめざし、学科専攻と連携を図り、大学全体として取り組んでいく。</li> <li>・新型コロナウイルス感染拡大による就職活動への影響がないか把握し、4年生への適切な情報提供を行う。</li> </ul>		
F		会議記録（含む部会の開催）
開催日	主な議題	
1	令和2年 4月21日	1 令和2年度委員会スケジュールについて 2 令和2年度進路支援計画について 3 令和2年度委員会活動予算について 4 令和元年キャリアセミナー年間計画及び第1回キャリアセミナーについて
2	令和2年 6月2日	1 令和2年度進路支援計画について 2 令和2年度後援会助成依頼について 3 令和2年度第1回・第2回キャリアセミナーについて
3	令和2年 7月7日	1 令和2年度第1回・第2回キャリアセミナーについて
4	令和2年 9月8日	1 進路希望調査について 2 進路ガイドブックについて 3 卒業時調査について
5	令和2年 11月13日	1 卒業時調査について 2 第3回キャリアセミナーについて 3 大学IRコンソーシアムの共通学生調査結果（2019）について 4 令和3年度学生ハンドブックについて
6	令和3年 1月22日	1 第3回キャリアセミナーについて 2 令和3年度ハローワーク相談（仁戸名含む）について
7	令和3年 3月25日	1 第3回キャリアセミナーの振り返りについて 2 ジョブカフェちばセミナーの振り返りと令和3年度計画について
G		行事開催記録
開催日	行事名称及び行事の内容	
1	令和2年 8月28日	第1回キャリアセミナー 1部：就活の進め方ー履歴書・エントリーシートの書き方と面接試験のポイントー 2部：採用者はここを見る！現場の求める人材とは？
2	令和2年 9月2日	第2回キャリアセミナー 「公務員試験 保健医療職への道 ～試験の内容と対策～」
3	令和3年 2月19日～ 3月12日	第3回キャリアセミナー 就職活動に必要なマナーのツボ 1部：社会人としての必要なマナー 2部：こんな時どうする？面接のマナー、電話での話し方など
4	令和3年 3月9日	ジョブカフェちば就活セミナー、個別相談
H		評価（成果および改善事項）
<b>【所掌事務1：就職・進学支援】</b> 1 令和2年度進路支援計画に基づき、全学的な事業や学科専攻毎の事業を含め、大学全体として学生への進路支援を行った。 2 令和元年度キャリアセミナーの評価をふまえ、令和2年度第1回・第2回・第3回キャリアセミナーの企画・運営・評価を行った。新型コロナウイルス感染状況から、感染防止と受講効果の両面から検討し、第2回までは集合方式、第3回はオンデマンド方式で実施した。学生の出席率やセミナー受講の感想は例年通りであった。 3 幕張キャンパスの進路情報室にハローワークのジョブサポーターの派遣（週1回）を依頼した。ジョブサポーターに		



<p>よる個別就職活動支援は、感染防止対策を取りながら継続することができた。また、仁戸名キャンパスの学生が就職相談できるよう、仁戸名キャンパスへの派遣も依頼し、派遣（9月～11月）が実施された。学生には好評であった。</p> <p>4 ジョブサポーターと情報交換・意見交換を行い、ジョブサポーターと教職員が同じ考え方のもと連携して進路支援を行うことができるようにした。学科の進路支援事業への協力（講義・情報提供）もいただいた。</p> <p>5 ジョブカフェちばによる就活セミナーを計画・実施した。新型コロナウイルス感染状況から1回のみ開催になったが、参加者には好評であった。</p> <p>6 令和2年度の就職進学状況についてとりまとめを行った。⑦令和3年度の「進路ガイドブック」の内容を検討した。履歴書の書き方など、学生に現在求められている書類等の情報が伝わるものとなった。⑦進路支援事業に関して後援会に助成を依頼する内容を検討した。⑧令和2年度就職率は100%であった。</p> <p><b>【所掌事務2：国家試験対策】</b></p> <p>1 令和2年度国家試験結果をとりまとめた。</p> <p>2 学科専攻と連携を図り、大学全体として学生への国家試験受験支援を行った。</p> <p>3 国家試験模擬試験受験に対して後援会から助成を受けられるよう各委員が調整し、助成を受けられた。</p> <p>4 国家試験に関わる手続きを確認し、学生の書類作成の支援、願書の提出、受験票の配布、免許申請手続き等を行った。</p> <p>5 令和2年度国家試験合格率は、保健師97.5%、助産師100%、看護師97.5%、管理栄養士95.8%、歯科衛生士100%、理学療法士91.3%、作業療法士95.0%であった。</p> <p><b>【所掌事務3：県内就職の推進】</b></p> <p>1 令和2年度県内就職率は63.9%であった。</p> <p>2 進路支援事業では県内保健医療関連施設から講師を派遣してもらい、県内就職を促進するようにした。</p> <p><b>【所掌事務4：その他】</b></p> <p>1 令和2年度卒業時調査の調査票作成（進路支援部分）について検討を行った。</p>	
I	次年度の方策
<ul style="list-style-type: none"> <li>・所掌事務に関する活動を計画的に行う。特に、県内就職の推進や国家試験合格率100%（全学科）をめざし、学科専攻と連携を図り、大学全体として取り組んでいく。</li> <li>・新型コロナウイルス感染状況の影響で就職活動に関する動向が変化することが考えられるため、学生支援課や各学科・専攻に入ってくる情報を学生支援につなげることが必要である。また、感染状況や行動指針に見合った学生が活用しやすい進路支援方法の検討が必要となる。</li> </ul>	

(8) 研究倫理審査委員会

A	委員長名	細山田 康恵・教授（栄養学科）
B	委員名	<p>—学内委員—</p> <p>藤原 慶一・教授（看護学科）</p> <p>杉本 健太郎・講師（看護学科）</p> <p>鈴木 亜夕帆・講師（栄養学科）</p> <p>石川 裕子・教授（歯科衛生学科）</p> <p>河野 舞・准教授（歯科衛生学科）</p> <p>堀本 佳誉・准教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻）</p> <p>藤田 佳男・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻）</p> <p>森竹 津四志・事務局長</p> <p>—学外委員—</p> <p>安村 勉・教授（学習院大学専門職大学院法務研究科）</p> <p>鎌田 浩二・准教授（千葉大学人文科学研究院）</p> <p>竹内 治・弁護士（松本・山下綜合法律事務所）</p> <p>望月 由紀・准教授（東都医療大学幕張ヒューマンケア学部看護学科）</p> <p>島津 実伸・特任助教（千葉大学医学部附属病院臨床試験部）</p>
C	部会名と 部会員名	<p><b>【動物実験研究倫理審査部会】</b></p> <p>部会長：細山田 康恵・教授（栄養学科）</p>

		部会員：雄賀多 聡・教授（リハビリテーション学科理学療法専攻） 河野 舞・准教授（歯科衛生学科） 金澤 匠・准教授（栄養学科） 峰村 貴央・助教（栄養学科）
D	所掌事項	人間および動物を直接対象とする研究等に対して、倫理に係る必要事項を審査する。
E	年度当初の重点課題	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新任教員への倫理教育を継続して実施する。</li> <li>・研究倫理不正の防止と、研究費不正使用防止を明確にする。</li> <li>・利益相反（管理）委員会を立ち上げる。</li> </ul>	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和2年 4月8日	1 倫理審査申請案件の審査（1件：承認1件） 2 倫理審査関係書類の流れと役割分担案について
2	令和2年 5月13日～18日 （メール）	1 倫理審査申請案件の審査（2件：承認1件、条件付き承認1件）
3	令和2年 6月10日	1 倫理審査申請案件の審査（4件：条件付き承認3件、保留1件）
4	令和2年 7月8日	1 倫理審査申請案件の審査（6件：承認2件、条件付き承認2件、保留2件）
5	令和2年 9月9日	1 倫理審査申請案件の審査（7件：承認3件、条件付き承認3件、保留1件）
6	令和2年 10月14日	1 倫理審査申請案件の審査（4件：承認1件、条件付き承認2件、非該当1件）
7	令和2年 11月11日	1 倫理審査申請案件の審査（2件：承認1件、条件付き承認1件）
8	令和2年 12月9日	1 倫理審査申請案件の審査（2件：承認2件）
9	令和3年 1月20日	1 倫理審査申請案件の審査（2件：条件付き承認2件） 2 科研費の内部監査について
10	令和3年 2月10日	1 2020年度委員会日程案について
	開催日	動物実験研究倫理審査部会の主な議題
1	令和2年 7月7日	1 動物実験申請案件の審査（2件：承認2件）
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	令和2年 4月1日	研究等倫理委員会研修会（新任教員向け）
2	令和2年 9月25日	研究倫理教育プログラムの受講等について（科研費説明会のメールにて周知）
3	令和3年 2月17日	令和元年度科学研究費助成事業に係る内部監査の実施
H	評価（成果および改善事項）	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人を対象とする研究の審査件数は30件（承認37%、条件付き承認47%、保留13%、非該当3%）、動物実験の審査件数は2件（全て承認）であった。</li> </ul>	

- ・新任教員への研修会を4月に実施した。
- ・科研費内部監査も前年同様に実施した。
- ・利益相反に関する委員会がなかったため、研究倫理審査委員会に利益相反管理部会の設置をし、利益相反管理規定を令和2年10月1日から施行した。該当の教員に利益相反自己申告書を提出していただき、厚労科研やAMED申請の方の書類提出が可能となり、目標が達成できた。倫理審査に必要な事項のものが多かったため、倫理審査に必要な項目を挙げ、「研究計画書」と「研究の参加と協力のお願い」について雛形を作成し、倫理審査書類の提出時に、活用できるようにした。
- ・今後、コロナ禍におけるZoomやTeamsの利用による研究について、倫理的配慮の点からどのように取り扱っていくか検討する必要がある。

I 次年度の方策

- ・新任教員への倫理教育を継続して実施する。
- ・研究倫理不正の防止と、研究費不正使用防止を明確にする。
- ・倫理審査結果通知書の中に、「非該当」という項目があるが、非該当がどのようなものか明記されたものがないので、必要であれば、項目を挙げて明確化する。
- ・コロナ禍におけるZoomやTeamsによる研究について、規程や申し合わせ事項の作成をする。
- ・日本学術振興会が提供する研究倫理e-ラーニングコースを1年に1回は受講の他に、外部の講師にFDをお願いする。

(9) 国際交流委員会

A	委員長名	片平 伸子・教授（看護学科）
B	委員名	荒井 裕介・准教授（栄養学科） 荒川 真・准教授（歯科衛生学科） 大谷 拓哉・講師（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 山本 達也・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 植田 麻実・講師（共通教育運営会議）
C	部会名と部会員名	なし
D	所掌事項	1 国際交流に関する事項 2 学術交流協定に関する事項 3 学術及び教育交流の推進に関する事項 4 留学生の教育交流に関する事項 5 国際交流関係機関との連携および協力に関する事項 6 その他学長が付託した国際交流に関する事項
E	年度当初の重点課題	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・韓国 Inje 大学との交流について、次年度の交流協定延長の可否を決め、延長の場合の今後の計画案とともに大学運営会議にはかる。</li> <li>・本学と神田外語大との共同開催による「初期医療言語サービスボランティア研修」を含めた、国内での国際交流活動について検討し、実施計画案を立てる。</li> </ul>	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和3年 11月から12月 (メール)	1 Inje 大学との国際交流協定の締結延長について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
H	評価（成果および改善事項）	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・韓国 Inje 大学との国際交流協定が次年度8月に終了することを受けて、各学科の意向を取りまとめ、委員会として協定延長および交流計画案を大学運営会議に諮った。その結果、交流延長は可決、交流計画については保留となった。</li> </ul>	

<ul style="list-style-type: none"> <li>・今春からの新型コロナウイルス感染状況からも次年度も海外へ渡航しての国際交流の実現は難しいと考え、令和元年度に本学有志と神田外語大との共催で行った初期医療言語サービスボランティア研修を次年度は委員会の所掌事項として実施する方向で準備を進めた。</li> </ul>	
I	次年度の方策
<ul style="list-style-type: none"> <li>・韓国 Inje 大学との交流については県の許可を待って、窓口である副学長に先方の意向を打診し、交流を進めていく。</li> <li>・本学と神田外語大との共同開催による「初期医療言語サービスボランティア研修」については、企画運営を委員会で担い、講師は前年度に担当した看護学科教員、英語教員に委託する。新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、オンライン講義の活用や消毒の徹底等を加えるといった修正を行う。</li> </ul>	

(10) 図書委員会

A	委員長名	三和 真人・図書館長
B	委員名	川村 紀子・講師（看護学科） 河野 公子・准教授（栄養学科） 山中 紗都・講師（歯科衛生学科） 酒井 克也・助教（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 安部 能成・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 島田 美恵子・教授（共通教育運営会議）
C	部会名と部会員名	なし
D	所掌事務	1 図書館の整備運営及び図書館教育に関する事項 2 図書資料等の収集、購入計画及び管理に関する事項 3 学術機関リポジトリに関する事項 4 その他学長が付託した事項に関する事項 5 その他図書館に関する事項
E	年度当初の重点課題	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・文献検索セミナーなどのセミナー、ガイダンスを実施し、図書館の利用促進、学生の文献検索能力向上につとめる。</li> <li>・学生の学習、教育、調査研究に資する資料の収集・整備につとめる。</li> </ul>		
F	会議記録（含む部会の開催）	
開催日		主な議題
1	令和2年 5月21日～28日 (メール)	1 令和元年度 図書委員会議題一覧 2 令和元年度度図書館利用統計について 3 令和2年度度図書館関係予算について 4 令和2年度度定期購読雑誌の購入計画について 5 電子ジャーナル・データベースについて 6 令和2年度度定期購入図書について 7 令和2年度度資料費予算配分について 8 令和2年度度購入図書の推薦について 9 図書館だより「ぼーれぼーれ」の発行計画について
2	令和2年 10月27日	1 令和2年度4～9月図書館利用統計について 2 図書館だより「ぼーれぼーれ」の発行について 3 定期購読雑誌の購入について 4 電子ジャーナル・オンラインデータベースの更新について 5 資料の除籍について
3	令和3年 3月11日～18日 (メール)	1 令和2年度度図書購入予算の執行状況について 2 令和3年度度図書館の開館スケジュールについて 3 令和2年度度文献検索セミナー実施報告

		4 図書館利用統計について 5 電子ジャーナル・データベース, および電子書籍について 6 図書館だより「ぼーれぼーれ」の発行について 7 令和3年度定期購読雑誌について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	令和2年 4月1日	図書館ガイダンス(新任教員向け)
2	令和2年 5月1日	図書館ガイダンス(新任教員向け)
3	令和2年 5月11日	図書館ガイダンス(新任教員向け)
4	令和2年 5月14日 (オンライン)	文献検索ガイダンス(栄養学科4年生)
5	令和2年 6月17日	図書館ガイダンス(新入生ガイダンス)(看護2回(うち1回は看護向けにオンラインで同時配信), 栄養1回(その他の学科・専攻向けにもオンラインで同時配信), 計3回)
6	令和2年 8月12日 (オンライン)	文献検索ガイダンス(リハビリテーション学科理学療法専攻3年生)
7	令和2年 8月13日 (オンライン)	文献検索ガイダンス(リハビリテーション学科作業療法専攻3年生)
8	令和2年 10月8日	文献検索ガイダンス(歯科衛生学科3年生)
9	令和2年 10月26日	図書館ガイダンス(新任教員向け)
10	令和3年 1月8日 (オンライン)	第1回文献検索セミナー「根拠のある医学情報を探すには」佐藤正恵氏千葉県済生会習志野病院総務課係長・図書室司書
11	令和3年 2月15日～ (オンライン)	第2回文献検索セミナー「文献の調べ方 医中誌WEBを中心に」
H	評価(成果および改善事項)	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セミナー, ガイダンスを実施し, 図書館の利用促進, 学生の文献検索能力向上につとめる。 感染症対策としてビデオ会議システム等を活用し, セミナー・ガイダンスの機会を確保した。専門的な知識・経験が豊富な講師を招聘し, 学生の文献検索能力向上に資する内容となった。</li> <li>・学生の学習, 教育, 調査研究に資する資料の収集・整備につとめる。 令和2年度の図書受入冊数は2,946冊で, 前年度(2,726冊)に比べ8%増加した。各学科・専攻の推薦図書やリクエスト図書の購入により, 学生の学習, 教育に役立つ資料を整備することが出来た。</li> </ul>	
I	次年度の方策	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セミナー開催に当たっては, 対面とオンライン双方の実施方法を検討し, 学生の文献検索能力向上のための機会確保につとめる。</li> <li>・リモートアクセスの利用促進を図り, 図書館内外における文献へのアクセス性向上につとめる。</li> </ul>	

## (11) 社会貢献委員会

A	委員長名	島田 美恵子・教授（歯科衛生学科 共通教育運営会議）
B	委員名	川村 紀子・講師（看護学科） 金澤 匠・准教授（栄養学科） 鈴鹿 祐子・講師（歯科衛生学科） 酒井 克也・助教（リハビリテーション学科理学療法専攻） 松尾 真輔・講師（リハビリテーション学科作業療法専攻）
C	部会名と部会員名	なし
D	所掌事項	1 公開講座の企画及び運営に関すること。 2 教授会が付託した事項に関すること。 3 その他社会貢献活動に関すること。
E	年度当初の重点課題	
	1 新 ほしい大健康プログラムの運営を通して、地域貢献活動、卒業生・専門職への研修をさらに充実させていく。 2 地域への貢献を高めるために、公開講座を WEB で公開するなど、新たな手法を検討する。 3 本学の社会貢献活動を通して、地域組織との連携を謀る。	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和2年 4月24日（メール）	1 所掌事項確認 2 委員会費予算および活動予定について 3 令和2年度公開講座について
2	令和2年 7月16日（メール）	1 新 ほしい大健康プログラムの運営（学外で実施する公開講座） 2 公開講座の検討・開講 講師決定 広報掲載用原稿案作成
3	令和2年 8月4日	1 令和2年度公開講座 進捗状況報告と役割分担 WEB 公開講座 準備状況確認 2 令和2年度新 ほしい大健康プログラム 進捗状況と役割分担 3 令和2年度重点施策 社会貢献委員会への課題について
4	令和2年 8月25日（メール）	1 公開講座 開催方法について
5	令和2年 10月28日	1 令和2年度公開講座開催について 2 令和3年度公開講座開催について 3 新 ほしい大健康プログラム開校準備確認
6	令和2年 11月27日	1 令和2年度公開講座開催について：WEB 開講のための準備 2 令和3年度公開講座開催について 3 男女共同参画センターとの連携講座について
7	令和2年 12月24日	1 令和2年度公開講座開催について：講師の再依頼 2 令和3年度公開講座開催について 3 男女共同参画センターとの連携講座について 内容の検討
8	令和3年 2月4日	1 令和2年度公開講座について（中止決定） 2 令和2年度報告書について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	公開講座	2021年2月に中止を決定した。WEB 開催のための情報収集・Zoom YouTube 操作の習熟等、準備を進めたが、セキュリティ、講演内容について学内の意見を統一できず、中止となった。
2	新・ほしい大健康プログラム	11月7日 UR 都市機構と共催。千草台団地集会所。 いきいきとした暮らしをいつまでも。介護予防のための健康教室 看護・理学プログラム。参加者13名。 スタッフ：田辺学長 雄賀多副学長 石井学部長 江戸講師 島田 川村 UR 都市機構より2名 学生ボランティアは参加させずに開講した。



3	千葉県男女共同参画センターとの連携講座	連携講座：2/9～3/31 配信 「コロナ時代を元気に過ごす—今、わたしたちができる健康づくり」健康・体力づくりをもとに、社会貢献委員会メンバーで各専門分野における「ちょっとした工夫」を合わせて開講した。閲覧数は200名以上であった。
H	評価（成果および改善事項）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度公開講座は開講することができなかった。コロナ禍による不測の事態ではあったが、学内での「公開講座」への認識・見解を統一することができなかった（対面とWEBでは講演の準備が異なるので開催方法の決定を待てない。感染症の専門家でなければ、コロナ対応の指導はできない。研究内容をWEBに公開はできない。4学科がそろわなければ開講できない。住民のニーズに沿わない内容は不可。WEB対応であれば高齢者は参加できない。対面開講は感染予防に責任をもてるのかなど）。委員会ではメールおよび対面で検討を重ねたが実施できず、実施困難な要因を明確にすることができなかった。IT環境、アプリケーション操作について、委員会外部からの支援を、もっと求めるべきであったかもしれない。</li> <li>一方で、千葉県男女共同参画センターとの連携講座は、1.5か月の準備期間で、開講できた。</li> <li>UR都市機構から要望された「新 ほしい大健康プログラム」を開講できた。このプログラムは、プロボノを活かすなど、卒業研修や専門職の生涯学習に通じる足掛かりとなる。</li> <li>地域へのPR活動を強化するため、本学ホームページに、本学の地域活動を紹介・報告する原稿を作成したが、アップされることはなかった。</li> </ul>		
I	次年度の方策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>地域への貢献を高めるために、公開講座をWEBで公開するなど、新たな手法を検討する。</li> <li>新 ほしい大健康プログラムの運営を通して、地域貢献活動、卒業生・専門職への研修をさらに充実させていく。</li> <li>大学の社会貢献活動についてFDを実施する。</li> </ul>		

### 3) 管理運営部門委員会群

#### (1) 自己点検・評価委員会

A	委員長名	岡村 太郎・リハビリテーション学科作業療法学専攻長
B	委員名	佐藤 紀子・看護学科長 細山田 康恵・栄養学科長 麻賀 多美代・歯科衛生学科長 三和 真人・リハビリテーション学科長、理学療法学専攻長、図書館長 島田 美恵子・共通教育運営会議長 森竹 津四志・事務局長 (陪席) 石井 邦子・学部長 西野 郁子・学生部長 大川 由一・歯科診療室長 片平 伸子・自己点検推進実施部会長 金子 潤・認証評価部会長
C	部会名と部会員名	<b>【教育研究年報報告部会】</b> 部会長：細山田 康恵・教授（栄養学科） 部会員：今井 宏美・講師（看護学科） 大内 美穂子・講師（看護学科） 河野 舞・准教授（歯科衛生学科） 堀本 佳誉・准教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 松尾 真輔・講師（リハビリテーション学科作業療法学専攻） <b>【認証評価部会】</b> 部会長：金子 潤・准教授（歯科衛生学科） 部会員：加藤 隆子・講師（看護学科） 椿 祥子・助教（看護学科） 菊池 裕・教授（栄養学科）

		<p>大谷 拓哉・准教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 岡村 太郎・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻）</p> <p><b>【自己点検・評価推進実施部会】</b>      部長：片平 伸子・教授（看護学科）      部会員：西村 宣子・准教授（看護学科）      成 玉恵・講師（看護学科）      井上 裕光・教授（栄養学科）      荒川 真・准教授（歯科衛生学科）      酒井 克也・助教（リハビリテーション学科理学療法学専攻）      吉野 智佳子・講師（リハビリテーション学科作業療法学専攻）</p> <p><b>【IR 部会】</b>      部長：岡村 太郎・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻）      副部長：金子 潤・准教授（歯科衛生学科，入試改革検討委員会）      部会員：神田 みなみ・教授（看護学科，教務委員会）      井上 裕光・教授（栄養学科，広報委員会）      鈴鹿 祐子・講師（歯科衛生学科，学生委員会）      佐久間 貴士・講師（歯科衛生学科）      松尾 真輔・講師（リハビリテーション学科作業療法学専攻，総務・企画委員会）</p>
D	所掌事項	<p><b>【自己点検・評価委員会】</b>      1 自己点検・評価の基本方針及び実施計画等の策定に関する事項      2 自己点検・評価の項目の設定に関する事項      3 自己点検・評価の実施に関する事項      4 自己点検・評価に関する報告書の作成及び公表に関する事項      5 認証評価に関する事項      6 その他自己点検・評価に関する事項</p> <p><b>【教育研究年報作成部会】</b>      1 教育研究年報に関する事項</p> <p><b>【自己点検・評価実施推進部会】</b>      1 自己点検・評価の実施計画等の策定に関する事項      2 自己点検・評価の項目の設定に関する事項      3 自己点検・評価の実施に関する事項</p> <p><b>【認証評価部会】</b>      1 認証評価に関する事項</p> <p><b>【IR 部会】</b>      1 自己点検・評価に関する情報収集、蓄積と分析に関する事項</p>
E	年度当初の重点課題	
	<p><b>【自己点検・評価委員会】</b>      1 自己点検評価報告書企画，自己点検評価推進実施部会へ依頼と承認      2 認証評価計画報告書企画，認証評価部会へ依頼と承認      3 教育研究年報の作成を教育研究年報報告部会依頼      4 大学 IR コンソーシアムの調査評価の依頼</p> <p><b>【教育研究年報報告部会】</b>      1 教育研究年報の発行</p> <p><b>【認証評価部会】</b>      1 次期認証評価機関の選定推薦      2 次期認証評価にそった計画と評価の実施</p> <p><b>【自己点検・評価推進実施部会】</b>      1 自己点検・評価報告書作成配布公表      2 自己点検評価 FD 開催</p>	



<b>【IR 部会】</b>		
1 IR コンソーシアムの調査評価		
2 教務システムのデータと連結		
3 IR に資するデータのホームページ公表		
<b>F</b>	<b>会議記録（含む部会の開催）</b>	
	<b>開催日</b>	<b>主な議題</b>
1	令和2年 6月29日	1 令和元年度の自己点検・評価について 2 認証評価の評価機関について
2	令和3年 3月17日	1 令和2年度の自己点検・評価について
	<b>開催日</b>	<b>自己点検・評価専門部会の主な議題【教育研究年報作成部会】</b>
1		1 教育研究年報の作成、準備と原稿依頼、校正など
	<b>開催日</b>	<b>自己点検・評価専門部会の主な議題【認証評価部会】</b>
1	令和2年 5月15日	1 2022年度認証評価受審機関の選定について 2 2022年度大学評価に向けた計画について
2	令和2年 10月22日	1 2022年度認証評価受審機関の選定について 2 2022年度大学評価に向けた計画について
	<b>開催日</b>	<b>自己点検・評価専門部会の主な議題【自己点検・評価実施推進部会】</b>
1		1 重点施策について、自己点検・評価を実施、作成。
	<b>開催日</b>	<b>自己点検・評価専門部会の主な議題【IR 部会】</b>
1	令和2年 5月29日	1 2020年度目標（5月25日の運営会議で報告された事項）への対応 2 各委員会学科専攻への年度 IR 指標依頼 3 大学 IR コンソーシアムのデータの活用方法とそのFD 4 今年度の大学 IR コンソーシアムのスケジュール 5 その他、部会員の構成について
2	令和2年 8月11日	1 各委員会・学科専攻への年度 IR 指標依頼 2 今年度の大学 IR コンソーシアムマークシート調査について
3	令和2年 10月6日	1 令和2年度大学 IR コンソーシアムマークシート調査について 2 IR に関するFDの実施について 3 公立大学協会アンケートシステムを利用した IR に関するアンケートの実施について 4 令和2年度卒業時調査について
4	令和2年 11月24日	1 大学 IR コンソーシアムマークシート調査の教育研究年報への掲載について
5	令和3年 1月19日	1 令和2年度卒業時調査について 2 大学 IR に関するFDを受けての当大学の IR の取組みについて
<b>G</b>	<b>行事開催記録</b>	
	<b>開催日</b>	<b>行事名称及び行事の内容</b>
	令和2年 12月9日	IR 部会主催 FD・SD 研修会 「大正大学 EMIR の取り組みと課題 ～高等教育の IR を取り巻く潮流から大学 IR コンソーシアム調査の具体的な活用事例まで～」 福島 真司氏・地域創生学部教授、大正大学エンrollment・マネジメント研究所所長、 IR・EM センターセンター長
<b>H</b>	<b>評価（成果および改善事項）</b>	
<b>【自己点検・評価委員会】</b>		
・成果		
1 自己点検評価報告書企画、自己点検評価推進実施部会へ依頼達成、承認中		
2 認証評価計画報告書企画、認証評価部会へ依頼・承認		

3	教育研究年報の作成を教育研究年報報告部会依頼達成
4	大学 IR コンソーシアムの調査評価の依頼達成
	<ul style="list-style-type: none"> <li>改善事項</li> </ul> <p>自己点検・評価委員会について、大学の目標などに沿って、年度初め、中間、年度終わりに計画的・定期的に部会の進行の活動報告と指導、承認が必要。改善策として大学の活動目標は年度初めに提示する必要がある。</p> <p>【教育研究年報報告部会】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>成果</li> </ul>
1	教育研究年報の発行達成
	<ul style="list-style-type: none"> <li>改善事項</li> </ul> <p>教育研究年報報告部会については、現状の記述である。改善策として各委員会など活動を追跡調査が可能な指標の開発、新たな認証評価機関の基準に向けて各活動の評価の改善が必要。</p> <p>【認証評価部会】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>成果</li> </ul>
1	次期認証評価機関の選定推薦達成
2	次期認証評価にそった計画と評価の実施については年度内に達成予定
	<ul style="list-style-type: none"> <li>改善事項</li> </ul> <p>認証評価部会について、次期認証評価機関が「大学教育質保証・評価センター」に決定された。選定に時期が年内であったため次期認証評価の計画ならびに評価の準備実施計画の作成が年度内までに作成されることとしている。</p> <p>【自己点検・評価推進実施部会】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>成果</li> </ul>
1	自己点検・評価報告書作成は年度内に完成予定
2	自己点検評価 FD 活動は IR 活動について実施達成
	<ul style="list-style-type: none"> <li>改善事項</li> </ul> <p>自己点検・評価推進実施部会については、自己点検・評価報告書作成は年度内に自己点検評価委員会の承認をうけ完成予定。改善策として、年度初めに目標設定が示されていないため、学長・運営会議から目標の設定を各委員会に示せるよう期待したい。</p> <p>【IR 部会】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>成果</li> </ul>
1	IR コンソーシアムの調査評価は1年最終学年に実施達成
2	教務システムのデータと連結 GPA など項目と連結達成
3	IR に資するデータのホームページ公表は未達成。来年度教育研究年報に掲載予定
	<ul style="list-style-type: none"> <li>改善事項</li> </ul> <p>IR 部会について、大学 IR コンソーシアムの調査について、教務システムのデータと連結 GPA など項目と連結ができていたので活用について活性化促したい。改善策として FD を実施し、各員会などでの活用を促したい。IR に資するデータのホームページに公表は未達成については、改善策として、まず学内の来年度教育研究年報に掲載予定とする。</p>
I	次年度の方策
	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己点検・評価委員会と下部の各部会とは連携がとれ、自己点検評価報告書・認証評価計画報告書・教育研究年報の作成は順調に経過した。</li> <li>今年度初めて、IR コンソーシアムの調査結果を本学と他大学で比較し、大学運営会議へ報告することができた。しかし、その結果の大学ホームページへの公表が年度内に行えなかったのが残念である。IR 部会で把握したデータをタイムリーにホームページへ公表する方策を確立する必要がある。</li> <li>来年度より認証評価機関が変更となり、次期認証評価への準備も開始しなければならない。</li> </ul>

(2) 将来構想検討委員会

A	委員長名	雄賀多 聡・教授 (リハビリテーション学科理学療法専攻)
	副委員長名	佐藤 紀子・教授 (看護学科長)

B	構成員名	石井 邦子・教授（看護学科，学部長） 西野 郁子・教授（看護学科，学生部長） 三和 真人・教授（リハビリテーション学科理学療法専攻長，図書館長） 大川 由一・教授（歯科衛生学科，歯科診療室長） 細山田 康恵・教授（栄養学科長） 麻賀 多美代・教授（歯科衛生学科長） 岡村 太郎・教授（リハビリテーション学科作業療法専攻長） 島田 美恵子・教授（歯科衛生学科，共通教育運営会議長） 森竹 津四志（事務局長）
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 大学の中長期ビジョンに関する事項 2 キャンパス統合の検討に関する事項 3 大学院設置の検討に関する事項 4 実践研修研究センター（仮称）設置の検討に関する事項 5 公立大学法人化等の検討に関する事項 6 その他大学の発展・充実のための将来構想に関する事項
E	年度当初の重点課題	
	①大学院設置に向けた諸課題を明らかにする ②県健康福祉部の職員に本学の取組を紹介し，県民の健康ニーズを踏まえた今後の取組について意見交換できる場を設定する ③より柔軟で迅速な地域貢献かつ自律的な大学運営に向けた検討	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和2年 8月14日	1 保健医療大学取組報告会の企画について（ワーキング）
2	令和2年 10月1日	1 保健医療大学取組報告会の打ち合わせ（1）（ワーキング）
3	令和2年 10月19日	1 保健医療大学取組報告会の打ち合わせ（2）（ワーキング）
4	令和2年 11月2日	1 保健医療大学取組報告会の打ち合わせ（3）（ワーキング）
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	令和2年 11月12日	保健医療大学取組報告会の開催 会場：千葉県庁本庁舎1階多目的ホール 出席者：健康福祉部14名（加瀬健康福祉部長，渡邊保健医療担当部長，中村次長，石出次長，健康福祉政策課1名，健康づくり支援課2名，高齢者福祉課2名，医療整備課5名），保健医療大学9名（田邊学長，石井学部長，森竹局長，教職員6名） 当日のプログラム：(1)大学の概要及びこれまでの取組と成果 (2)主な取組の紹介 (3)今後に向けて（意見交換） 中小規模施設で働く看護職者の研修受講者の促進や，卒業生の県内就職率および定着率を高め ていく方策などについて，意見交換が行われた。
H	評価（成果および改善事項）	
	①大学院設置に向けた検討は，「保医大のあり方検討会議」を設け，その中で大学院の設置について検討する方向性になっ ていたが，令和2年度はCOVID-19蔓延のため，話し合いは全く持てなかった。 ②11月12日に県庁において「保医大取組報告会」を開催することができた。詳細は，上記記載のとおり。	

③県立大学として、地域のニーズに柔軟で迅速に対応していくために法人化を念頭に、事務手続きの効率化・迅速化、柔軟な資金運用や人事の決定、民間との連携を可能にする大学運営を目指し、2019年1月と4月に医療整備課と合同で法人化に関する勉強会が実施された。その後、県からの提案として「保医大のあり方検討会議」を設け、そこで法人化について①の大学院設置と併せて検討を行う予定であったが、会議を開催することができなかった。

I	次年度の方策
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学長・副学長・学部長が新体制となることから、改めて①、③について、県と検討する機会を設け、検討を進める。</li> <li>・②については、令和3年度も「保医大取組報告会」を開催するとともに、県のシンクタンク機能の強化を目指し、本学の取組を関係機関等に周知するためのリーフレットを作成する。</li> </ul>

(3) 総務・企画委員会

A	委員長名	大川 由一・教授（歯科衛生学科）
B	委員名	細谷 紀子・准教授（看護学科） 金澤 匠・准教授（栄養学科） 三和 真人・准教授（リハビリテーション学科理学療法専攻） 岡村 太郎・教授（リハビリテーション学科作業療法専攻） 雄賀多 聡・教授（共通教育運営会議）
C	部会名と部会員名	なし
D	所掌事項	1 学内規程に関する事項 2 教育研究の予算配分・執行・決算に関する事項 3 教育及び研究施設に関する事項 4 他の委員会の所掌に属しない事項 5 その他学長が付託した事項に関する事項
E	年度当初の重点課題	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高額備品購入のために実施してきた各学科専攻への予算の集中配当サイクルが令和3年度で終了するため、令和4年度からの新たな予算配分方式について審議する。</li> <li>・平成29年3月に、①安全で快適な環境を確保するための整備（トイレ改修等）、②講義室等の基本的な教育環境を確保するための整備（学生用机・椅子の更新等）などの5つの整備方針を掲げた『千葉県立保健医療大学施設整備計画』を作成したが、これまでの学内整備の進捗状況を踏まえ、同計画の評価・見直しを検討する。</li> <li>・施設整備計画の評価・見直しに関連して施設整備の要望等を把握するため、教員を対象としたアンケート調査の実施を検討する。</li> </ul>	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
	1 令和2年 4月20日	1 令和2年度の委員会開催日程について 2 令和2年度全学整備備品について 3 令和3年度予算要求について
	2 令和2年 5月18日	1 令和2年度委員会経費について
	3 令和2年 6月15日	1 令和2年度全学整備備品について 2 令和3年度予算について 3 幕張図書館棟中講義室のプロジェクター整備について
	4 令和2年 7月13日	1 「千葉県立保健医療大学の将来に向けて」における本委員会の取組について 2 今後の予算要求について
	5 令和2年 9月14日	1 「千葉県立保健医療大学の将来に向けて」における本委員会の取組について 2 今後の予算要求について
	6 令和2年 10月19日	1 令和2年度卒業時アンケートにおける本委員会所掌項目の見直しについて 2 施設・設備に関する教員向けアンケートについて

		3 令和4年度以降の予算要求について
7	令和2年 12月14日	1 大学 IR コンソーシアムマークシート結果 (2019) への対応について 2 施設・設備に関する教員向けアンケートについて 3 令和2年度全学整備備品の購入順位について 4 令和4年度以降の予算要求について 5 令和2年度中の学内委員会関連規程の改正について
8	令和3年 2月15日	1 千葉県立保健医療大学学内共同研究等の取扱いに関する規程の一部改正について 2 令和3年度当初予算 (備品購入費関係) について
9	令和3年 3月8日	1 令和3年度当初予算 (備品購入費関係) について 2 令和3年度教育予算及び研究予算の配分について
10	令和3年 3月15日	1 令和3年度研究予算の配分について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価 (成果および改善事項)	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度より卒業時調査の施設・設備に関する質問を総務・企画委員会で精査し、アンケートを実施することとした。昨年度まで学生・進路支援・教務委員会が行っていた卒業時調査の「学生生活に関する施設・設備」に新たに項目を追加するなどの修正を行い、アンケート実施主体である IR 部会に依頼した。</li> <li>教員アンケート調査を実施し、「キャンパスに起因する問題点」および「教育研究等環境に関する調査：優先して整備すべき施設・設備」の現状を把握することにした。これらは、平成28年に実施したものをベースとして、時点修正する形で実施し、学習環境の整備の促進に向けた改善状況を評価するものである。教員アンケートの実施時期が年度当初から年度末となった点については、重点施策にかかわるニーズの把握が遅れることとなったため、今回は年度当初の実施が望まれる。</li> </ul>	
I	次年度の方策	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度に実施した「教育研究等環境に関する調査：優先して整備すべき施設・設備」の現状をふまえ、優先順位に基づく学内環境 (教室の机・椅子、AV 機器等) の整備、令和4年度に向けた予算要求を実施する。また教員アンケート調査および学生の卒業時調査結果にもとづく整備計画行程表の作成 (整備の優先順位づけと整備目標年度の作成) を進める。</li> </ul>	

#### (4) 広報委員会

A	委員長名 副委員長名	小宮 浩美・教授 (看護学科)
B	委員名	成 玉恵・講師 (看護学科) 麻生 智子・講師 (歯科衛生学科) 荒川 真・准教授 (歯科衛生学科) 佐久間 貴士・講師 (歯科衛生学科, 共通教育運営会議) 荒井 裕介・准教授 (栄養学科) 井上 裕光・教授 (栄養学科, 共通教育運営会議) 江戸 優裕・講師 (リハビリテーション学科理学療法学専攻) 吉野 智佳子・講師 (リハビリテーション学科作業療法学専攻) 関口 健太郎・主事 (事務局企画運営課) 笹倉 駿・主事 (事務局学生支援課) 総括委員長 雄賀多 聡・教授 (リハビリテーション学科理学療法学専攻)
C	部会名と部会員名	なし

D	所掌事項	1 印刷物を活用した広報に関する事項 2 ホームページなど情報・通信システムを活用した広報に関する事項 3 学校案内、オープンキャンパスや学校説明会・キャンパス見学（団体）など、入試広報に関する事項（入試改革に係る予告公表を除く） 4 その他大学の広報に関する事項
E	年度当初の重点課題	
・広報に関する現状の課題を抽出し、課題解決のための方策を策定する。		
F	会議・活動記録（含む部会の開催）等	
	開催日	主な議題
1	令和2年 4月9日	1 年間活動計画と役割分担 2 オープンキャンパス企画 3 大学案内編集 4 公式 SNS の運用 5 高校訪問やキャンパス見学 6 予算
2	令和2年 5月18日	1 広報委員会における情報発信（申し合わせ事項） 2 オープンキャンパスの代替となる企画について 3 SNS の運用
3	令和2年 7月10日	1 WEB オープンキャンパス企画
4	令和2年 10月23日	1 今後の委員会活動計画と役割分担
5	令和3年 3月22日	1 2021年度オープンキャンパスについて 2 次年度の広報委員会の目標 3 大学案内 2022
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	令和2年 9月14日	WEB オープンキャンパス 2020
H	評価（成果および改善事項）	
<p>1 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・WEB オープンキャンパス開催に向けた YouTube チャンネルの開設と運用規定の作成</li> <li>・WEB オープンキャンパスの開催</li> <li>・大学案内の作成</li> <li>・SNS の定期的な発信（19回）</li> <li>・大学説明会の実施：訪問型（35回）、遠隔型（6回）</li> </ul> <p>2 評価結果の理由と改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・WEB オープンキャンパスの動画は1月29日の時点で、看護学科を例にすると1,138回、施設紹介（幕張）は1,174回であった。これは同時期の近隣の公立大学の動画視聴回数（看護学科説明会369回、キャンパスツアー791回）と比較し多い。視聴者のうち70名が回答したアンケートの分析では、高校生のニーズが把握できた。SNS の分析から反応が良い配信内容の傾向を見出すことができた。</li> <li>・研究成果等の社会に還元する内容の発信としては、千葉県理学療法士会と本学が監修して作成した「ちばし いきいき体操」を SNS で紹介した。今後はより広範囲な研究分野の内容を発信するため、学内からの情報の集約と YouTube および HP の整備が課題である。</li> <li>・大学案内の編集作業においては、デザインの刷新は達成できたが、裏表紙の地図上の大学名の誤字、写真が不鮮明であった。裏表紙の誤植は校正時に指摘していない箇所を業者が変更したことが原因であり、業者選定における課題が残った。また校正プロセスにおける課題があった。</li> </ul>		



I	次年度の方策
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学案内の発注方法と校正プロセスの変更が必要である.</li> <li>・学長等の変更による大学案内およびWEB 動画の差し替え, 各種規定の整備.</li> <li>・研究活動・社会貢献活動の情報発信.</li> </ul>

(5) 衛生委員会

A	委員長名	統括安全衛生管理者：田邊 政裕・学長 衛生管理者：荒川 真・准教授（歯科衛生学科） 産業医：雄賀多 聡・教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻）	
B	委員名	東本 恭幸・教授（栄養学科）	
C	部会名と部会員名	なし	
D	所掌事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 労働者の健康障害を防止するための基本となるべき対策に関すること</li> <li>2 労働者の健康の保持増進を図るための基本となるべき対策に関すること</li> <li>3 労働災害の原因及び再発防止対策で、衛生に係るものに関すること</li> <li>4 上記に掲げるもののほか、労働者の健康障害の防止及び健康の保持増進に関すること</li> </ol>	
E	年度当初の重点課題		
	・所掌事項の達成		
F	会議記録（含む部会の開催）		
	開催日	主な議題	主な報告
1	令和2年 5月25日（メール）	1 開催日程について	1 職場巡視・空気環境測定の結果報告について 2 メンタルヘルス講師派遣研修について
2	令和2年 6月22日（メール）	1 職場巡視・空気環境測定の結果報告について	2 メンタルヘルス講師派遣研修について
3	令和2年 7月27日（メール）		1 職場巡視・空気環境測定の結果報告について
4	令和2年 8月31日（メール）		1 職場巡視・空気環境測定の結果報告について
5	令和2年 9月28日（メール）		1 水質検査の結果について
6	令和2年 10月26日（メール）		1 R3 年度産業医について
7	令和2年 11月30日（メール）		1 幕張キャンパスにおける空気環境測定結果について
8	令和2年 12月21日（メール）	1 厚生労働省からの通知に係る本学教職員への周知について	1 12月17日職場巡視の結果について
9	令和3年 1月25日（メール）		1 幕張キャンパスにおける空気環境測定結果について
10	令和3年 2月15日（メール）		1 職場における新型コロナウイルス感染症への感染予防と集団感染の発生防止を踏まえた健康管理の徹底について
11	令和3年 3月29日（メール）	1 令和2年度衛生委員会の運営報告及び産業医の勤務実績について	1 2月17日職場巡視の結果について 2 2月の空気環境の測定結果について



G		行事開催記録
開催日		行事名称及び行事の内容
1	令和2年 8月26日	メンタルヘルスケア研修会 「ストレスチェックの結果から見えてきた教職員のこころの傾向やメンタルヘルスの最新情報，“疲労回復”や“睡眠改善”の方法について」
H		評価（成果および改善事項）
・衛生委員会をメール審議で毎月開催し、また、コロナ対策を衛生面から検討した。しかし、ストレスによって不調をきたした職員に対する適切な対処が行えなかった。		
I		次年度の方策
・今年度は、衛生委員会のメール審議が毎月行われ、産業医の職場巡視（環境測定）も2か月に一回実施された。高ストレス者の学内産業医との面談は希望者がいなかった。また、時間外超過勤務者と学内産業医との面談は実施された。 ・来年度は、産業医が学内教員ではなく、学外の産業医となるため、その連携を確実にする必要がある。		

(6) 危機管理委員会

A	委員長名 副委員長代理	雄賀多 聡・教授（リハビリテーション学科理学療法専攻，副学長） 島田 美恵子・教授（歯科衛生学科，共通教育運営会議長）
B	構成員名	細谷 紀子・准教授（看護学科） 富樫 恵美子・講師（看護学科） 谷内 洋子・教授（栄養学科） 金澤 匠・准教授（栄養学科） 鈴鹿 祐子・講師（歯科衛生学科） 堀本 佳誉・准教授（リハビリテーション学科理学療法専攻） 酒井 克哉・助教（リハビリテーション学科理学療法専攻） 有川 真弓・准教授（リハビリテーション学科作業療法専攻） 松尾 真輔・講師（リハビリテーション学科作業療法専攻） 西野 郁子・教授（看護学科，学生部長） 井上 裕光・教授（栄養学科，ネットワーク管理者）
C	所掌事項	1 大学の危機管理に関する重要な事項 2 危機管理マニュアルの作成・見直し及び周知に関する事項 3 情報システム管理室における以下の業務に関する事項 (1) 学内情報システム（情報ネットワークシステム，教務・入試システム，図書館システム）の運用・管理 (2) 学生及び教員の情報システム活用の支援 (3) 情報セキュリティ対策
D	年度当初の重点課題	
・危機管理マニュアルの作成		
E	会議記録（含む部会の開催）	
開催日		主な議題
1	令和2年 4月14日	1 休校中の学生（在校生）の状況調査について (1) 健康状態 (2) ネット環境
2	令和2年 4月15日	1 教職員に新型コロナウイルス感染が発生した場合の消毒体制について (1) 体制案の作成
3	令和2年 4月16日	1 学生の状況把握調査（新入生）について
4	令和2年 4月24日	1 対面授業に係る基準・方針について
5	令和2年	1 幕張キャンパス防災訓練について

	5月11日	
6	令和2年 6月17日	1 防災訓練について
7	令和2年 8月20日	1 雅気宇内でのクラスター発生防止のための、「密」の排除について
8	令和2年 12月11日	1 防犯カメラの設置について (1) 防犯カメラ設置・運用基準
F	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	令和2年 6月29日	防災訓練の実施（幕張キャンパス）
2	令和2年 11月18日	防災訓練の実施（仁戸名キャンパス）
G	評価（成果および改善事項）	
<p>1 達成事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ COVID-19 による休校中の在学生の現状調査を実施</li> <li>・ COVID-19 下における対面授業にかかる基準・方針（案）策定</li> <li>・ 防災訓練（幕張キャンパス・仁戸名キャンパス）実施</li> <li>・ 防犯カメラ2台（①更衣室棟，②B棟1階更衣室前）の運用を開始（幕張キャンパス）</li> </ul> <p>2 評価結果の理由と改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目の前の危機である COVID-19 対策に関しては，4月に在校生の現状把握調査を実施し，5月11日の対面授業再開に向け，COVID-19 下における「対面授業にかかる基準・方針（案）」を策定し，COVID-19 対策会議に提出した．対面授業再開後は，キャンパス内での COVID-19 の感染発生を避けるための COVID-19 対策は「COVID-19 対策会議」で検討されることとなったが，委員長および各委員（教員）は遠隔授業の準備に忙殺され，危機管理委員会の目標業務であった「災害以外の危機に対応するためのマニュアル作成」には手が回らなかった．</li> <li>・ 防災訓練は，COVID-19 対策をしつつ，両キャンパスで実施した．</li> </ul>		
H	次年度の方策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和2年度は COVID-19 の蔓延により，委員長の業務量が COVID-19 対策会議活動（かつ，遠隔授業の準備）に向けられた結果，危機管理委員会としての業務が回らなかった．改善策としては，委員長に業務が偏らないように，業務担当を振り分ける必要がある．</li> <li>・ 本学における災害以外の危機に対応するマニュアルを作成する．</li> </ul>		

(7) 人事委員会

A	委員長名	石井 邦子・学部長
B	委員名	佐藤 紀子・看護学科長 細山田 康恵・栄養学科長 麻賀 多美代・歯科衛生学科長 三和 真人・リハビリテーション学科長（兼）理学療法学専攻長 岡村 太郎・作業療法学専攻長 島田 美恵子・共通教育会議長 森竹 津四志・事務局長
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 教員の採用・昇任・再任の基準に関する事項 2 教員の配置，教員組織の編制に関する事項 3 その他教員の人事に関する事項

E		年度当初の重点課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の採用方針及び教員組織編制方針の検討を行い、決定する。</li> <li>・教員採用プロセスの評価を継続し、助教以外の採用プロセスについても効率化を図る。</li> <li>・令和元年度の経験をもとに、新教員採用プロセスを明文化する。</li> </ul>		
F		会議記録（含む部会の開催）
開催日	主な議題	
1	令和2年 5月18日	1 教員資格審査委員会の設置について 2 その他 ・共通教育運営会議所属教員の教員資格審査委員会設置の手続きについて ・教員組織編成方針について
2	令和2年 6月22日	1 教員資格審査委員会の設置について 2 臨時的任用職員（助手）について 3 教員組織編成方針について
3	令和2年 9月1日	1 教員資格審査委員会の設置について 2 教員組織の編成方針等について 3 「教員資格審査委員会の設置」に関する運用について
4	令和2年 12月24日	1 教員資格審査委員会の設置について
5	令和3年 1月20日	1 教員資格審査委員会の設置について 2 教員組織の検証方法について
6	令和3年 3月1日	1 教員資格審査委員会の設置について 2 教員組織の検証方法について 3 教員組織の編成方針（修正案）について
G		行事開催記録
開催日	行事名称及び行事の内容	
	なし	
H		評価（成果および改善事項）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の採用方針及び教員組織編制方針を決定し、運営会議の承認を得て決定することができた。</li> <li>・専任教員の採用プロセスを円滑に進めるとともに、臨時的任用職員の採用プロセスを決定した。資格審査委員会を学科専攻毎に設置することで円滑な決定を可能にした。</li> <li>・教員組織の定期的検証について検討したが、次年度への継続審議となった。</li> </ul>		
I		次年度の方策
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員組織の定期的検証方法を決定し、検証を開始する。</li> <li>・専任教員の採用プロセスにおいて、WEB会議の積極的導入による効率化を実現する。</li> </ul>		

(8) 教員再任審査委員会

A	委員長名	麻賀 多美代・教授（歯科衛生学科）
B	委員名	石井 邦子・教授（看護学科） 谷内 洋子・教授（栄養学科） 三和 真人・教授（リハビリテーション学科理学療法専攻） 森竹 津四志・事務局長
C	部会名と 部会員名	<b>【専門部会】</b> 委員長による指名（各学科・専攻より1名）*2020年度は設置なし
D	所掌事項	1 業績評価の基準及び評価方法等に関する事項 2 任期中における業績評価に関する事項 3 休職等があった場合における延長する任期に関する事項 4 その他教員の任期制に関する事項

E	年度当初の重点課題	
・所掌事項の達成		
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和2年 4月24日 (メール)	1 審査対象者の確認について 2 審査手順・様式について 3 再任審査の審査方法について
2	令和2年 5月29日	1 業績審査の検討及び再任審査結果の決定
3	令和2年 10月19日 (メール)	1 審査対象者の確認について 2 審査手順・様式について 3 再任審査の審査方法について
4	令和2年 12月1日	1 業績審査の検討及び再任審査結果の決定
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価（成果および改善事項）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期4名（看護学科2名，歯科衛生学科1名，理学療法学専攻1名），後期2名（看護学科1名，作業療法学専攻1名）の審査を適正に行い再任可と承認された。前期1名，後期1名が学長による形式的評価を受けた。</li> <li>・審査対象者に不十分な記載がみられるため，改善策として現在の審査項目及び審査基準等の修正（論文数以外の審査基準の明確化や例示）を検討する必要がある。</li> </ul>		
I	次年度の方策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な再任審査を実施する。</li> <li>・審査項目及び審査基準等を検討する。</li> </ul>		

(9) キャンパス・ハラスメント防止対策委員会

A	委員長名	杉本 知子・教授（看護学科）
B	委員名	雄賀多 聡・副学長 石井 邦子・学部長 西野 郁子・学生部長 森竹 津四志・事務局長 大川 由一・教授（歯科衛生学科） <b>【外部委員】</b> 山口 祐輔（弁護士） 有馬 和子（臨床心理士）
C	部会名と 部会員名 (相談員名)	<b>【相談員】</b> 小宮 浩美・教授（看護学科） 杉本 健太郎・講師（看護学科） 佐伯 恭子・講師（看護学科） 東本 恭幸・教授（栄養学科） 鈴木 亜夕帆・講師（栄養学科） 金子 潤・准教授（歯科衛生学科） 河野 舞・准教授（歯科衛生学科） 堀本 佳誉・准教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 江戸 優裕・講師（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 有川 真弓・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻）

		松尾 真輔・講師（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 赤塚 仁・課長（事務局企画運営課） 田中 宏明・副主査（事務局企画運営課） 【キャンパス・ハラスメント調査委員会】 キャンパス・ハラスメント防止対策委員会が推薦する者から学長が指名
D	所掌事項	1 キャンパス・ハラスメントの防止及び排除に関する基本方針の策定に関すること 2 キャンパス・ハラスメントに関する啓発及び研修に関すること 3 キャンパス・ハラスメントに関する苦情の申出及び相談への対応に関すること 4 上記に掲げるもののほか、キャンパス・ハラスメントの防止及び排除に関すること
E	年度当初の重点課題	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学におけるキャンパス・ハラスメントに関する実態の把握</li> <li>・キャンパス・ハラスメントの実態に基づく啓発及び防止策の企画・実施</li> <li>・キャンパス・ハラスメントに関する規定の見直し</li> </ul>	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和2年 3月4日	1 ハラスメント関係規程の一部改正について 2 学生教職員向けアンケートの実施について 3 学生向けハラスメント研修について 4 教職員向けハラスメント研修について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	令和3年3月	学生向けキャンパス・ハラスメント研修動画のオンデマンド配信
2	令和3年 3月8日～22日	学生・教職員向けキャンパス・ハラスメントに関するアンケート調査の実施
H	評価（成果および改善事項）	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不服申立てへの対応や組織運営の円滑化を図るため、ガイドラインの見直しが必要である。</li> </ul>	
I	次年度の方策	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンパス・ハラスメントに関する調査、啓発及び防止を目的とする実態調査を行う。</li> <li>・キャンパス・ハラスメントに関する啓発及び防止を目的とする講演会・研修会を企画する。</li> <li>・キャンパス・ハラスメントに関するガイドライン等の見直しを行う。</li> </ul>	



## 5. 各学科・専攻の管理・運営活動報告

### 1) 看護学科

#### (1) 教員組織

令和2年度は、講師1名、助教1名が欠員となり、教授10名、准教授8名、講師10名、助教11名、計39名の構成となった。

#### (2) 年度当初の重点課題

COVID-19の感染状況をみながら、感染防止対策に努め、学生への教育が滞らない体制を整備する。学科運営会議および教授会を中核として、領域長間、委員会間の連携・協力体制を強化する。

#### (3) 取組状況

看護学科の管理・運営は、全教員が構成員となる看護学科運営会議が中心であり、5回開催された。看護学科教授会は、看護学科全体の主要課題や方向性を迅速に審議し決定するために設置されており、13回(定例12回、臨時1回)開催した。今年度は、COVID-19の感染状況を踏まえた活動方針の検討や学生への対応についての議題が多くあがった。また、授業・実習に関しては、領域長会議を3回、全教員を対象とした情報交換会を2回開催した。

また、4月当初より千葉県庁から県立の看護師教育機関に対して、COVID-19への対応として保健所および宿泊療養施設への応援要請が出された。それを受けて、1年間で、保健所延べ147名、宿泊療養施設延べ69名の看護系教員を派遣した。これにあたり、看護系教授で「応援要請に対する看護学科の考え方」や「具体的な対応方法」などを策定し、看護学科教員に提示した。また、教員間の引継ぎと心理的支援の目的で「報告会」を6回開催するなど、学科として派遣体制を整備した。

看護学科で設置している各種委員会においても、定例の活動に加え、COVID-19への対応がなされた。

教務委員会においては、COVID-19拡大に伴い、対面での履修ガイダンスの実施が中止となったため、履修計画の円滑に立案できるように、ガイダンスでの説明内容を網羅した配布資料の作成を行った。時間割調整では、前期の開講時期が複数回にわたり延長されたため、その度に各学年の日毎の時間割調整を諮ると共に、対面授業で使用する講義室・実習室の調整も行った。試験日程調整は、対面と遠隔による試験方式が混在していたため、重複が生じないように看護学科内の日程調整を図っていった。実習に関しては、遠隔オンデマンドで実習オリエンテーションの実施や、オンラインでユニフォーム自己採寸・ネームプレートの表記確認・自宅への郵送納品など、感染対策を講じた。また、臨地実習中止等に伴う学内演習日数の増改に対し、学科内調整表の作成や、全領域で使用できる健康管理表を作成するなど学科内の実習体制を整えた。

学生・進路支援委員会では、学生生活支援、進路支援ガイダンス等の工夫・改善、国家試験合格への学習支援、同窓会活動のサポートを行った。詳細は、「学生支援」の項で述べる。

総務・企画委員会では、COVID-19対応として、保健所や軽症者用ホテルへの派遣業務に関する報告資料の管理、在宅勤務に関する管理・報告、遠隔授業のための講義資料郵送の取りまとめ(前期2回)、学科内の消毒作業(1回)、および音声付き教材作成やネット会議対応のための共同研究室の整備(使用可能なLAN用コンセントにケーブルを常備)を行った。その他、令和3年度の予算要求における領域間調整や、実習用携帯電話の更新、各研究室等の清掃日の調整などを行った。また、令和2年度は、学科長の改選および選考規程の改定があり、学科長適任者(旧学科長候補者)選考に関する学科の内規を改定し、公正に遂行した。3月には田邊学長退官記念講演会が催され、看護学科担当部分の運営を本委員会が担った。

入試検討委員会では、看護学科面接試験の入試実務や学校説明会を主に担当した。入試に関しては、COVID-19感染対策を具体的に盛り込んだ「看護学科面接実施要領」を作成し、全看護学科教員に説明を行い、安全に適切に実施できた。学校説明会については、全体の依頼数は減少しキャンセルもあったが、Webでの学校説明会7回、対面型21回の合計28回参加した。COVID-19の影響で今年度のオープンキャンパスは中止となり、大学全体で大学説明の動画を作成することとなった。本委員会では、本学科の魅力が伝わるような企画検討と撮影協力を担当した。

倫理審査委員会は、4年生の必修科目である看護研究において、学生が人を対象とする調査を実施する場合の倫理審査を行った。令和2年度はCOVID-19により審査数が25件と例年(40件前後)より減少した。申請書類の審査は感染防止対策を講じた内容を含んで提出され円滑に行われた。

社会貢献委員会では、令和2年度の看護学科専任教員の社会貢献事業の実績一覧を作成し、学科内公開した。COVID-19のため例年に比べて、約4割の実績の減少がみられた。COVID-19拡大のため今年度へ時期延期となった、「コツコツ学ぼう!セミナー」のフォローアップセミナーの企画・開催については、今年度も実施できず、また、感染拡大防止のため医療施設への出入り制限などから、出張セミナーについても実施することができなかった。そこで、フォローアップセミナー参加希望者6名に対して、令和3年1月末から3月末まで「看護研究メール相談の案内」をメールと郵送にて行った。1名からの返事でCOVID-19により研究に着手できない現状であったことがわかった。次年度は、所掌事項追加となった「シンクタンク機能としての研究の推進」により、COVID-19の状況下においても、地域の中小規模病院に対して、職能団体などと連携して、リモートを用いてのセミナーや研究相談を企画・検討し、実施していくことが課題である。

#### (4) 評価(成果および改善事項)

COVID-19の感染状況を踏まえ、学科運営会議および教授会のみならず、領域長会議、教員間の情報交換会、教務委員会、学生進路支援委員会、総務企画委員会等が連携・協力し、学生の安全を確保しつつ教育の質を担保することができた。

さらに、教育および学内運営業務と並行して看護実践者として県内の保健所や宿泊療養施設に教員を派遣することは、大きな負担であったが、学科内の体制を整備し、県の要請に応じることができたといえる。

(5) 次年度の方策

欠員となっている教員を確保するとともに、令和2年度に講じた COVID-19 への対応を含めた活動を評価し、教授会・各委員会を連動させ、効率的・効果的な組織運営をはかるようにする。

2) 栄養学科

(1) 教員組織

教員構成は教授5名、准教授3名、講師2名、助教5名の計15名の構成であった。後期に、療養休暇中（助教）の代替として非常勤職員1名を迎えた。専門科目の担当教員は14名、栄養教諭課程（選択）（兼：一般教育科目）の担当教員は1名である。

(2) 年度当初の重点課題等

新体制で各委員会が確実に責務を果たすとともに、連携を密にして円滑な組織運営を図る。専門科目がすべて専任教員で担当できるように、欠員の人材確保をする。

(3) 取組状況

栄養学科の管理・運営は教授で構成する教授会及び全教員を構成員とする学科運営会議を中心とし、それぞれ8回、22回実施した。教育研究社会貢献委員会群と管理運営部門委員会群には、学科教員がいずれかの委員会・部会の組織に所属し、委員長・部会長・構成委員として参加した。

学生教育とそれに関わる教員間の運営を円滑に行うために、月2回の学科運営会議を実施し、教授会報告、各委員会報告、各委員会の検討事項の検討、学生教育の進捗状況、学生生活の報告、その他必要事項の検討や周知を行った。

学年別の担任・副担任制、国家試験対策会議（国家試験担当教員、学科長、担任、副担任）、臨地実習担当者会議、栄養教諭担当者会議、卒業論文担当者会議、卒業論文のための倫理審査委員会がある。それぞれ、適切に機能し各会議では学科会議で必要事項を周知した。

入試関係については、各教員が、学内見学者への対応、各高校への出張説明会等を行った。WEB オープンキャンパスでは、学科の施設紹介や在校生からみた学科の紹介などを行った。特別選抜入学試験・一般選抜入学試験入試に際しては、入試の監督・採点・集計・受験者誘導など入試関連業務を担当した。

社会活動として、千葉県、学術団体、栄養士会等の職能団体の委員および研修会の講師などオンラインで活動を行った。

(4) 評価（成果および改善事項）

新カリキュラムを学んだ24名の卒業生を輩出した。管理栄養士国家試験は、合格率95.8%であった。就職を希望した卒業生の就職率は100%であった。国家試験については、学生指導および学科会議での報告による全教員への現状の周知により学科全体で、国家試験対策を検討し、来年度も取り組みたい。臨地実習については、担当教員間での協力及び実習先との綿密な打ち合わせ等により、期間内で3分野の臨地実習が終了するよう調整できた。新体制の中、各委員会で確実に責務を果たし、連携して円滑に活動を行うことができたが、人事に関しては、今年度の欠員補充をすることができたが、新たな欠員が生じたため、後期からの人材確保を目指すようにする。

(5) 次年度の方策

専門科目での専任教員の欠員を確保するとともに、教員間で協力し合い円滑な組織運営をはかるようにする。栄養学科会議において、新型コロナウイルス感染予防対策における授業対応についての方針を定める。

3) 歯科衛生学科

(1) 教員組織

学科教員の構成は、教授5名、准教授3名、講師4名、助教1名の13名である。教員のうち歯科専門職は11名（歯科医師5名、歯科衛生士6名）となっている。昨年欠員していた、講師1名、助教1名が4月に加わり、また、育児休暇中の講師1名も5月より復帰し、13名となった。

(2) 年度当初の重点課題等

教員が全員揃ったことから学科の運営体制を整え、教員間の連携を密にして円滑な組織運営を図る。各委員会、学科内の役割を確実に果たす。

(3) 取組状況

歯科衛生学科の管理・運営体制は、全教員が構成員となる歯科衛生学科会議が中心で11回開催された。本学付属の歯科診療室の管理・運営体制は、歯科診療を担当する歯科医師、歯科衛生士が構成員となる歯科診療室会議が中心となり11回開催された。

歯科診療室では、毎週初日の診療開始前に週間予定、連絡事項、医療安全体制等について確認を行った。今年度は、歯科診療室における「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策ガイドライン」の作成に向けて歯科専門職教員で検討を行い、今後、大学運営会議で報告する。

大学全体の管理・運営については、学科の教員が各種委員会、部会、ワーキンググループ等の組織に所属し、構成員として積極的に活動を行った。

入試関係では、COVID-19の影響により、高校生向け歯科衛生士の業務説明会において本学ならびに学科の紹介が実施できず、あわせてオープンキャンパスも中止になったため、志願者を確保するための広報活動が全くできなかった。各高校への出張大学説明会等については広報委員が中心となって実施した。特別選抜入学試験・一般選抜入学試験入



試に際しては、全教員が入試の監督・採点・集計・受験者誘導などの入試関連業務を担当した。

(4) 評価（成果および改善事項）

4月より講師、助教各1名が着任し、歯科衛生学科教員の確保をはかることができ、学科教員の協力のもと、学科の円滑な運営ができた。学科の体制が整ったため、学科の教員が各種委員会、部会、ワーキンググループ等の組織に所属して活動を行ったが、教員によっては歯科診療業務と併せて担当する委員会が多く負担になっている状況が見受けられたため、次年度はできる限り、均等になるよう改善する必要がある。

入試関係については、COVID-19の影響とはいえ志願者数が減少していることから、学科として志願者確保のための戦略を検討する。

(5) 次年度の方策

教員間で協力し合い円滑な組織運営をはかるよう努める。COVID-19の状況を鑑み、歯科診療室及び学生実習においては感染防止対策に努め、学生への教育が滞ることがないように体制を整える。

4) リハビリテーション学科理学療法学専攻

(1) 教員組織

教授2名・准教授2名・講師1名・助教2名の計7名。職種は、医師1名、理学療法士6名。

(2) 年度当初の重点課題

独立法人化、ワンキャンパス化、および大学院構想が事実上の棚上となり、大学評価機構の改善指示・注意等による大学内組織の再編成、および千葉県健康福祉部医療整備課の医師・看護師確保係の傘下からワンランク上の推進組織と同列となり、保健医療福祉に関するシンクタンク機能に軸足を置いて1年が経過した。大学院設置や専任教員の増員について先が見通せない状況に変わりはない。他学科の教員の中には、開学当時に掲げた目標達成が皆無なことや教育環境の劣悪さなどもあって教員の出入りが激しい。専攻教員も昨年度末に2名の退職者を出し、年度途中で講師と准教授の公募を行い、本専攻教員2名の手上げにより補充できた。その分、助教に欠員が生じたため、改めて助教1名の公募を行った。また、既に分かっていたことだが、本年度退職予定の医系教員の教授1名の募集を行ってきた。しかしながら、専門領域以外の授業を担当する条件があり、応募者はなかった。

本年度4月1日からは理学療法士養成施設の指定規則改訂が施行され、臨床実習の単位数をはじめ、地域理学療法実習や薬理学、画像診断学などの講義科目追加等によって93単位から101単位に増え、それに伴って時間数も大幅に超えることとなった。近年の理学療法士の職域拡大が進んでいることを鑑みると、現有の専門職教員人数（厚労省指定規則6名の専門職を要する）で如何に専攻内の運用を行うか、否かは難しい。

助教を除く4名の専任教員数と科目担当数を天秤で計ると、各教員の研究活動時間やフィールド確保が難しく、活躍の場を提供することができていない。また、指定規則改正には臨床現場で知識を習得するための研修制度を設けることが望まれると謳われており、研修制度による教員のキャリア・アップが必須である。残念ながら、教育水準の押し上げや維持といった大学が本来あるべき体制はなく、継続の課題である。

(3) 取組状況

幕張キャンパスで開催される教授会・運営会議や各種委員会へは仁戸名キャンパスから移動し、他学科の教員と比較して、助教も含めて確実に各種委員会に少なくとも4つ以上参加している。本年度は、コロナウイルス感染拡大等によるWEB会議が多く設けられた関係で、移動の回数が減少し、教員の負担度は抑えられた。

毎週水曜午前、理学療法学専攻会議を所属の全教員で実施し、教授会・運営会議・各種委員会やワーキング・グループ等の活動状況や主な取組内容の報告、依頼の対応をしている。また、学生の学習・実習状況等、教員間での情報伝達と共有を図るよう努めている。一方、学校説明会等の学外対応の負担は一部の教員に偏りがないように配分しているが、現有の教員数が少なく、本専攻に入学実績のない学校には断りを入れることも考える必要がある。

(4) 評価（成果および改善事項）

教員数は現有6名で、実質6名の専門職（理学療法士）と医師1名で教授会・運営会議・各種委員会、および2ヶ月に1回のリハビリテーション学科会議を開催し、学科運営の円滑化を図っている。また人事の案件であるが、必要に応じて6ヶ月に1度程度の学科教授会（構成員4名）を行っている。夏季休暇と年度末以外のほぼ毎週の専攻会議を予定通りに開催している。

(5) 次年度の方策

本年度同様、専門職教員の充足と増員および職位の不均衡に対する是正を求めていきたい。特に、医系教員の配属が理学療法専攻である必要があるのかを検討し、募集が困難な場合には専門職の教授を設置できないか、否かを議論する必要がある。この理由は、他学科・専攻に比較して科目担当者が少ないことである。助教から教授までのほとんどの教員は博士号の学位をもって入職しているにもかかわらず、それぞれの教員が活躍する場に恵まれているとは言い難い。

暗澹たる中で本来果たすべき学科・専攻の管理・運営とは何かを常に考え、目の前に生じる学生の問題（コロナウイルス感染の学生報告、臨床実習からの学生引き上げなど）を中心に着実に対応していく。

## 5) リハビリテーション学科作業療法学専攻

### (1) 教員組織

リハビリテーション学科作業療法学専攻の教員構成は、昨年度、講師に助教松尾真輔が就任し、令和2年度は、5月より助教として、成田悠哉が就任した。医師1名、作業療法士7名の構成で運営されていたが教授2名、准教授3名、講師2名、助教1名、計8名となった。

### (2) 年度当初の重点課題

保健医療専門職の現任教育・キャリア形成を支援（人材育成）

- ①職能団体と協働し、保健医療専門職のキャリアラダー研修や地域包括ケアのためのスキルアップ研修を企画・実施
  - ②実践現場の研究活動の支援強化（実習施設の業務研究サポート、中小規模病院の管理者対象の研究指導力向上研修の実施等）
  - ③専門職の現任教育支援体制および現任教育マニュアル等を整備
- 行政や関係機関等との協働による実践的研究の取組（シンクタンク機能、地域貢献）
- ①行政や保健医療機関、地元企業、職能団体等と実践現場の課題や研究について交流できる場をつくり、産官学協働による実践的研究を推進

### (3) 取組状況

保健医療専門職の現任教育・キャリア形成を支援（人材育成）

- ①これまでにMTDLPの研修会年6回程度実施していたが、コロナ禍での対面研修会が避けており、今年度は実施できていない。現在では全国の研修会主催者を対象としたWEB会議が実施されており、各都道府県における研修会開催を目的とした会議（7月より4回開催）に参加している。今後、千葉県内における年度内での開催に向け、感染予防対策など足並みを揃えた研修会が出来るように準備を整えている状況である。
- ②実習施設の業務研究サポート、中小規模病院の管理者対象の研究指導力向上研修の実施等の企画・依頼等あった場合、専攻会議で検討しそれぞれ窓口を設けた。発達障害領域に関しては、「別支援教育における専門職関係のかかわり」をテーマに1回約20名の研修会を実施した。MTDLPについてコロナ禍であったため、研修は中止となったが研修のあり方について会議を2回開催した。あるいは「高齢運転者支援関係」（相談従事者職員を対象）の窓口を明確化した。「高齢者の地域コミュニティ促進事業」としてURの講習会を（1回10名）実施した。実施研究活動の支援強化を実施した。また、論文の査読に関して、千葉県作業療法士学会誌、千葉県作業療法士学会抄録、千葉県立保健医療大学紀要の査読について窓口を明確にし、実施した。
- ③現任教育・キャリア形成の支援（人材育成）として、厚生労働省が指定する臨床実習指導者研修について日本作業療法士協会の指導の下、千葉県作業療法士会が運営を行うにあたり、運営委員・講師として千葉県内の作業療法士に対して数名の本専攻教員が参加し、実施した。特に今年度についてはCOVID-19の影響によりWebによる研修に転向し、大きなトラブルなく終了できた。当初は昨年の研修を2回行い、倍の修了者を輩出する予定であったが、安全な研修開催が優先され、今年度は昨年度の研修修了者より半数となった。この点は今後の検討課題と考える。

行政や関係機関等との協働による実践的研究の取組（シンクタンク機能、地域貢献）

- ①特別支援教育における合理的配慮について、保育所・幼稚園や学校などの現場の苦勞と作業療法士への期待が把握できた。しかしながら、学校教育領域での現場経験のある作業療法士は少ないため、人材育成が急務となっている。この課題に対し、千葉県作業療法士会が人材育成研修会を開催した。コロナ禍での対面研修であったため、参加者は10名程度であった。また、全県の小・中学校、特別支援学校の教員を対象に情報共有や意見交換を行う研修会も計画したが、今年度はコロナ禍で中止となった。専攻教員が個別に保育所や学校からの依頼を受け、合理的配慮に関する研修会や学級観察と助言を行う現場研修の講師を10回程度行った。

### (4) 評価

保健医療専門職の現任教育・キャリア形成を支援（人材育成）

- ①職能団体と協働し、保健医療専門職のキャリアラダー研修や地域包括ケアのためのスキルアップ研修を企画・実施について、取り組み状況のようにほぼ目標の通り達成ができた。
- ②実践現場の研究活動の支援強化（実習施設の業務研究サポート、中小規模病院の管理者対象の研究指導力向上研修の実施等）について、取り組み状況のようにほぼ目標の通り達成ができた。
- ③専門職の現任教育支援体制および現任教育マニュアル等を整備について、取り組み状況のようにほぼ目標の通り達成ができた。

行政や関係機関等との協働による実践的研究の取組（シンクタンク機能，地域貢献）

①行政や保健医療機関，地元企業，職能団体等と実践現場の課題や研究について交流できる場をつくり，産官学協働による実践的研究を推進について，取り組み状況のようにほぼ目標の通り達成ができた。

(5) 次年度の方策

保健医療専門職の現任教育・キャリア形成を支援（人材育成）

①キャリアラダー研修や地域包括ケアのためのスキルアップ研修

・UR住宅高齢者に対する介護予防と地域コミュニティ促進事業に当大学の卒業生を組織化する

・千葉県職員向けおよび浦安市職員向けの「認知症の運転相談研修会」を計画・実施する

②実践現場の研究活動の支援強化（実習施設の業務研究サポート，中小規模病院の管理者対象の研究指導力向上研修の実施等）について

・千葉県作業療法士協会が行う卒後研修の講師として参加サポートの企画・実施

・他学科への研究サポートの企画・実施

③専門職の現任教育支援体制および現任教育マニュアル等の整備について

・千葉県作業療法士会と協働し運営委員・講師として臨床実習指導者研修を実施する

行政や関係機関等との協働による実践的研究の取組（シンクタンク機能，地域貢献）

①人材育成研修会や小・中学校，特別支援学校の教員を対象とした情報共有の場を設ける。UR住宅高齢者に対する介護予防と地域コミュニティ促進事業に当大学の卒業生を組織化する。

## 6. 事務局の活動

事務局は，企画運営課と学生支援課の2課で構成されている。

### 1) 職員組織

令和2年4月1日現在，事務局長1名，企画運営課は課長を含め職員9名，会計年度任用職員5名の計14名，学生支援課は課長を含め職員5名，会計年度任用職員8名の計13名，合計28名で運営している。企画運営課は，教授会，大学運営会議，各種委員会等に係る事務，学内研究費，科学研究費補助金等の執行事務，教育用消耗品や備品等の購入事務，施設の維持管理等を担当し，学生支援課は，カリキュラム編成や授業時間割の調整，非常勤講師の調整，単位認定等の教育課程に関する事務，入学試験，大学入試センター試験に係る業務，学生の実習，就職支援に係る業務，実習機関への委託事務等を担当している。

### 2) SDの取り組み

#### (1) 年度当初の重点課題

大学職員としての資質向上。

#### (2) 実施状況

令和2年8月26日「メンタルヘルスケア研修」

講師：株式会社カイトック代表取締役 皆川 芳弘氏

参加人数：29名

その他下記の入試，奨学金関係の会議及び公立大学に係る研修会等に参加した

①8月28日 大学入学共通テスト千葉地区連絡会議（千葉大学主催）

②9月3日 公立大学協会関東・甲信越地区協議会（公立大学協会主催）

③10月29日 千葉県大学・短期大学入試広報連絡会 総会（千葉県大学・短期大学入試広報連絡会主催）

## 7. FDの実施状況

### 1) 年度当初の重点課題等

・教育研究者・大学教員としての資質向上を図るためのFD・SDの現状を検証して課題を明確にする。

### 2) 主な活動

令和2年

・9月8日 第1回イブニングセミナー「科研費FD講習会 科研費の採択に向けた計画調書作成のコツ」（学術推進企画委員会）

講師：児島将康（久留米大学分子生命科学研究科教授）

開催形式：Zoomにて開催

出席者：人数不明

- ・12月9日 「大正大学 EMIR の取り組みと課題—高等教育の IR を取り巻く潮流から大学 IR コンソーシアム調査の具体的な活用事例まで—」(IR 部会)  
講師：福島真司(大正大学エンロールメント・マネジメント研究所所長)  
開催形式：Teams にて開催  
出席者：53名

令和3年

- ・1月7日 第2回イブニングセミナー「医療系学部におけるシミュレーション教育の実際」(学術推進企画委員会)  
講師：阿部幸恵(東京医科大学看護学科学科長)  
開催形式：Zoom にて開催  
出席者：人数不明
- ・1月27日 「教学マネジメント指針について」(教務委員会)  
講師：田邊政裕学長  
開催形式：Teams にて開催  
出席者：60名
- ・2月18日 第3回イブニングセミナー「認知症高齢者の口腔健康管理」(学術推進企画委員会)  
講師：會田英紀(北海道医療大学高齢者・有病者市科学分野教授)  
開催形式：Zoom にて開催  
出席者：78名
- ・3月8～31日 「大学のハラスメント対策について」公立大学協会主催の研修動画視聴(キャンパス・ハラスメント防止対策委員会)  
出席者：不明
- ・3月9日 第4回イブニングセミナー「成人後を見据えた小児のリハビリテーション」(学術企画委員会)  
講師：芳賀信彦(東京大学大学院医学系研究科外科学専攻感覚・運動機能医学講座リハビリテーション医学分野教授)  
開催形式：Zoom にて開催  
出席者：人数不明

### 3) 評価(成果および改善すべき事項)

- ・9月8日開催の「科研費 FD 講習会 科研費の採択に向けた計画調書作成のコツ」では、セミナー内容を満足と答えた人が 80.6%であり、今後の教育・研究・実践に非常に参考になると答えた人が 63.9%、参考になる人が 36.1%であった。
- ・1月7日開催の「医療系学部におけるシミュレーション教育の実際」では、セミナー内容を満足と答えた人が 64.7%であり、今後の教育・研究・実践に非常に参考になると答えた人が 41.1%、参考になる人が 52.9%であった。
- ・2月18日開催の「認知症高齢者の口腔健康管理」では、セミナー内容を満足と答えた人が 77.8%であり、今後の教育・研究・実践に非常に参考になると答えた人が 48.9%、参考になる人が 48.9%であった。
- ・3月9日開催の「成人後を見据えた小児のリハビリテーション」では、セミナー内容を満足と答えた人が 72.4%であり、今後の教育・研究・実践に非常に参考になると答えた人が 27.6%、参考になる人が 58.6%であった。
- ・上記のように FD・SD 参加者には好評であったが、各委員会が独自に企画・運営しており、FD・SD 委員会が FD・SD 全体として内容検討を行っていなかった点が、改善すべき事項として挙げられる。

### 4) 次年度の方策

これまで作成した FD・SD マップを用いて、FD・SD 委員会で必要と考えられるレベルおよび内容の研修を各委員会に依頼するというシステムを構築し、研修内容の充実を図る。



## IV 教育活動

### 1. 共通教育

#### 1) 教育方針

体系的な初年次教育を行い、学問や大学教育全般に対する動機付けおよび論理的思考や問題発見・解決能力の基盤を作る。

#### 2) 年度当初の重点課題

①学問・大学教育全般に対する動機付け教育導入を検討する。②海外との学生交流に対応できる英語力を習得できる英語教育を充実させる。③低学力者に対するフォローアップ体制の確立（体系的な初年次教育の導入）「プレゼンテーションやディスカッションなどの口頭発表の技法」、「学問や大学教育全般に対する動機付け」、「論理的思考や問題発見・解決能力の向上」論理的思考・問題解決能力向上のための教育方法の導入を検討する。

#### 3) 取組状況

前期は、遠隔授業に対応することが、学生・教員ともに最大の課題であった。一般教養・保健医療基礎科目は、コロナ禍による授業形態の変更により、演習科目を除き、ほとんどが遠隔授業オンデマンド形式となった。この影響により、科目ごとの受講者数が変化し、社会福祉学、運動生理学総論など、5時限目開講科目の受講者数が、例年の3倍以上に増えた。令和2年度は、2年生以上対象の「上級英語」および「実践統計学」が開講された。コロナ禍による変則的な開講方式の影響のためか、受講人数は上級英語が3人、実践統計学が3人であった。

#### 4) 評価

通信条件による学生個々の受講環境の差異は否めず、遠隔授業が主となる一般教養・保健医療基礎科目は、一層の配慮が必要とされる。

遠隔授業開講により、非常勤講師科目受講に対してWEB上の操作を専門教員がフォローすることにより、非常勤講師担当科目の履修状況や内容を把握しやすくなった。

#### 5) 次年度の方策

ディプロマポリシーに基づき、現行開講間目を見直し、2年後のカリキュラム改編を検討する。

### 2. 看護学科

#### 1) 教育方針

本学・学科の教育理念に基づき、学生が、確かな看護実践能力や自己研さん力を身に付けられるように、きめ細やかな教育を行う。ポートフォリオ、看護実践能力評価票等を活用し、学生の主体的学習を促進する。

#### 2) 年度当初の重点課題

COVID-19の影響およびオリンピック延期に伴う学年暦に適切に対応し、教育活動に支障が生じないように適切に対応する。特に、実習に関しては、COVID-19の感染拡大に伴う影響が大きいため、学科内で共有しながら対策を講じる。また、新々カリキュラム（1.2年）と現行カリキュラム（3.4年、編入3.4年）が円滑に同時進行できるように、ガイダンスを実施するとともに、学生の履修を支援する。

#### 3) 取組状況

授業については、全学で「新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた活動方針」が策定され、それに基づいて実施した。講義科目はほぼ遠隔授業となり、対面での演習が必要な科目については、感染対策を講じて実施した。実習については、前期はすべて学内実習とし、後期は、学内実習もしくは、日数短縮や見学実習に切り替えるなど感染状況および施設の状況に応じて実施した。

前期については、開講時期が複数回にわたり延長されたため、その度に各学年の日毎の時間割調整を諮ると共に、対面授業で使用する講義室・実習室の調整を行った。試験日程調整は、対面と遠隔による試験方式が混在していたため、重複が生じないように看護学科内の日程調整を図っていった。

9月16日には、看護学科全教員を対象に「後期授業に向けての情報共有」を行い、「遠隔授業や学内実習・演習に取り組んでみて大変だったこと、課題として感じたこと、手ごたえを感じたこと」や“遠隔授

業や学内実習の教育効果を高めるために導入したら良いと思う事柄”について話し合った。また、後期実習に向けて、大学の方針に則り既存の実習要項と同様のものとして新たに「看護学科 臨地実習における COVID-19 等感染症対策について」を作成し学生・教員の基準とした。合わせて実習領域の隔てなく継続使用できる健康管理表を作成し予防・早期対応できる体制を整えた。実習状況は、領域や施設の状況によって異なるが、模擬患者やシミュレーションの活用や施設とオンラインでつないで看護職の活動を学ぶなど様々な工夫が行われた。

令和 3 年 3 月 19 日には、看護系教員を対象として、今年度の基礎看護学実習の状況および各領域における今年度の演習・実習の工夫および学生の状況について情報交換を行った。

#### 4) 評価

COVID-19 の影響で、時間割の大幅変更および講義室の調整等教務委員会の作業は煩雑かつ多大な労を費やしたが、教育活動を滞らせることなく実施することができた。学生も教員も過去に経験のない遠隔授業や学内実習に取り組むにあたっては、教員間での情報共有が必須であった。学科の全教員を対象とした 2 回の情報交換会とともに、教授会や複数回にわたって開催した領域長会議が有効であったと考える。

#### 5) 次年度の方策

次年度も引き続き COVID-19 の影響を受ける。令和 2 年度の教育活動と学生の取組状況および学習到達度を評価し、不十分な学習内容については領域を超えて補完できる体制を整備する。また、学内実習であってもより臨場感のある実習となるよう、更なる工夫ができるように教員間での情報共有・意見交換の場を設定し、教育の質を維持できるようにする。

### 3. 栄養学科

#### 1) 教育方針

大学・学科の教育理念と教育目標に基づき、管理栄養士に資する人材を育成するために科学的根拠に基づく専門基礎科目の知識を身につけるための丁寧な教育、病傷者及び児童・生徒との円滑なコミュニケーション能力、多職種で連携しチームとして活動できる能力及び態度を身につける教育を丁寧に実践する。

#### 2) 年度当初の重点課題（令和 2 年度の重点施策を記載）

4 年生の面接試験対策や国家試験対策について、担任を中心に学科教員で丁寧な指導を行い、希望する就職先・国家試験合格率 100%を目指したい。1～3 年生は、全員が進級できるように、きめ細やかな指導を目指す。

#### 3) 取組状況

全員の進級及び卒業、希望する職場への就職支援、栄養教諭課程（選択）の履修者の増加については、担任・副担任、国家試験対策会議、臨地実習担当者会議などが適切に機能し、学科会議により状況を全教員が共有でき取組ができ、目標を達成できた。学生の個人的相談は担任を中心としたが、オフィスアワーを学生に掲示し全教員に相談可能とし成果をあげている。

3 年後期の臨地実習を目標に 1 年次では「食品学」「栄養学」「生化学」「解剖生理学」「食事設計と栄養」「食品衛生学」及び「調理学」の専門基礎科目を配当し、管理栄養士に必要とされる科学的根拠に基づく知識を身につける教育を実施している。前期は座学中心で、後期は実験・実習による専門的スキルやコミュニケーション能力の育成を実践した。3 年次では主に専門科目と臨地実習、4 年次では主に総合演習・卒業研究を配当し、管理栄養士としての専門性を育成した。また、1 年、3 年、4 年では特色科目を配当し、他の専門職と自らの専門性等について学ぶ機会となった。

#### 4) 評価（令和 2 年度達成状況を記載）

4 年生全員（留学のため休学している 1 名を除き）が卒業し、1, 3 年生は全員進級できた。2 年生は 2 名留年となった。また、管理栄養士国家試験は 1 名不合格となり、95.8%合格できた。次年度は、管理栄養士国家試験対策をさらに丁寧な指導を行いたい。栄養教諭課程（選択）の履修者は 1 年 6 名、2 年 2 名、3 年 5 名、4 年生 8 名であった。受講者が減少しているの、検討していきたい。

#### 5) 次年度の方策（令和 3 年度への継続を記載）

令和 3 年度は、管理栄養士国家試験の合格率が 100%になるように努める。新型コロナ感染予防対策のため、遠隔授業になっても、授業の質が担保できるように工夫する。

## 4. 歯科衛生学科

### 1) 教育方針

専門知識の修得のみならず、豊かな人間性と高い倫理観を備え、他の専門職と連携・協働し、質の高い歯科医療サービスを提供できる実践力のある人材の育成に取り組む。

### 2) 年度当初の重点課題

平成 31 年度から新々カリキュラムが始まり、新カリキュラムの教育課程と同時進行となるため、それぞれのカリキュラムを確実に実施する。担任、副担任、科目担当教員、教務委員が協力して積極的な学修指導を実施する。

### 3) 取組状況

1 年次、2 年次は保健医療基礎科目、歯科衛生基礎科目を中心とした講義、演習を、2 年次後期から 3 年前期にかけては、小児・成人・高齢者を対象とした生涯歯科衛生科目の講義、演習を開講した。新々カリキュラムでは、新たに早期体験実習を設けて、1 年次、2 年次後期にそれぞれ実施した。3 年次では歯科衛生健康推進科目の講義・演習を開講した。臨床実習として開講している 3 年次後期・4 年次前期の「歯科診療室総合実習」では、本学に併設している歯科診療室において、1, 2 年次に学んだ知識と技術を実践の場において統合させ、臨床的判断や行動が主体的に実施できることを目的に実習を行った。臨地実習については、3 年次後期の「歯科診療所実習」でチーム歯科医療等の実践について学んだ。「発達歯科衛生実習 I (小児)」では幕張西小学校 1・3・6 学年の児童を対象にブラッシング指導を行う予定であったが、COVID-19 の影響により中止となった。さらに袖ヶ浦特別支援学校では、担当教員から障害児童の対応を学ぶとともに、児童全員の口腔ケアを実施する予定であったが中止となった。そして、「発達歯科衛生実習 II (成人・高齢者)」では、千葉市内の 3 か所の介護保険施設において高齢者の生活について理解し、看護・介護職員から高齢者に対する日常生活の援助方法について学ぶとともに高齢者の口腔ケアを実施する予定であったが、COVID-19 の影響により中止となった。これらの臨地実習については、学内において相互による模擬実習やシミュレータによる実習に振り替えて学修した。「地域歯科衛生実習」では、千葉市内の保健センターで実習を受け入れていただき、地域歯科保健の現状を理解するとともに、歯科衛生士の役割・機能について学修した。4 年次後期の「病院実習」は、3 か所の千葉県内病院（船橋中央病院、旭中央病院、亀田総合病院）において実習期間を短縮して、歯科衛生士の役割や多職種連携の重要性について理解を深めた。臨地実習期間の不足については、本学歯科診療室を活用して補講実習を行った。3 年次後期から 4 年次後期の期間は、卒業研究に取り組み、学科教員が個別に学生の研究指導を行い、論文作成後は成果発表会を実施した。国家試験については、進路支援委員が中心に 4 年次後期より本格的に国家試験対策を行い、国家試験のための補講も実施した。卒業生 25 名全員が歯科衛生士国家試験に合格した。

### 4) 評価（成果および改善事項）

平成 31 年度の入学生から適応された新々カリキュラムについて、カリキュラムマップをもとに新たに設けた早期体験演習授業（1 年次、2 年次）を開講することができた。新々カリキュラムと新カリキュラムが混在する中、滞りなく実施することができた。歯科衛生士国家試験は、合格率 100%であった。

### 5) 次年度の方策

オリンピック開催に向けた学年歴の変更と次年度も COVID-19 の対応が求められるが、教育活動に支障が生じないように、カリキュラムを円滑に遂行できるようにする。

## 5. リハビリテーション学科理学療法学専攻

### 1) 教育方針

理学療法学専攻の学生は、卒業までの 4 年間で医療専門職として教育や倫理観を涵養し、社会的責務を果たすことができる人材を育成する。そのための Strategy として、全学年の学生が授業に欠席することなく、実習に参加し、単位を落とさず、且つ休学や退学なく、最終学年までを全うすることとする。また、毎年度継続している国家試験合格率を全国平均よりも上回り維持することにある。

### 2) 年度当初の重点課題

臨床実習の評価実習 II (3 学年)、総合実習 I・II (4 学年) での学生の接遇（実習中の対象者や指導者とのコミュニケーション）・実践力（適応能力や対応力等）に対する能力を向上させる。また、国家試験合格率の全国平均を上回ること、千葉県内就職率 70%以上の継続が本専攻教職員の責務である。



### 3) 取組状況

前年度に引き続き、2 学年以降の専門科目の演習や実技練習をさせたり、各専門領域（運動器障害、神経系障害、内部障害、発達障害や地域理学療法）ごとの演習や特論で積極的に症例情報に基づく演習や実習を取り入れたりと工夫をしている。特に3 学年の学生には評価実習を意識した授業を展開（実習前の実技試験：OSCE）している。2020 年度から理学療法に関する指定規則の改定があるため、実習前のみならず、実習後の OSCE を視野に入れた科目編成の必要がある。また、各学年担任は、半期に一度、受け持ち学生と面談し、学習状況、生活状況、理学療法士へのモチベーションの有無を確認しながら、学年振興に努めている。

### 4) 評価

最終学年の臨床実習Ⅲ・Ⅳを終了して卒業にたどり着いた学生は23 名であった。うち1 名は2 年越しで休学していた学生である。既卒者1 名を加えた24 名が国家試験受験し、3 名が不合格であった。1 年次と2 年次に単位を落として4 学年に進級できなかった学生2 名は、学年後期の評価実習に向けて捲土重来をしている。また4 学年留年の学生4 名は自主的に総合実習Ⅰ・Ⅱに向けた理学療法の評価や演習をしている。

### 5) 次年度の方策

毎年度と同様に、国家試験の全国平均合格率を上回ることを目指す。実習中断となる学生がいないようにコンピテンシーに基づき、学生の評価を実施していく。

## 6. リハビリテーション学科作業療法学専攻

### 1) 教育方針

作業療法学専攻では、大学・学科専攻の教育理念と教育目標に基づき、対象者本位の作業療法の実践技術提供に資する人材を育成するために学生教育を実践し、継続した。また、国家試験の合格に向けた受験生への国家試験対策や、臨床実習に関しては学生の利便性や指導を考慮し、千葉県内あるいは通学距離内での臨床実習施設の獲得を実施した。

### 2) 年度当初の重点課題

保健医療専門職の現任教育・キャリア形成を支援（人材育成）

1. 職能団体と協働し、保健医療専門職のキャリアラダー研修や地域包括ケアのためのスキルアップ研修を企画・実施
2. 実践現場の研究活動の支援強化（実習施設の業務研究サポート、中小規模病院の管理者対象の研究指導力向上研修の実施等）
3. 専門職の現任教育支援体制および現任教育マニュアル等を整備

行政や関係機関等との協働による実践的研究の取組（シンクタンク機能、地域貢献）

1. 行政や保健医療機関、地元企業、職能団体等と実践現場の課題や研究について交流できる場をつくり、産官学協働による実践的研究を推進

学生について

知識・技術の確認と職業人としての態度の獲得を目的とし、「特色科目」、「一般教養科目」、「保健医療基礎科目」、「専門科目」の統合的として臨床実習の充実を課題とする。

### 3) 取組状況

保健医療専門職の現任教育・キャリア形成を支援（人材育成）

1. これまでにMTDLPの研修会年6 回程度実施していたが、コロナ禍での対面研修会を避けており、今年度は実施できていない。現在では全国の研修会主催者を対象としたWEB 会議が実施されており、各都道府県における研修会開催を目的とした会議（7 月より4 回開催）に参加している。今後、千葉県内における年度内での開催に向け、感染予防対策など足並みを揃えた研修会が出来るように準備を整えている状況である。
2. 実習施設の業務研究サポート、中小規模病院の管理者対象の研究指導力向上研修の実施等の企画・依頼等あった場合、専攻会議で検討しそれぞれ窓口を設けた。発達障害領域に関しては、「別支援教

育における専門職関係のかかわり」をテーマに1回約20名の研修会を実施した。MTDLPについてコロナ禍であったため、研修は中止となったが研修のあり方について会議を2回開催した。あるいは「高齢運転者支援関係」（相談従事者職員を対象）の窓口を明確化した。「高齢者の地域コミュニティ促進事業」としてURの講習会を（1回10名）実施した。実施研究活動の支援強化を実施した。また、論文の査読に関して、千葉県作業療法士学会誌、千葉県作業療法士学会抄録、千葉県立保健医療大学紀要の査読について窓口を明確にし、実施した。

3. 現任教育・キャリア形成の支援（人材育成）として、厚生労働省が指定する臨床実習指導者研修について日本作業療法士協会の指導の下、千葉県作業療法士会が運営を行うにあたり、運営委員・講師として千葉県内の作業療法士に対して数名の本専攻教員が参加し、実施した。特に今年度についてはCOVID-19の影響によりWEBによる研修に転向し、大きなトラブルなく終了できた。当初は昨年度の研修を2回行い、倍の修了者を輩出する予定であったが、安全な研修開催が優先され、今年度は昨年度の研修修了者より半数となった。この点は今後の検討課題と考える。

行政や関係機関等との協働による実践的研究の取組（シンクタンク機能、地域貢献）

1. 特別支援教育における合理的配慮について、保育所・幼稚園や学校などの現場の苦勞と作業療法士への期待が把握できた。しかしながら、学校教育領域での現場経験のある作業療法士は少ないため、人材育成が急務となっている。この課題に対し、千葉県作業療法士会が人材育成研修会を開催した。コロナ禍での対面研修であったため、参加者は10名程度であった。また、全県の小・中学校、特別支援学校の教員を対象に情報共有や意見交換を行う研修会も計画したが、今年度はコロナ禍で中止となった。専攻教員が個別に保育所や学校からの依頼を受け、合理的配慮に関する研修会や学級観察と助言を行う現場研修の講師を10回程度行った。

学生について

2020年度は開学12年目となった。取り組み状況として、2020年4月7日に千葉県に緊急事態宣言が発出されたため、新年度は5月6日まで休講となり、授業は5月11日より開始されたが、授業の大半はWEB上で行われた。作業療法学専攻のオリエンテーションや面談など、すべてWEB上（Microsoft Teams利用）で行われた。特に1年生は、登校が難しいためWEB上の面談など工夫をした。1年生の前期は、千葉近辺に移動できない学生も数人いた。

1年生の特色科目「体験ゼミナール」では、健康な県民と交流を図ることで千葉県の地域の特性や千葉県で生活する人々の特徴を理解し、実習で対象となる人々を生活者として捉える視点を養うため、WEB上で、学生間の交流をはかった。その上で地域の団体との交流は、電話・FAXやWEB等利用した。対面ではなく、通信を利用したため満足する結果であるとは言えないが、当初の地域交流の目的は果たせた。

実習に関して、評価実習は、感染予防に配慮し実習を実施した。総合実習は、年度当初からの予定ではあったが、感染拡大への懸念や感染対策の観点から、13週間を学内実習にて代替し、不足した学外実習については11月に短期特別実習を新規に企画し、病院・施設にて3週間実施できた。

2020年度の国家試験合格者数は、卒業生21名（20名受験（卒業生1名受験辞退）、1名不合格：合格率95.0%）、過年度卒業生1名受験しましたが不合格であった。

卒業論文は、各学生に対して担当教員を決め指導にあたり発表会を実施し、卒業論文集を発行した。

#### 4) 評価

保健医療専門職の現任教育・キャリア形成を支援（人材育成）

1. 職能団体と協働し、保健医療専門職のキャリアラダー研修や地域包括ケアのためのスキルアップ研修を企画・実施について、取り組み状況のようにほぼ目標の通り達成ができた。
2. 実践現場の研究活動の支援強化（実習施設の業務研究サポート、中小規模病院の管理者対象の研究指導力向上研修の実施等）について、取り組み状況のようにほぼ目標の通り達成ができた。
3. 専門職の現任教育支援体制および現任教育マニュアル等の整備について、取り組み状況のようにほぼ目標の通り達成ができた。

行政や関係機関等との協働による実践的研究の取組（シンクタンク機能，地域貢献）

1. 行政や保健医療機関，地元企業，職能団体等と実践現場の課題や研究について交流できる場をつくり，産官学協働による実践的研究を推進について，取り組み状況のようにほぼ目標の通り達成ができた。

#### 5) 次年度の方策

保健医療専門職の現任教育・キャリア形成を支援（人材育成）

1. キャリアラダー研修や地域包括ケアのためのスキルアップ研修
  - ・UR住宅高齢者に対する介護予防と地域コミュニティ促進事業に当大学の卒業生を組織化する
  - ・千葉県職員向けおよび浦安市職員向けの「認知症の運転相談研修会」を計画・実施する
2. 実践現場の研究活動の支援強化（実習施設の業務研究サポート，中小規模病院の管理者対象の研究指導力向上研修の実施等）について
  - ・千葉県作業療法士協会が行う卒後研修の講師として参加サポートの企画・実施
  - ・他学科への研究サポートの企画・実施する
3. 専門職の現任教育支援体制および現任教育マニュアル等の整備について
  - ・千葉県作業療法士会と協働し運営委員・講師として臨床実習指導者研修を実施する

行政や関係機関等との協働による実践的研究の取組（シンクタンク機能，地域貢献）

1. 人材育成研修会や小・中学校，特別支援学校の教員を対象とした情報共有の場を設ける。UR住宅高齢者に対する介護予防と地域コミュニティ促進事業に当大学の卒業生を組織化する。

## 7. 学生による授業評価

学生による授業評価アンケートの対象科目は，前期・後期・通年で開講される講義および演習科目（非常勤講師担当を含む）である。すべての項目に対して5段階で回答する方式の前々年度の変更を踏襲した上で「そう思う」「少しそう思う」「どちらとも言えない」「あまり思わない」「思わない」の文言を「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」「どちらとも言えない」「あまりそう思わない」「全くそう思わない」とし、「該当しない」の選択肢を加えた。

コロナ禍のため多くの授業が遠隔で実施され，緊急事態宣言等もあり例年のような方法（予め担当教員にアンケート用紙を必要数配布しておき，それぞれの授業の最終日等，担当者の判断で適切な時期に実施，学生による回収及び事務局提出ボックスへの提出）は取れず，検討の結果，Microsoft Formsによりオンライン・アンケートを実施した。具体的には共通教育（一般教養科目・保健医療基礎科目）用および各学科専攻の専門科目用のフォームのURLを学生に告知して，学生は各フォームから科目を選択して回答した。前後期での回答数は4,330であった。

結果は表に示すとおりである。14項目中13の質問項目で「そう思う」「少しそう思う」を合わせた割合が68.9～92.3%と高い数値を示した「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせた割合が70%未満の質問項目は，「予習を行った」42.5%（令和元年度27.0%），「この授業のシラバスは役に立った」68.9%（令和元年度59.7%）であった。昨年度まで低い数値であった「復習を行った」は72.9%（令和元年度42.9%）に上昇した。近年，最も評価の高かった項目「教員の熱意が感じられた」88.1%（令和元年度83.8%）も高評価ではあったが3番目であった。続いて「全体としてこの授業を受けられてよかった」が90.0%（平成元年度83.3%），令和2年度最も評価が高かったのは学生自身の授業への取り組み「授業に積極的に取り組んだ」92.3%（令和元年度81.6%）であった。令和2年度はコロナ禍により急遽，遠隔授業を実施することになり，時に対面授業から遠隔授業へ，あるいは遠隔授業から対面授業への変更など，学生に負担を強いる一年であった。しかし，その中で学生が意欲を持って学修し，授業に対して極めて肯定的な評価をしており，本学学生が授業方法やその内容に満足していることが推察できた。ただし，例年になく高評価は，コロナ禍という特殊な一年であったことが影響しているのは確実である。時にアンケート用紙を配布する方式とは異なり，オンラインであくまで任意での回答であり，特に意欲のある学生が回答したという傾向があった可能性もある。実際，科目によっては数名の回答しか無かったものもあり，オンラインで

の授業アンケート実施には回答数確保という課題が残る。

なお教員には、例年は担当する授業科目の集計結果と学生からの自由記載によるコメントを通知、集計結果表の「教員からのコメント等欄」に、授業評価結果をふまえてのコメントを記載するよう依頼するが、令和2年度は実施できなかった。コメント記載欄を含めた全科目の集計結果表を学生と教職員を対象としてオンラインデータを公開する方法については翌年度の検討に残している。

令和2年度学生による授業評価：割合

(%)

	そう思う	どちらか と言えば そう思う	どちらとも 言えない	あまり そう 思わない	全く そう思 わない	該当 しない
授業に積極的に取り組んだ	62.2	30.1	5.7	1.7	0.3	0.0
予習を行った	21.7	20.8	25.1	22.2	10.2	0.0
復習を行った	36.0	36.9	15.7	8.7	2.7	0.0
この授業のシラバスは役に立った	37.9	31.0	23.5	6.5	1.1	0.0
授業の目標が明確に示されていた	49.8	34.6	12.5	2.5	0.7	0.0
内容がよく理解できるように準備されていた	51.0	33.5	10.0	4.4	1.1	0.0
授業内容が充実していた	56.7	29.2	9.7	3.4	0.9	0.0
教員の熱意が感じられた	64.5	23.6	6.7	2.3	0.9	2.0
教員の説明は分かりやすかった	53.5	28.8	9.1	4.2	1.2	3.1
授業方法に工夫がなされていた	48.5	32.4	12.7	3.8	1.3	1.4
授業評価の方法を事前に理解していた	52.6	29.1	12.0	4.4	1.1	0.9
教員の話し方は聞き取りやすかった	50.5	20.4	7.4	2.2	0.8	18.7
学生の理解度に対して配慮がされていた	44.2	28.8	16.5	6.1	1.7	2.7
全体としてこの授業を受けられて良かった	66.7	23.3	6.2	2.4	0.6	0.8

## 8. 大学全体

### 1) 評価（成果および改善すべき事項）

令和2年度卒業生に対して卒業時アンケート調査を例年通り実施した。新しいディプロマ・ポリシーが設定された学年であり、教育目標の達成度に代えて、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および各ポリシーの学士力を卒業時に指導者・責任者のもとでの達成状況を新たに質問項目に加えた。

まず、学生が自己評価したディプロマ・ポリシー到達度から、多くの学生が各医療専門職としての基本的な実践力および能力を身につけたことが示された。指導者のもとで「できる」および「ある程度できる」との回答を合わせて、「倫理観とプロフェッショナルリズム」90.0%、「コミュニケーション能力」90.7%、「実践に必要な知識」85.3%、「健康づくりの実践」87.3%、「健康づくりの環境の整備・改善」83.3%、「多職種との協働」87.3%、「生涯にわたる探究心と自己研鑽」82.0%であった。

次に、特色科目、一般教養科目、保健医療基礎科目、専門科目、いずれも教育に対する満足度は前年度同様に高いまま維持できた。全学科専攻の学生が共に学ぶ、本学の多職種連携教育の主軸となる特色科目の満足度は「とても満足」と「やや満足」を合わせて96.1%、一般教養科目95.5%、ICT教育93.5%、保健医療基礎科目97.4%、専門科目96.1%と全て90%以上であった。特に「とても満足」の割合が高かったのは専門科目で45.5%、他の科目では一般教養科目23.4%以外は30%台前半であった。学外実習についても「とても満足」45.5%と「やや満足」50.7%を合わせると96.1%（令和元年度98.3%）であった。コロナ禍のため学外実習が学内演習に一部振り替えられるなどしたが、学生への満足度は高水準で維持できた。

各科目区分の学習から得たものの評価についても同じく高水準であり、専門科目のうち特に学外実習については「非常に大きい」70.8%（令和元年度63.8%）、「やや大きい」26.6%（令和元年度35.6%）を

合わせると 97.4%（令和元年度 99.4%）であった。専門科目については講義科目 95.5%，保健医療基礎科目 89.6%，特色科目 83.8%と高かった。満足度は高かった一般教養科目の評価は 68.8%であった。

平成元年度入学生より新々カリキュラムであり，この高水準を維持し，さらに「とても満足」「非常に大きい」の割合を増やすことが期待される。授業評価アンケート結果において授業全般に対する満足度は高く，学生にとっての教育内容は充実しているといえる。ただし，コロナ禍により，従来の授業方法からの変更，対面での指導時間の減少もあり，各授業科目の目標を達成すべく各科目責任者の工夫や努力が引き続き求められる。

fGPA についての運用は平成元年度入学生から開始されたが，教務システム更改が一年延長されたことにより，実質的運用は平成 2 年度からとなった。コロナ禍により WEB システムでの学生の個別閲覧ができない状況下，学生への告知方法を再検討し，後期の成績通知表より fGPA 表示が実現した。今後，学生の学修指導等の活用が期待される。

## 2) 次年度の方策

令和 3 年度は 1，2，3 年生が新々カリキュラム，4 年生が旧・現行カリキュラムとの同時進行となり，COVID-19 感染防止対策を徹底しながら，滞りなく教育が展開されるよう，科目担当者および事務局との連携を密にしていく。

遠隔授業においても教育成果をあげるべく，引き続き大学全体として取り組むこととする。



## V 学生の受け入れ状況

### 1. 学生の受け入れ方針

#### (1) 全学方針

高い倫理観と豊かな人間性を備え、地域社会に貢献し、保健医療の国際化に対応できる人材を育成する。本学のカリキュラムを履修することで学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示された能力を卒業時に発揮できる以下の素養を有する学生を求める。

- ①基礎的な知識、技能
- ②論理的思考力、状況に応じた判断力、自らの考えをまとめて伝えられる表現力
- ③保健医療者を目指す者としての適性
  - ・人間性、コミュニケーション能力
  - ・協働、責任感、地域貢献
  - ・主体性、探究心

#### (2) 看護学科の求める学生像

医療の高度化・専門化や社会の多様化に対応できる看護専門職に必要な専門的知識と技術を身につけ、県内の看護職のリーダーとなりうることはもとより、国際的にも貢献できる高い資質をもった人材の育成を基本理念とし、以下の学生を求める。

- ①看護を通して、社会に貢献する意欲がある人
- ②人々の生活や生き様に強い関心を持ち、相手の立場に立って考えることができる人
- ③知的好奇心が旺盛で探究心がある人
- ④幅広い基礎学力を持ち、論理的・客観的に考える力を持つ人
- ⑤自己を表現する力を持つ人

「特別選抜・推薦」では、将来、千葉県内で看護職として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めている。「特別選抜・社会人」では、社会人としての経験を持ち、卒業後千葉県内で看護職として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めている。「編入学」では、既習の看護学をさらに深めるとともに、幅広い教養を身につける意欲が旺盛で、卒業後、看護職に従事する強い意志をもつ人材を求めている。「一般選抜」では、看護学を学ぶ意志のある人材を求めている。

#### (3) 栄養学科の求める学生像

生命活動を分子レベルで理解することを基本とした栄養学分野を総合的に学び、豊かな人間性を備え、心身の健康に大きく貢献できる人材、人の栄養状態を適正化する方法を総合的・科学的に探究できる人材の育成を基本理念とし、以下の学生を求める。

- ①管理栄養士の国家資格の取得を前提目標として学ぶ意欲を持つ人
- ②倫理的な原則を遵守し、専門職としての責務を果たすことができる人
- ③科学的な裏づけで得られた専門的な知識・技能を、健康づくりに貢献できる人
- ④多職種との相互理解を深めながらコミュニケーションや行動ができる人
- ⑤個人・家族・地域社会・他国への貢献や生涯にわたる自己研さんができる人

「特別選抜・推薦」では、将来、千葉県内で管理栄養士として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めている。「特別選抜・社会人」では、社会人としての経験を生かして千葉県内で管理栄養士として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めている。「一般選抜」では、管理栄養士として活躍することを志望する人材を広く求めている。

#### (4) 歯科衛生学科の求める学生像

高い倫理観と豊かな人間性を備え、地域社会に貢献し、口腔保健の専門知識と技能を身につけるための科学的探究心をもち、保健医療の国際化に対応できる人材の育成を基本理念とし、以下の学生を求める。

- ①口腔の健康に深い関心を持ち、人々の健康増進に貢献したい人
- ②豊かな人間性を備え、相手の気持ちを理解できる人
- ③科学的な探究心を持ち、自ら意欲的に取り組もうとする人
- ④基礎学力があり表現力が豊かで、自分の考えや意見を論理的に説明できる人

⑤コミュニケーションを通じて人々と協調できる人

「特別選抜・推薦」では、千葉県内で歯科衛生士として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めている。「特別選抜・社会人」では、社会人としての経験を生かして千葉県内で歯科衛生士として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めている。「一般選抜」では、歯科衛生士として地域で活躍することを志望する人材を広く求めている。

(5) リハビリテーション学科理学療法学専攻の求める学生像

理学療法士として社会に貢献する意志と能力を持った人材の育成を基本理念とし、以下の学生を求める。

- ①理学療法士の役割を理解し、理学療法士となる明確な目的意識を有している人
- ②理学療法学を学んでいくにあたって必要な基礎学力を有している人
- ③自分の意見を適切な日本語で表現できる人
- ④障害のある人に対してもない人に対しても、適切なコミュニケーション能力を有している人
- ⑤保健医療福祉領域だけでなく広く社会に関心が高く、様々な問題に挑戦できる人

「特別選抜・推薦」および「特別選抜・社会人」では、将来、千葉県内で理学療法士として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めている。

(6) リハビリテーション学科作業療法学専攻の求める学生像

豊かな人間性や高い倫理観、鋭敏な感受性と多彩な表現力を基に、対象者の立場になって作業療法を提供できる態度・能力を身につけ、人々の健康づくりを支援し、作業療法の臨床、教育、研究の発展に貢献できる人材の育成を教育理念とし、次のような学生を求める。

- ①対象者とそれを支える人、保健・医療・教育・福祉職に対してお互いの立場を尊重した人間関係を構築し、生き生きとしたコミュニケーションをとることを望んでいる人
- ②個人・家族・地域が健康的またはその人らしい生活を送るための健康づくり支援を提供したいと思っている人
- ③人々の健康的またはその人らしい生活を送るための問題解決と健康増進に向けて、健康を志向する地域環境（人・物・制度）の整備・改善に努めたいと思っている人
- ④対象者を中心とした安全で質の高い保健・医療・福祉を実践するために、自身の役割を認識し、多職種との相互理解を深めながら行動する適性を持っている人
- ⑤論理的思考による探究心を身につけ、自己研鑽に励み、倫理的な原則を遵守し、専門職としての責務を果たす適性を持っている人

「特別選抜・推薦」および「特別選抜・社会人」では、将来、千葉県内で作業療法士として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めている。

## 2. 年度当初の重点課題

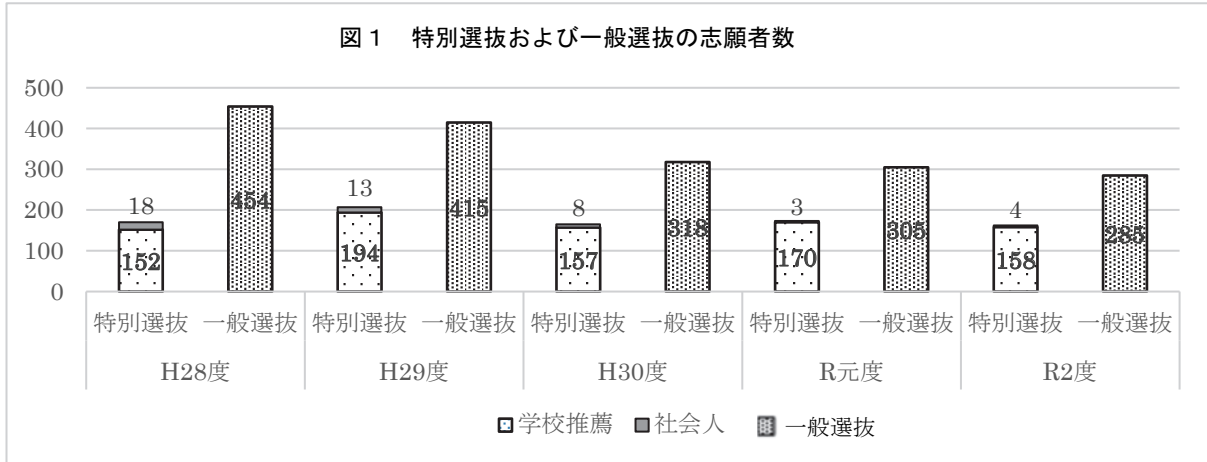
令和2年度は、コロナ感染防止対策により、オープンキャンパスの実施や高校説明会など、これまでと異なる方法での実施となるが、効果があがるよう工夫して取り組む。また、新たな面接方法を取り入れた入試改革の初年度の年でもあるため受験生の動向、入学後の学生の学習の取り組み状況などを見つつ、安定的で質の高い学生確保の実現が達成できるよう継続して取り組んでいく。



### 3. 入学者選抜状況

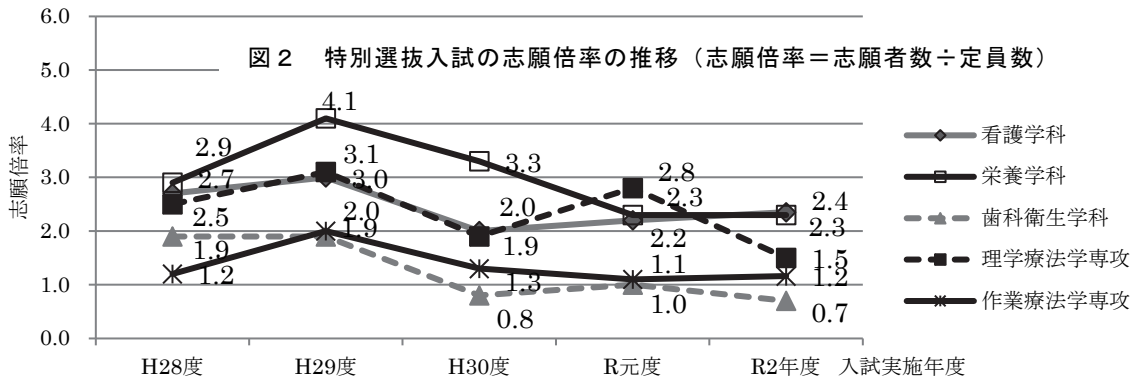
#### (1) 一般選抜および特別選抜の志願者数（年度）（図1）

一般選抜においては平成28年度をピークに減少傾向にある。学校推薦と社会人を併せた特別選抜においては、160人前後で推移しているが、社会人の志願者数は減少傾向にある。



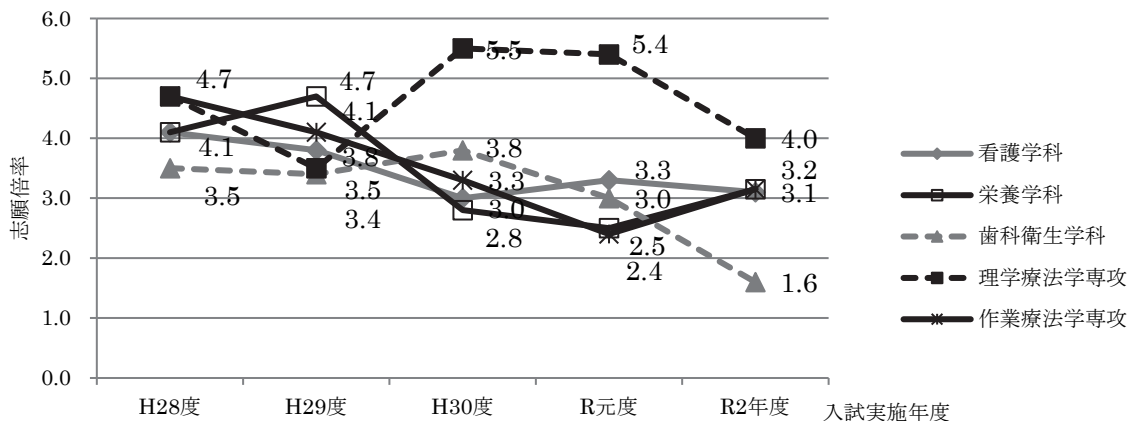
#### (2) 特別選抜入試の志願倍率の推移（図2）

いずれの学科においても各年で増減を繰り返す傾向にある。平成30年度の志願倍率がいずれの学科専攻においても大きく低下したのは、特別選抜の定員枠が4割から5割に増えたにも関わらず志願者数が前年度より減少したことによるものといえる。



#### (3) 一般選抜の志願倍率の推移（図3）

いずれの学科専攻も年度により変動がみられる。2段階選抜となる志願倍率3倍を超えたかどうかの観点でみると、平成28年度および平成29年度はすべての学科専攻で3倍を超えたが、平成30年度は栄養学科、令和元年度は栄養学科と作業療法学専攻、令和2年度は歯科衛生学科が3倍を超えなかった。一方、平成30年度以降理学療法学専攻の志願倍率が高倍率となっている。



(4) 編入学の受験競争率（出願者数÷合格者数）の推移

編入学（3年次） (倍)

入試実施年度	H27年	H28年	H29年	H30年	R元年	R2年
看護学科	3.6	3.2	7.5	12.0	2.3	4.0

#### 4. 学生募集のための取り組み

(1) 大学案内の作成・配布、ホームページへの情報掲載

広報委員会が中心となり、大学案内を作成している。大学案内には、大学の教育理念、学部・学科の構成、カリキュラムの構成、各学科・専攻の教育内容、学生生活、選抜試験の日程と過去の選抜状況、就職進学状況、国家試験合格率を掲載している。大学案内は、個人での入手希望者への配布の他、県内外の高等学校、進学フェアのイベントへ送付した。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況から、オープンキャンパスや大学模擬授業・説明会、高等学校での模擬講義・説明会等が中止となり配布することができなかった。そこで大学案内を大学ホームページに掲載して閲覧できるようにした。

(2) オープンキャンパスの開催

令和2年度の対面のオープンキャンパスは、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため中止し、令和2年9月14日にWEBオープンキャンパス2020を開設した。オンライン上で、大学紹介や学科・専攻の教育内容、学生生活の紹介、入試情報の紹介動画を通じて、本学のキャンパスライフを体感できるようにした。

(3) 高等学校での模擬講義・説明会等の実施、高等学校からの訪問への対応、大学模擬授業・説明会への参加

高校訪問・大学模擬授業・説明会の内容は、高校や指定会場での本学と各学科の説明、模擬講義等である。高校からの本学訪問について、本学と各学科の説明、模擬講義、施設見学等、高校からの依頼に合わせて対応している。

令和2年度は、高校での説明会の内容を強化することを意図し、各教員が説明会で使用できるパワーポイントを整備している。

大学説明会の参加について令和2年度の依頼件数は96校、出席者数は延べ44名で、派遣教員数は延べ47名であった。過去5年間の実績は下表の通りである。

高校訪問・大学模擬・説明会への出席件数および派遣教員数

年度	依頼件数	出席件数	派遣教員数（延数）	出席者数（延数）
平成28年度	98	67（資料参加を含めると86）	73	1,538
平成29年度	134	83（資料参加を含めると117）	89	2,082
平成30年度	143	79（資料参加を含めると118）	90	2,011
令和元年度	119	105（資料参加を含めると118）	100	1,945
令和2年度	96	44（資料参加を含めると56）	47	—

(4) 受験情報誌への情報提供

受験情報企業等からの情報提供の要請に対し、依頼元の信頼性を考慮した上で情報提供を行い、本学のアドミッションポリシーや教育内容への理解を促し、適性のある受験生に受験の意思決定をしてもらえるようにしている。

(5) 過去問の公開

平成30年度入試問題から、大学ホームページ（著作権に配慮した公開）および大学学生支援課窓口で閲覧が可能となった。令和2年度は、来学した希望者に対して閲覧を認めた。

## 5. 学生の在籍状況

令和3年3月31日現在の在籍学生総数は734名であり、収容定員（740名）対比は0.99でほぼ定員は充足されている。

学科・専攻別の収容定員対比は、看護学科が0.98（在籍学生数332名，収容定員340名），栄養学科が1.00（在籍学生数100名，収容定員100名），歯科衛生学科が1.03（在籍学生数103名，収容定員100名），リハビリテーション学科理学療法学専攻が1.01（在籍学生数101名，収容定員100名），作業療法学専攻が0.98（在籍学生数98名，収容定員100名）である。

退学者については、開学時から令和3年3月31日現在までの退学者累計数は52名であり、退学者の割合は、入学総数（除籍・編入学除く）1,980名に対し約2.6%となる。学科別では、看護学科12名，栄養学科8名，歯科衛生学科11名，リハビリテーション学科理学療法学専攻11名，同作業療法学専攻10名である。令和2年度単年でみると，退学者総数は1名で，栄養学科であった。退学した52名の退学理由の多くは進路変更であり，若干名は家庭の事情（経済的理由含む）であった。退学した学年は3年次が最も多いが，ほとんどの退学者が休学期間を経てから退学しているため，事実上は1～2年次の段階で履修を中断している。このことから，受験生の志望動機の有無をしっかりと見極めるとともに，入学後は欠席しがちな学生に対する支援を強化することが求められる。

退学者数 2021年3月31日現在 退学者（休学後退学） 名

学科等 入学年度	看護学科	栄養学科	歯科衛生学科	リハビリテーション学科 理学療法学専攻	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	計
平成21年度	4(3)	1(1)	0	2(2)	1(1)	8(7)
平成22年度	1(1)	1	1(1)	0	2(2)	5(4)
平成23年度	0	3(3)	1	2(2)	0	6(5)
平成24年度	0	0	0	2(2)	0	2(2)
平成25年度	1	2(2)	1(1)	2(2)	0	6(5)
平成26年度	1(1)	0	0	1(1)	0	2(2)
平成27年度	2(2)	0	1(1)	0	0	3(3)
平成28年度	0	0	1(1)	0	0	1(1)
平成29年度	1(1)	0	1(0)	1(1)	2(2)	5(4)
平成30年度	1(1)	0	3(2)	0	3(2)	7(5)
平成31年度	1(1)	0	2(1)	1(1)	2(1)	6(4)
令和2年度	0	1(1)	0	0	0	1(1)
累計	12(10)	8(7)	11(7)	11(11)	10(8)	52(43)

## 6. 評価（成果および改善すべき事項）

WEB オープンキャンパスの動画は 2021 年 1 月 29 日の時点で、看護学科を例にすると 1,138 回、施設紹介（幕張）は 1,174 回であった。これは同時期の近隣の公立大学の動画視聴回数（看護学科説明会 369 回、キャンパスツアー 791 回）に比し、多い。WEB オープンキャンパスの動画を視聴した者のうち、70 名が回答したアンケートの分析からは、高校生のニーズが把握できた。また、発信した SNS の分析から反応が良い配信内容の傾向を見出すことができた。

上記、広報活動と志願者数を関連づけることは難しく、今後の経過を見ていく必要があるが、志願者数は例年並みであったこと、また令和 2 年度の退学者数は 1 名と少なく、アドミッションポリシーに見合う学生確保ができたのではないかと考える。広報活動については、引き続き研究活動を広報する仕組みづくりを検討するなどし、大学の魅力が伝わるようさらなる改善が求められる。

## 7. 次年度の方策

令和 3 年度は、コロナ感染防止対策により、オープンキャンパスの実施や高校説明会など、これまでと異なる方法で実施することになる。上記の課題を解決すること、そして感染を防止しつつ、大学の情報を適切に効果的に発信する方策を検討し、安定的にアドミッションポリシーに見合った学生の確保が達成できるよう継続して取り組んでいく。また、研究活動を広報する仕組みづくりを実行する。

## VI 学生支援

### 1. 年度当初の重点課題等

学生部（学生委員会・進路支援委員会）としては、以下の活動に取り組む。

- ①学生支援に関して、関係機関からの情報や学生からの要望も捉えながら、所掌事務および学生支援計画に沿った活動を行う。特に新型コロナウイルス感染拡大による学生生活への影響を把握し、例年よりも積極的な学生支援を行う。
- ②進路支援に関して、所掌事務に関する活動を計画的に行う。特に、県内就職の推進や国家試験合格率100%（全学科）をめざし、学科専攻と連携を図り、大学全体として取り組んでいく。新型コロナウイルス感染拡大による就職活動への影響がないか把握し、4年生への適切な情報提供を行う。

### 2. 活動内容

#### 1) 学生委員会

##### (1) 学生の福利厚生：

- ①令和2年度学生支援計画を立案し、以下のような活動を行った。学内整備において体育館で使用するためのスポットクーラーを予算要求した。学生の登校・対面授業が限定される状況において、学生会の企画・運営に助言し支援した。ブラックバイト対策に関する学生向けセミナーをオンデマンドで開催した。同窓会および学科・専攻の同窓会分会の活動を支援した。学生から教員への相談について実態調査を行い分析した。
- ②学生保険の加入状況を随時把握し学生指導を行った。
- ③「令和3年度学生ハンドブック」の内容を検討し、加除修正した。

##### (2) 学生の保健衛生：

- ①令和2年度健康診断を、新型コロナウイルス感染防止の点から時期を遅らせ、2日に分散で実施した。診断結果に基づき学生指導を行った。
- ②令和2年度ワクチン接種計画（B型肝炎ワクチン・インフルエンザワクチン）を立案し実施した。また、ワクチン接種状況を継続的に把握し学生指導を行った。
- ③令和3年度健康診断の実施計画について検討した。
- ④「令和3年度自己健康管理ファイル」の内容を検討し、最新情報を加筆するなど修正した。
- ⑤令和3年度健康診断前後の指導に係る資料を検討し、最新情報に改善した。

- (3) 学生の課外活動：新型コロナウイルス感染拡大のため学生の入構や対面での活動が制限される中、いずみ祭の限定実施の企画相談（開催は不可となった）、学生の課外活動への助言を行った。また、学生会と新入生との連絡などに例年にない教員による支援が必要であった。

- (4) 奨学金等貸与：日本学生支援機構奨学生推薦のための学生面接を行った。

- (5) 授業料等の減免：臨時申請の授業料減免（前期・後期）について審議した。

##### (6) 後援会、同窓会：

- ①学生支援のために後援会理事会と連携し、例年と同様の支援を得た。
- ②新型コロナウイルス感染拡大による学生への支援に活用するため、後援会に新たに「緊急学生支援」の予算を依頼した。それにより、集団での健康診断が遅れたために学生が自費で受けた健康診断費用を後援会に負担してもらうことができた。
- ③同窓会の再構築に向けて役員会へ助言し、分会長と各学科・専攻の教員間で連絡が可能になった。
- ④卒業生への同窓会分会への入会に関して支援を行った。

##### (7) その他：

- ①大学運営会議からの依頼に基づき、新型コロナウイルス感染拡大による学生生活への影響に関する「学生調査」を6月初旬の1週間に行い、687名より回答を得て（回収率95.2%）、遠隔授業開始3週間後の情報を把握・報告することができた。

- ②新型コロナウイルス感染拡大により4月から学生の入構が禁止、引き続き遠隔授業となったため、感染拡大状況を見て6月に新入生ガイダンスを企画し実施した。新入生および教職員との顔合わせを含め、安全に実施することができた。
- ③新型コロナウイルス感染状況が継続する中、学生の情報収集や感染防止対策の実行が適切になされていないことが判明し、学科・専攻毎の学生への情報提供・支援について、担任を中心とした体制の強化を検討し、その後、委員会で実行状況と学生の反応を確認することができた。
- ④日本学生支援機構「新型コロナウイルス感染症対策助成事業」によるクオカードの配付について学生支援課と学生委員会で支援した。
- ⑤令和2年度卒業式の運営について検討した。

## 2) 進路支援委員会

### (1) 就職・進学支援：

- ①令和2年度進路支援計画に基づき、全学的な事業や学科専攻毎の事業を含め、大学全体として学生への進路支援を行った。
- ②令和元年度キャリアセミナーの評価をふまえ、令和2年度第1回・第2回・第3回キャリアセミナーの企画・運営・評価を行った。新型コロナウイルス感染状況から、感染防止と受講効果の両面から検討し、第2回までは集合方式、第3回はオンデマンド方式で実施した。学生の出席率やセミナー受講の感想は例年通りであった。
- ③幕張キャンパスの進路情報室にハローワークのジョブサポーターの派遣（週1回）を依頼した。ジョブサポーターによる個別就職活動支援は、感染防止対策を取りながら継続することができた。また、仁戸名キャンパスの学生が就職相談できるよう、仁戸名キャンパスへの派遣も依頼し、派遣（9月～11月）が実施された。学生には好評であった。
- ④ジョブサポーターと情報交換・意見交換を行い、ジョブサポーターと教職員が同じ考え方のもと連携して進路支援を行うことができるようにした。学科の進路支援事業への協力（講義・情報提供）もいただいた。
- ⑤ジョブカフェちばによる就活セミナーを計画・実施した。新型コロナウイルス感染状況から1回のみで開催になったが、参加者には好評であった。
- ⑥令和2年度の就職進学状況についてとりまとめを行った。
- ⑦令和3年度の「進路ガイドブック」の内容を検討した。履歴書の書き方など、学生に現在求められている書類等の情報が伝わるものとなった。
- ⑧進路支援事業に関して後援会に助成を依頼する内容を検討した。
- ⑨令和2年度就職率は100%であった。

### (2) 国家試験対策：

- ①令和2年度国家試験結果をとりまとめた。
- ②学科専攻と連携を図り、大学全体として学生への国家試験受験支援を行った。
- ③国家試験模擬試験受験に対して後援会から助成を受けられるよう各委員が調整し、助成を受けられた。
- ④国家試験に関わる手続きを確認し、学生の書類作成の支援、願書の提出、受験票の配布、免許申請手続き等を行った。
- ⑤令和2年度国家試験合格率は、保健師97.5%、助産師100%、看護師97.5%、管理栄養士95.8%、歯科衛生士100%、理学療法士91.3%、作業療法士95.0%であった。

### (3) 県内就職の推進：

- ①令和2年度県内就職率は63.9%であった。
- ②進路支援事業では県内保健医療関連施設から講師を派遣してもらい、県内就職を促進するようにした。

### (4) その他：令和2年度卒業時調査の調査票作成（進路支援部分）について検討を行った。



### 3. キャンパスハラスメント

- 1) 入学生に向けて、ガイダンスでキャンパスハラスメントとその対策について説明をした。
- 2) 本学におけるキャンパスハラスメントの実態を把握し、キャンパスハラスメントの防止施策や意識改革に反映させ、本学の教育・職場環境の改善を図ることを目的として、在学する全学生および教職員を対象にアンケート調査を行った。
- 3) 教職員に対してハラスメントに関する注意喚起を促すとともに、キャンパスハラスメント防止対策研修（動画視聴）を実施した。

### 4. 各学科・専攻の取り組み

#### 1) 看護学科

##### (1) 年度当初の重点課題

本年度は、COVID-19の影響を考慮しつつ、以下4点を重点課題とした。

- ① 学生生活支援：担任を中心に、科目担当者とも連携し、学生の修学支援を積極的に行う。
- ② 進路支援：学生が進路を決定するための情報を適切に提供する。また、県内就職の推進も継続して取り組む。
- ③ 国家試験受験対策：引き続き保健師・助産師・看護師国家試験合格率100%に向けて支援を強化する。
- ④ 看護学科卒業生・同窓会支援：同窓会活動サポートを行う。

##### (2) 取組状況

- ① 学生生活支援：学生支援体制は、「看護学科担任制マニュアル」に基づき、各学年担任リーダーを置き、1年生には教員8名、2年生には教員9名、3年生には教員6名、4年生には教員2名の担任を配置した。なお4年生に対しては、就職活動や国家試験受験に向けた支援を強化するため、看護研究の指導教員も担任業務の一部を担う支援体制を整えている。さらに、担任リーダーを委員長・副委員長がサポートする体制を整えている。本年度は、COVID-19に係る体制づくりとして、各学年のTeams内にCOVID-19関連のチャンネルからCOVID-19関連の情報提供や注意喚起などの工夫を行ったこと、委員会委員を窓口とした入構制限期間における学生の入構支援体制づくり、学科長が円滑に学生のPCR検査の受診・結果把握ができるよう学生からの連絡確認を担当がサポートすることなどを行った。また、学生への連絡・関係づくりとして、学生用ML運用に加え、各学年のTeamsを作成したこと、担任によるチャット機能を活用した関係づくり・履修登録の支援や個別の修学支援をおこなった。学年ごとの支援の具体は以下である。1年生には、学生の連絡先把握・学生用メールアドレスの配布から始めた。対面相談ができない中、土日昼夜を問わず、学生の修学や生活に関する多くの相談が寄せられた。そこで、質問への対応が効率的に行えるよう、入学当初は、学生からの質問と対応をOneDrive上で、担任間で共有した。また、例年入学時に行っている学生生活の状況やニーズを把握するための担任グループごとの懇談会を、1回目は夏の健康診断時、2回目は後期対面授業が始まって間もなくの時期に企画した。2年生は、後期始まって間もなくに懇談会を持ち、学生生活のニーズに対応していった。
- ② 進路支援：就職活動の時期が早まっている動向がありつつも、インターンシップ等が中止となり、就職活動に困っている学生が多かった。そこで、3年生に対しては、進路支援ガイダンス3回（7月・12月・2月）をすべてオンデマンドで開催し、保健師・助産師・看護師として就職を予定している4年生の活動を聞く会（12月）、および卒業生に話を聞く会（2月）も実施した。12月に就職・進学活動の動向を把握する調査を行い、進路支援事業の改善や後輩学生への情報提供に活用した。4年生に対しては、年度初めに進路情報室利用に関する相談が多く寄せられ、進路情報室利用の窓口を担い、ハローワークの利用方法や就職先の情報を適宜連絡した。4年生2月の卒業時調査のうち、就職・進学活動に関する部分を整理し、進路支援事業の改善や後輩学生への情報提供に活用した。また、キャリア支援や卒業生ネットワークの構築、後輩の就職先開拓に役立てるため、4年生に進路情報の提供を依頼し、情報把握を継続した。3,4年生ともに、県内就職の推進について、特に特別選抜により入学している学生の自覚を促すように各ガイダンスにおけるアナウンスの強化と、「推薦状作成に関するマニュアル」に基づいた適切な進路支援を実施した。



③国家試験受験対策：3年生には、実習と連動してより効果的に学習を進められるようにガイダンスおよび、看護師2回の低学年模擬試験とその結果を踏まえた特別講義を実施した。4年生には、看護師3回、保健師2回、助産師3回の模擬試験（該当者のみ）と国家試験対策講座を実施した。保健師国家試験ガイダンスには、初めてレベル別選択制を導入し、受講した学生からよい評価を得た。また、国家試験模試の成績が芳しくない学生の看護研究担当教員に依頼し、個別支援を依頼した。3,4年生とも、感染対策のため、模擬試験・ガイダンスや対策講座は、希望により自宅から参加することも可能とした。

④看護学科卒業生・同窓会支援：同窓会の活動が、全学から学科・専攻ごとの活動中心に体制が変わったため、委員交代に伴う業務や会計のサポートを行った。

### (3) 評価（成果および改善事項）

①学生生活支援：今年度はCOVID-19のため、担任業務が膨大となったが、担任、担任リーダー、委員長・副委員長の学生支援体制で、学生情報を共有し支援方法を相談しながら学生支援を行うことができた。また、遠隔授業により学生との連絡が難しい側面があり、学修支援が必ずしも十分ではなかった部分があると考えているため、改善を要する。

②進路支援：進路支援事業については、3年生対象の各ガイダンスでは学生のオンデマンド受講率は高く、アンケートでも高評価であった。また、就職希望者の就職率100.0%、県内就職率75.0%と、県内就職率も高く、評価できると考える。

③国家試験受験対策：国家試験合格率は、保健師97.5%（全国97.4%）、助産師100.0%（全国99.5%）、看護師97.5%（全国95.4%）であった。

④看護学科卒業生・同窓会支援：活動の体制変化に伴うサポートを実施し評価できると考える。

### (4) 次年度の方策

次年度もCOVID-19感染拡大予防のため、学生の入構制限、授業方法の変更、就職試験の変更等が予想される。それを踏まえ、次の方策を講じる。

①学生生活支援：遠隔授業が続くことが予想されるため、より丁寧な学生支援体制を構築する。

②進路支援・学生の県内就職の推進：積極的に情報提供等の支援を行い県内就職の推進を継続して取り組みをすすめる。

③国家試験対策：アンケート結果も踏まえ、引き続き合格率100%に向けて支援を強化し、国家試験不合格学生への支援を継続する。

④看護学科卒業生・同窓会：同窓会の活動強化に向け、引き続き活動サポートを行う。

## 2) 栄養学科

### (1) 年度当初の重点課題

国家試験の模擬試験成績不良学生に対する個別指導を強化し、国家試験100%合格を目指す。就職については、様々な分野に就職活動を経験した4年生と卒業生からアドバイスをいただき、就職活動が円滑に進むようにする。

### (2) 取組状況

各学年に担任・副担任を1名ずつ配置し、学生を支援し学科会議でも報告してもらい学科全体で学生支援を行った。臨地実習【臨床栄養（必修）9施設・給食経営（必修）10施設・公衆衛生（選択）8施設および栄養教育実習（選択）8校（県内6校、県外2校）】は、各担当教員が実習施設と綿密な打ち合わせを行い、事後指導として報告会を開催した。栄養管理臨地実習（選択）は1名実施した。コロナ禍ではあったが、先方と綿密に調整し、感染予防対策を取りながら実施した。

就職活動の支援は3年次から進路支援委員会を中心に活動の諸注意、県内の公務員試験や医療施設・福祉施設への積極的活動の支援を行った。公務員希望者には、先輩（公務員合格者）による受験対策講和や業務内容の説明会を実施した。4年次は担任・副担任による就職活動の進捗状況の報告に従い、全教員で提出書類の添削・指導、模擬面接を実施した。

サークル活動・大学祭はCOVID-19のためにできなかった。学習・生活指導、情報処理ガイダンスの相談などは各教員が担当した。ポータルフォリオは全教員の対応可能時間を掲示し、いつでも対処できる体制を学生に示した。国試対策は国家試験対策会議を設置し科目担当者による国試対策講習会、内

部模試 3 回・外部模擬 3 回の試験を計画・実施，さらに成績不良者には，毎回の模試終了後の面接指導も実施した。

(3) 評価（成果および改善事項）

1 名の休学者を除き全員卒業（24 名）。管理栄養士の国家試験合格率は 95.8%，卒後の進路は，就職 22 名，進学 2 名となった。就職率は 100%であった。県内就職率 27%となり，昨年の 33%より減少した。就職先の内訳は病院 8%，官公庁（行政，学校）38%，一般企業（管理栄養士・栄養士として食品会社，給食会社等に勤務）46%，進学 8%であった。次年度は国家試験合格率 100%達成をめざすとともに，県内就職率の向上を図りたい。

(4) 次年度の方策

国家試験 100%合格を目指す。就職については，COVID-19 感染症拡大予防の影響が，様々な分野に出ることが予想される。就職した卒業生からの応援メッセージを Teams で紹介し，学生さんから相談があった場合は，教員がサポートできるように努めるようにしていく。

3) 歯科衛生学科

(1) 年度当初の重点課題

国家試験合格率 100%を維持するとともに，千葉県歯科医師会，千葉県歯科衛生士育成協議会等の関係団体と連携して県内就職率の向上を目指す。

(2) 取組状況

学生に対する学修・生活等の支援は，主に教務委員会，学生委員会，進路支援委員会の各委員が行っているが，さらに担任・副担任制の導入により，学生を全般的にサポートする体制を整えている。具体的には，履修ガイダンス，オフィスアワーによる学修支援，キャンパスハラスメントへの対応，健康管理に関する支援，個別学生相談への対応などである。

学修支援については，COVID-19 の影響による遠隔授業において，各教員が遠隔授業に対応した教材作成とそれを用いた講義を展開し，演習・実習においては感染予防対策を講じ，教育の質が低下しないよう努めた。学外の臨床・臨地実習では，COVID-19 の状況下においても実習を受け入れてくださった実習施設と事前打ち合わせを行い，実習前には施設担当者による特別講義を行って連携を図り，実習が円滑に遂行できるよう体制を整えた。

進路支援については，求人状況に関する情報提供，エントリーカード・履歴書の記載方法，小論文の添削および模擬面接等の対策をハローワーク（公共職業安定所）の協力を得ながら支援した。3 年生への進路支援として進路が決定した 4 年生から 3 年生に向けて就職活動等の情報を提供する機会を設ける予定であったが，今年度は COVID-19 の影響により中止した。国家試験対策については，進路支援委員が中心となり，学外全国統一模擬試験を 3 回実施するとともに，試験科目に対応した特別講義を実施するなど理解の強化をはかった。

歯科衛生学科学生のサークル「お口の健康守り隊」については，学科教員がサークルの活動を支援しており，UR 住宅における高齢者に対する健康教室への参加，また，千葉市お口のボランティアとして若い世代を対象に歯周病に関する知識の普及と歯科健診受診を推奨する活動を行い，千葉市大学市長賞を受賞した。

(3) 評価（成果および改善事項）

国家試験については教員が積極的に支援し，開学時からの目標である 100%を維持した。県内就職率については，千葉県歯科医師会による歯科衛生士就職準備金貸付事業の利用（1 名）や関係団体との連携を行ったが，前年度の実績を下回り 48%であった。

(4) 次年度の方策

国家試験合格率 100%を維持するとともに，千葉県歯科医師会，千葉県歯科衛生士育成協議会等の関係団体と連携をはかり，50%以上の県内就職率を目指す。

また，COVID-19 の状況を鑑み，3 年生への進路支援として進路が決定した 4 年生から 3 年生に向けて就職活動等の情報提供の場を設けるとともに，卒業生と在学生（3，4 年生）との交流の機会を設け，卒業生より就職先の病院，歯科診療所，行政，企業等の詳細な仕事内容についての情報提供と意見交換の場を設ける。

#### 4) リハビリテーション学科理学療法学専攻

##### (1) 年度当初の重点課題

毎年度、学生の臨床実習が無事に遂行できるように学内教育と実習施設との連携を強化する。毎年度のことながら臨床実習におけるメンタル不調者を出さないように、また学生の日常生活態度等の変化を見逃さないように、毎週はじめに学生から睡眠時間等を記載した日常生活記録を提出させている。日常生活記録を実習訪問の担当教員にメールで提出しており、学生が実習での睡眠や課題の負荷が高い場合には臨床実習指導者と相談し、学生に過度の負担が掛からないように工夫をしている。

##### (2) 取組状況

前年度と同様、各学年担任による半年に一度の面接に加え、9月下旬に卒業生を囲む会を引き続き開催し、学生の学習意欲を引き出すように心掛けている。メンタル不調者を早期に発見できるよう、専攻会議において教員の情報共有をしている。進路支援・国家試験対策は毎年度継続している。国家試験の模擬試験で成績が伸び悩んでいる学生には、個別対応をしたり、会議室に集合させたりと工夫している。なお個人でのみの勉強は極力避けるように工夫をした。臨床実習Ⅱ（評価実習）からⅢ・Ⅳ（総合実習）まで日常生活記録を学生に記録させ、毎週はじめにメール等で提出することを義務づけるなどメンタル面の問題を早期発見するように試みている。

##### (3) 評価（成果および改善事項）

臨床実習Ⅰ（体験）とⅡ（評価実習）前に接遇やリスク管理に関する講義と演習を毎年度と同様に実施し、臨床実習に臨む姿勢のあり方を学習させた。臨床実習Ⅱを目前に臨床前実技試験（OSCE）を実施し、実習に臨む学生の不安を払拭するように努力した。結果、優秀な学生もいる反面、進級が難しい学生も中にはいたが、とりあえず一人の落伍者もなかった。

しかしながら、今年度は新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言があり、2021年1月～2月に掛けて実施予定にあった臨床実習Ⅱ（評価実習）が中止となり、臨床実習Ⅰ（体験）は次年度8月に移動することになった。

##### (4) 次年度の方策

毎年度同様にメンタル不調の学生が臨床実習中に出て、実習が中断とならないように工夫する。事前にメンタル不調者を見逃さないように、学年担任からの早めのカウンセリングを受けるように心掛けさせる。メンタル不調者以外で学習意欲の低い学生に対して、学年担任は学生の授業や臨床実習へのモチベーション確認を心掛ける。

#### 5) リハビリテーション学科作業療法学専攻

##### (1) 年度当初の重点課題

①学生のキャンパス間移動の時間的・金銭的（運賃）な負担を考慮し、カリキュラム上、1年生の授業は、基本的に幕張キャンパスで実施しているが、移動など考慮し、水曜に作業療法学の専門の科目に関する授業を仁戸名キャンパスで実施している。授業は、作業療法概論をはじめとして基礎作業療法、基礎作業療法実習や体験実習のオリエンテーションなど、演習・実習など実際の作業療法の設備など授業は仁戸名キャンパスで実施している。2年生は火・木曜日は仁戸名、他の曜日は幕張キャンパス。3・4年生はほぼ毎日仁戸名キャンパスで学習している。特に2年生が中心に以降の移動負担が開学依頼解決していない。学生は3年生なると通学の便利なアパートを借り換えなど自主的な方法で解決しているが学生の金銭的な負担は変化ない。

②作業療法士国家試験対策として、4年生よりグループ分けをし、学習環境の調整と模試を実施している。特に12月より2月まで集中して学生指導を実施している。新型コロナウイルスの拡大により感染予防を図っているため、グループ学習の時間の不足は否めないため、国家試験対応が難しい学生は、希望により12月末から約2か月程度週5日程度教員が感染予防などに配慮し個別指導を行う。

##### (2) 取組状況

作業療法学専攻は担任・副担任制をとっている。学生は、作業療法士としての適性や就職などの問題に対して、個別に対応している。また、退学・休学など重要な案件は、担任・副担任に加え作業療法学専攻長も対応する。教員は学生支援としてサークル顧問も担当している。

学生は、学年間の交流を図るため先輩が後輩の相談などをとれるようチューター制の形式をとり、学生が自主的に1年生～4年生を小グループにわけ、各グループで交流会など、感染状況を鑑み、今年度は開催できなかった。今後、教員の指導・補助など対面・遠隔による対策が課題として残る。

教員が仁戸名キャンパスに常駐しているため、主に幕張キャンパス（1年生，2年生）に通学している学生に対しては、Teams など利用し、チャットやメール等で連絡を取り、必要に応じて相談する時間を設けている。作業療法学専攻の学生支援における課題として、問題発生に対して即時対応できる体制づくりは、SNS などの利用により改善はしているが、対面の必要性がある場合など今後検討課題である。また、進路支援や国家試験対策に関して、週に1回、専攻会議を開き、情報の共有と対策について検討実施し、問題はない。

### (3) 成果および改善事項

- ①学生指導や卒業生の交流会などは中断しているが、卒業生が教員となったこともあり、同窓会は当大学で連絡・郵便などの窓口となれた。また就職先として、千葉県内への就職率は昨年同様高い。
- ②国家試験において新卒21名のうち不合格者が1名で20名の合格者（95%の合格率）、既卒者1名受験したが不合格となった。

### (4) 次年度の方策

国家試験への対応を、組織だつて実施する必要があると、学生の自主性を重んじている。SNS などの活用の充実を図りたい。

## 5. 令和2年度千葉県立保健医療大学卒業時調査

### 1) 調査の概要

本学の学生支援（修学支援・生活支援・進路支援）に対する評価を明らかにし、学生支援の改善・充実を図ることを目的に、4年次学生を対象に質問紙調査を行った。調査内容は、①本学の教育に対する満足度、②4年間の学生生活について、③学生生活・学生支援に対する満足度、④実施した就職・進学活動について、⑤学位授与の方針の達成度に関する自己評価、⑥大学の教育に対する意見である。調査時期は2021年2月～3月で、今回初めてWEBにて回答を回収した。

### 2) 調査の結果

#### (1) 対象者の概要

卒業生174名中154名から回答が得られた（回収率88.5%）。所属学科は、看護学科80名（51.9%）、栄養学科13名（8.4%）、歯科衛生学科24名（15.6%）、リハビリテーション学科理学療法学専攻16名（10.4%）、リハビリテーション学科作業療法学専攻21名（13.6%）であった。

#### (2) 4年間の学生生活に対する取り組みの程度

「特色科目の学習」「一般教養科目の学習」「保健医療基礎科目の学習」「専門科目の学習」「臨床（臨床）実習の学習」「卒業試験のための学習」「国家試験のための学習」「進路・キャリアの検討」「サークル活動」「いずみ祭（大学祭）」「友人等との交流」「先輩・後輩との交流」「教員との交流」「家族との交流」「アルバイト」「ボランティア活動」「趣味・レジャー」の17項目について、取り組みの程度及び活動から得たものの大きさの程度を4段階で尋ねた。17項目中12項目において7割以上の学生が「とても熱心に取り組んだ」「やや熱心に取り組んだ」と回答し、得たものも「非常に大きい」「やや大きい」と回答した。この結果は、令和元年度と同様の結果であった。一方、取り組みの程度の低かった活動は「サークル活動」「いずみ祭」「先輩・後輩との交流」「教員との交流」「ボランティア活動」で、得たものも大きくはなく令和元年度と同様の傾向であった。また、得たものについては「他大学との学生との交流」が追加項目としてあったが、交流があった学生数は半数程度であり、得たものの程度も小さかった。

#### (3) 本学の学生支援に対する満足度

学生支援について「学生ハンドブック」「オフィスアワー」「掲示による連絡」「学生用メールシステム」「教職員の対応」「健康診断」「履修支援」「就職・進学支援」「国家試験受験への支援」「長期休業」「学生保険」「奨学金制度・授業料減免制度」「学生相談」「サークル活動への支援」「休学者への支援」「5年以上在籍する者への支援」「事務手続き」、および施設設備について、合計68項目について満足度を4段階で尋ねた。



結果のうち、学生支援に関して「とても満足」「やや満足」と回答した者が該当する学生の5割を下回る項目は、全学生が該当する項目では「掲示による連絡」の1項目であり、令和元年度も低い項目であった。また、仁戸名キャンパスを使用する学生が該当する項目では、「仁戸名無人ワゴン販売」「仁戸名弁同配送システム（令和2年度で中止）」の2項目について「とても満足」「やや満足」と回答した者の割合が該当する学生の5割を下回っていた。

「学生生活への全体評価」は「とても満足」「やや満足」が84.4%であり、令和元年度の結果よりもやや高い値であった。

施設設備に関しては、「とても満足」「やや満足」と回答した者が該当する学生の5割に満たなかった項目は、仁戸名キャンパスについて「講義室（仁戸名）の広さ・空調」「講義室（仁戸名）の机・椅子」「講義室（仁戸名）の視聴覚設備」「実習室・実験室（仁戸名）の空調」「実習室・実験室（仁戸名）の机・椅子」「実習室・実験室（仁戸名）の視聴覚設備」であった。令和元年度と同様に、幕張キャンパスと比較して仁戸名キャンパスの施設設備への満足度は概して低かった。またトイレについては、幕張・仁戸名両キャンパス共に5割を下回っていた。両キャンパス共に便器の様式化を進めてきたが、さらにトイレの環境を整える必要があることが確認された。

#### (4) 実施した就職・進学活動

「活動開始時期」「受験した施設・企業数」「内定を得た施設・企業数」「実施した就職活動」「就職にあたり重視した条件・基準」「受験した進学先」等について尋ねた。

活動開始時期は「4年次前期」が最も多かった。受験した施設・企業数は「1か所」が最も多く（59.3%）、次いで「2か所」であった。内定を得た施設・企業数は「1か所」が多かった（75.3%）。

実施した就職活動は「施設ごとの就職説明会」「合同就職説明会」「施設・企業訪問・見学」の順であった。いずれも「役に立った」と高い割合で回答されており、活用した者にとっては有効であった。また、全学および学科・専攻で実施しているキャリアセミナーや進路支援ガイダンスについては、16項目中15項目で参加者の7割以上が「役に立った」と回答した。

就職にあたり重視した条件・基準は「給料」「施設・病棟の雰囲気」「規模・機能（高度医療を行う病院、長期療養病院等）」の割合が高く、令和元年度調査の結果と同様であった。

進学活動については、調査の回答者には該当者がいなかった。

## 6. 評価（成果および改善すべき事項）

学生部および学生委員会・進路支援委員会は、所掌事項に関する活動を計画的に行うことができたが、これらの活動のうち、令和元年度の成果として特筆すべきことは以下の点と考える。

学生支援としては、①新型コロナウイルス感染防止の点から実施方法を検討した上で、健康診断やワクチン接種（B型肝炎ワクチン・インフルエンザワクチン）のスケジュールを変更して、安全に実施することができた。②新型コロナウイルス感染拡大のため学生の入構や対面での活動が制限される中、学生の課外活動への助言を行った。③同窓会の再構築に向けて役員会へ助言し、学科・専攻の分会長と教員間で連絡が可能になった。④新型コロナウイルス感染拡大による学生生活への影響に関する「学生調査」を6月初旬の1週間に行い、遠隔授業開始3週間後の情報を把握・報告することができた。⑤新型コロナウイルス感染状況が継続する中、学科・専攻毎の学生への情報提供・支援について、担任を中心とした体制の強化を検討し、支援を実施した。

進路支援については、新型コロナウイルス感染状況から、進路支援事業の実施方法を感染防止と受講効果の両面から検討し、適宜遠隔で実施した。キャリアセミナーや進路支援ガイダンスは予定通り実施でき、令和2年度卒業時調査の結果からも学生にとって有効に活用できた。

一方、学科・専攻においては、学科・専攻全体で情報共有や連携を取りながら、担任を中心に修学上・学生生活上の相談にのったりするなどして、きめ細やかに修学支援・学生生活支援を行うことができた。その結果、卒業時調査において「学生生活への全体評価」は「とても満足」「やや満足」が85.5%であり、令和元年度の結果よりもやや高い値であった。また、学科・専攻で国家試験受験対策を行い、令和2年度国家試験合格率は、保健師97.5%、助産師100%、看護師97.5%、管理栄養士95.8%、歯科衛生士100%、理学療法士91.3%、作業療法士95.0%であった。全国平均より概ね高い合格率であるが、昨年度より低い合格率の職種もあった。

令和2年度卒業時調査の結果では、修学支援・学生生活支援・進路支援に関して概ね高い評価を得ているが、施設設備についてはトイレ設備の満足度が低かった。また、仁戸名キャンパスの施設設備については、学習環境について引き続き改善をしていく必要がある。

## 7. 次年度の方策

学生支援として以下の活動に積極的に取り組んでいきたい。①学生支援に関して、関係機関からの情報や学生からの要望も捉えながら、所掌事務および学生支援計画に沿った活動を行い、学生支援の充実や検討事項の解決を目指していく。特に新型コロナウイルス感染拡大による学生生活への影響を把握し、例年よりも積極的な学生支援を行う。②進路支援に関して、所掌事務に関する活動を計画的に行う。特に、県内就職の推進や国家試験合格率 100%（全学科）をめざし、学科専攻と連携を図り、大学全体として取り組んでいきたい。また、新型コロナウイルス感染状況の影響で就職活動に関する動向が変化することが考えられるため、学生支援課や各学科・専攻に入ってくる情報を学生支援につなげる必要がある。また、感染状況や活動指針に見合った学生が活用しやすい進路支援方法の検討を行っていく必要がある。

また、各学科・専攻については、学科・専攻が掲げた「次年度の方針」を適切に実施していく。



## Ⅶ 社会連携・社会貢献

### 1. 社会との連携・協力に関する方針

広く開かれた大学として、地域の人々および地域施設との連携や交流を通して、地域社会へ貢献する。

### 2. 年度当初の重点課題

1. 健康づくり・病気予防への提案（県・地域の施策の点検・評価、見直し、提案）する。シンクタンク機能の基礎を築く。
2. 卒業生の初任者・卒後研修を雇用者と協働で企画、実施（地方創成）する。
3. 専門職を対象とした生涯教育の企画、実施する。

### 3. 活動内容

#### 1) 公開講座

新型コロナウイルス感染症予防のため、例年と同じ形式での開講を回避した。令和2年度公開講座として、「家族の健康をまもる」をテーマに、YouTubeを活用したリアルタイムでの開催を企画したが、WEB公開における著作権の問題、通信環境の整備などの課題から、令和3年2月に実施を断念した。令和2年度2月より3月末まで、千葉県男女共同参画センターと協働し、「コロナ時代を元気に過ごす一今、わたしたちができる健康づくり」とのテーマにて、大学との連携オンラインセミナーを開講した。

#### 2) 共同研究等による学外組織との連携

学長裁量研究採択課題として、ほい大健康プログラムを11月に千草台団地で実施し、13名の参加があった。看護学科と理学療法学専攻の教員が担当し、手洗いの方法、コグニサイズ、健康相談を実施した。コロナの影響もあり「ほい大健康プログラム」としては、今年度はこの1回の実施のみとなったが、6月には、さつきが丘団地で歯科衛生学科の教員を中心として昨年度から継続しているオーラルフレイル予防教室を実施した。さらに、12月には同じくさつきが丘団地で、作業療法学専攻の教員2名と外部の作業療法士1名により介護予防教室を開催した。参加対象者は10名であった。ポッチャ大会を実施し、住民同士の交流を促した。

千葉県歯科衛生士会の協力を得て、臨床現場で勤務をする歯科衛生士を対象とした研修会を実施した。参加者は35名である。テーマは「コーチングを活用した糖尿病患者の歯科診療に関わる人材育成プログラムの実践」であり、他職種の講師（医師・歯科医師・作業療法士）と連携し実施した。講習会は新型コロナウイルス感染症の影響により、Zoomによる会議形式の研修となった。研修は全4回で、糖尿病の知識、コーチングについて、歯周病に関する知識、行動から認知度を把握する方法についての内容であった。

千葉県栄養士会研究教育事業部の研修会として、12月26日（土）にオンライン開催（Zoom）を実施した。「現場からリサーチクエスチョンを引き出せる研究マインドの涵養」と「コロナ禍におけるオンライン授業のあり方を考える」をテーマに本学科からも1名が講演を行った。

新型コロナウイルスの感染拡大による影響を鑑みて開催を延期していた看護学科主催の研修会「コツコツ学ぼう！フォローアップセミナー」の参加希望者を対象とし、フォローアップを目的とした「看護研究よろず相談窓口」を開設した。

実習施設の業務研究サポート、中小規模病院の管理者対象の研究指導力向上研修の実施等の画・依頼等あった場合、専攻会議で検討しそれぞれ窓口を設けた。

発達障害に関すること特に「別支援教育における専門職関係のかかわり」について1回約20名で実施した。「高齢運転者支援関係」（相談従事者職員を対象）の窓口を明確化した。「高齢者の地域コミュニティ促進事業」としてURの講習会を（1回10人）実施した。実施研究活動の支援強化を実施した。

### 3) 各学科・専攻の活動状況

#### (1) 看護学科

##### ①地域におけるボランティア活動等

千葉県内の活動として、ベイトウンかふえアドバイザー1件、千葉県こども病院でのボランティア活動推進のための協働・調整2件があった。

##### ②地域への保健医療活動

新型コロナウイルス感染症に伴う保健所派遣延べ147件、宿泊療養施設派遣延べ69件、厚生労働省対策推進本部クラスター対策班1件があった。

##### ③審議会、委員会、国家試験委員等の実績：以下の委員等を務めた。

国の委員等として3件（文部科学省大学設置・学校法人審議会大学設置分科会特別委員，大学設置分科会専門委員，文部科学省職業実践力育成プログラム（BP）認定審査委員会委員），千葉県の委員等として7件（千葉県現任教育推進会議委員長，千葉県移行期医療支援連絡協議会委員，千葉県介護予防市町村支援検討会議委員，千葉県高齢者保健福祉計画策定・推進協議会委員，千葉県令和3年度看護職員研修事業「実習指導者講習会」受託者選定会議委員，千葉県准看護師試験委員，野田地域・職域連携推進協議会・野田健康づくり協議会助言者），県内市町村委員等として3件（柏市保健衛生審議会副委員長，柏市保健衛生審議会母子保健専門分科会委員長，柏市保健衛生審議会健康増進専門分科会委員），他県の委員等として2件（墨田区介護保険事業運営協議会委員，台東区介護認定審査会委員）。

##### ④職能団体委員等：以下11件の委員等を務めた。

日本看護系大学協議会高等教育行政対策委員会委員，日本看護学教育評価機構理事，日本看護学教育評価機構財務委員，日本看護協会認定看護管理者認定実行委員会委員，日本精神科看護協会千葉県支部顧問，千葉県看護協会教育委員会委員，千葉県看護教員養成講習会運営会議委員，千葉県看護協会保健師職能委員会副委員長，千葉県看護協会助産師職能委員会委員，千葉県ナースセンター運営委員会委員，千葉県看護協会千葉地区部会幹事。

##### ⑤学会，学術団体への貢献

所属学会・学術団体：総数91学会（延べ入会件数222学会）であった。5名以上の教員が会員となっている学会は，日本看護科学学会，千葉看護学会，日本看護学教育学会，日本看護管理学会，日本地域看護学会，日本公衆衛生学会，日本母性看護学会，日本在宅ケア学会，日本公衆衛生看護学会であった。

学会，学術団体への貢献としては，代議員・評議員4件，理事7件，監事1件，幹事1件，学会各種委員会（学会誌編集，学会誌査読，教育，広報，表彰等）委員42件，学術集会各種委員会（企画，実行，査読，等）委員9件，を務めた。

##### ⑥講演会／研修会の講師・研究指導等：

講演会・研修会の講師等は，千葉県看護協会主催の研修会3件（新人教育担当者研修会，施設代表者会パネルディスカッション，看護管理者研修会），千葉県主催の研修会9件（特定健診・特定保健指導実践者スキルアップ研修会，保健師管理者能力育成研修等），県内医療機関主催の研修会3件（事例検討会，院内研修会等）など計15件であった。研究指導／サポートは，千葉県がんセンター等医療機関7施設，県内市町村および保健所7施設，計14施設でおこなった。

##### ⑦その他の社会貢献

公益信託山路ふみ子専門看護教育研究助成基金運営委員，放送大学客員教授等5件の社会貢献を行った。

## (2) 栄養学科

### ①地域におけるボランティア活動等

#### ・千葉県内

千葉市保健福祉局時健康福祉部健康推進課発行 千葉市 食育&消費者教育情報誌 Vol.6 監修アドバイザー。

千葉市安心ケアセンターにおける美浜区多職種連携活動の2件であった。

#### ・千葉県外

産後クラブ（3カ月健診）食育講座”，食事・栄養相談，鈴木糖尿病内科クリニック栄養指導の3件であった。

### ②地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

・松戸保健所における新型コロナ陽性者への電話確認，電話相談，事務処理等4件。習志野保健所派遣要請1件であった。

### ③審議会，委員会，国家試験委員等の実績：審議会，委員会，国家試験委員等

・ISO/TC34 国内審議団体事務局（FAMIC 国際課）国内対策委員。独立行政法人医薬品医療機器総合機構日本薬局方原案検討委員会（総合委員会，無菌医薬品包装の完全性評価WG，国際調和検討委員会，生物試験法委員会，専門委員）。一般財団法人医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団 生物薬品標準品評価委員会。船橋市 ふなばし健やかプラン21（第2次）推進評価委員会委員。第68回日本栄養改善学会学術総会実行委員会 総務委員会。文部科学省科学技術・学術審議会。食品成分委員会及び作業部会専門委員，日本糖尿病・妊娠学会 糖尿病と妊娠にかかわる科学的根拠に基づく医療の推進プロジェクト ワーキングメンバー。日本人事試験研究センター 専門試験（栄養士）試験問題作成委員の12件を務めた。

### ④職能団体委員等

・所属職業団体：日本栄養士会，千葉県栄養士会，神奈川県栄養士会，千葉県医師会，千葉県庁医師会の5団体に所属。

・委員会・役員等：千葉県栄養士会研究教育事業部 副部長，外来栄養食事指導検討委員，千葉県栄養士会研究教育部会役員を務める。

### ⑤学会，学術団体への貢献

#### ・所属学会

栄養学科教員が所属している学会は55学会であり，その詳細は以下の通りである。

4名以上所属（日本栄養改善学会（9名）.千葉県学校保健学会（4名））

3名所属（日本栄養食糧学会.日本生化学会.公衆衛生学会.日本病態栄養学会）

2名所属（日本臨床栄養学会.日本調理科学会.日本給食経営管理学会.日本食品科学工学会.日本肥満学会.日本疫学会.日本臨床栄養協会.日本糖尿病・妊娠学会.日本臨床栄養代謝学会）

1名所属（日本脂質栄養学会.日本解剖学会.日本小児外科学会.日本外科学会.日本内科学会.日本老年医学会.日本病態生理学会.日本在宅静脈経腸栄養研究会.千葉県NSTネットワーク.千葉医学会.日本心理学会.日本教育心理学会.日本人間工学会.日本教育工学会.日本発達心理学会.日本パーソナリティ学会.日本家政学会.日本家庭科教育学会.日本教師学学会.日本官能評価学会.日本成人病（生活習慣病）学会. DOHaD 研究会. 日本薬学会. 日本マイコプラズマ学会. 日本高血圧学会. 日本農芸化学会. NPO 法人西東京臨床糖尿病研究会. 日本食育学会. 日本生理学会. 日本体力医学会. 日本食生活学会. The American Physiological Society. クリニカルパス学会. 日本在宅栄養管理学会. 日本在宅医療学会. 日本応用糖質科学会. 日本健康医学会. 日本成長学会. 日本小児保健協会. 日本小児科学会. 以上40学会）

#### ・学会・学術団体への貢献

評議員，委員会委員長，委員などとしての学会・学術団体への貢献は22件であり，詳細は下記のとおりである。

日本栄養改善学会評議員（4名），日本臨床栄養代謝学会学術評議委員，千葉県NSTネットワーク世話人，第36回日本臨床栄養代謝学会学術総合プログラム委員，第29回千葉県NSTネットワーク当番世話人，日本官能評価学会常任理事（企画・編集），日本官能評価学会査読，日本官能評価学会常任編

集委員，(一財)日本科学技術連盟，官能評価セミナー委員長，日本防菌防黴学会理事，日本疫学会代議員，日本栄養食糧学会参与，日本病態栄養学会評議員，日本糖尿病・妊娠学会評議員，公益財団法人 千葉県栄養士会理事，日本栄養改善学会栄養学雑誌編集委員，日本栄養改善学会理事，日本栄養改善学会関東・甲信越支部会副支部長，日本栄養改善学会第 68 回学術総会実行委員長・総務委員長，日本公衆衛生学会代議員・公衆衛生分野における行政管理栄養士のあり方委員会委員，第 22 回国際栄養学会議プログラム委員，千葉県学校保健学会評議員，International journal of sports medicine 査読者。

⑥講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等：講演会，講師・指導等

・千葉県栄養士会研究教育事業部研修会 1 回，株式会社 LEOC（給食受託会社）7 回。大人のための食育講座 2 回の 3 件

⑦対外広報活動（ホームページへの掲載）

・国立研究開発法人 医療基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所：妊娠前からはじめる妊産婦のための食生活指針-妊娠前から，健康なからだづくりを- <https://www.nibiohn.go.jp/eiken/ninsanpu/>，国立研究開発法人医療基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所：妊産婦さんが気になる Q&A <https://www.nibiohn.go.jp/eiken/ninsanpu/faq.html>，日本学術会議 臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同生活習慣病対策分科会。提言「生活習慣病予防のための良好な成育環境・生活習慣の確保に係る基盤づくりと教育の重要性」<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-24-t293-3.pdf>。

### (3) 歯科衛生学科

①地域におけるボランティア活動等：9 件

・千葉県内：7 件

障害者の口腔衛生指導（2020 年 4 月，千葉県リハビリテーションセンター更生園），オーラルフレイル予防プログラム（2020 年 6 月，さつきが丘団地），ほい大健康プログラム（2020 年 11 月，千草台団地），千葉市お口のボランティア活動（2020 年 10 月～2021 年 2 月，千葉県立保健医療大学），新型コロナ対応協力（2020 年 5 月 19-21 日，松戸保健所），新型コロナ対応協力（2021 年 1 月 2 日，松戸保健所），新型コロナ対応協力（2021 年 1 月 21 日，習志野保健所）。

・千葉県外：2 件

オリンピックボランティア説明会（東京），神奈川県横須賀市浦上台北町内会定期清掃活動（横須賀市）。

②地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）：8 件

歯科診療（2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日，本学歯科診療室），継続個別支援，歯科診療補助の実施（2020 年 4 月～2021 年 3 月 31 日，本学歯科診療室），千葉市口腔がん検診・千葉市口腔ケア事業（2020 年 7 月 1 日～12 月 20 日，本学歯科診療室），診療指導（2009 年 4 月 1 日～現在に至る，日本大学松戸歯学部付属病院），手術指導（2011 年 4 月 1 日～現在に至る，総合病院国保旭中央病院），体力測定・口腔機能測定および講演（2020 年 8 月～2021 年 2 月。流山市南部地域包括支援センター），口腔と全身の健康状態に関する 92 歳調査（2020 年 7 月，新潟），幕張ファミールハイツ体操教室（2020 年 8～11 月，千葉市美浜区）。

③審議会，委員会，国家試験委員等の実績：5 件

日本歯科医療振興財団歯科衛生士試験委員会，千葉県歯科衛生士育成協議会，全国大学歯科衛生士教育協議会，歯科衛生学教育モデルコアカリキュラム策定会議，国公立大学法人等歯科医療従事者養成機関担当者会議。

④職能団体委員等：12 件

全国歯科衛生士教育協議会理事，同教育委員会理事，同教育委員会委員，同教育問題検討委員会委員，同歯科衛生学体系化小委員会委員，全国大学歯科衛生士教育協議会副会長，全国大学歯科衛生士教育協議会理事，同雑誌編集副委員長，国公立大学法人等歯科医療従事者養成機関担当者会議担当者，千葉県歯科衛生士育成協議会役員，同運営委員，千葉県歯科衛生士会総務理事。



#### ⑤学会、学術団体への貢献

##### ・所属学会・学術団体：総数 66 学会

日本歯周病学会，日本口腔衛生学会，日本歯科衛生教育学会，日本歯科衛生学会，日本歯科保存学会，日本補綴歯科学会，日本歯科審美学会，日本歯科色彩学会，美容口腔管理学会，日本接着歯学会，日本歯内療法学会，日本アンチエイジング歯科学会，日本口腔外科学会，日本口腔内科学会，日本口腔科学会，日本歯科理工学会，International Association of Oral and Maxillofacial Surgeons. Asian Association of Oral and Maxillofacial Surgeons，日本口腔診断学会，日本臨床口腔病理学会，日本臨床細胞診学会，日本有病者歯科医学会，日本老年歯科医学会，日本小児歯科学会，日本看護技術学会，日本医療安全学会，日本公衆衛生学会，日本顎顔面インプラント学会，日本口腔インプラント学会，日本医学教育学会，国際歯科研究学会（IADR），国際歯科研究学会日本部会（JADR），日本歯科医療管理学会，社会歯科学会，日本体力医学会，日本体育学会，日本測定評価学会，日本バイオメカニクス学会，日本栄養改善学会，日本栄養・食糧学会，大学体育連合，日本疫学会，American College of Sports Medicine，日本咀嚼学会，日本口腔ケア学会，日本摂食嚥下リハビリテーション学会，ヘルスカウンセリング学会，日本歯科医学教育学会，日本大学口腔科学会，日本歯科基礎医学会，東京歯科大学学会，北海道歯学会，北海道医療大学歯学会，日本歯科衛生士会，千葉県歯科衛生士会，日本歯科医療管理学会，日本障害者歯科学会，日本有病者歯科医療学会，国際 ICT 利用研究学会，情報文化学会，教育システム情報学会，コンピュータ利用教育学会，情報システム学会，日本環境教育学会，日本環境学会，日本スポーツ歯科医学会。

##### ・学会、学術団体への貢献：36 件

日本歯科衛生学会顧問，同学会査読委員，日本歯科衛生教育学会副理事長，同学会常任理事，同学会理事，同学会編集委員会査読委員，同学会利益相反委員会委員，同学会評議員，同学会研究倫理審査委員，日本歯科審美学会理事，同学会「歯科審美」編集委員会委員副委員長，同学会ホワイトニングコーディネーター委員会委員，同学会選挙管理委員会委員，日本歯科色彩学会常任理事，同学会ニュースレター編集委員会委員長，同学会「歯科の色彩」編集委員会委員，美容口腔管理学会幹事，同学会「The Journal of Cosmetic Oral Care」編集委員，日本歯科衛生学会「日本歯科衛生学会雑誌」外部査読委員，日本大学口腔科学会評議員，日本口腔科学会評議員，日本口腔内科学会評議員，日本口腔外科学会代議員，日本医療安全学会代議員，日本医療安全学会広報委員，口腔衛生学会歯科衛生士委員会委員，日本歯科医学教育学会評議員，The Journal of Dental and Maxillofacial Research Editorial Board 査読委員，日本口腔衛生学会歯科衛生士委員会委員，Community Dental Health 査読委員，日本歯科衛生教育学会第 11 回学術大会大会長，第 20 回美容口腔管理学会学術講演会 一般講演座長，日本歯科衛生教育協議会編集委員，国際 ICT 利用研究学会理事，第 5 回国際 ICT 利用研究学会全国大会審査委員，第 5 回国際 ICT 利用研究学会全国大会セッション P 座長。

#### ⑥講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等：5 件

日歯認定歯科助手講習会講師「高齢者の対応」，2020 年度東京歯科大学大学院講義講師「臨床・基礎研究に必要な統計解析の基本について」，千葉県男女共同参画センター連携講座「コロナ時代を元気に過ごす-今-私たちができる健康づくり」，日歯認定歯科助手講習会「診療室管理・アシスタントワーク・患者対応」．未就業歯科衛生士復職支援研修会「現在の TBI・TBI の実践」。

#### (4) リハビリテーション学科理学療法学専攻

##### ①地域におけるボランティア活動等：9 件

##### 2) 千葉県外

・コクラン日本語翻訳ボランティア．2020 年 4 月～現在。

##### ②地域への保健医療活動活動（診療・技術指導等．活動期間．場所等）

・UR 都市機構共催ほい大健康プログラム．2020 年 11 月 7 日．千草団地。

##### ③審議会，委員会，国家試験委員等の実績

・一般社団法人リハビリテーション教育評価機構．評価認定委員会評価委員．2014 年 4 月～現在。

・千葉 C 労働局．労災協力医．2020 年 4 月～2021 年 3 月。

#### ④職能団体委員等

- ・一般社団法人千葉県理学療法士会，理事，2018年4月～現在。
- ・一般社団法人千葉県理学療法士会，研究倫理委員長，2019年4月～現在。
- ・公益社団法人リハビリテーション医学会，学会プログラム委員，2019年11月～現在。
- ・一般社団法人日本職業・災害医学会，評議員，2020年4月～現在。
- ・一般社団法人千葉県理学療法士会，学術局学術誌編集部長，2020年4月～現在。
- ・一般社団法人千葉県理学療法士会，障がい児・者支援部部員，2020年4月～現在。
- ・一般社団法人千葉県理学療法士会，研究倫理委員会，2019年4月～現在。
- ・一般社団法人千葉県理学療法士会，代議員，2019年4月～現在。
- ・一般社団法人千葉県理学療法士会，学術企画研修部員，2019年4月～現在。

#### ⑤学会，学術団体への貢献

- ・日本リハビリテーション医学会，日本理学療法士協会，日本臨床神経生理学学会，日本電気生理運動学学会，日本運動療法学会，世界理学療法士学会，世界電気生理運動学学会，日本体力医学会，全国大学理学療法教育学会，全国大学肺理学療法研究会，コクランジャパン，千葉医学会，日本整形外科学会，東日本整形災害外科学会，関東整形災害外科学会，日本脊椎脊髄病学会，日本小児整形外科学会，日本職業・災害医学会，日本骨粗鬆症学会，日本腰痛学会，日本足の外科学会，日本抗加齢医学会，日本運動器科学会，日本小児股関節研究会，千葉県ロコモティブシンドローム研究会，日本公衆衛生学科，日本重症心身障害学会，理学療法科学学科，バイオメカニズム学会，日本基礎理学療法学会，日本ヘルスプロモーション理学療法学会，臨床歩行分析研究会，日本臨床バイオメカニクス学会，姿勢・歩行国際研究学会，バイオメカニクス国際学会，日本ニューロリハビリテーション学会，日本保健科学学会。
- ・日本理学療法士協会，第25回日本基礎理学療法学術大会 抄録査読委員，日本リハビリテーション医学会，第57回日本リハビリテーション医学会学術集会 抄録査読委員，千葉県理学療法士会，論文査読委員，保健医療学会，学術誌「保健医療学雑誌」，論文査読委員，千葉県理学療法士会，第25回千葉県理学療法士学会 抄録査読委員，千葉県理学療法士会，第25-26回合同千葉県理学療法士学会，抄録査読委員・相談役・一般演題座長。

#### ⑥講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等：

- ・日本理学療法士協会，フレイル対策推進マネージャー，2020年11月30日。
- ・千葉県介護予防の推進に資する専門職育成研修，2020年2月11日・2月20日。

#### (5) リハビリテーション学科作業療法学専攻

##### ①地域におけるボランティア活動等：

教員や学生サークルによって行われていたが，新型コロナウイルスの拡大により，ほとんど活動ができなかった。

##### 1) 千葉県内 1件

千葉大学医学部附属病院地域医療連携部在宅医療インテンシブコース講師，車いす講習会オンライン開催 千葉大学公認学生ボランティアサークル チャレンジド・サポート みのり。

##### 2) 千葉県外 1件

高知大学医学部がんプロフェッショナルコース講師

##### ②地域への保健医療活動：7件

教員が協力要請や地域の要望によって以下の活動に参加している。

白河厚生総合病院：骨メタカンファレンス・アドバイザー，フェルマータ船橋：MTDLP活用におけるリハスタッフへの技術指導，大田区小学校：特別支援学級医療専門相談，足立区発達障害児支援事業専門研修等講師，練馬区障害児保育巡回指導，松戸保健所応援，習志野保健所応援。

##### ③審議会，委員会，国家試験委員等の実績：10件

各議会，委員会等から各教員が要請を受け，活動に参加している。

公益財団法人大学基準協会，大学評価委員会大学評価第35分科会委員，6回日本神経学会神経内科専門医試験：試験問題作成，一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会，令和2年度厚生労働省老人健康増進等事業「ハンドル形電動車椅子の安全利用に係る調査研究事業」検討委員会委員および作業部会部会長，全日本指定自動車教習所協会連合会「高齢運転者支援士」試験作問委員，東京都医師会，高齢社会における運転技能および運転環境検討委員会委員，市川市障害支援区分認定審査会審査委員，一般社団法人リハビリテーション教育評価機構評価員。



#### ④職能団体委員等：22件

所属した職能団体委員は、以下となる。

千葉県作業療法士会機関紙「作業療法」査読委員，千葉県作業療法士会アドバイザー，日本作業療法士協会制度対策部「運転と作業療法特設委員会」委員長，日本作業療法士協会制度対策部部員，日本作業療法士協会学会演題査読委員，日本作業療法士協会代議員，千葉県作業療法士事務局，千葉県作業療法士会代議員，千葉県作業療法士会理事，千葉県作業療法士会学術部発達障害委員会委員，千葉県作業療法士会学術部査読委員，千葉県作業療法士会臨床実習指導者講習会特設委員会委員，日本作業療法士協会教育部 部員（養成教育委員会，千葉県作業療法士会教育部 部員，千葉県作業療法士会千葉中央ブロック代議員，千葉県生活行為向上マネジメント委員会，委員，千葉県作業療法士会災害対策委員会委員，千葉県 POS 連盟千葉 POS 災害対策委員会委員，千葉県作業療法士会副会長，千葉県作業療法士会運転特設委員会，千葉県 POS 連盟理事，千葉県作業療法士会災害対策委員会委員，千葉県作業療法士会事務局 WEB 研修班班員。

#### ⑤学会，学術団体への貢献

下記の学会・学術団体への貢献があった。

・所属学会・学術団体：55件

千葉県作業療法士会，日本公衆衛生学会，日本内科学会，日本神経学会，日本自律神経学会，日本排尿機能学会，日本パーキンソン病・運動障害疾患学会，Movement Disorder Society，International Continence Society，日本癌学会，日本癌治療学会，日本がんサポーターケア学会，日本緩和医療学会，日本臨床死生学会，日本サイコオンコロジー学会，日本在宅医療連合学会，日本死の臨床研究会，日本ホスピス・在宅ケア研究会，大学病院の緩和ケアを考える会，日本在宅ホスピス協会，多施設緩和ケア研究会，ロコモケア研究会，EAPC（European Association of Palliative Care），日本老年医学会，日本老年精神医学会，認知神経科学会，日本高次脳機能障害学会，自動車技術会，日本リハビリテーション工学協会，運転と認知機能研究会，運転と作業療法研究会，日本安全運転・医療研究会，日本交通心理学会，日本認知心理学会，日本交通科学学会，日本感覚統合学会，日本作業行動学会，日本 LD 学会，日本発達系作業療法学会，日本リハビリテーション連携科学学会，日本発達障害学会，日本特殊教育学会，日本義肢装具学会，脳機能とリハビリテーション研究会，日本作業療法研究学会，日本生理人類学会，日本人間工学会，日本臨床神経生理学学会，日本シーティング・コンサルタント協会，日本呼吸ケア・リハビリテーション学会，日本心臓リハビリテーション学会，日本リハビリテーション医学会，日本ハンドセラピィ学会，千葉県 POS 連盟。

・学会，学術団体への貢献：32件

一般社団法人千葉作業療法士会。学術部査読委員，一般社団法人千葉作業療法士会学会委員会演題査読委員，日本神経学会 代議員，日本排尿機能学会 代議員，日本自律神経学会 評議員，日本癌治療学会（理事，代議員），日本緩和医療学会（機関紙編集委員），日本がんサポーターケア学会（骨転移と骨の健康部会／副部会長，評議員），日本在宅医療連合学会（評議員），多施設緩和ケア研究会（世話人），日本在宅ホスピス協会（世話人），大学病院の緩和ケアを考える会（世話人），運転と認知機能研究会事務局長，運転と作業療法研究会代表，日本安全運転・医療研究会幹事，日本作業療法士協会学会演題査読委員，日本感覚統合学会効果研究委員，日本発達系作業療法学会理事，DD ネットワーク多職種連携委員会副委員長，日本感覚統合学会効果研究委員，本発達系作業療法学会理事，JDD ネットワーク多職種連携委員会副委員，日本作業療法士協会，事例報告登録制度審査委員，日本作業療法士協会学会演題審査委員，日本作業療法士協会認定作業療法士，日本作業療法研究学会理事，日本作業療法研究学会第 14 回日本作業療法研究学会学術集会大会長（WEB 開催），日本義肢装具学会正会員用語委員，日本呼吸ケア・リハビリテーション学会初級呼吸ケア指導士，千葉県 POS 連盟理事会，千葉県作業療法士会理事会，千葉県作業療法士会定時総会，地域ケア会議研修会運営スタッフ，千葉県作業療法士会予算総会，千葉県作業療法士会学術誌編集委員会委員。

#### ⑥講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等：16件

下記の演会／研修会の講師・研究指導を行った。

障害者教習指導員研修全日本指定教習所協会連合会高次脳機能障害者の特性と指導法教習指導員，高齢運転者支援士研修全日本指定教習所協会連合会高次脳機能障害者の特性と指導法教習指導員，筑波大みんラボカフ「自動車運転リハビリをご存じですか？高齢者と運転について一緒に考えましょう」，日本老年学会あり方委員会「運転作業療法」日本老年学会あり方委員，近畿作業療法連絡協議会「運転と地域での移動に関する最近のトピックス」（WEB 開催），南多摩高次脳機能障害支援センター東京都高次脳機能障害支援事業「専門的リハビリテーションの充実」事業，令和 2 年度 専門職向け研修「セラピストによる脳損傷者の運転再開支援」，練馬区立旭町保育園園内研修（講師），練馬区立旭町保育園子ども発達に合わせた体幹作り-姿勢の保持と上肢操作の発達のために-，練馬区立栄町保育園園内研修（講師）。練馬区立栄町保育園子ども発達に合わせた体幹作り-姿勢の保持と上肢操作の発達のために-，習志野市立大久保第二保育所内研修（講師）習志野市立大久保第二保育所。感覚統合理論について，学校を理解して支援ができる作業療法士の育成研修会実践編（講師）千葉県作業療法士会，講義「アセスメント演習（人的環境・児童生徒）」講義「起こりそうなこと・まとめ」，千葉

県作業療法士会 現職者研修会 2「実践のための作業療法研究」WEB 開催 講師, 日本作業療法士協会 主催 千葉県作業療法士会運営 臨床実習指導者講習会 WEB 開催 講師・ファシリテーター, 地域在住高齢者に対する介護予防教室の開催, UR 都市機構さつきが丘団地がある。

#### 4) 地域住民への歯科診療の提供

本学には学生実習施設としての機能を兼ね備えた歯科診療室が設置されており, 歯科衛生学科の教員(歯科医師・歯科衛生士)と嘱託歯科衛生士 2 名が協働して地域住民を対象に歯科診療を提供している。県内を中心に患者を広く受け入れており, COVID-19 の状況下においても休診とすることなく診療を実施した。2020 年度の延患者数 2,247 名であった。また, 「千葉県口腔がん検診事業」として千葉県住民を対象に 53 件の個別検診, 口腔機能に関わる口腔ケア事業 1 件を行った。当診療室は保険医療機関として歯科外来診療環境体制加算等の施設基準を満たし, 患者にとって安心な歯科医療環境の提供, 厚生労働大臣が指定する疾患患者に対する必要な医療管理を行う体制を整えている。歯科診療を担当する歯科医師・歯科衛生士の専門資格取得状況は, (公社) 日本口腔外科学会口腔外科専門医 1 名, (公社) 日本口腔外科学会口腔外科指導医 1 名, がん患者歯科医療連携登録医 1 名, 日本糖尿病協会歯科医師登録医 1 名, 日本歯科放射線学会歯科放射線准認定医 1 名, 千葉県口腔がん検診検診医 1 名, 千葉県歯科医師会認定口腔がん検診医 1 名, 日本歯科保存学会歯科保存治療専門医 1 名, 日本歯科色彩学会認定医 1 名, 日本歯科審美学会認定医 1 名, 美容口腔管理学会指導医 (Diplomate) 1 名, 日本口腔衛生学会認定医 1 名, 日本歯周病学会認定歯科衛生士 1 名, 日本歯科衛生士会認定歯科衛生士 (摂食・嚥下リハビリテーション) 1 名, 日本歯科衛生士会認定歯科衛生士 (在宅療養指導・口腔保健管理) 2 名, 日本咀嚼学会健康咀嚼指導士 2 名となっている。

#### 5) 国際交流の推進状況

緊急事態宣言下, 初期医療言語サービスボランティア研修の定期的開催や, 交流協定を締結した仁済(インジェ) 大学との活動は, 令和 2 年度に進展はみられなかった。

### 4. 評価(成果および改善すべき事項)

令和 2 年度は, 新型コロナウイルス感染症予防の観点から, 社会連携・貢献活動は, 地域での取り組みが制限された。しかし, 各学科においては, 個々の教員による職能団体へのオンライン会議において, あるいはオンライン講演会においての貢献活動が, 例年と等しく実施された。

### 5. 次年度の方策

新型コロナウイルス感染状況を踏まえ, デジタルトランスメーション時代に対応するための知識・技能を大学全体で共有し, ネット環境などの設備を可能な限り整えて, さらなる地域貢献を模索・実践していく。

## Ⅷ 教育研究等環境

### 1. 年度当初の重点課題（令和2年度重点施策を記載）

開学から10年以上が経過し、短大から引き継いだ設備に加えて開学時指に整備した教育設備も不具合が生じるようになってきていることから、計画的に教育環境改善のための整備を行う。図書館については、幕張図書室の整理と仁戸名図書館は現存スペースを確保・整備する。また雑誌をはじめ、書籍の電子化を進める。

### 2. 施設・設備の整備状況

#### （新規購入備品）

##### 幕張キャンパス

教育棟	A307 講義室	プロジェクター	1台
	A414 臨床基礎実習室	プロジェクター	2台
	B105 講義室	椅子	30脚
	B108 講義室	プロジェクター	1台
	B410 講義室	プロジェクター	1台
学生ホール棟	第1 講義室	椅子	33脚
図書館棟	中講義室	プロジェクター	1台
事務局棟	事務局	ビデオカメラ	1台
		非接触型体温計	1台
		テレビ	1台
	事務局長室	テレビ	1台
	副学長室	電話機	1台
	学長室	電話機	1台
			テレビ
更衣室棟	女子更衣室	更衣用ロッカー	1個

##### 仁戸名キャンパス

東校舎棟	日常生活活動実習室	プロジェクター	1台	
		スクリーン	1台	
		スチールラック	2台	
	運動療法実習室	油圧式診察台	3台	
	物理療法実習室	油圧式診察台	3台	
	手工芸室	スチールラック	3台	
	事務局		非接触型体温計	1台
			無線マイク	1台
			スピーカー	1台
			更衣用ロッカー	1台
校舎外		街灯	4機	

### 3. 図書館の状況

#### 1) 利用者数

幕 張 14,889 人  
仁戸名 2,598 人

#### 2) 資料収集

##### (1) 蔵書数

幕 張 図書 76,976 冊 雑誌 1,363 タイトル  
仁戸名 図書 31,417 冊 雑誌 718 タイトル

##### (2) 視聴覚資料数

幕 張 CD 40 点 DVD 456 点 スライド 7 点  
仁戸名 CD 10 点 DVD 226 点

#### 3) 開館時間および開館日数

開館時間

【授業期間中開館時間】(幕 張) 月・金曜日 8:45～21:00, 火～木曜日 8:45～20:00, 土曜日 9:00～17:00  
(仁戸名) 月・金曜日 9:15～21:00, 火～木曜日 9:15～20:00, 土曜日 9:00～17:00

【授業のない期間】(幕張・仁戸名とも) 月～金曜日 : 9:00～17:00 (但し仁戸名のみ夏休み中も土曜日開館)

開館日数 (年間延べ数)

幕 張 217 日  
仁戸名 233 日

#### 4) 利用状況

貸出冊数 幕 張 3,798 冊  
仁戸名 1,037 冊

参考業務件数 幕 張 1,157 件  
仁戸名 75 件

複写 幕 張 248 件 3,216 枚  
仁戸名 40 件 494 枚

#### 5) 施設整備およびサービス向上に向けた取り組み

図書館ガイダンスの実施 (計 7 回)

文献検索ガイダンスの実施 (計 4 回)

文献検索セミナーの実施 (計 2 回開催 (うち外部講師の招聘 1 回), 参加者のべ人数 99 名)

図書館だより「ぼ～れば～れ」の発行 年 2 回 (4 月, 10 月)

### 4. 研究倫理を遵守するための措置

文献検索セミナー, 入学時の図書館ガイダンスを通して, 学生の文献検索能力向上に努める. 併せて学生が図書館を利用しやすいように, 学習, 教育, 調査研究に資する資料の収集・整備に努める.

### 5. 評価 (成果および改善すべき事項)

学生の学習環境整備の受容課題である, 旧式の机・椅子の更新は順調に進んでいる. プロジェクターやエアコンの故障等の突発的な事態には, 必要経費や物品を調達するなど, 柔軟に対応できている.

図書館は, 令和元年暮れからコロナウイルス感染拡大から同年 4 月 1 回目の緊急事態宣言, 令和 2 年年明け 2 回目の緊急事態宣言の下で, 本学警戒レベルの変更に伴う対応が迫られ, 柔軟に対応した.

### 6. 次年度の方策

引き続き, 教育研究環境の点検を定期的に行い, 計画的に環境整備を行う.

## Ⅸ 研究活動報告

### 1. 看護学科

- (1) 著書：和文共著 18 件，その他 5 件，総数 23 件であった。
- (2) 学術論文：英文 2 件，和文 43 件，その他 18 件，総数 63 件であった。
- (3) 発表：国際学会 1 件，全国学会 52 件，その他 7 件，総数 60 件であった。
- (4) 学術集会等での招待講演・シンポジウム等：シンポジスト 1 件であった。
- (5) 研究資金獲得状況：外部資金として受託した研究は 52 件（うち科研費 49 件），学内共同は 9 件，学長裁量は 16 件であった。
- (6) 賞・特許：日本循環器看護学会第 17 回学術集会優秀演題賞 1 件であった。

### 2. 栄養学科

- (1) 著書：共著件の 16 著書があった。
- (2) 学術論文：英文原著 7 件，和文原著 20 件，その他 11 件，総数 38 件の発表があった。
- (3) 発表：国際学会 1 件，全国学会 18 件，地方学会 1 件，総数 20 件であった。
- (4) 学術集会等での招待講演・シンポジウム等：総数 3 件であった。
- (5) 研究資金獲得状況：外部資金として受託した研究が 7 件（うち科研費 3 件），学内共同は 1 件であった。
- (6) 賞・特許：1 件。

### 3. 歯科衛生学科

- (1) 著書：単著 0 件，共著 3 件，総数 3 件の著書があった。
- (2) 学術論文：英文原著 4 件，和文原著 7 件，その他 7 件，総数 18 件の発表があった。
- (3) 発表：国際学会 1 件，全国学会 18 件，総数 19 件の発表があった。
- (4) 学術集会等での招待講演・シンポジウム等：総数 1 件の講演があった。
- (5) 研究資金獲得状況：外部資金として受託した研究が 7 件（科研費 7 件）であった。学内共同研究は 3 件，学長裁量研究 1 件であった。
- (6) 賞・特許：0 件。

### 4. リハビリテーション学科理学療法学専攻

- (1) 著書：0 件。
- (2) 学術論文：英文原著 4 件，和文原著 5 件，その他 1 件，総数 10 件の発表があった。
- (3) 発表：国際学会 3 件，全国学会 4 件，地方学会 3 件，総数 10 件の発表があった。
- (4) 学術集会等での招待講演・シンポジウム等：0 件。
- (5) 研究資金獲得状況：外部資金として受託した研究が 6 件（内科研費 1 件）であった。学内共同研究は 6 件であった。
- (6) 賞・特許：0 件。

### 5. リハビリテーション学科作業療法学専攻

- (1) 著書：単著 0 件，共著 2 件，編集 0 件，翻訳書 0 件，その他 0 件，総数 2 件の著書があった。
- (2) 学術論文：英文原著 15 件，和文原著 13 件，その他 1 件，総数 29 件の発表があった。
- (3) 発表：国際学会 2 件，全国学会 10 件，地方学会 0 件，研修・講習会 0 件，その他 1 件，総数 13 件の発表があった。
- (4) 学術集会等での招待講演・シンポジウム等：計 7 件であった。
- (5) 研究資金獲得状況：外部資金として受託した研究が 2 件（内科研費 2 件）であった。学内共同は 1 件，学長裁量は 0 件であった。
- (6) 賞・特許：総計 0 件であった。



## X 内部質保証のための取り組み

### 1. 年度当初の課題

#### 1) 内部質保証のための取り組みの経過について

平成 27 年に受審した大学基準協会による機関別認証評価において改善勧告を受け、内部質保証体制の確立を課題とし、将来構想検討委員会に管理・運営 WG 設置し課題の明確化、組織体制の改革等に取組改善に着手した。

令和元年 7 月に改善報告書を提出し、令和 2 年 3 月に改善報告書結果を概評として大学基準協会から受領した、「改善報告書」の検討結果について、大学基準協会より以下（改善報告書検討結果引用）のように改善が認められた。

「2015（平成 27）年度の本協会による大学評価において、貴大学に対して、改善勧告として 2 項目、努力課題として 7 項目の改善報告を求めた。これを受けて、貴大学では、「自己点検・評価委員会」が中心となり検討を行い、「自己点検・評価実施推進部会」と連携しながら改善活動に取り組んでおり、改善の認められる項目が確認できる。」  
「今後改善経過について再度報告を求める事項】「なし」となった。認定の期間は 2023（平成 35）年 3 月 31 日までである。

#### 2) 新たに課題として 2020～2023「第二期重点施策中期計画・目標」が学長より提示され、重点施策を実施し、自己点検・評価推進実施部会が次期認証評価の大学基準を鑑み、内部保証の一環として自己点検・評価と報告書の作成が課題となる。

#### 3) 自己点検・評価の全体の目標

1. 自己点検評価報告書企画（目標：1. 自己点検・評価報告書作成配布公表 2. 自己点検評価 FD 開催）、2. 認証評価計画報告書企画（目標：1. 次期認証評価機関の選定推薦 2. 次期認証評価にそった計画と評価の実施）、3. 教育研究年報の作成の企画（目標：教育研究年報の発行）、4. 大学 IR コンソーシアムの調査評価の企画依頼（目標：1. IR コンソーシアムの調査評価 2. 教務システムのデータと連結 3. IR に資するデータのホームページ公表）

### 2. 評価（成果および改善すべき事項）

#### 1) 3 つの評価基準と第二期重点施策と中期計画目標の「自己点検・評価の報告書」について

第二期重点施策を軸に提示し、「千葉県立保健医療大学の将来に向けて」重点施策実現に向けた取り組み（表参照）を作成し、それぞれ内部の質保証について実施検討する担当（責任）部署・委員会等を取り決め、自己点検・評価実施推進部会により「第二期重点施策達成状況点検・評価報告書」の作成として行われた。内部質保証体制を確立するため重点施策を軸に、それぞれ担当部署・委員会等が自己点検として「1 大項目」「2 中項目」「3 小項目（重点施策）」「4 責任部門（委員会）」「5 今年度中期計画・目標」「6 設定目標（評価指標）」「7 目標達成度（自己評価）」「8 評価結果」の理由と改善策について点検評価を実施し、自己点検・評価委員会が「9 自己点検・評価委員会による評価と理由」として評価し、それぞれの取組みについて改善計の課題を呈示した。

### 3. 達成事項と次年度の方策

#### 自己点検・評価委員会

1. 自己点検評価報告書企画、自己点検評価推進実施部会へ依頼達成、承認中
2. 認証評価計画報告書企画、認証評価部会へ依頼・承認
3. 教育研究年報の作成を教育研究年報報告部会依頼達成
4. 大学 IR コンソーシアムの調査評価の依頼達成

#### 教育研究年報報告部会

教育研究年報の発行達成

#### 認証評価部会

1. 次期認証評価機関の選定推薦達成
2. 次期認証評価にそった計画と評価の実施については年度内に達成予定

#### 自己点検・評価推進実施部会

1. 自己点検・評価報告書作成は年度内に完成予定
2. 自己点検評価 FD 活動は IR 活動について実施達成



#### IR 部会

1. IR コンソーシアムの調査評価は1年最終学年に実施達成
2. 教務システムのデータと連結 GPA など項目と連結達成
3. IR に資するデータのホームページ公表は未達成. 来年度教育研究年報に掲載予定.

自己点検・評価委員会について, 大学の目標などに沿って, 年度初め, 中間, 年度終わりに計画的・定期的に部会の進行の活動報告と指導, 承認が必要. 改善策として大学の活動目標は年度初めに提示する必要がある.

#### 教育研究年報報告部会

改善策として各委員会など活動を追跡調査が可能な指標の開発, 新たな認証評価機関の基準に向けて各活動の評価の改善が必要.

#### 認証評価部会

次期認証評価機関が「大学教育質保証・評価センター」に決定された. 選定に時期が年内であったため次期認証評価の計画ならびに評価の準備実施計画の作成が年度内までに作成されることとしている.

#### 自己点検・評価推進実施部会

自己点検・評価報告書作成は年度内に自己点検評価委員会の承認をうけ完成予定. 改善策として, 年度初めに目標設定が示されていないため, 学長・運営会議から目標の設定を各委員会に示せるよう期待したい.

#### IR 部会

大学 IR コンソーシアムの調査について, 教務システムのデータと連結 GPA など項目と連結ができているので活用について活性化促したい. 改善策として FD を実施し, 各委員会などでの活用を促したい. IR に資するデータのホームページに公表は未達成については, 改善策として, まず学内の来年度教育研究年報に掲載予定とする.

## 第2部

### 教員の教育研究活動記録



学長



## 学長 田邊 政裕 博士 (医学)

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

創立10周年を節目に10年を振り返り、次の10年に向けた第二期重点施策を作成する。県の保健医療政策の連携拠点の整備対象として、行政や県内関係機関と連携・協働し、保健医療に関するシンクタンク機能を発揮する、地域への貢献、時代のニーズに合わせた人材育成を達成する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
  - ・体験ゼミナール
  - ・管理栄養士導入教育

### III 研究記録

#### 1 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・田邊政裕 (2020) ソーシャル・キャピタル (社会関係資本) とエンパワメント  
いづみ 第20号 (夏号: 2, 2020)
- ・田邊政裕, 佐藤紀子 (2020) 21世紀の保健医療政策 ～高齢者エンパワメントによるソーシャル・キャピタルの醸成～ 健康福祉部との勉強会報告 千葉県立保健医療大学紀要 11 (1) : 85, 2020
- ・田邊政裕 (2020) 小川先生を偲んで (追悼文) 千葉県立保健医療大学紀要 11 (1) : 87, 2020
- ・田邊政裕 (2021) 卒前・卒後の一貫した医師養成ーアウトカム基盤型教育からの視点 医学教育 52 (4) : 305-311, 2021

#### 2 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・関口陽太, 中口俊哉, 三浦慶一郎, 笠井大, 川田奈緒子, 吉村裕一郎, 伊藤彰一, 朝比奈真由美, 田邊政裕 拡張現実型聴診訓練システムの構築と客観的臨床能力試験への試験的導入 (誌上発表) 第52回日本医学教育学会大会, 鹿児島, 7/17, 18 2020
- ・田邊政裕 卒前・卒後の一貫した医師養成ーアウトカム基盤型教育からの視点ー (誌上発表) 第52回日本医学教育学会総会, 鹿児島, 7/17, 18 2020

#### 3 学術集会での招待講演 (教育講演や基調講演) やシンポジウム等 (学術集会名, テーマ, 開催日, 場所等)

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 1 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・医道審議会保健師助産師看護師分科会看護師特定行為・研修部会 委員 2014年9月1日～2021年3月31日
- ・日本医学教育認証評価機構 委員 2014年4月1日～
- ・公益財団法人医学教育振興財団 評議員 2016年6月15日～



## 2 職能団体委員等(職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・ 社団福祉法人千葉県身体障害者福祉事業団 評議員 2015年4月1日～2021年6月30日
- ・ 健康ちば地域・職域連携推進協議会 委員 2015年4月1日～2021年3月31日
- ・ NPO 法人千葉医師研修支援ネットワーク 常務理事 2008年2月12日～

## 3 学会, 学術団体への貢献

### 1) 所属学会・学術団体

- ・ 日本小児外科学会, 日本外科学会, 日本医学教育学会, 日本VR医学会

### 2) 学会, 学術団体への貢献(学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・ 日本医学教育学会 名誉会員 2016年7月～
- ・ 日本小児外科学会 名誉会員 2015年5月～
- ・ 日本VR医学会 監事

## 4 講演会(公開講座を含む)／研修会の講師・研究指導等(会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会(委員会名／活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・ 運営会議, 自己点検・評価委員会, キャンパス・ハラスメント防止対策委員会, 将来構想検討委員会, 入試委員会, 教員再任審査委員会, 衛生委員会, 防災対策委員会

## VI 評価(成果および改善すべき事項)

第二期重点施策を作成し, 達成に向けた各年度の中期計画目標を作成した。連携拠点の整備対象としての役割については, 各学科・専攻から2019年度の実績報告を受けて結果をまとめ, 健康福祉部で発表し, 意見交換を行った。これまでの取組みを検証すると共に, 次年度へ向けての貴重な示唆をいただいた。

## VII 次年度の目標

第二期重点施策の達成と県の保健医療政策の連携拠点としての役割(保健医療に関するシンクタンク機能を強化・発揮, 地域への貢献, 時代のニーズに合わせた人材育成)を果たす。

# 看護学科



## 教授 石井 邦子 博士（看護学）

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和2年度は、特に教育活動では、初めての遠隔授業や学内実習を余儀なくされることから、到達レベルを落とさないようにするとともに、新しい生活における教育方法を獲得すべく、効果的であった教授方法を継続できるように評価を行う。助産課程においては、例年よりも少ない実習経験となることから、シミュレーション教育や個人ワークの充実を図る。研究活動は、昨年度終了した科研の成果を公表する。大学管理運営では、感染症対策を迅速に行い、局職員と学生の感染を予防するとともに、滞りなく学事が進行するようにする。社会貢献では、文部科学省および看護系団体に与えられた役割を確実に遂行する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・看護学入門.
- ・看護学入門学習.
- ・育成支援看護概論.
- ・母性看護学方法論Ⅰ.
- ・母性看護学方法論Ⅱ.
- ・母性看護学実習.
- ・助産学概論.
- ・助産診断・技術学Ⅰ（実践基礎）.
- ・助産診断・技術学Ⅱ（ライフサイクル各期）.
- ・助産診断・技術学Ⅲ（分娩期）.
- ・助産診断・技術学Ⅳ（ハイリスク分娩）.
- ・助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）.
- ・助産学実習Ⅱ（継続支援）.
- ・助産学実習Ⅲ（分娩期ケア）.
- ・総合実習.
- ・看護研究.

##### 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）

- ・統合医療安全・特定行為実践特論（放送大学大学院）.

### III 研究記録

#### 1 著書（著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所）

- ・石井邦子，廣間武彦，他：助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児・乳幼児期（助産学講座第8巻）第6版，2021年，医学書院，東京
- ・森恵美，鈴木俊治，大月恵理子，石井邦子，他：助産師基礎教育テキスト（2020年版）第4巻 妊娠期の診断とケア 第5章 妊娠経過に対応したケア，第7章妊婦や家族の親準備・出産準備へのケア 1. 初産婦とその家族の親準備へのケア，2021，日本看護協会出版会.
- ・石井邦子，他：2020年版系統別看護師国家試験問題集 第108回看護師国家試験 解答と解説，2020，医学書院，東京.

## 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・杉本亜矢子，川城由紀子，石井邦子，北川良子，川村紀子，青柳優子，植竹貴子：助産師の内診による診断技術の発達，千葉県立保健医療大学紀要，12巻，1号，3-10，2021.

## 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学長裁量研究，新型コロナウイルス感染拡大防止にかかる医療系大学の基礎教育の実態，研究代表者.
- ・学長裁量研究，介護予防のための生活習慣継続をめざした多職種連携プログラム（新・ほい大健康プログラム）の評価，研究代表者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- ・文部科学省．大学設置・学校法人審議会(大学設置分科会)特別委員．2020.4～2021.3.
- ・文部科学省．職業実践力育成プログラム(BP)認定審査委員会委員．2020.4～2021.3.

### 4 職能団体委員等(職能団体名称，委員名称，活動期間)

- ・日本看護系大学協議会．高等教育行政対策委員会委員．2020.4～2021.3.
- ・千葉県ナースセンター運営委員会．委員．2020.4～2021.3.
- ・日本看護学教育評価機構．理事．2020.4～2021.3.

### 5 学会，学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本母性看護学会．日本看護科学学会．日本助産学会．日本母性衛生学会．日本生殖看護学会．千葉看護学会．千葉県母性衛生学会.

#### 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名．役職．活動期間）

- ・日本母性看護学会．理事，副理事長．2020.4～2021.3.
- ・千葉看護学会．理事．表彰論文選考委員会委員長．2020.4～2021.3.
- ・千葉県母性衛生学会．理事．2020.4～2021.3.
- ・第23回日本母性看護学会学術集会．学術集会長．2020.4～2021.3.

### 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催，団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- ・千葉県看護協会施設等会員代表者会 パネルディスカッション，千葉県看護協会主催，大学における看護基礎教育の経験からこれからの看護人材育成を探る，県内医療施設等代表者，2021.1.20，WEB.

### 7 その他

- ・公益信託山路ふみ子専門看護教育研究助成基金運営委員．2020.4～2021.3.
- ・公益信託 中西睦子看護学先端的研究基金運営委員．2020.4～2021.3.
- ・放送大学客員教授．2020.4～2021.3.

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・大学評議会．大学運営会議．教授会．将来構想・検討委員会．自己点検・評価委員会．防災対策委員会．特色科目運営会．人事委員会．教員再任審査委員会.

## 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教授会. 看護学科運営会議.

## 3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演, ラジオ出演等＞

- ・ホームページ：千葉県立保健医療大学育成支援看護学領域母性看護学・助産学.  
(<https://square.umin.ac.jp/cpuhs-mm>)

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、オンデマンド配信のために講義内容・構成を抜本的に修正した。その結果、関心が高まり成績が向上する傾向がみられる反面、学習困難者への支援が行えない、技術の到達レベルが低下する等の課題が浮上した。臨地実習の中止や縮小に対しては、実習後の相互評価と補習や学内実習の工夫により、学生の到達度を維持することができた。研究活動は、今年度着手した COVID-19 対応の研究の実施と公表を優先して行ったため、修了した科研の講評は実施できなかった。大学管理運営は、COVID-19 対策会議の頻回開催し、学内での感染防止と授業や入試等の学内行事を安全な実施を実現することができた。社会貢献は、文部科学省および看護系団体に与えられた役割を確実に遂行した。

## VII 次年度の目標

教育活動では、COVID-19 パンデミックの収束状態にかかわらず、遠隔授業や学内実習が主要となると予想されることから、令和2年度の授業を評価し、改善を図るとともに、学習困難者へのタイムリーな支援を行う。研究活動は、科研が採択された場合に計画通りに進めるとともに、COVID-19 パンデミックに関係する喫緊の研究課題にも積極的に取り組む。また、学術集会を計画通りに開催する。大学管理運営では、副学長として、学長、事務局長、学部長等と連携し、円滑な運営体制を構築する。社会貢献では、文部科学省および看護系団体に与えられた役割を確実に遂行する。



## 教授 佐藤 紀子 博士 (看護学)

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和2年度は、COVID-19の影響による遠隔授業や学内実習を行うことになるため、教育の質を維持できるよう創意工夫するとともに、個々の学生の学びの状況を把握し、例年以上にきめ細やかに対応していく。また、新たな教授方法の効果を評価し、次年度反映できるようにする。研究活動については、昨年度十分に実施できなかった研究代表の課題を、計画的に実施するとともに、分担研究についても積極的に役割を果たす。管理運営については、看護学科長として個々の教員の意欲を高め、学科内の管理運営はもとより、COVID-19の拡大防止にも県立大としての使命が果たせるよう協力体制の強化に努める。大学入試改革については、入試改革検討委員会の長として国や他大学の動向を見極め、適格な方針がとれるようリーダーシップを発揮する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・看護学入門.
- ・看護学入門実習.
- ・地域看護学概論.
- ・地域看護学方法論Ⅰ.
- ・地域看護学方法論Ⅲ.
- ・地域看護学実習.
- ・総合実習 (地域看護学).
- ・看護研究.
- ・看護学統合.

### III 研究記録

#### 1 著書 (著者本人下線：著書, 発行年, 発行所, 発行場所)

- ・佐藤紀子：第1章 1 母子保健福祉活動, 最新公衆衛生看護学第3版 2021年版各論1 (宮崎美砂子他編集), 2-49, 2021年2月, 日本看護協会出版会, 東京.

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・佐藤紀子, 片平伸子, 植村由美子, 新型コロナウイルス感染症における看護教員派遣体制の実態と評価, 千葉保医大紀要, 12巻, 1号, 89-94, 2021.
- ・細谷紀子, 佐藤紀子, 雨宮有子, 石川志麻：要配慮者を支える自主防災組織の活動実態と課題, 日本地域看護学会誌, 23巻, 3号, 39-46, 2020.
- ・杉本知子, 浅井美千代, 佐藤まゆみ, 佐藤紀子, 植村由美子, 川城由紀子, 西野郁子, 千葉県の中小規模施設で就業する看護師の「看護実践業務に関する職場外研修の受講」に影響する要因：就業場所とキャリアステージに焦点を当てて, 千葉保医大紀要, 12巻, 1号, 45-51, 2021.
- ・浅井美千代, 杉本知子, 西野郁子, 佐藤紀子, 河部房子, 片平伸子, 北川良子, 富樫恵美子, 中小規模医療施設における看護研究指導者の充実に向けた研修プログラムの開発－研修の有効性の評価－, 千葉保医大紀要, 12巻, 1号, 130, 2021.
- ・雨宮有子, 佐藤紀子, 細谷紀子, 杉本健太郎, 泰羅万純, 新人保健師のリフレクション力育成のためのファシリテーションガイドの開発, 千葉保医大紀要, 12巻, 1号, 113, 2021.

- ・杉本健太郎, 佐藤紀子, 雨宮有子, 細谷紀子, 泰羅万純, 医療職配置義務のない高齢者施設・住宅における感染症集団発生及び入居者の重症化を防ぐ方策の検討, 千葉保医大紀要, 12 巻, 1 号, 118, 2021.

### 3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・佐藤紀子, 雨宮有子, 細谷紀子, 杉本健太郎, 泰羅万純: 介護予防のための住民主体型コミュニティ・エンパワメントの推進方法に関する文献検討, 日本地域看護学会第 23 回学術集会, 2020 年 8 月 29 日~30 日, オンライン.
- ・飯野理恵, 宮崎美砂子, 石丸美奈, 佐藤紀子他 7 名, 予防活動の持続・発展のための地域看護実践ワークブック活用の実際と影響, 日本地域看護学会第 23 回学術集会, 2020 年 8 月 29 日~30 日, オンライン.
- ・雨宮有子, 佐藤紀子, 細谷紀子, 杉本健太郎, 泰羅万純: ファシリテーションガイドを用いた新任期保健師リフレクシオン力育成プログラムの評価, 日本地域看護学会第 23 回学術集会, 2020 年 8 月 29 日~30 日, オンライン.
- ・細谷紀子, 杉本健太郎, 泰羅万純, 雨宮有子, 佐藤紀子: 災害時の共助を意図した平常時の保健師活動に関する市区町村全国調査 (第一報), 第 9 回日本公衆衛生看護学会, 2021 年 1 月 9 日~10 日, オンライン.
- ・浅井美千代, 杉本知子, 西野郁子, 佐藤紀子, 河部房子, 片平伸子, 北川良子, 富樫恵美子: 中小規模医療施設における看護研究指導の充実に向けた研修プログラムの開発, 第 40 回日本看護科学学会学術集会, 2020 年 12 月, オンライン.

### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・文部科学省科学研究費 (基盤研究 (C)) 2019-2022, エンパワメント基盤型介護予防支援ガイドの開発, 研究代表者.
- ・科学研究費助成事業 (基盤研究 (C)) 2020-2023, 医療職配置のない高齢者住宅の介護職員が活用できる新たな感染対策マニュアルの開発, 研究分担者.
- ・科学研究費助成事業 (基盤研究 (C)) 2020-2023, 発達障害児の親に対する地域との繋がりづくりを意図した防災プログラム評価指標の開発, 研究分担者.
- ・文部科学省科学研究費補助金 (基盤研究 (C)) 2016~2020, 保健師活動への意欲を原動力にしてリーダーシップを発揮するためのガイドの開発, 研究分担者.
- ・2020 年度学長裁量研究費, 新人保健師のリフレクシオン力育成のためのファシリテーションガイドの開発, 共同研究者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・千葉県現任教育推進会議, 委員長, 2012 年 4 月~現在.
- ・柏市保健衛生審議会, 副委員長, 2019 年 4 月~2021 年 3 月.
- ・柏市保健衛生審議会母子保健専門分科会, 委員長, 2020 年 4 月~2022 年 6 月.
- ・千葉県介護予防市町村支援検討会議, 委員, 2020 年 4 月~2021 年 3 月
- ・千葉県令和 3 年度看護職員研修事業「実習指導者講習会」受託者選定会議, 委員, 2021 年 2 月.
- ・千葉県高齢者保健福祉計画策定・推進協議会, 委員, 2020 年 4 月~2023 年 3 月.

### 4 職能団体委員等 (職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・千葉県看護協会 千葉県看護教員養成講習会運営会議, 委員, 2020 年 9 月~2022 年 3 月.

### 5 学会, 学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本地域看護学会, 千葉看護学会, 日本公衆衛生学会, 日本看護科学学会, 文化看護学会, 日本家族看護学会, 日本公衆衛生看護学会.

#### 2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本地域看護学会, 代議員, 2019 年 6 月~2021 年度社員総会終了時.
- ・日本地域看護学会, 教育委員, 2019 年 7 月~2021 年度社員総会終了時.
- ・千葉看護学会, 専任査読者, 2005 年 4 月~2024 年 3 月.

- ・日本地域看護学会，専任査読者，2019年6月～2021年度社員総会終了時。
- ・日本公衆衛生看護学会，査読委員，2020年6月～2022年5月。
- ・文化看護学会，副理事長，2020年9月～2023年総会まで。

## 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催，団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- ・令和2年度千葉県保健師現任教育推進のための担当者研修会講師，千葉県健康福祉部健康づくり支援課，保健師の実践能力・組織力向上のための効果的な現任教育のあり方，県内市町村および健康福祉センターの統括的な役割を担う保健師（現任教育責任者含む）と研修担当者，2020年9月4日，千葉県教育会館。
- ・業務研究に関する指導，市原市子育てネウボラセンター，産婦健康診査で要支援者となった産婦の特徴，市原市保健師，2020年6月～2020年12月。
- ・業務研究に関する指導，香取健康福祉センター，新型コロナウイルス感染症患者，家族の在宅療養支援～障害者福祉施設での集団発生を通して～，香取健康福祉センター保健師，2020年6月～2020年12月。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・大学運営会議，教授会，入試改革検討委員会，FD・SD委員会，将来構想・検討委員会，自己点検・評価委員会，人事委員会。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教授会，看護学科運営会議，看護学科人事評価部会。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育に関しては，COVID-19の影響により10月以降の実習について大部分が学内実習になったが，臨地の保健師からの協力や教材等を駆使し，例年同等の学びを達成することができたと評価している。研究活動については，学术论文3件（うち筆頭1件），学会発表7件（うち筆頭1件）行ったが，研究代表となっている課題の進捗は遅れている。管理運営については，看護学科長として，新型コロナウイルス感染症における看護教員派遣体制についてまとめ，紀要に掲載した。また，2回の情報交換会を開き，授業・実習の方法や工夫，学生の習熟度について教員間で共有を図った（9月16日：テーマ「遠隔授業の知見・経験の共有」（学科全教員対象），3月19日：テーマ「今年度の演習・実習の工夫および学生の状況について」（看護系教員対象）。入試改革検討委員長としては，新たに調査書等を活用した面接を実施するにあたり，各学科専攻の面接方法の適切性・妥当性を検討し実施に至った。

## VII 次年度の目標

引き続きCOVID-19の影響を受けることより，新たな授業形態の評価をし，より効果的な教育方法を検討し改善を図る。また，次年度も看護学科全体で必要に応じて情報共有を行い，不十分な学習内容を領域間で補完しながら卒業時までに必要な看護実践能力が修得できる体制づくりをしていく。研究については，遅れている研究課題について，コロナ下であっても目標が達成できるよう，計画を見直し推進する。管理運営については，看護学科長として引き続き個々の教員の意欲を高め，県立大としての使命が果たせる体制づくりを強化する。また，次年度より新たに拝命する将来構想検討委員会の委員長として，本学の大学院・法人化・キャンパス統合を含む方針の明確化と推進に努める。社会貢献としては，学内業務とのバランスをうまくとりながら，各学会での役割が推進できるようにする。

## 教授 西野 郁子 博士 (看護学)

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

教育においては前年度の振り返りから領域の教員間で連携してより効果的な講義・演習を実施していきたい。研究活動については、筆頭研究者および共同研究者として役割を果たし成果を挙げていきたい。大学の運営面では、学生部長として学生委員会・進路支援委員会等を運営しながら、教職員の協力を得て学生支援に取り組んでいきたい。特に新型コロナウイルス感染拡大による学生個々への影響、課外活動への影響に対し必要な支援をしていきたい。社会貢献の機会があれば、貢献できるように努力していきたい。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・看護学入門.
- ・看護学入門実習.
- ・育成期看護概論.
- ・小児看護学方法論Ⅰ.
- ・小児看護学方法論Ⅱ.
- ・小児看護学実習.
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.
- ・専門職間の連携活動論.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線)

- ・浅井美千代, 杉本知子, 西野郁子, 佐藤紀子, 河部房子, 片平伸子, 北川良子, 富樫恵美子：中小規模医療施設における看護研究指導者の充実に向けた研修プログラムの開発ー研修の有効性の評価ー, 千葉県立保健医療大学紀要. 第12巻, 第1号, p. 103, 2020年.
- ・石川紀子, 西野郁子：保健医療専門職を目指す大学生が小児医療施設でのボランティア活動より得た経験, 千葉県立保健医療大学紀要. 第12巻, 第1号, p. 33-37, 2021年.
- ・杉本知子, 浅井美千代, 佐藤まゆみ, 佐藤紀子, 植村由美子, 川城由紀子, 西野郁子：千葉県の中小規模施設で就業する看護師の「看護実践業務に関する職場外研修の受講」に影響する要因：就業場所とキャリアステージに焦点を当てて, p. 45-51, 2021年.

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・浅井美千代, 杉本知子, 西野郁子, 佐藤紀子, 河部房子, 片平伸子, 北川良子, 富樫恵美子：中小規模医療施設における看護研究指導者の充実に向けた研修プログラムの開発ー研修の有効性の評価ー, 千葉県立保健医療大学 第11回共同研究発表会, 2020年9月7日～9月11日, 千葉市.
- ・石川紀子, 西野郁子：保健医療専門職を目指す大学生が小児医療施設でのボランティア活動より得た経験, 第67回日本小児保健協会学術集会, 2020年11月4日～11月6日, WEB開催.
- ・浅井美千代, 杉本知子, 西野郁子, 佐藤紀子, 河部房子, 片平伸子, 北川良子, 富樫恵美子：中小規模医療施設における

看護研究指導の充実にに向けた研修プログラムの開発と評価，第40回日本看護学科科学学会学術集会，2020年12月12日～12月13日，WEB開催。

#### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・文部科学省科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金（基盤研究（C）），小学校入学に向けた幼児期からの慢性疾患患者への支援プログラムの開発，研究代表者。
- ・文部科学省科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金（基盤研究（C）），「気になる子ども」に対する保育施設での発達支援に向けた基盤的研究，研究分担者。

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

##### 1) 千葉県内

- ・千葉県こども病院でのボランティア活動「入院している子どものきょうたいとの遊び活動」の推進のための協働・調整。2020年4月～2021年3月。

#### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所応援（1日）

#### 3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- ・千葉県健康福祉部疾病対策課，千葉県移行期医療支援連絡協議会委員，2020年4月～2021年3月。

#### 5 学会，学術団体への貢献

##### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本小児看護学会，日本小児保健協会，日本看護科学学会，日本新生児看護学会，千葉看護学会，全国保育園保健師看護師連絡会。

##### 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本小児看護学会，日本小児看護学会誌，査読委員，2020年4月～2021年3月。
- ・千葉看護学会，千葉看護学会会誌，査読委員，2020年4月～2021年3月。
- ・日本小児看護学会，日本小児看護学会第31回学術集会，査読委員，2021年2月。

### V 管理・運営記録

#### 1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教授会，大学運営会議，自己点検・評価委員会，将来構想検討委員会，学生委員会（学生部長・委員長），進路支援委員会（学生部長・委員長），キャンパスハラスメント防止対策委員会，危機管理委員会，FD・SD委員会。

#### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議，看護学科教授会，看護学科学生・進路支援委員会，看護学科「看護研究」作業グループ会議。

### VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育においては，領域内の教員間で連携して効果的な講義・演習・実習を実施できた。筆頭研究者としての研究活動については，新型コロナ感染拡大による授業運営や大学の管理運営における対応に時間を費やし，推進することができなかった。共同研究については研究に参加し成果の公表に貢献した。大学の運営面では学生部長として学生委員会・進路支援委員会等を運営した。特に新型コロナウイルス感染拡大状況における学生支援として，6月の新入生ガイダンス実施，8月から9月の集団健康診断の分散実施，課外活動への支援などを教職員の協力を得て実施することができた。

## VII 次年度の目標

教育においては、前年度の振り返りから領域の教員間で連携してより効果的な講義・演習を実施していきたい。特に感染防止対策を取りながら効果的な実習運営をしていきたい。研究活動については、筆頭研究者および共同研究者として役割を果たし成果を挙げていきたい。大学の運営面では、自己点検・評価委員会の委員長として4つの部会との連携を強化して、大学認証評価の受審準備や内部質保証の役割に取り組んでいきたい。社会貢献の機会があれば、貢献できるように努力していきたい。



## 教授 河部 房子 博士 (看護学)

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

2020年度は、引き続き新旧カリキュラムが同時進行するため、基礎看護学領域における学習の連続性をふまえた教育内容・方法について明確にしていく。新任教員を加え、領域全体のチーム・ティーチングが効果的になされるよう、新任教員の支援体制を構築しつつ、授業リフレクションを定期的実施する。また、新型コロナウイルス感染拡大防止のための様々な措置による学生や教員への負の影響が最小にとどまるよう、各担当科目の教育内容や授業展開方法を検討し、実施・評価する。研究活動では、科研費の研究課題について、全国調査結果の発表を行う。大学の管理運営では、引き続き、科研費の獲得に向けた学内支援体制の構築に努める。また新たに入試実施委員の役割を拝命したことに伴い、入試関連業務をよく理解し、その役割を果たす。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・体験ゼミナール.
- ・看護学入門実習.
- ・看護学入門.
- ・看護学原論.
- ・看護技術論Ⅰ(生活援助技術).
- ・看護技術論Ⅱ(フィジカルアセスメント).
- ・看護技術論Ⅲ(検査治療技術).
- ・看護技術論Ⅳ(看護過程展開技術).
- ・看護技術論Ⅴ(統合看護技術).
- ・日常生活調整方法論
- ・基礎看護学実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.

##### 2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)

- ・博士後期課程 論文審査員 (宮崎県立看護大学大学院看護学研究科).

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・鈴木恵子, 河部房子: A県内の病院における看護職員確保の困難に関する実態調査, 日本看護学会論文集(看護管理), 第50巻, 159-162, 2020.
- ・鈴木恵子, 河部房子: 千葉県内の病院における看護職員確保の困難感と採用および定着促進に関する実態調査, 千葉県立保健医療大学紀要, 第12巻, 1号, 19-25, 2021.

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・河部房子, 今井宏美, 椿祥子, 植村由美子, 石田陽子, 松田友美: 臨床看護師のフィジカルアセスメント技術修得に関する学習ニーズ調査, 第40回日本看護科学学会学術集会, 2020年12月, web.

- ・浅井美千代, 杉本知子, 西野郁子, 佐藤紀子, 河部房子, 片平伸子, 北川良子, 富樫恵美子: 中小規模医療施設における看護研究指導の充実に向けた研修プログラムの開発, 第40回日本看護科学学会学術集会, 2020年12月, web.

#### 5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金基盤研究(C), 看護師の臨床判断事例に基づくフィジカルアセスメント学習教材の開発, 研究代表者.
- ・科学研究費補助金基盤研究(B), 看護実践のリアリティを追求するシミュレーション教育プログラムの開発, 研究分担者.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 2 地域への保健医療活動(診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所応援(延べ2日)

#### 3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績(活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・文部科学省, 大学設置・学校法人審議会(大学設置分科会)専門委員, 2019年11月~2020年10月.

#### 5 学会, 学術団体への貢献

##### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会, 日本看護学教育学会, 日本看護管理学会, 日本看護歴史学会, 千葉看護学会, 日本看護学会, ナイチンゲール研究学会, 日本良導絡自律神経学会.

##### 2) 学会, 学術団体への貢献(学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・千葉看護学会, 専任査読者, 2013年4月1日~現在.
- ・千葉看護学会, 編集委員, 2015年4月1日~現在.
- ・千葉看護学会第26回学術集会, 企画委員, 2019年10月1日~2020年10月31日.
- ・千葉看護学会第26回学術集会, シンポジウム座長, 2020年9月6日.
- ・日本看護学教育学会, 専任査読者, 2018年4月1日~現在.

#### 6 講演会(公開講座を含む)/研修会の講師・研究指導等(会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 場所)

- ・2020年度 新人教育担当者研修会, 新人看護師の基礎教育の状況, 教育担当看護職者, 2020年11月16日, 千葉県ナースセンター.

### V 管理・運営記録

#### 1 全学委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

大学教授会, 学術推進企画委員会(委員長), 紀要編集部会(副部会長), 入試実施委員会, FD・SD委員会, 教員資格審査委員会.

#### 2 学科/専攻内委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

看護学科教授会, 看護学科運営会議.

### VI 評価(成果および改善すべき事項)

教育活動に関しては, オンライン授業を中心とする看護基本技術学習として, 大きく授業展開を修正せざるを得なかったが, 領域内での検討や他領域の教員との情報共有を図りながら, 可能な範囲で最大の効果を上げるべく実施することができた. 特に, 実習施設との綿密な調整をはかりながら, 期間の短縮や学生人数の減少はありながらも, 可能な限り患者の受け持ち実習を展開できたことは, 看護実践能力の育成につながる教育展開として評価できる. 一方で, 教育活動の検討や度重なる変更時間に時間を要し, 研究時間を確保することが困難であった. 目標とする全国調査結果の学会発表はできたが, それ以

外の研究活動は滞った。大学の管理運営では、学術推進企画委員長として、科研費獲得に向けた学内の支援体制の構築やセミナー開催等に取り組んだ。また入試実施委員として、本学の入学者選抜試験および大学入学共通テストの実施において、感染予防対策を講じながらの実施要領の検討や当日の運営等に携わり、その任務を果たした。

## VII 次年度の目標

教育活動においては、今年度の教育活動の評価をもとに、コロナ禍での制約のある中での効果的な教育方法について検討し、実施する。科研費を得て行っている研究は、この状況下でできることを検討し、推進する。また、分担研究者として参加している研究課題についても役割を果たす。管理運営では、公正・公平な入学者選抜の実施はもちろん、効率的な入試実施のあり方についても検討し、委員長としての役割を果たす。

## 教授 浅井 美千代 博士 (看護学)

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

研究活動では、これまでの研究成果について紀要や学会誌への投稿を行う。教育活動では、遠隔授業の機会を活用して授業内容を洗練し、授業方法を工夫する。社会貢献活動として、ボランティア活動など新しい活動に取り組む。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・看護学入門.
- ・看護学入門実習.
- ・臨床看護学概論.
- ・成人看護学方法論Ⅰ.
- ・成人看護学方法論Ⅱ.
- ・成人看護学実習 (急性期).
- ・成人看護学実習 (慢性期).
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.
- ・体験ゼミナール.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線)

- ・浅井美千代: 北欧の持ち上げない移動・移乗技術～介助者の腰痛予防と利用者の自立支援～第2回ベッド上での上方移動, ふれあいケア, 全国社会福祉協議会, 第26巻6号, 36～37頁, 2020.
- ・浅井美千代: 北欧の持ち上げない移動・移乗技術～介助者の腰痛予防と利用者の自立支援～第3回ベッド上で側方へ移動する, ふれあいケア, 全国社会福祉協議会, 第26巻7号, 36～37頁, 2020.
- ・杉本知子, 浅井美千代, 佐藤まゆみ, 佐藤紀子, 植村由美子, 川城由紀子, 西野郁子: 千葉県内の中小規模施設で就業する看護職者の「看護実践業務に関する職場外研修の受講」に影響する要因: 就業場所とキャリアステージに焦点を当てて, 千葉県立保健医療大学紀要, 第12巻 第1号, 45～51頁, 2021.
- ・浅井美千代, 杉本知子, 西野郁子, 佐藤紀子, 河部房子, 片平伸子, 北川良子, 富樫恵美子: 中小規模医療施設における看護研究指導者の充実に向けた研修プログラムの開発ー研修の有効性の評価ー, 千葉県立保健医療大学紀要, 第12巻 第1号, 103頁, 2021.

#### 3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・浅井美千代, 杉本知子, 西野郁子, 佐藤紀子, 河部房子, 片平伸子, 北川良子, 富樫恵美子: 中小規模医療施設における看護研究指導者の充実に向けた研修プログラムの開発ー研修の有効性の評価ー, 第11回日共同研究発表会, 2020年9月, 千葉県立保健医療大学.
- ・浅井美千代, 杉本知子, 西野郁子, 佐藤紀子, 河部房子, 片平伸子, 北川良子, 富樫恵美子: 中小規模医療施設における看護研究指導者の充実に向けた研修プログラムの開発と評価, 第40回日本看護学科科学学会学術集会, 2020年12月, WEB開催.

## 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・学内共同研究費（学長裁量）、臨床で看護師として働く県立大学卒業生が直面する困難に関する研究、研究分担者。
- ・学長裁量研究費、臨床で看護師として働く県立大学卒業生が直面する困難に関する研究、研究分担者。

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）

- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所応援（延べ4日）。

### 5 学会、学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護研究学会、日本看護技術学会、日本看護教育学会、日本がん看護学会、日本介護福祉学会、日本老年行動科学会、日本看護科学学会、千葉看護学会、日本慢性看護学会、北日本看護学会、日本リウマチ看護学会。

#### 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本リウマチ看護学会、企画委員、2020年4月～

### 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・看護研究指導、千葉県循環器病センター、看護師、2020年7月1日・8月17日・10月30日・12月25日。
- ・看護研究指導、東京歯科大学市川総合病院、看護師、2020年8月24日・9月24日。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学生委員会。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科学生・進路支援委員会。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動においては、遠隔授業の実施や病院実習に代わる学内実習の検討などコロナ禍によるイレギュラーな対応に多くの時間とエネルギーを費やしたが、これまでとは異なる方法で行ったことで、授業内容や学内実習について洗練することができた。研究活動は、前年度の研究成果の一部を発表したり論文化することができたが、目標達成までには至らなかった。委員会活動では、看護学科学生・進路支援委員として、学生たちが次々に情報発信される感染防止のための遵守事項を確認できるようにチームズを活用するなど工夫した。社会貢献活動では、県内保健所応援を行うことはできたが、目標としていたボランティア活動など新しい活動に取り組むことは難しい状況であった。

## VII 次年度の目標

教育活動では、遠隔授業や学内実習の授業方法を工夫する。研究活動では、これまでの研究成果について学会誌への投稿を行うことと新しい研究に着手する。委員会活動では、活動内容や手順を記録して振り返り、次年度に活かせるようにする。

## 教授 神田 みなみ 修士 (文学), Master of Arts (TESOL)

対象期間 : 2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日まで

### I 年度当初の目標

令和 2 年度は、全学教務委員長として、COVID-19 対応の遠隔授業や部分的対面授業の実施、感染防止のための授業準備や対応、遠隔による教務関係の業務を潤滑に進める。そのために非常勤講師の遠隔授業支援も共通教育教務委員として行う。看護学科教務委員として指定規則改正によるカリキュラム改正の申請手続きの準備を行う。教育指導面では遠隔授業での効果的な指導を心がける。研究に関しては、科研費研究の計画検討を進める。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
  - ・体験ゼミナール.
  - ・英語 I (講読).
  - ・英語 III (講読・記述).
  - ・英語 V (保健医療英語) 看護学科.
  - ・英語 V (保健医療英語) 歯科衛生学科.
  - ・英語 VI (応用英語).
  - ・英語 VII (応用上級英語).
  - ・英語 VI (応用英語) A.
  - ・英語 VI (応用英語) B.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者: 題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・神田みなみ: 特集英語力を伸ばす多読習慣, 多聴多読マガジン, Vol. 79, pp. 24-27, 2020.
- ・神田みなみ: 快読快聴ライブラリ解説 Scotland is Magic!, 多聴多読マガジン, Vol. 84, p. 77, 2021.

#### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・2018-2020 年度科学研究費補助金基盤研究(C), 保健医療系 ESP 英語多読プログラムの構築と検証, 研究代表者.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 5 学会, 学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - ・日本多読学会. 日本英文学会. 大学英語教育学会 (JACET). 全国語学教育学会 (JALT). American Association of Applied Linguistics (AAAL: アメリカ応用言語学会). TESOL International Association (TESOL: 米国・第二言語としての英語教育学会). International Association of Teachers of English as a Foreign Language (IATEFL: 英国・外国語としての英語教育学会). 映像メディア英語教育学会. 外国語教育メディア学会. Japan Association for Nursing English Teaching (JANET: 看護英語教育学会). 日本医学英語教育学会. 英語コーパス学会. 国際異文化学会.



2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本多読学会, 監事, 2020年4月～2021年3月.
- ・国際異文化学会, 理事, 2020年4月～2021年3月.

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・教授会, 共通教育運営会議, 教務委員会, 入試評価部会, 教員資格審査委員会 IR部会.

### 2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科運営会議, 看護学科教授会, 看護学科教務委員会.

## VI 評価 (成果および改善すべき事項)

教務委員長として, COVID-19 対応の遠隔授業や部分的対面授業の実施, 感染防止のための授業準備や対応, 遠隔による教務関係の業務を潤滑に進めるための業務に相当量の時間と労力をかけた一年となった. 非常勤講師の遠隔授業支援も共通教育教務委員として事務局と協力して行った. 学生がキャンパスに登校を前提としていた教務委員会の業務全てについて再検討, 実施の方法を模索する必要がある, 大変であったが何とか一年間の業務を実施することが出来た. 研究に関しては, 思うように進めることが出来なかった. 英語授業は遠隔授業によりオンラインライブラリーの活用等, 利点も見出したので, 今後の英語指導に活かしていきたい.

## VII 次年度の目標

大学の管理運営 (人事委員長, 認証評価部会長) としての任務を滞りなく遂行する. 非常勤講師の遠隔授業支援を共通教育教務委員として事務局と協力して行う. 英語領域は欠員となる分を補い, 非常勤講師2名と共に遠隔授業をコロナ禍の中, 効果的に行うための運営に努める.

## 教授 杉本 知子 博士 (看護学)

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

昨年度に着手できなかった「キャンパス・ハラスメントの防止等に関する規程」「キャンパス・ハラスメント調査委員会規則」「キャンパス・ハラスメントガイドライン」の見直しを行うと共に、キャンパス・ハラスメントに関する学内調査や相談窓口の新規開設等について検討していくことを目標とした。

教育活動については、カリキュラムの移行時期にあっても円滑な授業・実習の運営ができるよう努めること、研究については、助成金を獲得したうえで行った調査の結果をまとめ、学術集会での発表もしくは論文投稿を行うことにより、研究成果の速やかな公表に努めることも目標とする。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・体験ゼミナール.
- ・看護学入門.
- ・看護ふれあい体験学習.
- ・療養支援看護概論.
- ・高齢者在宅看護学概論.
- ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ.
- ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅱ.
- ・高齢者看護学実習.
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.

### III 研究記録

#### 1 著書 (著者本人下線：著書, 発行年, 発行所, 発行場所)

- ・杉本知子：Ⅰ高齢者へのコミュニケーション援助, Ⅱ高齢者への基本動作の援助, Ⅲ高齢者への転倒・転落予防の援助, 高齢者への清潔・整容の援助, Ⅵ高齢者への休息・睡眠の援助, Ⅶ高齢者への環境整備, 高齢者への社会参加を促す援助, 亀井智子編, 新体系 看護学全書 老年看護学② 健康障害をもつ高齢者の看護 (改訂版), 38-45, 51-58, 67-69, 2020, メヂカルフレンド社, 東京.

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・杉本知子, 浅井美千代, 佐藤まゆみ, 佐藤紀子, 植村由美子, 川城由紀子, 西野郁子：千葉県の中規模施設で就業する看護師の看護実践業務に関する職場外研修の受講に影響する要因 就業場所とキャリアステージに焦点を当てて, 千葉県立保健医療大学紀要, 12巻, 1号, 45-51, 2021.
- ・相馬由紀子, 上野佳代, 杉本知子, 佐伯恭子, 高柳千賀子, 鳥田美紀代：病院や介護施設で就労している外国人看護師・介護福祉士候補者の職場定着に向けた支援の実態—国内の文献による検討—, 千葉県立保健医療大学紀要, 12巻, 1号, 53-61, 2021.

### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・相馬由紀子，杉本知子，上野佳代，佐伯恭子，高柳千賀子，鳥田美紀代：外国人看護師・介護福祉士候補者の職場定着に向けた支援の実態に関する文献検討，日本老年看護学会（第25回学術集会），6月，オンライン開催。

### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・平成30-令和3年度科学研究費補助金基盤研究(C)，認知症カフェの質保障と安定した運営に向けた評価指標の開発，研究分担者。
- ・2019-23年度科学研究費補助金基盤研究(B)，チームの納得を促進するための看護師のコーディネート力向上プログラム開発と評価，研究分担者。
- ・令和2年度明治安田こころの健康財団，看護小規模多機能型居宅介護におけるケアマネジメントの特性—医療と介護の調和したケアの提供を目指して—，研究分担者。
- ・学内共同研究費，我が国の病院や介護施設に従事する外国人看護師・介護福祉士候補者におけるヘルスケアの実態，研究分担者。

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

#### 1) 千葉県内

- ・ベイトウンかふえアドバイザー，2020年4月～2021年3月迄。

### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・東京都台東区介護認定審査会，委員，2020年4月～2021年3月迄。
- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所応援（延べ4日）。

### 5 学会，学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会，日本老年看護学会，聖路加看護学会，日本在宅ケア学会。

#### 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本老年看護学会，「老年看護学」査読委員，2020年4月～2021年3月迄。

### 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- ・ケースレポートの指導，千葉県立佐原病院，2020年6月～2021年2月迄。
- ・看護研究の指導，東京歯科大学市川総合病院，2020年4月～2020年12月迄。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会

- ・キャンパス・ハラスメント防止対策委員会。

### 2 学科／専攻内委員会

- ・教務委員会，社会貢献委員会。

## VI 評価

コロナ禍にある中でも、キャンパスハラスメントに関する研修会を開催できた。また、ハラスメントに関するアンケート調査の方法を Forms によるものに切り替えることができた。しかし、ハラスメントに関するアンケート調査の実施時期が遅れてしまい、回収率の向上には結びつかなかった。

教育については、滞りなく業務をすすめることができた。

## 教授 片平 伸子 博士（保健学）

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和2年度は、新々カリキュラムが実施され、旧カリキュラムと新カリキュラムが並行する年度である。また、新型コロナ禍により、これまでとは違う形式での教授・学習環境になることが考えられる。大学・学科の理念を踏まえて、現状に即し、質を保った教育を目指して、関連する教職員と相談しながら教授内容の充実が図れるように科目運営を行ってゆく。大学運営では国際交流委員会の委員長として実情に応じた国際交流の推進の検討、自己点検・評価委員会の実施推進部会長として重点施策報告について、委員会における新しい外部評価の検討と合わせて内容、様式、担当者を刷新し、重点施策の評価報告書を作成する。学科の委員会では委員長のサポートを行い円滑な委員会運営の一助となるように努める。研究に関しては看護小規模多機能型居宅介護における看護の研究の結果を学会発表し、海外誌への投稿に向け、論文案を作成する。また、看護小規模多機能型居宅介護におけるケアマネジメントについての面接調査を計画、実施する。社会貢献としては神田外語大学と共催の初期医療言語サービスボランティア研修第二回に向け検討を行う。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・看護学入門.
- ・看護学入門実習.
- ・療養支援看護概論.
- ・高齢者・在宅看護学概論.
- ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ.
- ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅱ.
- ・ターミナルケア論.
- ・リスクマネジメント論.
- ・在宅看護学実習.
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.
- ・専門職連携論.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・片平伸子，植村由美子：日本の訪問看護師の看護実践能力についてのナラティブレビュー，日本プライマリ・ケア連合学会誌，In print，2021.
- ・佐藤紀子，片平伸子，植村由美子：新型コロナウイルス感染症における看護教員派遣体制の実際と評価．千葉県立保健医療大学紀要 12(1)，89-94，2021.
- ・片平伸子，小川 妙子，丸尾 智実：看護小規模多機能型居宅介護における看護の利点・課題・工夫—看護師の認識の分析—，日本プライマリ・ケア連合学会誌，43(2)，54-61，2020.

### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・片平伸子，丸尾智実，小川妙子：看護小規模多機能型居宅介護の看護提供における工夫—テキストマイニングの手法を用いて—，第40回日本看護科学学会学術集会，2020年12月19日，東京。
- ・丸尾智実，片平伸子，小川妙子。看護小規模多機能型居宅介護の看護師が認識する看護の利点と課題—関係職種との連携の強さによる分析—，第40回日本看護科学学会学術集会，2020年12月19日，東京。

### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・明治安田こころの健康財団研究助成，看護小規模多機能型居宅介護におけるケアマネジメントの特性—医療と介護の調和したケアの提供を目指して—，研究代表者。

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所応援（延べ7日）

### 4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・日本看護学教育評価機構，財務委員，2020.9～2021.3。

### 5 学会，学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会，日本公衆衛生学会，日本地域看護学会，日本在宅ケア学会，日本プライマリ・ケア連合学会。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・国際交流委員会（委員長），自己点検・評価委員会（実施推進部会長）。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議，看護学科教授会，看護学科学生進路支援委員会，看護学科総務・企画委員会，担任リーダー（看護学科3年生）。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

旧カリキュラムと新カリキュラムが並行する年度であり，新型コロナ禍によりオンライン授業が開始され，当初の運営，演習の実施には困難を伴ったが大きな問題なく科目運営を行えた。大学運営では国際交流委員会についてはインジェ大学との交流協定の延長の方針を確認し，神田外語大と共催の初期医療言語サービスボランティア研修を次年度，委員会の所掌事項として行うよう方向づけた。自己点検・評価委員会の実施推進部会長として，外部評価等について他部会とともに進め，重点施策報告の様式を修正し，今年度の報告書を作成した。研究に関しては看護小規模多機能型居宅介護における看護について論文案を作成し，翻訳までを行った。看護小規模多機能型居宅介護におけるケアマネジメントに関する研究は倫理審査委員会の承認を得て，県内11施設に面接調査を行った。また，学科教員との共同研究で文献研究を3つ行い，うち1件は学会誌に総説として採択された。社会貢献としては県からの派遣要請に応じ，松戸保健所，成田保健所，市川保健所にてCOVID-19感染対応活動の補助を行った。



## 教授 藤原 慶一 博士 (医学)

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

保健医療に携わる専門職は長期の教育訓練、高度の専門的知識と経験を必要とすること、医療の対象＝ヒトを知る努力も必要であること、自分ができないことを明確に認識し、それを克服するために謙虚に学び努力することを生涯続けていくこと、について実際の臨床現場での保健医療の重要性と関連づけて伝える。学生に対する医学・医療教育を通して、県民の健康増進に寄与する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
  - ・人体の構造と機能Ⅰ.
  - ・人体の構造と機能Ⅱ.
  - ・人体の構造と機能Ⅲ.
  - ・病態学Ⅰ.
  - ・病態学Ⅲ.
  - ・臨床検査論.
  - ・内科学概論.
  - ・高齢者医療論 (歯科衛生学科).
  - ・高齢者医療論 (栄養学科).
  - ・画像診断学.
  - ・体験ゼミナール.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・Fujiwara K, Nakayama N, Kato N, Yokosuka O, Tsubouchi H, Takikawa H, Mochida S. Infectious complications and timing for liver transplantation in autoimmune acute liver failure in Japan: A subanalysis based on nationwide surveys between 2010 and 2015. J Gastroenterol 2020; 55: 888-898.
- ・Fujiwara K, Yasui S, Kondo T, Yokosuka O, Kato N. Role of autoimmunity in patients transplanted for acute liver failure of unknown origin: A clinical and graft biopsy analysis. Liver Transpl 2021; 27: 309-310.
- ・藤原慶一, 加藤直也, 中山伸朗, 持田智: 自己免疫性急性肝不全における感染合併症と移植時期の検討-全国症例での解析 (最終稿). 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」班 令和2年度研究報告書. pp 1-12. (未印刷)
- ・藤原慶一, 近藤孝行, 加藤直也: 自己免疫性急性肝不全の診断における課題. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」班 令和2年度研究報告書. pp 1-11. (未印刷)
- ・近藤孝行, 藤原慶一, 加藤直也: 急性肝不全における細胞死, サイトカインのバイオマーカーとしての有用性. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」班 令和2年度研究報告書. (未印刷)

### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・藤原慶一，加藤直也，中山伸朗，持田智：自己免疫性急性肝不全における感染合併症と移植時期の検討-全国症例での解析（最終稿）. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」班 令和2年度総会. 令和3年2月12日. (オンライン)
- ・藤原慶一，近藤孝行，加藤直也：自己免疫性急性肝不全の診断における課題. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」班 令和2年度総会. 令和3年2月12日. (オンライン)
- ・近藤孝行，藤原慶一，加藤直也：急性肝不全における細胞死，サイトカインのバイオマーカーとしての有用性. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」班 令和2年度総会. 令和3年2月12日. (オンライン)

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 5 学会，学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本内科学会. 日本肝臓学会. 日本消化器病学会. 千葉医学会. 日本急性肝不全研究会. 米国肝臓病学会議. 厚労省「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」班.

#### 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本肝臓学会東部会評議員.

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・共通教育運営会，学生委員会，研究倫理審査委員会，教員資格審査委員会.

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学生進路支援委員会，進路支援部会，教員評価部会.

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

将来，千葉県内の保険医療機関で専門職として従事する学生たちに，県内の医療の現状に基づいた教育を行なった. 大学の組織運営において，医学分野での貢献に努めた. 学生に対して有意義な基礎・臨床医学の授業を行なうために，教室環境の整備等について担当者と話し合いを行ない，お互いの考えの調整，合意形成に努めた. これまでの臨床・研究・教育経験から得た専門的知識・経験・情報に基づいて，専門分野である医学・医療関係の事項に対して，担当者に適宜アドバイスを行ない，また，話し合い，必要な提言を行なった.

今年度はWuhan viral infectionの影響で，頻回のシラバス変更，授業様式の変更を要した. 前期科目については全授業の資料（プリント）を開講前に郵送したため，通常よりも多くの労力を要した. 授業に対するレスポンスシート，試験結果をみると，この状況下でなんとか期首の目標を達することができたと考えている.

研究・社会貢献においては，国内外の診療指針・ガイドラインへの複数論文の引用を考えると，難治性肝炎の診断・治療の進歩に貢献できていると考える. また，国内外の学会誌，ジャーナルの査読も引き続き行った.

自分がこれまで経験してきた環境とは異なる未知の環境であったため，安易な発言をして場を混乱させないことに留意した. 自分の専門（医学）にかかわる事項については，本学の将来・後任者のために改善できることは改善しておくように努めた.

## 教授 小宮 浩美 博士（看護学）

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和2年度は、領域内の助教が欠員状況でのスタートとなるため、講師との二人体制で、学生の精神看護実践能力の向上につながる教材や指導方法の開発を行う。特に、新旧カリキュラムの同時進行となるため、効率性も重視しつつ、各学年の学生たちが主体的に学べるよう授業を展開する。また、既存の実習施設の関係者との連携体制を強化するとともに、新規施設の開拓を行う。学生が各自の興味関心から主体的に卒業研究に取り組めるよう、卒業研究のゼミを運営する。これまでの研究成果を論文化し、3年目である科研の計画を進めたい。新型コロナウイルス感染症流行による影響を考慮し、教育研究活動および社会活動を担っていききたい。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・看護学入門.
- ・看護学入門実習.
- ・精神看護学概論.
- ・こころの健康と看護.
- ・精神看護学方法論.
- ・精神看護学方法論Ⅰ.
- ・心の健康.
- ・精神看護学実習.
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.

##### 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）

- ・チーム医療演習（植草大学）.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・小宮浩美, 【カンフォータブル・ケアを根づかせる方法】新しいケアを組織に実装するための方策, 精神科看護, 47 巻 13 号, 26-29, 2020.
- ・小宮浩美, 【医療現場における暴力や興奮と向き合う】看護としてどう取り組むか, 精神科, 37 巻 4 号, 370-374, 2020.

#### 3 発表（発表者：発表タイトル、主催学会（学会名称）、開催日、場所等、本人下線）

- ・なし

#### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究（C）、精神科病棟の看護における EBP の実践適用ツールおよびモデルの開発, 研究代表者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）

- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所派遣（延べ5日）。

### 5 学会、学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会、日本看護管理学会、日本精神保健看護学会、千葉看護学会、日本看護評価学会。

#### 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・千葉看護学会、査読者、2014年4月1日～現在に至る。
- ・日本看護評価学会、編集委員、2019年4月1日～現在に至る。
- ・日本精神科看護協会、論文査読委員、2001年4月1日～現在に至る。
- ・日本精神科看護協会千葉県支部、顧問、2016年～現在に至る。
- ・精神看護出版、編集委員、2019年～現在に至る。

### 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、場所）

- ・なし

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・大学教授会、広報委員会、教員資格審査委員会。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教授会、看護学科教務委員会、看護学科運営会議、入試検討委員会。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動としては、領域の教員と共同で次のことを行った。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、対面授業の中止や遠隔授業の開始に伴い授業の実施方法を検討、感染防止を目指しつつ授業目的を達成することができた。臨地での実習が中止となったが、学生の主体的な学びが実現できるよう学内演習の企画を立案し、関係機関と調整し実施につなげた。大学の管理運営では、広報委員会委員長として、対面型オープンキャンパスの中止に伴い、WEB オープンキャンパスを実施し、大学案内の作成や高校訪問などの広報活動を継続した。既に終了した研究の論文化にも取り組み、現在投稿準備中である。

## VII 次年度の目標

引き続き、精神看護実践能力を育成する効果的な授業の展開を目指し、領域の教員相互に協力しながら教育内容を充実させる。特に次年度は遠隔と対面授業の効果を検証しつつ、各科目の目的が達成できるよう授業を企画運営する。研究活動では、科研費の研究成果の学会発表、論文投稿に取り組む。

## 准教授 雨宮 有子 博士 (スポーツ健康科学)

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

2020年度は、教育に関しては、COVID-19拡大防止策を取りつつ保健師活動の実際を学べる教育方法を工夫し教育効果を上げる。そして保健師に関心を持つ学生を増やす。研究に関しては、特に研究代表者を担う研究の推進・研究成果の論文文化に重点を置く。社会貢献においては、特に県内保健師の現任教育およびその体制整備を継続して支援する。管理・運営に関しては、特に教務委員として、COVID-19拡大防止策を工夫し安全で効果的な教育体制を整備する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
  - ・地域看護学概論.
  - ・地域看護学方法論Ⅱ.
  - ・地域看護学方法論Ⅲ.
  - ・地域看護学実習.
  - ・地域看護学総合実習.
  - ・看護研究.
  - ・看護学統合.
  - ・千葉県の健康づくり.

### III 研究記録

#### 1 著書 (著者本人下線：著書, 発行年, 発行所, 発行場所)

- ・2021年版 保健師国家試験問題集, 成人保健活動・高齢者保健活動, 2020, 医学書院, 東京.

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・丸谷美紀, 雨宮有子, 細谷紀子：ポピュレーションアプローチ事業に見られる保健師が行う個別支援の特徴—生活習慣病予防の運動普及事業より, 日本公衆衛生看護学会誌, 9巻, 1号, 2-9, 2020.
- ・細谷 紀子, 佐藤 紀子, 雨宮 有子, 石川 志麻：要配慮者を支える自主防災組織の活動実態と課題, 日本地域看護学会, 23巻, 3号, 39-46, 2020.
- ・杉本健太郎, 植村由美子, 櫻井理恵, 増田恵美, 雨宮有子, 富樫恵美子：新型コロナウイルス感染症の軽症者向け宿泊療養施設における保健医療班の活動報告, 千葉県立保健医療大学紀要, 12巻, 1号, 83-88, 2021.
- ・雨宮有子, 佐藤紀子, 細谷紀子, 杉本健太郎, 泰羅万純：新人保健師のリフレクション力育成のためのファシリテーションガイドの開発, 千葉県立保健医療大学紀要, 12巻, 1号, 113, 2021.
- ・杉本健太郎, 佐藤紀子, 雨宮有子, 細谷紀子, 泰羅万純：医療職配置義務のない高齢者施設・住宅における感染症集団発生及び入居者の重症化を防ぐ方策の検討, 千葉県立保健医療大学紀要, 12巻, 1号, 118, 2021.

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・雨宮有子, 佐藤紀子, 細谷紀子, 杉本健太郎, 泰羅万純：ファシリテーションガイドを用いた新任期保健師リフレクション力育成プログラムの評価, 日本地域看護学会第23回学術集会, 2020年8月29-30, オンライン開催.
- ・佐藤紀子, 雨宮有子, 細谷紀子, 杉本健太郎, 泰羅万純：住民主体の介護予防活動におけるコミュニティ・エンパワメントに関する文献検討—推進方法に着目して—, 日本地域看護学会第23回学術集会, 2020年8月29-30日, オンライン開催.

- ・細谷紀子, 杉本健太郎, 泰羅万純, 雨宮有子, 佐藤紀子: 災害時の共助を意図した平常時の保健師活動に関する市区町村全国調査 (第1報), 第9回日本公衆衛生看護学会, 2020年12月25日, オンライン開催.
- ・池田由紀子, 雨宮有子: ストーマ造設により失望した訪問看護利用者が再び自分らしく生きることへの看護, 第10回日本在宅看護学会, 2020年11月14-15日, オンライン開催.

## 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・文部科学省科学研究費 (基盤研究 C) 2016-2020, 保健師活動への意欲を原動力にしてリーダーシップを発揮するためのガイドの開発, 研究代表者.
- ・文部科学省科学研究費 (基盤研究 (C)) 2020-2023, 発達障害児の親に対する地域との繋がりづくりを意図した防災プログラム評価指標の開発, 研究分担者.
- ・文部科学省科学研究費 (基盤研究 (C)), 2020-2023, 医療職配置のない高齢者住宅の介護職員が活用できる新たな感染対策マニュアルの開発, 分担研究者.
- ・文部科学省科学研究費 (基盤研究 (B)) 2020-2023, Transitional ケアコンピテンシーを基盤とした地域連携教育プログラム開発, 研究分担者.
- ・厚生労働省科学研究費 (健康安全・危機管理対策総合研究事業) 2020-2021, 災害時保健活動の体制整備に関わる保健師の連携強化に向けた研究, 研究分担者.
- ・厚生労働行政推進調査事業費補助金 (厚生労働科学特別研究事業) 2020, 新型コロナウイルス感染症対応に関わる保健所業務における外部委託, 非常勤職員等の効果的な活用のための研究, 研究分担者.
- ・文部科学省科学研究費 (基盤研究 (C)) 2019-2022, エンパワメント基盤型介護予防支援ガイドの開発, 研究分担者.
- ・文部科学省科学研究費 (基盤研究 (C)) 2018-2021, 在宅療養の場における倫理的課題への対処方法の解明と支援プログラムの開発, 研究分担者.
- ・2020年度 千葉県立保健医療大学 学長裁量共同研究費, 新人保健師のリフレクシオン力育成のためのファシリテーションガイドの開発, 研究代表者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 2 地域への保健医療活動 (診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内軽症者向け宿泊療養施設における保健医療班活動 (延べ10日).
- ・新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する厚生労働省対策推進本部事務局参事として, クラスタ対策班における新型コロナウイルス感染症の情報収集・データ分析および保健班におけるクラスタ発生地域での保健所支援 (派遣による, マネジメント支援・受援体制構築・マニュアル整備等). 6月23日~7月6日のうち4日間. 新宿区保健所.

### 3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・野田地域・職域連携推進協議会. 野田健康づくり協議会 助言者. 2019年4月~2021年3月.

### 4 職能団体委員等(職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・千葉県看護協会 保健師職能委員会. 副委員長. 2019年6月27日~2021年6月.

### 5 学会, 学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本地域看護学会. 日本公衆衛生看護学会. 日本公衆衛生学会. 日本難病看護学会. 日本家族看護学会. 日本在宅看護学会. 日本在宅ケア学会. 日本看護管理学会. 日本看護科学学会. 文化看護学会. 千葉看護学会. 日本保健医療福祉連携教育学会.

#### 2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・千葉看護学会. 査読者. 2018年4月1日~2024年3月31日.
- ・日本家族看護学会 専任査読者. 2016年8月1日~2022年12月31日.
- ・日本保健医療福祉連携教育学会学術誌. 査読員. 2021年4月1日~2023年3月31日.



- ・一般社団法人日本公衆衛生学会. 代議員 地域別. 2019年7月1日～2021年6月30日.

## 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・2020年度保健師管理者能力育成研修. 千葉県健康福祉部. 根拠に基づく事業・施策の展開. 市町村に勤務する保健師で管理者あるいは時期管理者として役割・機能を果たす者および県職員の保健師で次期管理者として役割・機能を果たす者. 2020年11月11-12日. 千葉県文化会館.
- ・2020年度千葉県特定健診・特定保健指導 経験者研修. 千葉県健康福祉部. 標準的な健診・保健指導プログラム 行動変容を促す保健指導技術. 特定保健指導従事経験年数3年以上の従事者（県内市町村の国民健康保険等, 医療保険者および保健衛生部門等ならびに県内医療保険者からの特定健診・特定保健指導事業の受託実績がある民間事業者等の保健師, 管理栄養士等）. 2020年9月25日. 千葉県教育会館.
- ・2020年度第2回松戸健康福祉センター管内保健師等業務連絡研究会. 松戸健康福祉センター. 保健師の記録の書き方について. 管内の新規採用保健師等. 2020年9月7日PM. 我孫子市保健センター（WEB会議）.
- ・2020年度第1回松戸健康福祉センター管内保健活動業務研究検討会. 松戸健康福祉センター. 保健活動業務研究の計画検討. 管内全保健師. 2020年7月13日AM. 松戸健康福祉センター（WEB会議）.
- ・2020年度第2回松戸健康福祉センター管内保健活動業務研究検討会. 松戸健康福祉センター. 保健活動業務研究の結果・考察検討. 管内全保健師. 2020年11月9日. 松戸健康福祉センター（WEB会議）.
- ・2020年度地域リハビリテーション調整者養成研修. 千葉県千葉リハビリテーションセンター. 地域診断の基礎. 地域リハビリテーション広域支援センタースタッフ. 2021年3月19日. WEB会議.
- ・2020年度保健活動業務研究サポート. 夷隅健康福祉センター. 夷隅健康福祉センター保健師. 2020年6月18日～2021年1月.
- ・2020年度保健活動業務研究サポート. 野田健康福祉センター. 野田健康福祉センター保健師. 2020年8月6日～2021年1月.

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教務委員会. 特色科目運営会.

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教務委員会.

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育では、コロナ禍でも保健師活動の実際を学べる教育方法を工夫し教授できた。保健活動に関する学生の理解は例年同等に深められていた。保健師就職者を10名出せた。研究では、COVID-19対応に必要な知見を創出した。他の研究の進捗は遅れている。社会貢献では、県内自治体保健師を対象とした業務研究サポート事業を継続運営し、保健師等の現任教育（2つの中央研修、3か所の保健所管内研修および業務研究サポート）を支援できた。COVID-19対応として、県保健医療班活動および厚労省クラスター対策班活動を行った。管理・運営では、全学・学科教務委員としてCOVID-19拡大防止策を工夫し安全な教育体制整備を進めた。

## VII 次年度の目標

教育では、引き続きCOVID-19拡大防止策を取りつつ保健師活動の実際を学べる教育方法を工夫し教育効果を上げる。そして保健師に関心を持つ学生を増やす。研究に関しては、特に研究代表者を担う研究の推進・研究成果の論文化に重点を置く。社会貢献では、特に県内保健師の現任教育およびその体制整備を継続して支援する。管理・運営に関しては、特に教務委員として、COVID-19拡大防止策を工夫し安全で効果的な教育体制を整備する。

## 准教授 三枝 香代子 修士 (教育学)

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

教育活動では、理解しやすい授業内容となるよう工夫し、臨床実習指導では、臨床指導者と協働して学生の理解が深まるように学習支援ができるよう工夫する。研究活動では、科学研究費補助金基盤研究 (C) 獲得できたため、初年度の計画を進めていく。社会貢献及び大学の管理運営についても、責任を持って役割を遂行する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・救命・救急の理論と実際.
- ・成人看護学概論.
- ・成人看護学方法論 I.
- ・成人看護学方法論 II.
- ・ターミナルケア論.
- ・成人看護学実習 (急性期).
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.
- ・看護学入門実習.
- ・体験ゼミナール.

### III 研究記録

#### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金基盤研究 (C), 運動器外傷患者の回復過程における希望を維持する看護支援プログラムに関する研究, 研究代表者.
- ・学長裁量研究費, 臨床で看護師として働く県立大学卒業生が直面する困難に関する研究, 研究分担者.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 2 地域への保健医療活動 (診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所応援 (延べ1日).

#### 3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・独立行政法人国立病院機構千葉医療センター附属千葉看護学校, 看護学校教育課程編成委員・学校関係者評価委員/主任評価委員, 年2回 (2020年10月8日・2021年2月24日).

## 5 学会、学術団体への貢献

### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護研究学会、日本看護技術学会、日本看護教育学会、日本看護科学学会、千葉看護学会、日本クリティカルケア看護学会、日本救急看護学会。

## 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催 団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・事例検討指導、千葉県救急医療センター、看護師、年4回、千葉県救急医療センター。  
(2020年5月14日・7月20日・9月7日・12月24日)
- ・看護研究指導、千葉県循環器病センター、看護師、年3回、Web開催。  
(2020年7月1日・11月5日・12月10日)

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・共通教育委員会。
- ・広報委員会。
- ・入試改革検討委員会。
- ・体験ゼミナール作業部会。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科倫理審査委員会。
- ・看護学科総務。
- ・企画委員会。
- ・看護研究作業部会。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

新型コロナウイルス禍によりオンライン授業が開始され、当初の講義、臨地実習から学内実習の変更には困難を伴ったが大きな問題なく実施することができた。担当の講義科目については、授業資料を見直し学生が理解しやすいように改善を行った。臨地実習から学内実習へ変更となったが、事例をじっくり考えることができ、患者理解が深まった実習ができた。研究活動については、初年度の計画である文献検討がやや遅れているため、次年度は計画的に進めていく。全学と看護学科の委員会活動については、与えられた役割を果たすことができた。

## VII 次年度の目標

教育活動では、学生に理解しやすい授業内容となるよう工夫する。研究活動では、計画的に進められるように取り組む。社会貢献活動として、臨床看護師の研究活動支援を積極的に行う。

## 准教授 細谷 紀子 博士 (看護学)

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

教育については、COVID-19の影響により前期は遠隔授業中心となるため、教育の質を保証できるよう教材作成に努めるとともに、学生個々からの質問に丁寧に対応し、授業満足度を高められるようにする。研究については、2020年度より4年計画の科研費基盤C研究が採択されたため計画的に推進するとともに、分担者を務める研究においても精力的に取り組む。大学の管理運営については、全学総務企画委員および危機管理委員、看護学科総務・企画委員長、および3年生担任としての役割を責任をもって遂行する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・地域看護学概論.
- ・地域看護学方法論Ⅱ.
- ・地域看護学方法論Ⅲ.
- ・地域看護学実習.
- ・災害看護学.
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.
- ・専門職間の連携活動論.

### III 研究記録

#### 1 著書 (著者本人下線：著書, 発行年, 発行所, 発行場所)

- ・細谷紀子：第2章 I 障害児者保健福祉活動, 最新公衆衛生看護学第3版 2021年版各論1 (宮崎美砂子他編集), 180-225, 2021年2月, 日本看護協会出版会, 東京.

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・細谷紀子, 佐藤紀子, 雨宮有子, 石川志麻：要配慮者を支える自主防災組織の活動実態と課題, 日本地域看護学会誌, 23巻, 3号, 39-46, 2020.
- ・Kyoko Yoshioka-Maeda, Misa Shiomi, Takafumi Katayama, Noriko Hosoya, Hitoshi Fujii and Tatsushi Mayama：Self-reported competences of public health nurses for developing needs-oriented local healthcare plans: A nationwide cross-sectional survey, Journal of Advanced Nursing, <https://doi.org/10.1111/jan.14741>, 2021.
- ・丸谷美紀, 雨宮有子, 細谷紀子：ポピュレーションアプローチ事業に見られる保健師が行う個別支援の特徴—生活習慣病予防の運動普及事業より, 日本公衆衛生看護学会誌, 9巻, 1号, 2-9, 2020.
- ・雨宮有子, 佐藤紀子, 細谷紀子, 杉本健太郎, 泰羅万純：新人保健師のリフレクション力育成のためのファシリテーションガイドの開発, 令和元年度学長裁量研究抄録, 千葉県立保健医療大学紀要, 第12巻第1号, 113, 2021.
- ・杉本健太郎, 佐藤紀子, 雨宮有子, 細谷紀子, 泰羅万純：医療職配置義務のない高齢者施設・住宅における感染症集団発生及び入居者の重症化を防ぐ方策の検討, 令和元年度学長裁量研究抄録, 千葉県立保健医療大学紀要, 第12巻第1号, 118, 2021.
- ・土屋裕子, 五十嵐歩, 鈴木雅之, 細谷紀子, 河部房子：シンポジウム報告 他分野間の協働実践により生み出す知, 千葉看護学会会誌, 26巻, 2号, 113-115, 2021.

### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・細谷紀子，石丸美奈，宮崎美砂子：発達障害児の親に対する災害への備え促進プログラムにおけるレジリエンス向上の評価，日本地域看護学会第23回学術集会，2020年8月29日～30日，オンライン開催。
- ・佐藤紀子，雨宮有子，細谷紀子，杉本健太郎，泰羅万純：住民主体の介護予防活動におけるコミュニティ・エンパワメントに関する文献検討—推進方法に着目して—，日本地域看護学会第23回学術集会，2020年8月29日～30日，オンライン開催。
- ・雨宮有子，佐藤紀子，細谷紀子，杉本健太郎，泰羅万純：ファシリテーションガイドを用いた新任期保健師リフレクシオン力育成プログラムの評価，日本地域看護学会第23回学術集会，2020年8月29日～30日，オンライン開催。
- ・吉岡京子，塩見美紗，片山貴文，細谷紀子，藤井仁，真山達志：保健師による保健医療福祉計画策定に関する全国調査（第1報），第79回日本公衆衛生学会総会，2020年10月20日～22日，オンライン開催。
- ・細谷紀子，片山貴文，吉岡京子，塩見美紗，藤井仁，真山達志：保健師による保健医療福祉計画策定に関する全国調査（第2報），第79回日本公衆衛生学会総会，2020年10月20日～22日，オンライン開催。
- ・Kyoko Yoshioka-Maeda, Misa Shiomi, Takafumi Katayama, Noriko Hosoya, Hitoshi Fujii, Tatsushi Mayama: Factors reflecting community health needs to a local health planning program by public health nurses: A nationwide cross-sectional survey, American Public Health Association 2020 Annual Meeting & Expo, Oct. 24~28, San Francisco, USA.
- ・細谷紀子，杉本健太郎，泰羅万純，雨宮有子，佐藤紀子：災害時の共助を意図した平常時の保健師活動に関する市区町村全国調査（第1報），第9回日本公衆衛生看護学会学術集会，2021年1月9日～10日，オンライン開催。

### 4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名，テーマ，開催日，場所等）

- ・第26回千葉看護学会学術集会，シンポジウム（座長）「多分野間の協働実践により生み出す知」，2020年9月5日（土），オンライン開催。

### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・2020～2023年度科学研究費助成事業（基盤研究（C）），発達障害児の親に対する地域との繋がりづくりを意図した防災プログラム評価指標の開発，研究代表者。
- ・2020～2023年度科学研究費助成事業（基盤研究（C）），医療職配置のない高齢者住宅の介護職員が活用できる新たな感染対策マニュアルの開発，分担研究者。
- ・2019～2022年度科学研究費助成事業（基盤研究（B）），保健医療福祉計画策定に必要な保健師の施策化能力向上のための教育プログラムの開発，分担研究者。
- ・2019～2022年度科学研究費助成事業（基盤研究（C）），エンパワメント基盤型介護予防実践支援ガイドの開発，分担研究者。
- ・2016～2020年度文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（C）），保健師活動への意欲を原動力にしてリーダーシップを発揮するためのガイドの開発，分担研究者。
- ・2020年度学長裁量研究費，新人保健師のリフレクシオン力育成のためのファシリテーションガイドの開発，共同研究者。

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所応援（延べ6日）。

### 5 学会，学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本地域看護学会，千葉看護学会，日本公衆衛生学会，日本看護科学学会，文化看護学会，日本公衆衛生看護学会，日本ルーラルナース学会。

#### 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・千葉看護学会，査読委員，2015年4月より現在に至る。



- ・千葉看護学会. 表彰論文選考委員会委員. 2018年4月～2021年3月.
- ・第26回千葉看護学会学術集会. 企画委員・査読委員. 2019年10月～2020年10月.
- ・日本ルーラルナース学会. 査読委員. 2020年4月より現在に至る.
- ・文化看護学会. 編集委員会委員. 2020年9月より現在に至る.

## 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称. 主催 団体名称. 講演テーマ等. 対象. 開催日時. 場所）

- ・業務研究に関する指導. 千葉市稲毛保健福祉センター高齢障害支援課および稲毛区内あんしんケアセンター（地域包括支援センター）. コロナ禍に求められる介護予防普及啓発活動の検討. 千葉市稲毛保健福祉センター高齢障害支援課および稲毛区内あんしんケアセンター（地域包括支援センター）保健師. 2020年7月～10月. 本学.
- ・業務研究に関する指導. 市川市. 子育てマイプラン（妊娠期）の検討を通じた妊娠中や産後に必要な情報提供のあり方. 市川市保健センター健康支援課保健師. 2020年7月～2020年11月. 本学.
- ・研究指導. 千葉市緑区健康課. サポート不足の妊婦に対する母子健康包括支援センターの役割. 千葉市緑区健康課保健師. 2020年10月. 本学.
- ・令和2年度ライフプラン講習会. 総務部総務ワークステーション/地方職員共済組合千葉県支部. みんなで高めよう！災害に備える力. 40歳以上の千葉県職員. 2020年12月23日. プラザ菜の花.
- ・令和2年度千葉県保健活動業務研究発表会. 分科会助言者. 千葉県内保健所市町村保健師等職員. 2021年3月. オンデマンド配信.

## 7 その他

- ・第26回千葉看護学会学術集会, 交流集会（主催）「その気にさせる「地域看護学実習」－主体的な学び行動をどのように引き出すか－」, 2020年9月5日（土）, オンライン開催.

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・総務企画委員会. 危機管理委員会. 特色科目運営会専門職間の連携活動論作業部会.

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科総務・企画委員会. 看護学科総合実習作業部会.

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育については、オンデマンド教材作成に伴う講義内容の精選・改変、学外実習中止に伴う学内実習プログラムの立案、および総合実習による実習地保健活動への貢献などコロナ禍において教育の質を確保することができた。研究については、科研費研究課題や学長裁量研究の成果等を筆頭著者を含む論文3編・紀要報告2件と学会発表7件によりを公表した。社会貢献については保健活動に関する業務研究指導や学術団体の委員、ライフプラン講習会講師により役割を果たすことができた。大学の管理運営については、看護学科総務・企画委員長としてCOVID-19対応に関する業務や、全学総務企画委員としての任務、3年生担任としての学生支援等の任務を責任をもって遂行することができた。

## VII 次年度の目標

教育については、COVID-19の影響が続いているため、Teamsを活用し感染予防をしつつ学生個々の学びを保証・支援できるようにする。また、専門職間の連携活動論科目責任者として、本学の強みを生かした学修が円滑に進むように努める。研究については、科研費研究課題および学長裁量研究を計画的に推進し、成果を着実に示す。社会貢献については、千葉県国民健康保険団体連合会保健事業支援・評価委員や学術団体の各委員として役割を果たす。大学の管理運営については、全学危機管理委員、看護学科倫理審査委員長、および3年生担任としての職務を責任をもって遂行する。



## 准教授 川城 由紀子 博士 (医学)

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和2年度は、特に教育活動では、母性看護学実習が学内実習となることから、学内であっても学習効果の高い実習内容・方法を検討し取り入れる。研究活動では、新たな研究に着手し研究を遂行する。管理運営では、看護学科入試検討委員会の委員長として入試業務を円滑に着実に進める。社会貢献では、千葉県看護協会助産師職能委員として県内助産師の研修ニーズに合わせた講習会の企画運営を行う。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・母性看護学方法論Ⅰ.
- ・母性看護学方法論.
- ・母性看護学実習.
- ・助産学概論.
- ・助産診断・技術学Ⅰ (実践基礎).
- ・助産診断・技術学Ⅱ (ライフサイクル各期).
- ・助産診断・技術学Ⅲ (分娩期).
- ・助産診断・技術学Ⅳ (ハイリスク分娩).
- ・助産学実習Ⅰ (産婦ケア体験).
- ・助産学実習Ⅱ (継続支援).
- ・助産学実習Ⅲ (分娩期ケア).
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.

### III 研究記録

#### 1 著書 (著者本人下線：著書, 発行年, 発行所, 発行場所)

- ・石井邦子, 廣間武彦, 小川亮, 川城由紀子他：助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児・乳幼児期 (助産学講座第8巻) 第6版, 2021年, 医学書院, 東京.

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・杉本亜矢子, 川城由紀子, 石井邦子, 北川良子, 川村紀子, 青柳優子, 植竹貴子：助産師の内診による診断技術の発達, 千葉県立保健医療大学紀要, 12巻, 1号, 3-10, 2021.
- ・杉本知子, 浅井美千代, 佐藤まゆみ, 植村由美子, 佐藤紀子, 川城由紀子, 西野郁子：千葉県の中小規模施設で就業する看護師の「看護実践業務に関する職場外研修の受講」に影響する要因：就業場所とキャリアステージに焦点を当てて, 千葉県立保健医療大学紀要, 12巻, 1号, 45-51, 2021.

#### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・学長裁量研究, 中高年女性の骨量低下予防の要因と介入に関するレビュー, 研究代表者.
- ・学長裁量研究, 新型コロナウイルス感染拡大防止にかかる医療系大学の基礎教育の実態, 研究分担者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）

- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所応援（延べ3日）。

### 3 審議会、委員会、国家試験委員等の実績（活動団体名称、委員名称、活動期間）

- ・千葉県准看護師試験委員、2020年7月～現在に至る。

### 4 職能団体委員等（職能団体名称、委員名称、活動期間）

- ・千葉県看護協会、助産師職能委員、2018年6月～現在に至る。

### 5 学会、学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本母性看護学会、日本母性衛生学会、日本衛生学会、千葉看護学会。

#### 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・第23回日本母性看護学会学術集会、事務局長、2020年4月～現在に至る。
- ・日本母性看護学会、専任査読委員、2014年4月～現在に至る。
- ・千葉看護学会、査読委員、2018年10月～現在に至る。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・入試実施委員会、紀要編集部会。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議、看護学科入試検討委員会、看護学科2年生担任。

### 3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演、ラジオ出演等＞

- ・ホームページ：千葉県立保健医療大学育成支援看護学領域母性看護学・助産学。（<https://square.umin.ac.jp/cpuhs-mm>）

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、特に母性看護学実習において新たに学内実習のプログラムを導入し、学生の学びや反応から充実した学習となったことが確認できた。研究活動では、新たに二つの研究課題に着手し、順調に研究活動を遂行できた。管理運営では、看護学科入試検討委員長としてコロナ禍における安全な入試方法の検討を重ね、大きな問題もなく入試業務を終えることができた。社会貢献では、助産師職能委員会の研修等について、コロナ禍でも安全に実施できる方法を検討し取り組んだ。また、次年度開催予定の学術集会の事務局長として、役割を遂行できた。以上より、すべての項目において目標達成とする。

## VII 次年度の目標

教育活動では、特に母性看護学実習の施設実習や学内実習の内容の見直しを行い、より質の高い教育を提供できるようにする。研究活動では、研究成果をまとめ公表する。管理運営では、看護学科社会貢献委員長として、健康づくり政策に対するシンクタンク機能の強化と地域貢献を目指した研究に着手する。社会貢献では、学術集会の事務局長として、学術集会を円滑に開催できるよう努める。助産師職能委員として、コロナの状況に合わせた研修会等を企画運営する。

## 准教授 植村 由美子 博士 (看護学)

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

2020年度は、以下を目標とした。

①授業関連：COVID-19感染防止のための休校・遠隔授業等の措置を行う中で、学生の学習意欲を落とさず、教員の大きな負担のない授業の工夫を行う。②管理運営業務：学生の修学や進路支援等、大学・学科内委員会の業務を滞りなく遂行する。③研究：研究成果をまとめ、速やかに公表する。④社会貢献活動：学科で行っている保健所や軽症者の宿泊療養支援への教員派遣に参加する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・看護学原論.
- ・看護技術論 I (日常生活援助技術).
- ・看護技術論 II (フィジカルアセスメント技術).
- ・看護技術論 III (検査治療技術).
- ・看護技術論 IV (看護過程展開技術).
- ・看護技術論 V (総合技術演習).
- ・日常生活調整方法論.
- ・体験ゼミナール.
- ・基礎看護学実習.
- ・看護学統合.
- ・看護研究.

### III 研究記録：

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・杉本健太郎, 植村由美子, 櫻井理恵, 増田恵美, 雨宮有子, 富樫恵美子：新型コロナウイルス感染症の軽症者向け宿泊療養施設における保健医療班の活動報告, 千葉県立保健医療大学紀要, 第12巻, 1号, 83-88, 2021.
- ・佐藤紀子, 片平伸子, 植村由美子：新型コロナウイルス感染症における看護教員派遣体制の実際と評価, 千葉県立保健医療大学紀要, 第12巻, 1号, 89-94, 2021.
- ・杉本知子, 浅井美千代, 佐藤まゆみ, 佐藤紀子, 植村由美子, 川城由紀子, 西野郁子：千葉県の中小規模施設で就業する看護師の「看護実践業務に関する職場外研修の受講」に影響する要因：就業場所とキャリアステージに焦点を当てて, 千葉県立保健医療大学紀要, 第12巻, 1号, 45-51, 2021.

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・植村由美子, 大島弓子：看護教員養成講習会受講生が考える倫理的な看護教育実践と取り組み, 第40回日本看護科学学会学術集会, 2020年12月, web.
- ・河部房子, 今井宏美, 椿祥子, 植村由美子, 石田陽子, 松田友美：臨床看護師のフィジカルアセスメント技術修得に関する学習ニーズ調査, 第40回日本看護科学学会学術集会, 2020年12月, web.

- 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）
- ・科学研究費補助金基盤研究（C），看護師の臨床判断事例に基づくフィジカルアセスメント学習教材の開発，研究分担者。

#### IV 社会貢献・国際交流記録

- 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）
- ・新型コロナウイルス感染症に伴う軽症者向け宿泊療養施設における保健医療班活動（延べ10日）
- 5 学会，学術団体への貢献
- 1) 所属学会・学術団体
- ・日本看護科学学会，日本看護学教育学会，日本看護倫理学会，ホリスティックナーシング研究会。
- 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，場所）
- ・東京歯科大学市川総合病院，看護研究指導，2021年3月23日，看護師。

#### V 管理・運営記録

- 1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）
- ・学生委員会。
  - ・学部長候補者選考予備選挙管理委員会（委員長）。
- 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）
- ・学生・進路支援委員会（委員長）。

#### VI 評価（成果および改善すべき事項）

目標ごとに評価を述べる。

①授業関連：遠隔授業，同一内容の複数回の対面授業など，システム的な難しさはあったが，領域メンバーがそろい授業が実施できた。②管理運営業務：COVID-19のため学生支援は困難続きであったが，委員の協力を得て，関係各所と連携し対応した。また学生の修学や進路支援等は，担当者のサポートを行った。③研究：非常に滞ってしまったため，次年度は注力する。④社会貢献活動：目標をおおむね達成できたと考える。

#### VII 次年度の目標

2021年度は，次を目標とする。①授業関連：COVID-19感染防止策を講じながら，学生の学習意欲を落とさず，教員の大きな負担のない授業の工夫を行う。②管理運営業務：総務・企画委員会の所掌を確実に遂行する。③研究：研究成果をまとめ，速やかに公表する。④社会貢献活動：看護協会の事業等に参加し，看護職の活動支援を行う。

## 准教授 西村 宣子 修士 (看護学)

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

教育に関しては、COVID-19により授業方法や実習内容の変更が余儀なくされる中、教育の内容・質を維持できるよう、授業方法や内容を検討・工夫してより丁寧に実施し、学生の満足度を高められるよう努める。また、COVID-19による自粛が強いられる学生のメンタル面でのサポートを行うとともに、医療専門職者としての職務の尊さをと誇りを自覚できるようにアシストする。大学運営については、引き続き担当する委員会に責務を果たせるように努め、また、保健所派遣などは積極的に参加できるよう調整していく。研究活動については、2019年度に行った研究成果を関連学会で発表するとともに、紀要への投稿を目指す。また、今年度も獲得できた研究代表者及び研究分担者としての2つの共同研究を計画的に遂行し、科研申請についても継続して挑戦する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・看護管理学.
- ・看護キャリア発達論.
- ・看護倫理.
- ・リーダーシップ論.
- ・リスクマネジメント論.
- ・看護学入門.
- ・看護管理学実習.
- ・基礎看護学実習.
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.
- ・専門職間の連携活動論.
- ・家族看護方法論.
- ・家族看護論.

### III 研究記録

#### 1 著書 (著者本人下線：著書, 発行年, 発行所, 発行場所.)

- ・西村宣子：管理交換日誌を用いた看護師長とのリフレクション, p16-21, 2021年Vol. 15, Nursing Business, MCメディカ出版.

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線)

- ・西村宣子, 富樫恵美子：A 県内における一般病院に勤務する看護師長のセカンドキャリアに関する意識調査, 千葉県立保健医療大学紀要, 第12巻, 第1号, p104, 2020年.

### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・西村宣子，富樫恵美子：A 県内の一般病院に勤務する看護師長のセカンドキャリアに関する意識調査，日本看護管理学会（第24回日本看護管理学会学術集会），2020年8月28-29日，福井大学（Online Conference）。
- ・西村宣子，菅原聡美：看護師長のスタッフ看護師への目標管理に対する困難感の要因，日本看護管理学会（第24回日本看護管理学会学術集会），2020年8月28-29日，福井大学（Online Conference）。
- ・小川弘果，長岡育美，西野由美，廣岡優香，西村宣子，：大腿骨骨折患者における在院日数が長期化する要因—患者の早期退院に向けて—，日本運動器看護学会（第20回日本運動器看護学会学術集会），2020年，抄録・講演集開催。

### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学内共同研究，看護管理者のマネジメントリフレクションによる行動変容と自己開示との関連，研究代表者。
- ・学内共同研究，看護管理者のセカンドキャリア活用についての意識 第2版—雇用者側からの看護師長経験者の人材活用の実態と意識について—，研究分担者。

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所応援（延3日）。

### 4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・公益社団法人 日本看護協会 認定看護管理者認定実行委員会 委員（2020年4月～2021年3月）。
- ・公益社団法人 千葉県看護協会 教育委員会 委員（2020年8月～2022年7月）。

### 5 学会，学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護管理学会 日本災害医学会 医療マネジメント学会 日本看護教育学会 日本運動器看護学会。

### 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- ・東京歯科大学市川総合病院，看護部研究指導，2020年7月～2021年3月 計7回（2部署），臨床看護師，東京歯科大学市川総合病院。
- ・看護管理者研修，千葉県看護協会，看護管理者のための看護倫理，看護管理者，2020年2月2日，Online

### 7 その他

- ・高校訪問 東京学館浦安高校，模擬授業，2020年11月27日

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・自己点検・評価委員会。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議，看護学科社会貢献委員会，看護学科教務委員会（実習検討部会），看護学科総務・企画委員会。



## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育については、COVID-19により初めての遠隔授業で試行錯誤したものの、講義内容を精選し、学生の視点に立ち課題やレスポンスシートの内容を見て講義内容を追加するなどPDCAを回しながら丁寧に授業を行った。また、看護管理学実習・総合実習もすべて学内実習になり、できるだけ臨地実習に近い状況になるよう工夫を凝らして実施した。授業に対するレスポンスシートや試験結果、実習記録をみると概ね目標を達することができたと考える。

研究については、今年度獲得した共同研究は、授業準備などで着手が遅れたが、前年度の研究成果成果については2件学会発表することができた。また、社会貢献として保健所派遣などについて、領域内で調整して積極的に協力した。

## VII 次年度の目標

教育については、COVID-19の影響が否めないため、今年度の課題を踏まえて遠隔授業内容をより精選・改革して、学生個々に対しても丁寧に対応していく。研究活動については、2021年度から3年計画の科研費基盤C研究が採択されたため計画的に推進していく。社会貢献については、認定看護管理者認定実行委員会と千葉県看護協会教育委員会の各委員として役割を果たす。大学の管理運営については、全学学生委員会、看護学科進路支援部会長、および4年生担任としての職務を責任をもって遂行する。特に、4年生の就職相談や就職活動にむけて長い病院勤務の経験を活かして積極的に支援していく。

## 准教授 北川 良子 博士 (看護学)

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和2年度は、教育活動においては、COVID-19による教育方法の変更に対応した教育活動を実施する。新たな実習施設を開拓することと、新々カリ及び指定規則改正への移行に伴い内容をアップデートしさらなる改善に努める。研究活動を充実させ、現在行っている研究の遂行に努め、学会で発表する。また学会発表にとどまっている研究の論文執筆に取り組む。看護学科教務委員会委員長として、円滑な委員会運営に努める。また新々カリと現行カリが平行して教育が行われる中、COVID-19による教育方法の変更、東京オリンピック延期に伴う例年にはない学年暦の変更が予定されている。このような状況において看護学科のカリキュラムが滞りなく順調に開講され、適切に試験が行えるよう、調整作業を看護学科教務委員会内で行っていく。社会貢献においては要請に合わせ高校訪問を行い、本学の広報活動に尽力する。また学会の総務理事、学術集会の企画委員の職責を果たし、学会運営に貢献する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・母性看護学方法論Ⅰ.
- ・母性看護学方法論Ⅱ.
- ・母性看護学実習.
- ・助産学概論.
- ・助産診断・技術学Ⅰ (実践基礎).
- ・助産診断・技術学Ⅱ (ライフサイクル各期).
- ・助産診断・技術学Ⅲ (分娩期).
- ・助産診断・技術学Ⅳ (ハイリスク分娩).
- ・助産学実習Ⅰ (産婦ケア体験).
- ・助産学実習Ⅱ (継続支援).
- ・助産学実習Ⅲ (分娩期ケア).
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.

### III 研究記録

#### 1 著書 (著者本人下線：著書, 発行年, 発行所, 発行場所.)

- ・石井邦子, 廣間武彦, 小川亮, 北川良子他：助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児・乳幼児期 (助産学講座第8巻) 第6版, 2021年, 医学書院, 東京.

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線)

- ・杉本亜矢子, 川城由紀子, 石井邦子, 北川良子, 川村紀子, 青柳優子, 植竹貴子：助産師の内診による診断技術の発達, 千葉県立保健医療大学紀要, 12巻, 1号, 3-10, 2021.

### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・浅井 美千代，杉本 知子，西野 郁子，佐藤 紀子，河部 房子，片平 伸子，北川 良子：中小規模医療施設における看護研究指導者の充実に向けた研修プログラムの開発 骨子の立案と研修の実施，第40回日本看護科学学会，12月12.13日。

### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学長裁量研究，新型コロナウイルス感染拡大防止にかかる医療系大学の基礎教育の実態，研究分担者。
- ・科学研究費補助金基盤研究（C）「CLOMiP レベルⅢ認証前の若手助産師キャリア支援プログラムの開発と検証」研究代表者。

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所応援（延べ2日）

### 5 学会，学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会，日本看護研究学会，日本母性看護学会，日本母性衛生学会，日本衛生学会，千葉看護学会。

#### 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本母性看護学会，査読委員（2017年4月～現在に至る）。
- ・千葉看護学会，査読委員（2017年8月～現在に至る）。
- ・日本母性看護学会第23回学術集会 事務局（2020年1月から現在に至る）。
- ・日本母性看護学会 理事（2019年6月から現在に至る）。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教務委員会。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教務委員会。

### 3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演，ラジオ出演等＞

- ・ホームページ：千葉県立保健医療大学育成支援看護学領域母性看護学・助産学。（<http://square.umin.ac.jp/cpuhs-mm>）

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では，特に助産科目においてCOVID-19の影響に伴う授業形態の変更・内容の検討を余儀なくされたが，学生の学びや反応から学習目標を達成し得る内容であったことが確認できた。実習においても学内実習への変更，実習施設の変更・新規開拓があったが設担当者として臨地実習指導者と連携しながら実習目標達成となる実習ができた。研究活動では，共同研究者として新たな研究に着手することができたが，教育に多くの時間を費やしたため十分な研究活動を行うことができなかった。管理運営では，看護学科教務委員長としてCOVID-19の影響に伴う，ガイダンスの修正，新たな履修登録への対応，遠隔授業と対面授業との時間割調整，学内実習変更に伴う予算配分の調整など新たな突発的業務に対応できた。また保健師助産師看護師の指定規則改正に伴うカリキュラム作成及び事務手続きを円滑に遂行し，文科省への申請後も疑義への対応を行い，2021年入学生から適応できるように確実に準備を進めることができた。社会貢献では，日本母性看護学会総務理事として，また次年度開催予定の学術集会の事務局広報として役割を遂行できた。

## VII 次年度の目標

教育活動では、特に助産科目の演習、実習の内容の見直しを行い、COVID-19の影響を最小限にし、より質の高い教育を提供できるようにする。研究活動では、研究成果をまとめ公表するとともに新たな研究に着手する。管理運営では、入試実施委員会部会長としてコロナ禍において安全公正な全学的な入試実施に努めるとともに、看護学科入試検討委員長として学科内の入試業務が円滑に行えるように努める。社会貢献では学術集会の事務局広報として、学術集会を円滑に開催できるように努める。

## 准教授 田口 智恵美 博士 (看護学)

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和元年度は、研究代表者となっている研究を計画的に進める。また、教育ではより医療現場の実践に即した内容になるよう看護演習方法を検討する。大学運営では、コロナ感染症対策を取りながら、学生が安全かつ順調に国家試験を受けることができるよう学生支援を行う。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
  - ・臨床看護学概論.
  - ・成人看護学方法論 I.
  - ・成人看護学実習 (急性期).
  - ・総合実習.
  - ・看護研究.
  - ・看護学統合.
  - ・看護学入門実習.
  - ・救命・救急の理論と実際.
  - ・専門職間の連携活動論.
- 2) 他大学, 大学院等の非常勤講師 (科目名, 大学名)
  - ・クリティカルケア看護学特論V (急性期看護援助論B) (順天堂大学大学院).

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者: 題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・田口智恵美, 佐藤まゆみ: ICU 熟練看護師による重症患者に対するコンフォートケア, 千葉県立保健医療大学紀要, 第12巻, 第1号, 101p, 2021.

#### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・学内共同研究費 (学長裁量), 臨床で看護師として働く県立大学卒業生が直面する困難に関する研究, 研究代表者.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称, 活動期間, 場所等)

- 1) 千葉県内
  - ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所応援 (延べ3日).
  - ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内軽症者向け宿泊療養施設における保健医療班活動 (延べ3日).

#### 5 学会, 学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - ・日本看護科学学会, 日本クリティカルケア看護学会, 日本循環器看護学会, 千葉看護学会, 日本看護学教育学会.

- 2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)
- ・日本看護科学学会, 和文編集委員会専任査読委員, 2018年9月～現在.
  - ・日本クリティカルケア看護学会編集委員会委員, 2019年5月～現在.
  - ・日本クリティカルケア看護学会, 査読委員, 2004年～現在.
  - ・日本循環器看護学会, 査読委員, 2013年2月～現在.

## 6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 場所)

- ・看護研究指導, 年8回, 東京歯科大学市川総合病院.
- ・事例検討指導, 年8回, 千葉県救急医療センター.
- ・講演会「研究計画書の書き方」, 7月, 千葉県循環器病センター.
- ・講演会「プレゼンテーションの方法」, 11月, 千葉県循環器病センター.

## V 管理・運営記録

- 1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)
  - ・進路支援委員会.
- 2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)
  - ・看護学科運営委員会, 看護学科学学生・進路支援委員会.

## VI 評価 (成果および改善すべき事項)

教育活動では, コロナ禍において COVID-19 感染症拡大状況やその防止対策の方針に対応した授業展開を行うことができたが, 実習では履修時期によって病院実習が学内実習になるなど学生によって内容に差が生じた. 大学運営では, 進路支援に関する行事を滞りなく実施できた. 社会貢献では, 看護系学会での活動や実習施設への研究指導等の他, 新型コロナウイルス感染症対応への活動も行った. 研究活動では, 学内共同研究を代表者として進めることができた. コロナ禍では従来にはない新しい活動の仕方への転換が求められ, 今後はより柔軟に創意工夫しながらそれぞれの活動の質を高めていく必要がある.

## VII 次年度の目標

教育では病院実習の日数減少に応じて効果的な講義や学内実習の内容を検討・更新する. 大学運営では, 担当する委員会の年間計画に基づき行事を滞りなく進める. 研究活動では, さらに自己の専門性を追究するテーマで研究を進める. 社会貢献では, 職能団体, 学会, 実習施設など, 多様な場で活動する.



## 講師 成 玉恵 修士 (政治学)

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

教育に関しては、引き続き講義・演習・実習の質の向上をはかる。研究に関しては、研究資金の獲得に努力し学会発表や論文投稿を行う。社会貢献に関しては、墨田区の介護保険事業運営協議会の委員が最終年となるため、副会長としての役割を総括する。また、新しい大プログラムの担当となったため、地域の健康づくりへの貢献に力を入れる。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
  - ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ.
  - ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅱ.
  - ・在宅看護学実習.
  - ・総合実習.
  - ・看護学統合.
  - ・専門職間の連携活動論.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・成 玉恵: 看護職による地域活動の概念整理と定義化の検討, 千葉県立保健医療大学紀要, 第12巻, 第1号, 112p, 2020.

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・成 玉恵: 地域における看護職のフリーランス活動の実態, 第23回日本地域看護学会, 2020年8月, オンライン開催.
- ・塩見美抄, 吉岡京子, 小寺さやか, 井上清美, 牛尾裕子, 竹村和子, 花井詠子, 成 玉恵, 田村須賀子, 嶋澤順子: 継続的地域アセスメントができる組織を目指した実践改善プログラムの試行, 第23回日本地域看護学会, 2020年8月, オンライン開催.
- ・Misa Shiomi, Kyoko Yoshioka-Maeda, Sayaka Kotera, Kazuko Takemura, Eiko Hanai, Tamae Sei: Preparation to Start the Action Research Program With Public Health Nurses at Local Government Organs in Japan, International Nursing Conference, 2020年9月, online.
- ・塩見美抄, 吉岡京子, 小寺さやか, 井上清美, 牛尾裕子, 竹村和子, 花井詠子, 成 玉恵, 田村須賀子, 嶋澤順子, 撫養真紀子: ARによる実践改善プログラムに参加した保健師組織の地域アセスメントの変化, 第79回公衆衛生学会, 2020年10月, オンライン開催.
- ・塩見美抄, 吉岡京子, 小寺さやか, 井上清美, 牛尾裕子, 竹村和子, 花井詠子, 成 玉恵, 田村須賀子, 嶋澤順子: 保健師の実践改善を意図したアクションリサーチプログラムにおける研究者の役割と困難, 第40回看護科学学会, 2020年12月, オンライン開催.

#### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金基盤研究 (C), 市町村保健師による民間活力を活かしたヘルスケア対策に向けた基盤的研究, 研究代表者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等. 活動期間. 場所等）

- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所応援（延べ5日）.

### 3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績（活動団体名称. 委員名称. 活動期間）

- ・墨田区, 介護保険事業運営協議会委員, 2018年4月～2021年3月.

### 5 学会, 学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本在宅ケア学会. 日本地域看護学会. 日本行政学会. 日本公衆衛生看護学会. 日本保健医療社会学会. 日本看護学教育学会. 日本看護科学学会. 日本公衆衛生学会.

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・広報委員会, 自己点検・評価実施推進部会.

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教務委員会, 看護学科倫理審査委員会, 1年生担任, 看護研究部会, 総合実習作業部会.

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育に関しては、新型コロナ禍の中、講義は授業動画のオンデマンド配信やオンライン授業等、新たなデジタル化による授業の多様化につながった。授業動画ではアニメーションや音楽を駆使したものが、学生からの評価を得た。しかし、オンラインによるグループワーク等、運営技術が未熟なためアクティブラーニングの実施には至らなかった。実習は一部を除き、総合実習・領域実習共に通常の臨地実習が可能となり、学生の満足度も高かった。そのための感染予防対策の徹底や実習機関との細かな調整が成果につながったと考える。しかし、授業や演習のオンライン化による学生のレディネスに格差が生じ、臨地実習に影響を及ぼすことも考えられるため、今後の課題としたい。研究に関しては、科学研究費が採択され充実した研究が行えた。その他、継続中の研究に関しては予定していた学会発表がオンラインで実施できた。社会貢献活動に関しては、今年度、墨田区介護保険事業運営協議会の委員が最終年度であり、墨田区介護保険計画、高齢者福祉計画の改正年度とも重なったため、副部長として計画策定に尽力できた。また、県からの派遣要請に応じ、市川保健所、松戸保健所にてCOVID-19感染対応活動の補助を行った。尚、新しい大健康プログラムはコロナ禍のため中止となった。

## VII 次年度の目標

教育に関しては、次年度の新型コロナの状況によるが、引き続き質の向上をはかり、アクティブラーニングの実施に向けデジタル運営の技術をマスターする。実習に関しては、学生のレディネスを向上させるための工夫を行う。研究に関しては、科学研究費による研究を継続し成果を発表する。また、その他の研究も引き続き実施する。社会貢献活動に関しては、墨田区介護保険事業運営協議会の委員を更に3年間継続することとなったため、引き続き委員として社会貢献に尽力する。特に地域包括支援センターの評価委員として個別に対応しそれぞれの力量を向上させる。

## 講師 石川 紀子 博士 (看護学)

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

教育活動では、COVID-19の影響に伴い遠隔授業や学内実習を行うため、領域の教員間で連携を図りながら学生の学習目標が達成できる教育方法を検討し実施していく。研究活動では、継続して取り組む研究の代表者として、研究計画に沿って必要な活動を推進すると共に、前年度に終了した研究の成果発表をしていく。大学運営では、大学および看護学科の教務委員として、COVID-19に伴い新たに検討が必要な事項について迅速に対応し役割を遂行していく。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
  - ・体験ゼミナール.
  - ・小児看護学方法論Ⅰ.
  - ・小児看護学方法論Ⅱ.
  - ・小児看護学実習.
  - ・総合実習.
  - ・看護研究
  - ・看護学統合.

### III 研究記録

#### 1 著書 (著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所)

- ・石川紀子：第3章消化器疾患 21. 腸重積患者の看護，病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程 (改定第4版) (井上智子，窪田哲朗編集)，P402-409，2020年，医学書院，東京.

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線)

- ・石川紀子，西野郁子：保健医療専門職を目指す大学生が小児医療に関わるボランティア活動より得た経験，千葉県立保健医療大学紀要，第12巻，第1号，p.33-37，2021年.
- ・石川紀子，前田留美，堂前有香，齊藤千晶：小児病棟に配属異動となった看護師が経験する困難と教育ニーズの実態，千葉県立保健医療大学紀要，第12巻，第1号，p.105，2021年.

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル，主催学会 (学会名称)，開催日，場所等，本人下線)

- ・石川紀子，前田留美，堂前有香，齊藤千晶：小児病棟に配属異動となった看護師が経験する困難と教育ニーズの実態，千葉県立保健医療大学 第11回共同研究発表会，2020年9月7日～11日，オンライン開催.
- ・石川紀子，前田留美，堂前有香，齊藤千晶：小児系の病棟に配属異動となった看護師が経験する困難と学習ニーズ，教育・支援体制の実態，第51回日本看護学会-看護教育-学術集会，2020年11月1日～30日，Web開催.
- ・石川紀子，西野郁子：保健医療専門職を目指す大学生が小児医療施設でのボランティア活動より得た経験，第67回日本小児保健協会学術集会，2020年11月4日～6日，Web開催.

## 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤研究（C））、小学校入学に向けた幼児期からの慢性疾患患児への支援プログラムの開発、研究分担者。
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤研究（C））、「気になる子ども」に対する保育施設での発達支援に向けた基盤的研究、研究分担者。
- ・令和2年度千葉県立保健医療大学学内共同研究（一般）、小児が入院する病棟に配属異動となった看護師の小児看護実践能力向上を目指した研修プログラム開発、研究代表者。

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

#### 1) 千葉県内

- ・千葉県子ども病院でのボランティア活動「入院している子どものきょうだいとの遊び活動」の推進のための調整。2020年4月～2021年3月。

### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）

- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所応援（延べ3日）。
- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内軽症者向け宿泊療養施設における保健医療班活動応援（延べ3日）。

### 4 職能団体委員等（職能団体名称、委員名称、活動期間）

- ・公益財団法人千葉県看護協会、千葉地区部会幹事。2020年4月～2020年5月。

### 5 学会、学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本小児看護学会、日本小児保健協会、日本家族看護学会、日本小児がん看護学会、日本看護科学学会、千葉看護学会、全国保育園保健師看護師連絡会。

#### 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本小児看護学会、日本小児看護学会誌、査読委員。2020年4月～2021年3月。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教務委員会、学内共同研究審査部会

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教務委員会、看護学科「総合実習」作業グループ。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、例年と異なる状況に対し迅速に教材開発や指導方法の検討を行い、学生の学習目標の達成に向けた取り組みができた。研究活動では、研究代表者として取り組んだ研究について、研究計画に則り調査と分析を進めることができた。また筆頭研究者として2つの学会発表や1つの論文投稿を行い研究成果の公表に取り組むことができた。大学運営では、学科内での要請に対しCOVID-19対応の役割を果たすと共に、委員会活動においては、当初の予定に加えて新たに必要となった業務に迅速に対応しながら役割を果たしていった。

## VII 次年度の目標

教育活動では、COVID-19 の感染状況により対面授業や臨地での実習の制約が予測されるが、今年度に得られた振り返りを基に、学生の学習目標の達成を目指した効果的な教育方法を検討し、取り組んでいく。研究活動では、今年度取り組んだ研究課題で得られた知見を踏まえて、研究成果の公表を行うと共に、新たな研究計画の実施につなげていく。大学運営では、新たに配置された委員会等での役割で求められる業務を遂行していく。

## 講師 植田 麻実 Ph. D. (第二言語習得)

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

看護学科の教員として学科において与えられた学生支援委員としての職務を果たしつつ、共通教育運営会議のメンバーとしても、すべての学科の学生にとって英語教育や体験ゼミなどを通して積極的にその職務を果たし、本学の学生のために貢献する事。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
  - ・体験ゼミナール.
  - ・英語II (基礎英会話).
  - ・英語III (講読・記述).
  - ・英語V (保健医療英語) 看護学科.
  - ・英語V (保健医療英語) 栄養学科.
- 2) 他大学, 大学院等の非常勤講師 (科目名, 大学名)
  - ・(日本語, 防衛大学校).

### III 研究記録

#### 1 著書 (著者本人下線: 著書, 発行年, 発行所, 発行場所)

- ・杉野俊子, 野沢恵美子, 田中富士美, 植田麻実ほか, JACET 言語政策研究会会員, 『「つながる」ための言語教育—断続・排除・格差を生まないために』, 令和3年3月31日予定, 明石出版, 東京.

#### 3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・植田麻実: 英語によるストーリーを授業に組み込んだ英語習得と専門部分野の関連性, 日本実用英語学会, 令和3年1月23日, Zoomによるオンラインリアルタイム.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称, 活動期間, 場所等)

千葉県外におけるコーラス・グループ『ミュゼ・スワロー』主催, 2012～現在. (本年度はコロナにより高齢者施設へ出向くことはできなかったが活動は今後も続けていく)

#### 5 学会, 学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - ・日本実用英語学会, The Japan Association for Language Teaching, 日本緩和医療学会, JACET 言語政策研究会.
- 2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)
  - ・国際学会 JALT 発行の TLJ Journal における日本語副編集長, 日本語投稿論文査読・翻訳委員, 2016年～現在.



## V 管理・運営記録

- 1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）
  - ・ 学術推進企画会議, 共通教育運営会議
- 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）
  - ・ 看護学科運営会議, 看護学科学生支援委員会.

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

コロナ禍において体験ゼミでは学生たちに『体験』をさせる事が叶わなかったが、リーダー島田教授の刻々と変わる状況への適切な対応により学生たちは身近な人たちへのアンケートを行ったり今年までには無かった形での学びを成し遂げた。どんな状況であっても諦めずに、その状況が困難であってもその要素を利用して学生を導く島田教授の元での体験ゼミ作業部会員としての経験を、自分の英語の授業へも活かすことができた。学生たちの中にはグループで深い学びや多くの時間を自律した学習者として学び合い、コロナという世界共通の脅威に対しても、他の国での一学生のチャレンジから学ぶことなどができた。

委員としての責任を最後まで果たせることができずに、本年度後半が進むにつれて他の委員の先生方や事務方にもたくさん助けていただいた感謝と、たくさんご迷惑をかけてしまった後悔の年となりました。

## 講師 今井 宏美 博士 (工学)

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

2020年度はCOVID-19の影響によって生じたOnline授業、特にOnlineでの技術演習の展開はカスタマイズされた教材でもあることから反復練習を可能とする反面、学習者の勤勉性によって技術習得の差異が生じる可能性があるため、学生間・学生-教員間の共感力に配慮しながらの授業展開を検討し、新たな教育方法を確立していきたい。研究活動は競争的資金・外部資金獲得を目指し、その時代のニーズにあった研究を担っていく。また未投稿になっているデータを論文として投稿していくことを目標とする。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・体験ゼミナール.
- ・看護学原論.
- ・看護技術論Ⅰ(日常生活援助技術).
- ・看護技術論Ⅱ(フィジカルアセスメント).
- ・看護技術論Ⅲ(検査治療技術).
- ・看護技術論Ⅳ(看護過程展開技術).
- ・看護技術論Ⅴ(総合技術演習).
- ・基礎看護学実習.
- ・日常生活調整方法論.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.

### III 研究記録

#### 1 著書 (著者本人下線：著書, 発行年, 発行所, 発行場所)

- ・看護師国家試験問題集, 2020, 医学書院, 東京.
- ・茂野香おる, 今井宏美ほか, 系統看護学講座専門分野Ⅰ基礎看護技術Ⅰ基礎看護学②第18版, 2021. 1, 医学書院, 東京.
- ・任和子, 今井宏美ほか, 系統看護学講座専門分野Ⅰ基礎看護技術Ⅱ基礎看護学③第18版, 2021. 1, 医学書院, 東京.

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・今井宏美, 麻賀多美代, 坂下貴子, 榎本麻里, 茂野香おる, 小林毅, 木村亜由美, 酒巻裕之, 三澤哲夫:ブラッシング介助技術習得のための教育教材開発に向けた基礎的研究, 産業保健人間工学, 21巻, 1号, 1-10, 2020.

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・河部房子, 今井宏美, 椿祥子, 植村由美子, 石田陽子, 松田友美:臨床看護師のフィジカルアセスメント技術修得に関する学習ニーズ調査, 第40回日本看護科学学会学術集会, 2020年12月, web.

## 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費助成若手研究，現実適合性の高い模型を活用した歯周病疾患予防・悪化防止に資するプログラムの創成，研究代表者。
- ・科学研究費補助金基盤研究（C），看護師の臨床判断事例に基づくフィジカルアセスメント学習教材の開発，研究分担者。
- ・学内競争的資金共同研究費，リニューザブルカフを介した病原微生物伝播の可能性の検証，研究代表者。

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所応援（延べ2日）。

### 5 学会，学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護研究学会，日本環境感染学会，日本看護学教育学会，日本看護技術学会，日本看護科学学会，口腔保健協会学会，口腔衛生学会，日本歯科医学教育学会，日本歯科衛生教育学会，勤務環境改善マネジメント研究会，産業保健人間工学会，日本人間工学会。

#### 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・労働科学査読委員。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・自己点検・評価委員会教育年報作成部会。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教務委員会，看護学科入試検討委員会，1年次生担任，看護学科運営会議。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

研究活動においては，COVID-19の影響によって当初の計画を修正せざる得なくなり実施こそ困難を極めたが，患者に使用した物品の管理に関するテーマであったため，社会的ニーズが高いことを実感した。また，前年度までの研究結果においては論文発行がなされ，当該研究で開発したキットが自己学習用の教育教材としてテキストに掲載された。教育活動においては，COVID-19の影響および新任教員へのサポート等による業務負担が大きかったものの学生には支障がない教育内容を教授できるよう取り組んだ。しかし，技術習得に関しては演習および学内での自己学習時間の減少から課題を残すこととなった。組織内活動においては，特に看護学科教務委員会カリキュラム実施部会の欠員および，COVID-19の影響による例年とは異なる多くの変更尽力した。

## VII 次年度の目標

2021年度は特にOnlineでの技術演習の展開をブラッシュアップさせ，学生間・学生-教員間の共感力に配慮した飽きのこない授業展開を検討し，教育方法としての提案を何からかの形で学外へ発信していきたい。研究活動は資金獲得した研究活動および，昨年度COVID-19の影響によって十分なデータが得られなかった部分を補完し，この時代のニーズにあった研究を担っていく。また未投稿になっているデータを論文として投稿していくことを目標とする。また，新たに担う組織内活動内容を早期に把握し，円滑な運営に努めたい。

## 講師 富樫 恵美子 修士（スポーツ健康科学）

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和2年度はコロナ禍の感染拡大が懸念する中においても、領域の授業及び実習の到達目標を学生が達成できるよう、授業内容の工夫や心理面も含めたきめ細かいサポートを行いながら、教育活動を行っていく。また、学内共同研究をデータ収集の時期に配慮しながら、引き続き進めていく。学内の委員会においては、特に国家試験合格率100%となるよう情報発信しながら取り組んでいく。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・看護管理学.
- ・看護管理学実習.
- ・看護キャリア発達論.
- ・リーダーシップ論.
- ・看護倫理.
- ・基礎看護実習.
- ・総合実習.
- ・専門職間の連携活動論.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.

### III 研究記録

#### 1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所）

- ・富樫恵美子：第8章 腎・泌尿器疾患患者の看護過程 51 尿路結石症，52 膀胱がん，疾患別看護過程の展開 第6版（監修：石川ふみよ，高谷真由美），p. 789-803. p. 805-819. 2020年11月，学研メディカル秀潤社

#### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等。本人下線）

- ・Motoki Mizuno, Yasuyuki Hochi, Yasuyuki Yamada, Takumi Iwaasa, Emiko Togashi, Aya Okada, Hideko Aida, Hidenori Hayashi, Yuki Mizuno：Feedback method of communication networks and patterns in nursing organization by AI technologise, The 11<sup>th</sup> International Conference on Applied Human Factors and Ergonomics (Virtual Conference), Final Program, p86, 2020年7月.
- ・水野基樹，富樫恵美子，林英範，芳地泰幸，高田亮子，新井由美，吉岡貴美代，稲葉健太郎，水野有希：行動経済学のナッジ理論を応用した看護師の医療勤務環境改善，日本看護管理学会（第24回日本看護管理学会学術集会），2020年8月28-29日，福井大学（Online Conference）.
- ・西村宣子，富樫恵美子：A県内の一般病院に勤務する看護師長のセカンドキャリアに関する意識調査，日本看護管理学会（第24回日本看護管理学会学術集会），2020年8月28-29日，福井大学（Online Conference）.

## 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学内共同研究，看護管理者のセカンドキャリア活用についての意識 第2版—雇用者側からの看護師長経験者の人材活用の実態と意識について—，研究代表者。
- ・学内共同研究，看護管理者のマネジメントリフレクションによる行動変容と自己開示との関連，研究分担者。

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所応援（延べ4日）。
- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内軽症者向け宿泊療養施設における保健医療班活動（延べ7日）。

### 5 学会，学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護管理学会，日本看護科学学会，日本医療マネジメント学会，医療勤務環境改善マネジメントシステム研究会，人類働態学会，産業保健人間工学会。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・危機管理委員会。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学生・進路支援委員会／国試担当責任者，／卒業生・同窓会担当責任者。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

領域の授業においてはリモートが主となり，学生の理解しやすさや，その内容からの思考の展開を意識しながら授業動画を作成し，おおむね評価を得ることができた。今年度は臨地実習が叶わず，領域長の指示のもと学内でも目標達成に向けてその内容を工夫することで，学生の気づきや思考過程を丁寧に引き出す関りができたと考える。また，委員会活動の国家試験対策においては，情報発信をきめ細やかに心掛け感染拡大防止のための対面からリモートや在宅受験に変更するなど，学生の立場に立った対応に取り組んだ。学内共同研究は，オンデマンドでの発表や時期をずらしてのデータ収集など状況の変化に対応しながら進めることができた。地域の保健医療活動に参加したことは，その実態を知る貴重な経験となった。全体的に初めての試みが多かったこともあり，心の余裕がなく日頃からの準備が重要であることを実感した。

## VII 次年度の目標

教育活動においては，状況の変化にも対応できるように準備を入念に行う。また，将来の医療保健活動を担う学生がこのコロナ禍を前向きに捉えられるような関りを意識的に行い，授業や実習においても内容を改善しながら取り組んでいく。研究においては，昨年度の学内共同研究を学会で発表し紀要に投稿できるよう準備する。また，引き続き次年度も学内共同研究に取り組むことと，外部資金獲得のための研究計画を立案し申請する。委員会ではその職務を遂行し，より良い組織・学ぶ環境となるよう役割を果たしていく。千葉県での保健医療のために，ボランティア活動にも積極的に参加していく。

## 講師 加藤 隆子 博士 (看護学)

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和2年度は、助教欠員でのスタートになったが、領域運営では教授と連携を図りながら積極的に役割を果たしたい。新規実習施設も増えるため、施設の担当者との関係性を構築し、学生が良い学びができるよう実習環境を整えたい。また、本年度はCOVID-19により遠隔授業となったが教育の質を維持し、学生への課題や講義内容の工夫を図り、学生自身が学んでいける環境を整えたい。研究活動では、科研費の獲得ができたため、引き続き研究を進めていく。さらにCOVID-19の関係で派遣要請があった場合には積極的に応じて、県職員としての役割を果たしたい。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
  - ・精神看護学方法論.
  - ・精神看護学方法論 I.
  - ・精神看護学概論.
  - ・こころの健康と看護.
  - ・精神看護学実習.
  - ・看護研究.
  - ・総合実習.
  - ・看護学統合.
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)
  - ・チーム医療演習 (植草大学).

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線)

- ・加藤 隆子, 齋藤 直美, 渡辺 純一, 渡辺 尚子: ト라우マにより生きにくさを抱えた患者への精神科看護師の看護支援と影響要因, 日本精神保健看護学雑誌, 29 巻, 2 号, 19-28, 2020 年.
- ・加藤隆子, 渡辺純一, 渡辺尚子, 齋藤直美: ト라우マにより生きにくさを抱えた人を地域で支援する援助者の体験と教育支援ニーズ, 千葉県立保健医療大学紀要, 12 巻, 1 号, 97, 2020 年.

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル、主催学会 (学会名称)、開催日、場所等、本人下線)

- ・加藤隆子, 齋藤直美, 渡辺純一, 渡辺尚子: ト라우マにより生きにくさを抱えた方を地域で支援する精神科訪問看護師の体験, 第30回日本精神保健看護学会, 2020年6月13日～14日, web開催.
- ・加藤隆子, 渡辺純一, 渡辺尚子, 齋藤直美: ト라우マにより生きにくさを抱えた人を地域で支援する援助者の体験と教育支援ニーズ, 第40回日本看護科学学会, 2020年12月12日～13日, web開催.

#### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名、研究テーマ、研究代表者/研究分担者)

- ・科研費補助金 (若手研究) 2020 - 2023, 精神科のトラウマケアを向上する ICT を用いた教育プログラムの開発, 研究代表者.
- ・科研費補助金基盤研究 (C) 2018 - 2021, 精神科病棟の看護における EBP の実践適用ツールおよびモデルの開発, 研究分担者.



## IV 社会貢献・国際交流記録

### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）

- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所派遣（延べ3日）。
- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内軽症者向け宿泊施設における保健医療班活動（延べ3日）。

### 5 学会、学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会、日本精神保健看護学会、日本トラウマティック・ストレス学会、日本保健医療行動科学学会、日本精神科看護協会。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・認証評価部会。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科学学生・進路支援委員会、看護学科総務・企画委員会。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動においては、COVID-19の影響を受けて遠隔授業がメインとなった。領域教員間で講義・演習の検討を重ね、学生へのフィードバックを丁寧に行った。その結果、学生からモチベーションが高まった、理解が深まったなどの評価があり、目標は達成できた。臨地実習も学内演習がメインになったが、臨地実習が可能な場合には施設担当者との調整し、学生にとってよりよい学習環境を整えることができた。臨地実習にかかわる学内演習においても演習内容の検討を行い、学習目標の達成はおおむねできた。研究活動については、学術論文が1つ掲載されたが、他の調査に遅れが生じているため、次年度は研究内容を見直し、計画的に調査を進めてきたい。COVID-19に関わる派遣要請において、保健所や宿泊療養施設で活動することができた。

## VII 次年度の目標

次年度もCOVID-19の影響が大きいと思われるため、引き続き感染対策に留意していきたい。教育活動においては、これまで培ったオンライン技術を駆使して、学習目標が達成できるよう講義演習内容を工夫していきたい。研究活動においては、COVID-19の影響により遅れが出ているが、研究計画を見直し、研究活動を遂行していきたい。社会貢献においては、研修の依頼やCOVID-19関連の派遣要請にも積極的に応じたい。組織運営においては、所属する委員会で他教員と連携を取りながら、役割を果たしていきたい。

## 講師 川村 紀子 博士（看護学）

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

教育について、教育目標を達成できるように、講義・演習・実習における学習効果を再検討し、より充実した内容の実現を図る。また、学生個々のレジネスに応じた指導方法や内容を検討する。研究活動は、これまでの研究成果をまとめ、論文投稿などで報告する。大学の管理運営について、円滑な委員会運営となるよう業務を遂行する。社会貢献活動では、学術集会の企画など積極的に活動し役割を遂行する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・母性看護学方法論Ⅰ.
- ・母性看護学方法論Ⅱ.
- ・母性看護学実習.
- ・助産診断・技術学Ⅰ.
- ・助産診断・技術学Ⅱ.
- ・助産診断・技術学Ⅲ.
- ・助産診断・技術学Ⅳ.
- ・助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）.
- ・助産学実習Ⅱ（継続支援）.
- ・助産学実習Ⅲ（分娩期ケア）.
- ・総合実習.
- ・専門職間の連携活動論.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.

### III 研究記録

#### 1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所）

- ・石井邦子，廣間武彦，小川亮，川村紀子他：助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児・乳幼児期（助産学講座第8巻）第6版，2021年，医学書院，東京.

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・杉本亜矢子，川城由紀子，石井邦子，北川良子，川村紀子，青柳優子，植竹貴子：助産師の内診による診断技術の発達，千葉県立保健医療大学紀要，12巻，1号，3-10，2021.

#### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・川村紀子，高橋眞理：分娩期ヒヤリ・ハット事例に基づく経験3年未満の助産師のための教育プログラムの開発，第22回日本母性看護学会学術集会，2020年6月28日（7月3～16日），Web開催.

- 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）
- ・2018～2020 年度 科学研究費補助金基盤研究（C），助産師の分娩期の危険予知能力を高めるためのトレーニング教材の開発，研究代表者。
  - ・学長裁量研究，新型コロナウイルス感染拡大防止にかかる医療系大学の基礎教育の実態，研究分担者。

#### IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所応援（延べ7日）。

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本母性看護学会，日本助産学会，日本看護科学学会，日本母性衛生学会，千葉看護学会。

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本母性看護学会第23回学術集会，企画委員，2020年3月26日～現在に至る。

#### V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・図書委員会，社会貢献委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議，看護学科総務・企画委員会，看護学科2年生担任。

3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演，ラジオ出演等＞

- ・ホームページ：千葉県立保健医療大学育成支援看護学領域母性看護学・助産学  
(<http://square.umin.ac.jp/cpuhs-mm/>)。

#### VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では，講義内容及び指導内容を再検討した。特にCOVID-19による影響のため，母性看護学実習を臨地から学内での学習に急遽変更を余儀なくされ，学内においても母性看護学実習の学習目標が達成されるようプログラムを作成した。学生の反応や評価から，効果的な学習成果を得られた。研究活動では，新型コロナウイルス感染拡大防止にかかる医療系大学の基礎教育の実態を教員側および学生側から調査を行った。大学の管理運営について，業務を遂行するために教職員方に助言を受けながら役割責任を担い運営を円滑にすることができた。また，社会貢献活動では，学術集会開催の準備に向けて企画委員として積極的に参加し，関係者に協力・助言を受けながら役割遂行を担うことができた。

#### VII 次年度の目標

教育活動では，講義・演習・実習における学習目標を達成できるように，効果的な展開方法の見直しを行う。また，学生個々のレジネスに応じた指導方法や内容を学生の反応や達成度に応じて工夫する。研究活動は，これまでの研究成果をまとめ，論文投稿などで報告できるよう計画的に活動時間を確保する。大学の管理運営について，円滑な委員会運営となるよう業務内容を正確に確認しながら遂行する。社会貢献活動では，学術集会の企画・運営が実現するよう関係者に協力・助言を受けながら役割を遂行する。

## 講師 佐伯 恭子 博士 (看護学)

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

2020年度は、いずれの活動においてもCOVID-19による影響を受けると考えられる。その中で、教育活動については、遠隔でも科目の到達目標を達成できるよう工夫して取り組み、委員会活動では進路支援部会長として、コロナ禍でも学生ができるだけ不安なく就職進学活動に臨めるような支援を検討する。研究活動については、昨年度の分を挽回すべく成果を公表できるよう計画的に取り組んでいく。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
  - ・体験ゼミナール.
  - ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ.
  - ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅱ.
  - ・高齢者看護学実習.
  - ・総合実習.
  - ・看護研究
  - ・看護学統合.
  - ・ターミナルケア論.
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)
  - ・医療倫理学、信州大学大学院.

### III 研究記録

#### 1 著書 (著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所)

- ・佐伯恭子：Ⅷ 高齢者への食事の援助、亀井智子 編、新体系 看護学全書 老年看護学② 健康障害をもつ高齢者の看護 (改訂版)、58-64、2020、メヂカルフレンド社、東京.

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線)

- ・佐伯恭子、諏訪さゆり：認知症の人を対象とした看護・介護・リハビリテーション領域における倫理的配慮に関するガイドの開発、千葉県立保健医療大学紀要、12巻、1号、115、2021.
- ・相馬由紀子、上野佳代、杉本知子、佐伯恭子、高柳千賀子、鳥田美紀代：病院や介護施設で就労している外国人看護師・介護福祉士候補者の職場定着に向けた支援の実態—国内の文献による検討—、千葉県立保健医療大学紀要、12巻、1号、53-61、2021.

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル、主催学会 (学会名称)、開催日、場所等、本人下線)

- ・佐伯恭子、諏訪さゆり：認知症の人を対象とした看護・介護・リハビリテーション領域の研究における倫理的配慮に関する現状と課題、日本生命倫理学会 (第32回日本生命倫理学会年次大会)、12月5-6日、オンライン開催.
- ・相馬由紀子、杉本知子、上野佳代、佐伯恭子、高柳千賀子、鳥田美紀代：外国人看護師・介護福祉士候補者の職場定着に向けた支援の実態に関する文献検討、日本老年看護学会 (第25回学術集会)、6月、オンライン開催.

## 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学内共同研究費，我が国の病院や介護施設に従事する外国人看護師・介護福祉士候補者におけるヘルスケアの実態，研究分担者。

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所応援（延べ3日）。

### 5 学会，学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本生命倫理学会，日本医学哲学・倫理学会，日本看護科学学会，日本看護倫理学会，日本老年看護学会，千葉看護学会。

#### 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本看護倫理学会，評議員，2012年5月～
- ・日本看護倫理学会，選挙管理委員会委員長，2020年6月～
- ・日本看護倫理学会，学会誌査読，2020年3月～5月

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学術推進企画委員会，キャンパスハラスメント相談員。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議，看護学科学生・進路支援委員会（進路支援部会長），看護学科3年生担任，総合実習作業部会。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では，初めての取組となる遠隔授業の準備が大変だったが試行錯誤を重ねながら取り組んだ結果，改めて対面授業の利点にも気づくことができた。実習では，臨地実習がほとんどできない中で，実習目標を達成するための学内での演習を領域の教員で協力して企画し実施することができた。研究活動は，教育活動への比重が大きくなり，思うように取り組むことができなかった。次年度は研究の時間を確保する。社会貢献では，主に学会業務で貢献することができた。管理運営では，進路支援部会長としてコロナ禍での学生の進路支援だけでなく，学科での学生支援の面でも関係者間で協力して責務を果たすことができた。

## VII 次年度の目標

令和3年度もCOVID-19による活動への影響は避けられないと考えられる。教育活動については，令和2年度の経験を基に，遠隔授業と対面授業それぞれの利点を活かせるような講義になるよう取り組む。研究活動は，教育活動とのバランスを常に意識しながらその時々での優先順位を考え，予めスケジュールに組み込むことで時間を確保し，成果報告ができるようにする。社会貢献では，学会だけでなく地域での活動を広げていきたい。

## 講師 大内 美穂子 修士 (看護学)

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和2年度は、昨年度研究分担者として研究に取り組むことが多かったので、自分の研究に時間を確保できるようにしていく。研究をすすめるだけでなく、研究を行うことで発言力や多角的な視野が持てるように、研究者としての成長が得られるようにする。教育内容はカリキュラム編成に向けて講義内容や演習内容を検討し改善していく。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
  - ・成人看護学方法論Ⅰ.
  - ・成人看護学方法論Ⅱ.
  - ・成人看護学実習 (急性期).
  - ・成人看護学実習 (慢性期).
  - ・総合実習.
  - ・看護研究.
  - ・看護学統合.
  - ・看護学入門実習.
  - ・救命・救急の理論と実際.
  - ・体験ゼミナール.

### III 研究記録

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・佐藤まゆみ, 片岡純, 高山京子, 大内美穂子, 西脇可織, 森本悦子, 佐藤禮子, 阿部恭子：外来通院がん患者の主体性を活かして行う実践のための外来看護師育成プログラム：有用性及び施設での運用可能性の評価, 第35回日本がん看護学会学術集会, 令和2年2月27日～4月30日, Web開催.

#### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金基盤研究 (C), 骨転移に放射線治療を受けるがん患者の至適生活を支援する看護プログラムの洗練, 研究分担者.
- ・科学研究費補助金基盤研究 (B), 外来通院がん患者の主体性を活かして行う実践のための外来看護師育成プログラムの洗練, 研究分担者.
- ・学長裁量研究費, 臨床で看護師として働く県立大学卒業生が直面する困難に関する研究, 研究分担者.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 2 地域への保健医療活動 (診療・技術指導等. 活動期間. 場所等)

- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所応援 (延べ7日).



## 5 学会、学術団体への貢献

### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本がん看護学会、日本看護科学学会、日本看護管理学会、千葉看護学会、日本遠隔医療学会、日本看護学教育学会。

## 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、場所）

- ・看護研究指導、看護師、年4回、千葉県がんセンター。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・自己点検・評価委員会報告書作成部会。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科入試検討委員会、看護学科教務委員会、看護学科倫理審査委員会。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動は、コロナ禍において臨機応変に対応しながら、感染防止対策を考慮して演習や実習を実施できた。オンデマンドによる遠隔授業に伴い、対面授業のように学生の反応を反映させながら授業を行うことはできなかったため、遠隔授業には課題が残る。術前期や術中期の授業は、現場の意見を反映させてより大学での教育内容を洗練する必要がある。研究活動は自分の研究のための時間を確保するようにつとめることができた。その一方で、研究が思うようにすすまなかったため、次年度は円滑に研究が遂行し、成果を出せるようにしていきたい。

## VII 次年度の目標

大学運営にかかわる活動に時間がかかってしまい、研究や教育に十分に時間をかけられていないと感じた。優先順位をよく考えて、研究や教育に取り組めるようにしていきたい。コロナ禍であっても教育や研究を継続して遂行する必要があるが、学生や研究対象者の安全をよく考えて、計画・遂行していく。社会貢献活動が少なかったため、次年度は社会貢献する機会を増やしていきたい。

## 講師 杉本 健太郎 博士 (看護学)

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

教育に関しては、COVID-19の影響が危惧されるところであるが、学びの内容・質を維持できるよう、教育方法を工夫・検討する。研究活動については、今年度新たに計画した研究について、研究分担者と連携しながら着手するとともに、これまで得られた知見を論文化する。社会貢献については、県内の保健福祉サービスの質の向上に向けてより一層役割を果たせるよう努める。大学の運営管理については、大部分が今年度と同じ役割となるため、今年度の経験を活かし、円滑に業務を遂行する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・地域看護学概論.
- ・地域看護学方法論Ⅱ.
- ・地域看護学方法論Ⅲ.
- ・地域看護学実習.
- ・総合実習 (地域看護学).
- ・看護研究
- ・看護学統合.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・杉本健太郎, 柏木聖代：医療職配置のないサービス付き高齢者向け住宅の介護職員が捉える入居者・家族が満足する看取りに寄与する要因, 日本在宅看護学会誌, 9巻, 2号, 20-30, 2021.
- ・杉本健太郎, 植村由美子, 富樫恵美子, 櫻井理恵, 増田恵美, 雨宮有子：新型コロナウイルス感染症の軽症者向け宿泊療養施設における保健医療班の活動報告, 千葉県立保健医療大学紀要, 12巻, 1号, 83-88, 2021.

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・細谷紀子, 杉本健太郎, 泰羅万純, 雨宮有子, 佐藤紀子：災害時の共助を意図した平常時の保健師活動に関する市区町村全国調査 (第一報), 第9回日本公衆衛生看護学会, 2020年12月25日, オンライン.

#### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費助成事業 (基盤研究 (C)) 2020-2023, 医療職配置のない高齢者向け住宅の介護職員が活用できる新たな感染対策マニュアルの開発, 研究代表者.
- ・科学研究費助成事業 (若手研究 (B)) 2016-2020, サービス付き高齢者向け住宅における看取りの質評価指標の開発, 研究代表者.
- ・科学研究費助成事業 (基盤研究 (C)) 2020-2023, 発達障害児の親に対する地域との繋がりづくりを意図した防災プログラム評価指標の開発, 研究分担者.
- ・科学研究費助成事業 (基盤研究 (C)) 2019-2022, エンパワメント基盤型介護予防実践支援ガイドの開発, 研究分担者.
- ・科学研究費助成事業 (基盤研究 (B)) 2018-2021, 地域包括ケアシステムに貢献できる看護職コンピテンシー育成プログラムの開発, 研究分担者.

- ・科学研究費助成事業（基盤研究（C））2016-2020，保健師活動への意欲を原動力にしてリーダーシップを発揮するためのガイドの開発，研究分担者。

#### IV 社会貢献・国際交流記録

##### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内軽症者向け宿泊療養施設における保健医療班活動（延べ10日間）。

##### 3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- ・柏市保健衛生審議会特別委員（健康増進専門分科会）2019年7月～現在。

##### 5 学会，学術団体への貢献

###### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本公衆衛生学会，日本地域看護学会，日本看護科学学会，日本在宅看護学会，日本在宅ケア学会，日本運動器看護学会，日本看護管理学会，日本健康医学会，日本高齢者ケアリング学研究会。

###### 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本在宅看護学会，編集委員，査読委員，2018年9月17日～現在。
- ・日本看護科学学会，査読委員，2019年10月～現在。

#### V 管理・運営記録

##### 1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・研究倫理審査委員会，キャンパス・ハラスメント相談員。

##### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教務委員会，看護学科担任。

#### VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育に関しては，オンデマンド授業の工夫，臨地指導者とのWeb電話等を用いることにより，学生からは，自身の担当コマに対し個別に「わかりやすかった」等の評価を複数受け，実習でも学生にコロナ以前と同様の実習目標を達成させることができた。研究については，筆頭著者として2本の論文を学術誌に投稿，掲載された。社会貢献については，千葉県内の新型コロナウイルス感染症の軽症者向け宿泊療養施設に計10日間派遣され，軽症者の療養支援とともに，宿泊施設内での看護職の業務マニュアルを作成するなど，県内医療体制の維持に貢献できた。大学の管理・運営については，所属する委員会における担当業務の円滑な遂行に努めた。

#### VII 次年度の目標

教育に関しては，引き続きCOVID-19の影響が危惧されるところであるが，今年度オンデマンド授業を行ったノウハウを生かし，遠隔授業であっても従前の学習目標を学生が達成できるよう工夫したい。実習については，学生や協力いただく臨地の職員・住民の感染対策に万全を期す。研究については，COVID-19の影響で実施に若干の遅れが出ているため，コロナ禍でも遂行できるよう計画を見直し，知見を見出せるよう努めていく。社会貢献については，引き続き自治体の審議会委員や学会委員を積極的に引き受けたい。大学の運営管理については，所属する委員会等が変わる見込みであるが，他の教員と連携しながら配置された委員会でも担う役割を円滑に遂行する。

## 助教 中山 静和 修士（看護学）

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和2年度は、特に担当する科目の講義・演習・臨地実習において、対象となる小児の発達段階に応じた看護援助への理解が深まるよう指導内容を工夫する。委員会活動では、これまでの経験を活かし、他の委員との報告・連絡・相談を十分に行いながら、役割が遂行できるよう努力する。また、研究活動においては、獲得している競争的資金をもとに、計画的に進めていけるよう努力する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
  - ・専門職間の連携活動論。
  - ・小児看護方法論Ⅰ。
  - ・小児看護方法論Ⅱ。
  - ・小児看護学実習。
  - ・総合実習（小児看護学領域）。

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・中山静和，鈴木千琴，川口千鶴，及川郁子：保育所看護職が目指していること -アンケート調査自由記述のテキスト分析から-。保育と保健，第26巻，第2号，p.16-18，2020年。
- ・鈴木千琴，中山静和，川口千鶴，及川郁子：保育所看護職の保健活動と研修に関する実態調査<第1報>，保育と保健，第26巻，第2号，p.19-25，2020年。
- ・鈴木千琴，中山静和，川口千鶴，及川郁子：保育所看護職の保健活動と研修に関する実態調査<第2報>，保育と保健，第26巻，第2号，p.26-30，2020年。

#### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・文部科学省科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金（基盤研究（C）），小学校入学に向けた幼児期からの慢性疾患患者への支援プログラムの開発，研究分担者。
- ・文部科学省科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金（基盤研究（C）），「気になる子ども」に対する保育施設での発達支援に向けた基盤的研究，研究代表者。

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所応援（延べ8日）。

#### 5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - ・日本小児看護学会，日本小児保健協会，日本保育保健協議会，全国保育園保健師看護師連絡会。

## V 管理・運営記録

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

・看護学科運営会議. 看護学科入試検討委員会. 看護学科総務・企画委員会.

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、とくに担当する講義において、小児の発達段階を踏まえた看護援助について、臨地で実際にあった場面を教材として活用したことで理解が深まるよう努めた。臨地実習では、学内実習に変更となった学生が臨地実習を行った学生との間で学習目標達成レベルに差が生じないよう工夫することができた。委員会活動では、同じ委員会メンバーと連携・協力することで速やかな対応に努めた。研究活動では、これまでの成果を論文として公表することができた。引き続き、計画的に研究活動をすすめたい。

## VII 次年度の目標

教育活動では、学内の講義・演習において対面授業・遠隔授業のいずれの場合でも、小児の特性を踏まえた看護援助について理解が深まるような指導内容を継続して検討し、学内での学びが臨地実習で活かせるような教育・指導となるよう工夫していく。委員会活動では、新たな業務内容を理解し、他の委員と密に連絡・相談を行いながら、役割を遂行できるよう努力する。また、研究活動においては、獲得している競争的資金の最終年度に当たるため、計画的に進め、成果をまとめられるよう努力する。

## 助教 椿 祥子 修士（看護学）

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

2020年度は、教育活動では、上席教員の指導の下、新々カリキュラムへの移行や新型コロナウイルス感染症予防対策としての遠隔授業や少人数での演習などに臨機応変に対応し、他教員とコミュニケーションを取りながら、授業と演習が滞りなく進むよう実習室の運営や物品管理を行なっていく。科研費を取得している研究において、インタビュー調査した内容の分析を進め論文投稿することと、新たな科研費の取得に向けて申請書を提出することが目標である。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
  - ・体験ゼミナール.
  - ・看護学原論.
  - ・看護技術論Ⅰ（日常生活援助技術）.
  - ・看護技術論Ⅱ（フィジカルアセスメント技術）.
  - ・看護技術論Ⅲ（検査治療技術）.
  - ・看護技術論Ⅳ（看護過程展開技術）.
  - ・看護技術論Ⅴ（総合技術演習）.
  - ・基礎看護学実習.
  - ・日常生活調整方法論.
  - ・看護学統合.

### III 研究記録

#### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・河部房子，今井宏美，椿祥子，植村由美子，石田陽子，松田友美：臨床看護師のフィジカルアセスメント技術修得に関する学習ニーズ調査，第40回日本看護科学学会学術集会，2020年12月，web.

#### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金若手研究（B），乳幼児期の重症心身障がい児の家族のヘルスリテラシーの様相の解明，研究代表者.
- ・科学研究費補助金基盤研究（C），看護師の臨床判断事例に基づくフィジカルアセスメント学習教材の開発，研究分担者.
- ・学内競争的資金共同研究費，リニューザブルカフを介した病原微生物伝播の可能性の検証，研究分担者.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 2 地域への保健医療活動

- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所応援（延べ8日）

#### 5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - ・日本小児保健協会，日本看護科学学会，日本看護教育学会，ナイチンゲール研究学会，千葉看護学会，文化看護学会.



## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

・自己点検・評価委員会. 認証評価部会.

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

・学生・進路支援委員会. 総務・企画委員会. 看護学科運営委員会.

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、上席教員の指導の下、担当する講義・演習において、遠隔や演習時間減少の中で、効果的に学習が進むように教材や授業内容を工夫した。COVID-19 感染拡大により変則となり感染予防対策を実施しながらの演習となったが、上席教員の指導の下、2 名の新任教員と協力しながら、支障がない演習準備や物品管理を行うことができた。研究活動では、科学研究費補助金基盤研究 (C) への申請を行った。委員会活動では、特に総務・企画委員会にて、遠隔授業が増えたことによるゼミ用 PC の管理運営が適切に行えるような環境を整え、他の委員会における役割についても年度当初の役割を遂行できた。

## VII 次年度の目標

2021 年度は、教育活動では、引き続きコロナ禍において、上席教員の指導の下、遠隔授業や少人数での演習などが効果的に進むように、他教員とコミュニケーションを取りながら、実習室の運営や物品管理を行なっていく。研究活動においては、未投稿のデータを学会発表と論文投稿することを目標とする。

## 助教 増田 恵美 修士（看護学）

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和2年度の教育活動においては、学生が目標達成できるように、また、演習や実習においてより良い学習効果が得られるように努めていく。また、新型コロナによる教育方法の変更として、遠隔での講義や演習や実習での環境整備等を整えていく必要があるため教員間で相談しながら、学生が滞ることなく円滑に学習できるように工夫していく必要がある。研究活動においては、学長裁量での研究成果をまとめていき、学会等で報告できるように準備を進めていく。看護学科学生進路支援委員会では、委員長の指示に従い系のメンバーと協力しながら業務を遂行していく。千葉県内における社会貢献活動では、千葉県母性衛生学会の運営に会計幹事として携わること、日本看護母性学会学術集会の実行委員での業務を遂行し貢献する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・母性看護学方法論Ⅰ.
- ・母性看護学方法論Ⅱ.
- ・母性看護学実習.
- ・助産診断・技術学Ⅱ.
- ・助産診断・技術学Ⅲ.
- ・助産診断・技術学Ⅳ.
- ・助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）.
- ・助産学実習Ⅱ（継続支援）.
- ・助産学実習Ⅲ（分娩期ケア）.
- ・総合実習.
- ・看護学統合.
- ・専門職間の連携活動論.

### III 研究記録

#### 1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所）

- ・増田 恵美：2021年版系統別看護師国家試験問題集 第109回看護師国家試験 解答と解説，2021，医学書院，東京。

#### 2. 学術論文・その他（著書：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・増田 恵美，石井 邦子，北川 良子：産後一ヶ月における骨盤周囲の固定による腰背部痛に対する効果，千葉県立保健医療大学紀要，第12巻，第1号，119-2021.
- ・杉本 健太郎，植村 由美子，櫻井 理恵，増田 恵美，雨宮 有子，富樫 恵美子：新型コロナウイルス感染症の軽症者向け宿泊療養施設における保健医療班の活動報告，千葉県立保健医療大学紀要，第12巻，第1号，83-88-2021.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 2 地域への保健医療活動

- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内軽症者向け宿泊療養施設における保健医療班活動（延べ10日）.

## 5 学会, 学術団体への貢献

### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会, 日本助産学会, 日本母性看護学会, 千葉県母性衛生学会.

### 2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本母性看護学会第23回学術集会, 企画委員, 2020年3月26日～現在に至る.
- ・千葉県母性衛生学会, 会計幹事, 2020年5月～現在に至る.

## 7 その他

- ・放送大学, オンライン教育補助者 (特定行為研修演習指導支援者), 2020年4月1日～2021年3月31日.

## V 管理・運営記録

### 2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科運営会議, 学生進路支援委員会, 看護学科1年生担任.

### 3 対外広報活動<新聞・ホームページでの活動・TV出演, ラジオ出演等>

- ・ホームページ: 千葉県立保健医療大学育成支援看護学領域母性看護学・助産学  
(<http://square.umin.ac.jp/cpuhs-mm/>).

## VI 評価 (成果および改善すべき事項)

教育活動において, 学生が目標を達成できるように学習状況に応じ個別的な指導内容を工夫した. 学長裁量共同研究では, 成果を取りまとめ学会発表に向けての準備を行った. 学生進路支援委員会では, 1年生担任での役割を果たし問題がある時は, 責任者へ報告しながら業務を進めていくことができた. 社会貢献は, 日本母性看護学会における企画委員で教育講演を担当し, 担当者間や事務局担当者と連携を取りながら進めた. 千葉県母性衛生学会の会計幹事としては, 業務が順調に遂行できることを課題とする.

## VII 次年度の目標

令和3年度の教育活動においては, 演習や実習において学生が主体的に学びより良い学習効果が得られるように努めている. また, 研究活動においては, 学長裁量共同研究で成果を取りまとめた研究を学会発表を行う. 研究費を獲得し, これまでの研究で得た知見を深めていきたい. 看護学科学生進路支援委員会では, 委員長の指示に従い係のメンバーと協力しながら業務を遂行していく. 社会貢献活動では, 千葉県母性衛生学会の会計幹事として役割を遂行し, 他の社会貢献活動を充実させる.

## 助教 相馬 由紀子 修士 (学校教育学)

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和2年度は、特にCOVID-19の影響を考慮しながら、学生が主体的な学習となるように講義・演習などの準備や補助を行っていく。実習においては、学生が高齢者への看護の学びを深められるよう指導方法を工夫する。研究活動では、今までの研究成果を発表できるように努め、自己の研究能力の向上をはかり、計画を立てて実行していく。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
  - ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ.
  - ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅱ.
  - ・高齢者看護学実習.
  - ・総合実習 (高齢者).
  - ・体験ゼミナール.
  - ・看護学統合.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・相馬由紀子, 上野佳代, 杉本知子, 佐伯恭子, 高柳千賀子, 鳥田美紀代: 病院や介護施設で就労している外国人看護師・介護福祉士候補者の職場定着に向けた支援の実態—国内の文献による検討—, 千葉県立保健医療大学紀要 12(1), 53-61, 2021.

#### 3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・相馬由紀子, 杉本知子, 上野佳代, 佐伯恭子, 高柳千賀子, 鳥田美紀代: 外国人看護師・介護福祉士候補者の職場定着に向けた支援の実態に関する文献検討, 第25回日本老年看護学学会. 2020年6月20-21日, 島根.

#### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・2020-2021年度学内共同研究 (若手), 我が国の病院や介護施設に従事する外国人看護師・介護福祉士候補者におけるヘルスケアの実態, 研究代表者.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 2 地域への保健医療活動 (診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所応援 (延べ7日).
- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内軽症者向け宿泊療養施設における保健医療班活動 (延べ3日).

#### 5 学会, 学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - ・日本老年看護学会, 日本看護学教育学会.

## V 管理・運営記録

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

・看護学科運営会議、看護学科学生・進路支援委員会、看護学科総務・企画委員会、担任（看護学科2年生）。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動においては、COVID-19 の感染拡大状況に合わせて、講義・演習方法でオンデマンドのための資料を作成したり、対面での演習内容や時間の調整をして、記録物や提出物や対面時の学修状況等から目標を達成することができたと考える。臨地実習が可能となった一部の施設では、施設側との感染対策や内容の調整をはかり、目標達成に向けて、学生の気づきや思考過程を丁寧に引き出す関りができたと考える。大学運営活動においても、教職員と連携し、業務を円滑に遂行することができた。研究活動においては、自己の研究能力の向上をはかることができ、紀要の掲載に至った。

## VII 次年度の目標

令和3年度は、特に、COVID-19 の影響を考慮しながら、Teams などを活用して感染予防をはかり、学生が、主体的な学習となるように講義・演習などの準備や補助が円滑に進むように努める。臨地実習においては、施設側との感染対策や内容の調整をはかり、目標達成に向けて、学生の気づきや高齢者への看護の学びや思考過程を引き出せるよう指導方法を工夫する。大学運営活動においては、所属する委員会において、教職員と連携しながら責任をもって職務を遂行する。研究活動では、COVID-19 禍でのよりよい調査方法を検討しながら、データ収集に努め、計画を立てて実行していく。

## 助教 内海 恵美 修士（教育学）

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和2年度は採用年度であり、本大学での基礎看護教育の概要を理解するとともに、新型コロナウイルス感染症の対策を講じながら、学修が効果的になるよう講義・演習・実習を実施する。大学の管理運営にかかるところでは、適宜教職員の指示を仰ぎながら、与えられた職責を果たせるよう連絡調整を十分にはかる。自己の研究課題を明確にし、その基礎的資料を収集する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
  - ・成人看護学方法論Ⅰ.
  - ・成人看護学方法論Ⅱ.
  - ・成人看護学実習（慢性期）.
  - ・体験ゼミナール.
  - ・総合実習.
  - ・看護学統合.

### III 研究記録

- 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）
  - ・学長裁量研究費，臨床で看護師として働く県立大学卒業生が直面する困難に関する研究，研究分担者.

### IV 社会貢献・国際交流記録

- 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）
  - ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所応援（延べ7日）.
  - ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内軽症者向け宿泊療養施設における保健医療班活動（延べ2日）.
- 5 学会，学術団体への貢献
  - 1) 所属学会・学術団体
    - ・日本外来小児科学会.

### V 管理・運営記録

- 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）
  - ・看護学科学生・進路支援委員会，2年生担任.



## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動においては、担当教員の指示を仰ぎながら準備・運営補助を行なった。COVID-19 感染拡大により、学内実習となった領域別実習ならびに総合実習は、学修目標と実施内容を再構成し、領域の教員の指導・協力のもと滞りなく実施することができた。臨地で行われた実習は、実習期間の短縮化や実習活動の制限があるなかで、学習内容がこれまで同様担保されるよう臨床指導者と協力しながら行うことができた。大学運営活動においては、本学の特徴や組織運営への理解を深めながら委員会活動を行った。一方で、研究活動については停滞しているため大きな課題である。

## VII 次年度の目標

引き続き、講義・実習の円滑な運営がなされるよう担当教員の指導のもと準備・運営補助に努める。研究活動においては、研究課題の見直しを行う。

## 助教 山本 千代 修士（看護学）

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和2年度は、教育活動としてCOVID-19の流行によるオンライン授業が円滑に行われるように講義および演習のサポートを行いながら、基礎看護学領域における教育活動の内容を把握し、授業準備（特に演習）を通して助教の役割を全うする。

研究活動は、千葉県立保健医療大学紀要に論文投稿を行う。また、外部資金獲得を目指して研究計画を進めていく。大学管理運営に関して、看護学科教務委員会の活動を通して組織運営を理解し、与えられた役割を全うする。社会貢献では、COVID-19流行の動向、県の方針を把握し、県からの業務要請に従事する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・体験ゼミナール。
- ・看護学原論。
- ・看護技術論Ⅰ（生活援助技術）。
- ・看護技術論Ⅱ（フィジカルアセスメント技術）。
- ・看護技術論Ⅲ（検査治療技術）。
- ・看護技術論Ⅳ（看護過程展開技術）。
- ・看護技術論Ⅴ（統合技術演習）。
- ・日常生活調整方法論。
- ・基礎看護学実習。
- ・看護学統合。

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・山本千代：臨床看護研究の指導に関する文献検討、千葉県立保健医療大学紀要、12、1、39-44、2021。

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）

- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所応援（延べ10日）。

#### 5 学会、学術団体への貢献

##### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護学教育学会、日本看護科学学会。

### V 管理・運営記録

#### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議、看護学科教務委員会/実習検討部会、看護学科1年生担任。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、COVID-19 感染対策を行いながら演習を実施した。また、オンライン授業による準備、学生対応を行い、助教としての役割を全うした。1年間の業務を通して領域内の授業展開について理解することができた。

研究活動では、千葉県立保健医療大学紀要の投稿を行った。また、研究計画書を立案し、科学研究費補助金基盤研究（C）および学内共同研究への申請を行った。

大学管理運営では、1年間の看護学科教務委員会の活動を通してその役割を理解した。COVID-19に関連し、通年通りではない事項に関しては、他の先生と協力しながら委員会業務を実施できた。社会貢献では、保健所応援要請に従事し、その役割を全うした。

## VII 次年度の目標

教育活動では、引き続き、COVID-19 感染対策を考慮した授業展開のサポートを行う。また、領域内の教員と協働して、オンライン授業や少人数での演習などに臨機応変に対応し、講義および演習が滞りなく進行するように実習室および物品管理を行う。研究活動では、今年度、立案した研究を開始する。大学運営管理では、引き続き、看護学科教務委員会のメンバーとしての役割を全うしていく。社会貢献も同様に、COVID-19 流行の動向、県の方針を把握し、県からの業務要請に従事していく。

## 助教 坂本 明子 修士（看護学）

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

2020年度はCOVID-19による感染拡大が懸念される中において、例年までと異なる環境であっても、授業及び実習の到達目標を学生が達成できるよう、科目責任者の助言の下、講義内容の見直しおよび新たな実習プログラム作成に取り組む。研究活動では、オンライン実施となった各研究会等に積極的に参加して自分の研究能力の向上を図るとともに、新規採択された科研費研究課題と並行して、昨年度末に終了した研究の成果発表をすすめていく。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
  - ・体験ゼミナール。
  - ・救命救急の理論と実際。
  - ・成人看護学方法論Ⅰ。
  - ・成人看護学方法論Ⅱ。
  - ・成人看護学実習（慢性期）。
  - ・総合実習。
  - ・看護学統合。

### III 研究記録

#### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・坂本明子：心不全終末期患者へのエンドオブライフケアの明確化（第2報）：看護師が終末期ケアへの移行判断後に行った看護実践，日本循環器看護学会第17回学術集会，2020年10月10日，オンライン開催。

#### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費助成事業 若手研究「心不全終末期患者へのエンドオブライフケア：苦痛緩和への実践内容・評価の明確化」，研究代表者。
- ・学長裁量研究費，臨床で看護師として働く県立大学卒業生が直面する困難に関する研究，研究分担者。

#### 6 受賞・特許

- ・日本循環器看護学会第17回学術集会：優秀演題賞，演題名「心不全終末期患者へのエンドオブライフケアの明確化（第2報）：看護師が終末期ケアへの移行判断後に行った看護実践」。

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所応援（延べ5日）。

## 5 学会、学術団体への貢献

### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会，日本循環器看護学会，日本老年看護学会，千葉看護学会，看護質的統合法研究会。

### 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本循環器看護学会，指名理事，2020年11月～2021年3月（現在）。
- ・日本循環器看護学会，広報委員，2020年11月～2021年3月（現在）。

## 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・2020年度看護研究指導。（東京歯科大学市川総合病院，2020年4月～2021年3月，東京歯科大学市川総合病院）
- ・2020年度看護研究指導。（千葉県循環器病センター，2020年5月～2021年3月，千葉県循環器病センター）
- ・研修会講師。（令和2年度セルフマネジメント研修，千葉県循環器病センター看護部，セルフマネジメントを学ぼう，千葉県循環器病センター看護師ラダーレベルⅢ以上，2020年12月21日，オンライン開催）

## 7 その他

- ・日本循環器看護学会ホームページ NewsLetter 執筆，VOL14 Hot Topic 2 循環器看護-研究編-，2020年9月。

## V 管理・運営記録

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科学生・進路支援委員会，看護学科入試検討委員会。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

2020年度は科目責任者の助言の下，COVID-19感染拡大による実習スタイルの変更に合わせて，新たな実習プログラムを作成・実施した。学生の実習プロセス内での様子や記録物から，慢性疾患とともに生活する患者のセルフマネジメント支援の看護で重要な態度や考え方，知識と技術を習得できたと考える。来年度にこの状況が続いた場合にはプログラムの洗練化を図り，より患者体験に基づく実習プログラムになるように改良する。研究活動については成果の一部として「心不全終末期患者へのエンドオブライフケアの明確化（第2報）：看護師が終末期ケアへの移行判断後に行った看護実践」を発表し，優秀演題となった。

## VII 次年度の目標

2021年度も引き続き，COVID-19の影響は続くと思われ。教育活動では今年度実施した，新たな講義・実習内容の洗練化を図る。慢性疾患とともに生活する患者の特性に関する学生の理解が深まるような指導方法を検討する。研究活動では，オンライン実施により様々な学会，研究会等に参加できる機会が増えたことを活かして，自分の研究能力の向上を図るとともに，未だ公表できていない成果があるので，学術論文として公表できるよう授業や実習との両立をはかり進めていく。

## 助教 櫻井 理恵 修士（看護学）

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和2年度は、特に、コロナ禍で組織運営や業務運営も、通常とは変更が生じていることが多い。その中で、感染症予防対策を講じながら、学生の学習にできる限り支障が出ないように、自分の割り振られた業務を確実にこなす。また、変更が生じている分、業務が煩雑になることや、慣れない状況が発生しやすい。細かな報告・連絡・相談を随時行い、トラブルが発生しないよう努める。また、千葉県民の視点に立ち、ニーズの理解に努める。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
  - ・体験ゼミナール。
  - ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ。
  - ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅱ。
  - ・高齢者看護学実習。
  - ・総合実習。
  - ・看護学統合。

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・杉本健太郎，植村由美子，櫻井理恵，増田恵美，雨宮有子，富樫恵美子：新型コロナウイルス感染症の軽症者向け宿泊療養施設における保健医療班の活動報告，千葉県立保健医療大学紀要，Vol112，No.1，83-88，2021。

#### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・櫻井理恵，飯岡由紀子，常盤文枝：がんサバイバーの看護師が仕事と療養生活の両立のために職場に対して抱いた配慮，第40回日本看護科学学会学術集会，2020年12月12日・13日，Web開催。

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

- 1) 千葉県内
  - ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所応援（延べ1日）。
  - ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内軽症者向け宿泊療養施設における保健医療班活動（延べ7日）。

#### 5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - ・日本看護科学学会，日本緩和医療学会。



## V 管理・運営記録

- 1 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）
  - ・看護学科運営会議. 看護学科教務委員会. 入試検討委員会.

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

令和2年度は特に、COVID-19の影響による、感染症対策に対する配慮は、実習施設や地域住民に対し、県立大学として信頼を損なわないよう、誠実な対応を心掛けた。実習指導業務において、施設との調整を行う際は、領域の先生方と情報を共有し、他施設の状況とも兼ね合いを図りながら、双方に混乱や誤解が生じないように注意した。また、対象者の方と直接関わる実習が行えないことで、学生が学べる内容が例年に比べると制限されてしまう状況があった。そのため、演習内で学生の実習としての学びが最大限になるよう、領域の先生方に助言を受けながら指導を行った。

## VII 次年度の目標

令和3年度も新型コロナウイルス感染症対応が必須となる状況が続いている。高齢者施設での感染症対策や高齢者の課題やニーズなど、現場で実際に行われている内容を学生に伝える工夫をすることで、臨地実習での学びに近づくように努める。研究活動では、本年度学内共同について、成果を発表できるよう進めていく。

## 助教 杉本 亜矢子 修士（看護学）

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで（育児休業中）

### I 年度当初の目標

育児休業中はメール連絡等の確認を怠ることなく、他教職員からの連絡には速やかに対応し在籍教員としての役割を果たす。学内共同研究の成果を大学紀要に投稿するにあたり、加筆・修正を行う。

### III 研究記録

#### 1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所）

・杉本亜矢子：2020年版系統別看護師国家試験問題集 第108回看護師国家試験 解答と解説，2020，医学書院，東京。

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

・杉本亜矢子，川城由紀子，石井邦子，北川良子，川村紀子，青柳優子，植竹貴子：助産師の内診による診断技術の発達，千葉県立保健医療大学紀要，12巻，1号，3-10，2021。

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 5 学会，学術団体への貢献

##### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本母性看護学会。
- ・千葉県母性衛生学会。

### V 管理・運営記録

#### 3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演，ラジオ出演等＞

・ホームページ：千葉県立保健医療大学育成支援看護学領域母性看護学・助産学  
(<http://square.umin.ac.jp/cpuhs-mm/>)。

### VI 評価（成果および改善すべき事項）

昨年度まで担当していた業務に関して改めて説明が必要な場面が生じたが，メールや電話で当日中に速やかに対応し今年度の担当教員の業務に支障がないよう努めた。

学内共同研究に関しては，自宅で加筆・修正した内容を上席教員に指導していただいたが，紀要投稿にあたっての査読後の修正等を上席教員に頼る形となった。

新型コロナウイルスの影響で病院に出向けなくなった母性看護学実習について，産後の母子の生活を理解する目的の学内演習に自宅からインターネット接続を用いて参加し，自身の産後の生活について説明，学生からの質問に答えることで一部教育活動に参加することができた。

### VII 次年度の目標

2021年3月末日で退職。

## 助教 渡辺 健太郎 修士（看護学）

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

2020年4月より着任となった。教育活動では、授業担当者の意図をとらえること、また、感染拡大防止のため遠隔授業のための環境の整備を行うことにより、講義・演習・実習における目標達成を支援する。研究活動では、看護系大学生の自己調整学習に関する研究を開始し、研究計画書の完成を目指す。また、外部資金や書倫理審査の申請に向けた準備を進める。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
  - ・看護学原論.
  - ・看護技術論Ⅰ（生活援助技術）.
  - ・看護技術論Ⅱ（看護共通技術）.
  - ・看護技術論Ⅲ（フィジカルアセスメント技術）.
  - ・看護技術論Ⅳ（検査治療技術）.
  - ・看護技術論Ⅴ（看護過程展開技術）.
  - ・日常生活調整方法論.
  - ・基礎看護学実習.
  - ・看護学統合.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）

- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所応援（述べ10日）.

#### 5 学会、学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - ・日本看護教育学学会、日本看護科学学会.

### V 管理・運営記録

#### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科入試検討委員会.

### VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、感染予防を行いながら目標達成を支援し、遠隔授業実施のための環境整備を行うことができた。また、対面授業や実習においても、感染者をださず、目標の達成を支援できた。研究活動では、研究計画書を作成し、外部資金への応募ができ、倫理審査申請への準備を整えることができた。

## VII 次年度の目標

2021年度は、教育活動では、感染状況による授業環境変化に臨機応変に対応できるよう、報告・連絡・相談をはじめとしたコミュニケーションを積極的に行い、学生の学習成果の向上のために主体的に行動する。研究活動では、看護系大学生の自己調整学習に関する研究を進め、次年度の公表に向けて年度内の演題登録を目指す。また、委員会等への活動への積極的な参加を通し管理運営に関わるとともに、社会貢献の機会を捉える。

## 助教 泰羅 万純 修士（看護学）

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

教育活動においては、主体的に考え、質の高い講義・演習となるよう準備や補助を行っていく。実習では、担当する学生の学習目標の達成を目指すだけでなく、学生が意欲的に実習を継続できるよう指導を工夫する。大学運営活動においては、教職員と連携し、責務を果たせるようにする。研究活動においては、共同研究者として積極的に研究に携わり、データ収集や分析方法について学ぶ。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
  - ・地域看護学概論.
  - ・地域看護学方法論Ⅲ.
  - ・地域看護学実習.
  - ・総合実習.
  - ・看護学入門実習.
  - ・看護学統合.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・雨宮有子，佐藤紀子，細谷紀子，杉本健太郎，泰羅万純：新人保健師のリフレクシオン力育成のためのファシリテーションガイドの開発，令和元年度学長裁量研究抄録，千葉県立保健医療大学紀要，第12巻第1号，113，2021.
- ・杉本健太郎，佐藤紀子，雨宮有子，細谷紀子，泰羅万純：医療職配置義務のない高齢者施設・住宅における感染症集団発生及び入居者の重症化を防ぐ方策の検討，令和元年度学長裁量研究抄録，千葉県立保健医療大学紀要，第12巻第1号，118，2021.

#### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・佐藤紀子，雨宮有子，細谷紀子，杉本健太郎，泰羅万純：住民主体の介護予防活動におけるコミュニティ・エンパワメントに関する文献検討—推進方法に着目して—，日本地域看護学会第23回学術集会，2020年8月29日～30日，オンライン.
- ・雨宮有子，佐藤紀子，細谷紀子，杉本健太郎，泰羅万純：ファシリテーションガイドを用いた新任期保健師リフレクシオン力育成プログラムの評価，日本地域看護学会第23回学術集会，2020年8月29日～30日，オンライン.
- ・細谷紀子，杉本健太郎，泰羅万純，雨宮有子，佐藤紀子：災害時の共助を意図した平常時の保健師活動に関する市区町村全国調査（第一報），第9回日本公衆衛生看護学会，2021年1月9日～10日，オンライン.

#### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費助成事業（基盤研究（C））2020-2023，医療職配置のない高齢者住宅の介護職員が活用できる新たな感染対策マニュアルの開発，研究分担者.
- ・科学研究費助成事業（基盤研究（C））2020-2023，発達障害児の親に対する地域との繋がりづくりを意図した防災プログラム評価指標の開発，研究分担者.
- ・学長裁量研究費，新人保健師のリフレクシオン力育成のためのファシリテーションガイドの開発，研究分担者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等 活動期間 場所等）

- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所応援（延べ8日）。

### 5 学会、学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本公衆衛生学会，日本地域看護学会，日本公衆衛生看護学会，千葉看護学会。

#### 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名 役職 活動期間）

- ・千葉看護学会第26回学術集会，企画委員，実行委員，査読委員，2019年10月1日～2020年10月31日。

### 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称 主催 団体名称 講演テーマ等 対象 開催日 時場所）

- ・業務研究に関する指導 市原市子育てネウボラセンター。「産婦健康診査で要支援者となった産婦の特徴」に関する研究の進め方やまとめ等の指導・助言 市原市子育てネウボラセンター保健師 2020年6月～2020年11月 市原市子育てネウボラセンター。

## V 管理・運営記録

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科学生・進路支援委員会，看護学科入試検討委員会，看護学科2年担任。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動においては、COVID-19の感染拡大状況に合わせて、講義・演習方法の工夫を行ったり、新たな実習プログラムの作成をしたことによって、学生の発言や記録物等から従来と同様の学習目標を達成することができたと考える。大学運営活動においても、コロナ禍に合わせてWebを活用しながら、教職員と連携し、業務を円滑に遂行することができた。研究活動においては、COVID-19の影響で対人でのデータ収集を行うことはできなかったが、昨年度までに収集したデータの分析を進めた。

## VII 次年度の目標

教育活動においては、引き続きCOVID-19の影響がある中でも、学生が意欲的に学び、学習目標を達成できるよう、講義・演習・実習内容、方法を今年度の評価を行った上で、より工夫をして実施する。大学運営活動においては、所属する委員会において、教職員と連携しながら責任をもって職務を遂行する。研究活動においては、コロナ禍の状況に合わせた方法を検討しながら、積極的に進めていく。





# 榮養學科



## 教授（兼）学科長 細山田 康恵 博士（医学）

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

学科長として、学科の円滑な運営と大学運営に携わり、学科と大学のパイプ役として責任を果たしていきたい。新型コロナウイルスの影響で遠隔授業へ取り組む際、対面と同様に授業の質を保てるような講義をこころがけ、実験はできる限り密にならないように実施させたい。研究においては、学科教員や学外の方と協力して進めていけるように時間の確保につとめたい。また、大学運営では担当している委員会や部会において、さらに積極的に取り組めるように努めていきたい。社会貢献では、UR都市機構と共同で団地にお住いの高齢者の方の生活の向上につながるプログラムを実施したい。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・生化学総論
- ・生化学
- ・栄養生化学
- ・臨床検査学
- ・生化学実験
- ・解剖生理学 I
- ・解剖学実験
- ・卒業研究
- ・総合演習
- ・体験ゼミナール

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・細山田康恵，山田正子：魚油，酒粕を摂取したラットの血清脂質濃度と不安行動に及ぼす影響，日本補完代替医療学会誌，17-1，43-49，2020.
- ・T.Miyaki, Y.Kawasaki, Y.Hosoyamada, T.Amari, M.Kinoshita, H.Matsuda, S.Kakuta, T.Sakai, K.Ichimura: Volume scanning electron microscopy for 3D analysis of biological ultrstructure. Juntendo Medical Journal, 66-2, 108～119, 2020.
- ・Y.kawasaki, T.Miyaki, J.Yamaguchi, S.Kakuta, Y.Hosoyamada, T.Sakai, K.Ichimura: Application of conventional FE-SEM to podocyte structural analysis protocol and usage examples, Juntendo Medical Journal, 67-1, 2-9, 2021.
- ・Y.Kawasaki, Y.Hosoyamada, T.Miyaki, J.Yamaguchi, S.Kakuta, T.Sakai and K.Ichimura: Three-dimensional architecture of glomerular endothelial cells revealed by FIB-SEM tomography. Frontiers cell dev. Biol. Vol.9, Article 653472, 2021.
- ・細山田康恵，東本恭幸，河野公子，海老原泰代，阿曾菜美，岡田亜紀子，峰村貴央，島田美恵子，麻賀多美代，麻生智子，鈴鹿祐子，雄賀多 聡，竹内弥彦，江戸優裕，岡村太郎，渡邊智子：千葉県の高齢者ための健康づくりプログラム（ほい大健康プログラム）の評価に関する研究，千葉県立保健医療大学紀要，12-1，63-67，2021.
- ・岡田亜紀子，東本恭幸，河野公子，海老原泰代，峰村貴央，細山田康恵：地域高齢者支援における大学生の体験型学習によって得られる学修効果の検証，12-1，69-75，2021.

- ・細山田康恵, 金澤匠, 山田正子: 高脂肪食ラットの脂質代謝に及ぼすカプサイシンの影響, 千葉県立保健医療大学紀要, 12-1, 106, 2021.
- ・金澤匠, 細山田康恵: 肥満ラットの肝オートファジーに対するカロテノイド摂取の影響, 千葉県立保健医療大学紀要, 12-1, 99, 2021.
- ・鈴木亜夕帆, 細山田康恵, 金澤匠, 渡辺智子: 野菜類の調理前の殺菌操作における成分変化および残存塩素量, 千葉県立保健医療大学紀要, 12-1, 109, 2021.
- ・細山田康恵, 東本恭幸, 河野公子, 海老原泰代, 岡田亜紀子, 峰村貴央: 地域高齢者支援における大学生の体験型学習によって得られる学修効果の検証, 千葉県立保健医療大学紀要, 12-1, 121, 2021.
- ・佐藤紀子, 石井邦子, 細山田康恵, 麻賀多美代, 成田悠哉, 岡村太郎, 三和真人, 雄賀多聡, 田邊政裕: 保健医療大学取組報告会ー保健・医療・福祉の連携拠点としてー, 千葉県立保健医療大学紀要, 12-1, 122, 2021.

### 3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・細山田康恵, 金澤匠, 山田正子: 高脂肪食摂取ラットの脂質代謝に及ぼすカプサイシンの影響, 第67回日本栄養改善学会学術総会, 2020年9月2日, 誌上開催
- ・山田正子, 樋口誉誌子, 阿部明恵, 遠藤美智子, 三澤朱実, 細山田康恵: 異なるタンパク質および魚油投与によるラットの血清成分および肝臓脂質に与える影響, 第67回日本栄養改善学会学術総会, 2020年9月2日, 誌上開催
- ・樋口誉誌子, 阿部明恵, 三澤朱実, 細山田康恵, 山田正子: 市販冷凍ほうれん草のシュウ酸含有量, 第67回日本栄養改善学会学術総会, 2020年9月2日, 誌上開催
- ・鈴木亜夕帆, 細山田康恵, 金澤匠, 渡辺智子: 野菜類の調理前の殺菌操作における成分変化および残存塩素量, 第67回日本栄養改善学会学術総会, 2020年9月2日, 誌上開催
- ・細山田康恵, 山田正子: 魚油, 酒粕を摂取したラットの血清脂質濃度と不安行動に及ぼす影響, 日本脂質栄養学会第29回大会, 2020年9月11日, 12日, Web開催

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称, 活動期間, 場所等)

#### 1) 千葉県内

- ・千葉市保健福祉局健康福祉部健康推進課発行 千葉市 食育&消費者教育情報誌「おいしくタベル たのしくマナブ Vol.1.6」 監修 (本学学生による農家さんへのインタビュー).

### 5 学会・学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本栄養食糧学会, 日本栄養改善学会, 日本脂質栄養学会, 日本解剖学会, 日本生化学会,

#### 2) 学会・学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本栄養改善学会, 評議員, 2003年4月から現在に至る.

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・大学運営会議, 共通教育運営会議, 入試実施委員会, 教務委員会, FD・SD委員会, 研究倫理審査委員会, 動物部会, 資格審査委員会, 自己点検・評価委員会, 教育年報作成部会, 将来構想検討委員会, 人事委員会,

### 2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・栄養学科運営会議, 栄養学科教授会, 卒業研究委員会,

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

学科長として、学科内でCOVID-19感染症予防対策の方針を共有し、学生さんの対面授業がスムーズに実施できるように努めた。実験の際には、できる限り蜜にならなように班編成を工夫して行った。また、遠隔授業をする際には、対面と同様の授業の質が保てるように、事前課題、動画①～⑤、事後課題の形式で講義を心がけて実施できた。研究においては、通常とは異なる授業準備に時間がかかり、研究する時間の確保が難しかった。次年度は、時間を有効活用できるように改善に努めたい。また、大学運営では、学科教員の欠員のため多くの委員を担当し、他学科と連携をとりながら進めることができた。とくに、研究倫理審査委員会にCOIの部会を設置できたことは成果といえる。社会貢献は、コロナ禍でできることが限られ、計画通りにすることができなかった。今後、コロナ禍でできる地域貢献を継続して検討していきたい。

## VII 次年度の目標

コロナ禍の生活様式に慣れるように努め、大学運営と学科運営が順調に進むように責任を果たしていきたい。COVID-19感染症予防対策をしっかりとりながら、学生教育に力を注ぎ、遠隔授業と対面授業において、授業の理解度が下がらないように工夫したい。研究においては、学外の方とも協力して進めていけるように時間の確保につとめ、研究成果を論文として報告したい。また、大学運営では担当している委員会や部会において、他学科と協力し、さらに積極的に取り組めるように努めていきたい。社会貢献では委員長として、地域の方の生活向上につながることを検討していきたい。



## 教授 東本 恭幸 博士 (医学)

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

まず教育面では、遠隔授業が導入された場合でも学生が興味を持って主体的に学べる工夫を凝らして、修得した知識や技術を基盤に様々な課題に柔軟に対応できる力を醸成していく。また研究面では、様々なパラダイムシフトのただ中にある医療介護連携における在宅栄養のテーマを掘り下げるとともに、社会貢献、管理運営面においても引き続き積極的に取り組んでいく。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・解剖生理学Ⅰ.
- ・解剖生理学Ⅱ.
- ・解剖学 (歯科衛生学科).
- ・解剖学実験.
- ・生理学実験.
- ・疾病論.
- ・画像診断学.
- ・リスクマネジメント論.
- ・総合演習.
- ・専門職間の連携活動論.

##### 2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)

- ・臨床病態生理学特論 (放送大学大学院).
- ・統合臨床生理学・疾病概論 (放送大学).
- ・病態生理学特別講義 (北陸学園).
- ・解剖生理学実習 (北陸学園).

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線)

- ・細山田康恵, 東本恭幸, 河野公子, 海老原泰代, 阿曾菜美, 峰村貴央, 島田美恵子, 麻賀多美代, 麻生智子, 鈴鹿祐子, 雄賀多聡, 竹内弥彦, 江戸優裕, 岡村太郎, 渡邊智子: 千葉県の高齢者のための健康づくりプログラム (ほい大健康プログラム) の評価に関する研究, 千葉県立保健医療大学紀要, vol. 12, no. 1, p. 63-67, 2021.
- ・岡田亜紀子, 東本恭幸, 河野公子, 海老原泰代, 阿曾菜美, 峰村貴央, 細山田康恵: 地域高齢者支援における大学生の体験型学習によって得られる学修効果の検証, 千葉県立保健医療大学紀要, vol. 12, no. 1, p. 69-75, 2021.
- ・細山田康恵, 東本恭幸, 河野公子, 海老原泰代, 岡田亜紀子, 峰村貴央: 地域高齢者支援における大学生の体験型学習によって得られる学修効果の検証, 千葉県立保健医療大学紀要, vol. 12, no. 1, p. 121, 2021.
- ・阿曾 (染矢) 菜美, 東本恭幸, 渡邊智子, 細山田康恵, 小川 真: 高齢女性における塩味の認知閾値と血圧および食・生活習慣に関する研究, 日本病態栄養学会誌, 2021. (投稿中)

## 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究（C），在宅療養高齢者への訪問看護師によるフットケアプロトコルの開発，研究分担者.
- ・千葉県立保健医療大学学長裁量研究，地域高齢者支援における大学生の体験型学習によって得られる学修効果の検証，研究分担者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 5 学会，学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本小児外科学会. 日本外科学会. 日本内科学会. 日本老年医学会. 日本臨床栄養代謝学会. 日本病態生理学会. 日本在宅静脈経腸栄養研究会. 千葉県NST ネットワーク. 千葉県医師会. 千葉県庁医師会. 千葉医学会.

#### 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名. 役職. 活動期間）

- ・日本臨床栄養代謝学会（旧・日本静脈経腸栄養学会）. 学術評議員. 2014年2月～現在に至る.
- ・千葉県NST ネットワーク. 世話人. 2015年5月～現在に至る.
- ・第36回日本臨床栄養代謝学会学術総会プログラム委員. 2019年2月～現在に至る（2021年7月21～22日開催予定）.
- ・第29回千葉県NST ネットワーク当番世話人. 2019年6月～現在に至る（2021年5月29日開催予定）.

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教授会. 入試実施委員会（副委員長，2020年11～12月委員長代行）. 入試改革検討委員会. 衛生委員会. 教員審査委員会. 共通教育運営会議.

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・栄養学科教授会. 栄養学科運営会議.

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育面ではCOVID-19の蔓延によって遠隔授業が中心となったが，講義科目での事前課題，事後課題の理解度は高く，期末試験の得点からみても十分な学修効果が得られたものと考えられた。実験科目では，感染リスクの少ない8月および10月を中心に少人数に分けて対面実習を行うとともに，その学生実習の様子や教員によるデモ実験の収録ビデオおよび実データ等を教材としたり，個々の学生が自宅で行った実験データを持ち寄ってオンラインディスカッションを中心とした遠隔授業での実習を行った。学生からは遠隔授業で実験・実習ができるの心配だったが十分な内容だったとする評価が多かった。担当分の講義・実習科目の授業評価（5段階）は平均4.79（4.76～4.82）と高評価が得られた。研究についてはCOVID-19の影響が大きく，予定していた研究の大幅な遅れを余儀なくされて十分な成果が得られなかったことは反省点である。入試実施委員会業務では従来と全く異なる運用への対応に難渋し膨大な業務量を要求されたが，トラブルなく完了できたことは委員の尽力によるものと心からの謝意を表したい。来年度も同様の状況が続くものと考えられ，入試問題作成と入試実施については委員会業務の分掌化を行うなどの適正な改善を強く望みたい。

## VII 次年度の目標

任期満了に伴い，後任教員に引き続き積極的にご活躍いただけるよう十分な引継ぎを行う。

## 教授 井上 裕光 修士 (教育学)

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和二年度は、遠隔を含めた教育の質をさらに向上させる。入学直後の学生への大切な時期を無駄にしないようにする。また、研究活動も再開する。

新システム運用については、各システム間の調整やチューニングが必要な個所の洗い出し、さらに、すべてのHDDの安全な消去（個人情報・教育情報の完全な消去）が指示されたことによる、消去作業の実施。旧システム物品の搬出など、課題が残ったままになっている点を整理し、新システムとしての稼働体制を整備する。また、新システム運用を安全に行うための体制づくり（学内教員への啓蒙と周知）を行い、管理者の育成など、機動的に対応できる体制を目指す。また、十分な新入生・新教員向けのガイダンスと、学生向けの学内システム（新機能）紹介を行う。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
  - ・体験ゼミナール。
  - ・統計学。
  - ・情報リテラシーⅠ。
  - ・情報リテラシーⅡ。
  - ・教育の方法と技術。
  - ・事前指導。
  - ・総合演習。

### III 研究記録

#### 1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所）

- ・井上裕光：保健情報統計学，2021，医歯薬出版，東京。

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- ・ISO/TC34 国内審議団体事務局(FAMIC 国際課)。ISO/TC34/SC12 国内対策委員。2004～現在に至る。

#### 5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - ・日本心理学会。日本教育心理学会。日本人間工学会。日本教育工学会。日本発達心理学会。日本パーソナリティ学会。日本家政学会。日本家庭科教育学会。日本教師学学会。日本官能評価学会。
- 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）
  - ・日本官能評価学会。常任理事（企画・編集）。1996～現在に至る。
  - ・日本官能評価学会。査読。2020-2021。
  - ・日本官能評価学会。常任編集委員。
  - ・（一財）日本科学技術連盟。官能評価セミナー委員長。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教授会. 広報委員会, 入試改革検討委員会. 自己点検・評価委員会. 共通教育運営会議. 認証評価部会. 自己点検・評価実施推進部会. IR 部会.
- ・学内情報システムガイダンス・学生支援課サポート. 学内情報システム・企画運営課サポート. 学内ネットワーク運営保守. 教員サポート. 学生サポート. 情報ネットワーク・ゼミ用 PC 更改. レセコン設置サポート.
- ・システム更改のための仕様書作成, 性能評価票作成, DC での運用管理・物品管理,

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育の質の向上については、遠隔授業対応を行った。自習用教材の追加、エクセルファイルの配布等予定通りに行うことができた。同時に、5月1日に学内への Teams 導入の講習会・学内教員への Q&A 提供・フォローアップなど、できることはやった（しかし、体調を崩し、8月に入院するなど、迷惑をかける結果になった）。なお、初学者教育対策として、レポート作成スキルアップについて、引き続き重点的に行ったものの、対面での演習科目としての時間を用意されず、新入生へのスキル向上が果たせなかった。なお、応用編としての実践統計学を開始した。

研究する時間は確保できなかった。

官能評価の普及活動については、普及活動用の資料を見直し、さらに間口を広げることを試みた。

学内情報ネットワークシステムについては、新システムではクラウド活用（安定利用）を図るため、データセンター（DC）利用と Sinet5 の導入とを同時に行う必要があった。また、全世界的なインテル CPU の不足（生産調整・供給調整）のため、サーバーや端末の確保が困難を極めて、配布 PC の初期不良が想像以上に多かったなど、導入トラブルが多発した。新年度のぎりぎりのチューニングが必要になり、事務局の協力のもとで連日の調整が続いてしまった。Windows7 の延長サポート切れに対しても、学内システム上許される範囲の方法を使って安全性を確保したうえで、なんとか2月初旬の Windows10 への移行完了となったが、このため Windows10 の年2回のシステム更新の影響も受け、一時的に Windows Update を停止するなど、調整に追われた。

大学ホームページ運用については、実働として事務局の協力を得て、新大学ホームページ公開後の運営する母体となる広報委員会を設置したが、リース延長に起因する老朽化が原因となるシステムトラブルが続いたため、きわめて不十分な委員会運営と運用となってしまう、多大な迷惑をかけた。

本来の新システムの全容を学内へ紹介するなど、学生向け・教員向けの講習会が不十分で、学内講習会スケジュールも決められなかった。新型コロナウイルス感染の対策のため、実際の対面演習ができず、資料提供にとどまった。

## VII 次年度の目標

令和三年度は、教育の質をさらに向上させる。研究活動も再開する。

このコロナ対策の状況が続くことを前提に、感染対策を考慮した演習時間を用意して情報リテラシーI を運用する（三密対策の上で授業を行う）。

新システム運用については、引き続き、各システム間の調整やチューニングが必要な個所の洗い出し、安全な情報端末の廃棄作業を手伝う。また、新システム運用を安全に行うための体制づくり（学内教員への啓蒙と周知）を行い、管理者の育成など、機動的に対応できる体制を目指す。また、十分な新入生・新教員向けのガイダンスと、学生向けの学内システム（新機能）紹介を行う。とくに、新しいシステムであるため、理解不足からの情報漏洩事故等に最大限配慮する。

## 教授 菊池 裕 薬学博士

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和2年度は、前任者の講義及び実習を参考とし、新たな知見を加えて学生の教育を遂行する。教育内容及び方法の改革として、科学的な知見に基づいて管理栄養士に必要な新たな方法を取り入れる。学生に対する学習支援として、学生の視線から講義及び実習を捉える。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
  - ・食品学総論.
  - ・理化学概論.
  - ・食品加工学.
  - ・食品衛生学.
  - ・食品微生物学.
  - ・総合演習.
  - ・体験ゼミナール.
  - ・食品化学実験.
  - ・食品衛生学実験.
  - ・食品加工学実習.
  
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）

### III 研究記録

#### 1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所）

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・菊池裕，那須正夫：微生物迅速試験法をいかに活用するか1 現状と将来展望を考える。 *Pharm Tech Japan*, 37, 3, 395, 2021.
- ・Yusuke Nomura, Junji Yamamura, Chie Fukui, Hideo Fujimaki, Kazuyuki Sakamoto, Ken-ichi Matsuo, Hisashi Kuromatsu, Yutaka Kikuchi, Yuji Haishima: Performance evaluation of bactericidal effect and endotoxin inactivation by low-temperature ozone/hydrogen peroxide mixed gas exposure. *J. Biomed. Mater. Res.* 2021. DOI: 10.1002/jbm.b.34840.
- ・Hideyuki Hara, Junji Chida, Agriani Dini Pasiana, Keiji Uchiyama, Yutaka Kikuchi, Tomoko Naito, Yuichi Takahashi, Junji Yamamura, Hisashi Kuromatsu, Suehiro Sakaguchi: Vaporized Hydrogen Peroxide and Ozone Gas Synergistically Reduce Prion Infectivity on Stainless Steel Wire. *Int. J. Mol. Sci.* 22, 3268, 2021. doi.org/10.3390/ijms22063268.
- ・Atsutaka Kubosaki, Naoki Kobayashi, Maiko Watanabe, Tomoya Yoshinari, Kosuke Takatori, Yutaka Kikuchi, Yukiko Hara-Kudo, Jun Terajima, Yoshiko Sugita-Konishi: A New Protocol for the Detection of Sterigmatocystin-producing *Aspergillus* Section *Versicolores* Using a High Discrimination Polymerase. *Biocontrol Science*, 25, 2 113-118, 2020.

### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

### 4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名，テーマ，開催日，場所等）

- ・菊池裕：新規参考情報（案）：エンドトキシン試験法と測定試薬に遺伝子組換えタンパク質を用いる代替法について，第22回日本薬局方に関する研修会，2020年9月4日，東京。

### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・一般財団法人医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団「日本薬局方の試験法等に関する研究」，探求活性化試験法による新規発熱性物質試験法の開発，研究開発担当者。
- ・国立研究法人日本医療研究開発機構 医薬品等規制調和・評価研究事業，医薬品製造工程管理における微生物学関連試験法の導入と評価に関する調査研究，研究開発担当者。
- ・国立研究法人日本医療研究開発機構 医薬品等規制調和・評価研究事業，医薬品の品質確保のための日本薬局方改正に向けた試験法等開発に関する研究，研究開発分担者。
- ・国立研究法人日本医療研究開発機構 医薬品等規制調和・評価研究事業，再生医療の安全性確保のための迅速無菌試験法の感度設定に関する手法開発とモニタリグの在り方に関する研究，研究開発分担者。

### 6 受賞・特許

- ・特許第6761563号，除染装置および除染方法，2020年9月9日。

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

- 1) 千葉県内
- 2) 千葉県外
- 3) 海外

### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

### 3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- ・独立行政法人医薬品医療機器総合機構 日本薬局方原案検討委員会 総合委員会，2020年4月1日-2021年3月31日。
- ・独立行政法人医薬品医療機器総合機構 日本薬局方原案検討委員会 無菌医薬品包装の完全性評価WG，2020年4月1日-2021年3月31日。
- ・独立行政法人医薬品医療機器総合機構 日本薬局方原案検討委員会 国際調和検討委員会，2020年4月1日-2021年3月31日。
- ・独立行政法人医薬品医療機器総合機構 日本薬局方原案検討委員会 生物試験法委員会，2020年4月1日-2021年3月31日。
- ・独立行政法人医薬品医療機器総合機構 日本薬局方原案検討委員会 専門委員，2020年4月1日-2021年3月31日。
- ・一般財団法人医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団 生物薬品標準品評価委員会，2020年4月1日-2021年3月31日。

### 5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - ・日本薬学会。
  - ・日本生化学会。
  - ・日本マイコプラズマ学会。

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本防菌防黴学会, 理事, 2020年4月1日-2021年3月31日.

## 7 その他

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・学術推進企画委員会
- ・紀要編集部会
- ・学内共同研究費部会
- ・認証評価部会
- ・入試委員

## VI 評価 (成果および改善すべき事項)

新型コロナウイルス感染症の流行により, 担当した実習は対面授業で, 講義はすべて遠隔授業で行なった. 動画の視聴による事業においても, 常に最新の知識を伝えるように努力したが, 遠隔授業で学生の習熟度に差があることを理解し, 学生の意見を吸い上げる方法については模索中である.

## VII 次年度の目標

担当する講義及び実習で, 最新の科学の動向を取り入れると共に, 学生の要望や社会の動向に即した内容を提供できるように努力する.

科学研究費補助金の獲得にむけ, 食品行政に即した研究課題を立案すると共に, 学内研究環境の更新を図りたい.



## 教授 谷内 洋子 博士 (学術)

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和2年度は、画一的な指導ではなく、学生らの取り組みを見守り、時に経緯やプロセスを含めて、結果に至るまでの過程について、主体的な取り組みを評価し、見守ることの意義にも留意して取り組みたい。今後も、学生の個性を考慮した細やかな指導を行い、このように考え行動することが正しい、と一方的に教えるのではなく、課題を見出し、自ら考え実践し解決できる能力を持った人材の育成に力を尽くしたい。

また、現職の管理栄養士向けの研修会講師やシンポジストの依頼も増えてきたことから、これらの活動を通じて啓蒙活動を行うとともに、自身の研究活動の円滑な推進に取り組み、日本人の日常生活にすぐに適用可能な科学的エビデンスの確立を通じて、国民（県民）の生活の質向上や医療費抑制に貢献したい。“妊産婦のための食生活指針”が今年度の活動を受けて、13年ぶりに近年のエビデンスを反映させた新たな指針に令和2年に改訂されることから、こちらについての広報活動および啓蒙活動にも注力したい。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・臨床栄養学Ⅰ.
- ・臨床栄養学Ⅱ.
- ・総合演習.
- ・管理栄養士導入教育.
- ・臨床栄養学実習.
- ・栄養ケアマネジメント論実習.
- ・栄養ケアマネジメント論演習.
- ・事前・事後指導 (臨地実習).
- ・臨床栄養臨地実習.
- ・栄養管理臨地実習.
- ・専門職間の連携活動論.
- ・千葉県の健康づくり.

##### 2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)

- ・臨床栄養学 (日本女子大学)
- ・臨床栄養学実践演習 (日本女子大学)
- ・血液・内分泌・代謝内科学分野 新潟大学大学院医歯学総合研究科研究員.

### III 研究記録

#### 1 著書 (著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所。)

- ・谷内洋子, 長浜幸子他：コンパクト 臨床栄養学, 朝倉書店, 東京.
- ・谷内洋子：糖尿病の最新食事療法のなぜに答える【基礎編】，医歯薬出版, 東京.
- ・谷内洋子, 杉山隆, 瀧本秀美他：【臨床栄養 別冊】はじめてとりくむ妊娠期・授乳期の栄養ケア-リプロダクティブステー  
ジの視点から. 医歯薬出版, 東京.

## 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・谷内洋子，曾根博仁：妊娠初期における糖代謝異常スクリーニング指標の検討。糖尿病と妊娠。20(3) 80-81，2020。（査読あり）
- ・谷内洋子：学術研究 図書紹介。千葉県栄養士会雑誌。31；4，2020。（査読あり）
- ・谷内洋子：日本人妊産婦における体格および食・生活習慣をめぐる現状と課題。New Diet Therapy。36(4)；47-54，2021。（査読あり）

## 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・谷内洋子，田中康弘，曾根 博仁：妊娠初期の身体活動度および食事内容と耐糖能異常の関連 TWC Study，第72回日本産科婦人科学会学術講演会，2020年4月23日～2020年4月28日，web開催
- ・Yachi Y，Sone H. The combination of fasting plasma glucose and HbA1c in the first trimester synergistically increases a risk prediction for later gestation. International Association of the Diabetes and Pregnancy Study Groups 2020，Nov. 13<sup>th</sup>-26<sup>th</sup>，Virtual Congress，2020.

## 4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名，テーマ，開催日，場所等）

- ・第42回日本臨床栄養学会総会 第41回日本臨床栄養協会総会 第18回大連合会，“妊娠前からはじめる妊産婦のための食生活指針”-14年ぶりの改定に向けた論点- 日本人妊産婦における体格および食・生活習慣をめぐる現状と課題，2020年10月19日-2020年11月2日，web開催。
- ・第74回国立病院総合医学会，未来へつなぐ栄養戦略～生活習慣病予防と低出生体重児増加の観点から～ 日本人若年女性・妊婦におけるやせ過ぎと次世代の健康，2020年10月17日-2020年11月14日，web開催。

## 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・令和2年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（基盤研究（B）），地域の全世代保健/医療ビッグデータの統合解析による健康寿命延伸エビデンスの創成，研究分担者。
- ・厚生労働省科学研究費補助金，レセプトデータベースにおける健康寿命を規定する重症イベント精密捕捉技術の確立・正確性検証とその社会実装を通じたEBMと政策立案に貢献できるエビデンス創出，研究分担者。

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

#### 2) 千葉県外

- ・“産後クラブ（3カ月健診）食育講座”，令和2年4月～令和2年6月，東京都世田谷区田中ビル。
- ・食事・栄養相談，令和2年4月～令和3年3月，東京都大田区。

### 3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- ・日本糖尿病・妊娠学会 糖尿病と妊娠にかかわる科学的根拠に基づく医療の推進プロジェクト ワーキングメンバー，平成2年4月～令和3年3月。
- ・日本人事試験研究センター 専門試験（栄養士/管理栄養士）試験問題作成委員，令和2年4月～令和3年3月。

### 4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・公益社団法人 千葉県栄養士会，研究教育事務 副部長，令和2年4月～令和3年3月。
- ・公益社団法人 千葉県栄養士会，外来栄養食事指導検討委員，令和2年4月～令和3年3月。
- ・栄養学雑誌，編集委員，令和2年4月～令和3年3月。

## 5 学会、学術団体への貢献

### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本栄養改善学会、日本臨床栄養学会、日本病態栄養学会、日本成人病（生活習慣病）学会、日本栄養・食糧学会、日本糖尿病・妊娠学会、DOHaD 研究会、日本疫学会、日本栄養士会、千葉県栄養士会、

### 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本疫学会、代議員、令和2年4月～令和3年3月、
- ・日本栄養・食糧学会、参与、令和2年4月～令和3年3月、
- ・日本栄養改善学会、評議員、令和2年4月～令和3年3月、
- ・日本病態栄養学会、評議員、令和2年4月～令和3年3月、
- ・日本糖尿病・妊娠学会、評議員、令和2年4月～令和3年3月、
- ・公益社団法人 千葉県栄養士会 理事、令和2年4月～令和3年3月、

## 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・2020年度千葉県栄養士会研究教育事業部研修会、千葉県栄養士会、臨床クエスチョンから論文執筆へエビデンスの創出について、2020年12月26日、web開催

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学生委員会、危機管理委員会、再任審査委員会、カリキュラムプランニング勉強会、

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・国試対策委員、

### 3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演、ラジオ出演等＞

- ・国立研究開発法人 医療基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所：妊娠前からはじめる妊産婦のための食生活指針-妊娠前から、健康なからだづくりを-。

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/ninsanpu/>

- ・国立研究開発法人 医療基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所：妊産婦さんが気になるQ&A、

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/ninsanpu/faq.html>

- ・日本学術会議 臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同生活習慣病対策分科会、提言「生活習慣病予防のための良好な成育環境・生活習慣の確保に係る基盤づくりと教育の重要性」、

<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-24-t293-3.pdf>

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

COVID-19 感染防止を念頭に、学生の健康を守ること、および教員自身が他者の健康を守るための行動をとることを踏まえて、令和2年度は講義動画を視聴することで学びを深め、小テストや課題提出による理解度確認や質疑応答を行う授業形態を実践することを目標とし、無事に令和2年度を終えることができた。講義科目の多くは、オンデマンド配信の授業形式となったが、Teams の機能を駆使して、設定したチャンネル内でのリアルタイムディスカッションを取り入れるなど、一方的な知識の伝達ではなく、同時双方向型の授業を展開するなどの工夫をすることで、学生の理解度や反応などを随時把握することに努めることができた。

学外臨地実習については、令和2年度はCOVID-19の影響で予定していた実習施設（2施設）での実習が取りやめとなる事態もあったが、幸い他の実習施設のご厚意もあり、無事に予定していた履修学生の実習を行うことができた。来年度も実習担当教員や実習施設の担当者と連携しながら、より良い指導を実践し、学生にとって実り多い臨地実習となるよう支援していきたい。

## VII 次年度の目標

令和3年度の授業実施は、学生の安全を第一に優先し、対面授業と遠隔授業とのハイブリッド型の授業形態とし、学生の学びがより一層深いものとするとともに、学生と教員、学生と学生の関わりをつなぎ、協力し合い、人との関わりを通して社会の中で生きていることを学生ひとりひとりに認識できるような仕組みを提供することで、県民はじめ自分以外の他者の健康づくりに貢献できる人材輩出に力を尽くしたい。

また、保健医療専門職を対象とした研修会講師や学会のシンポジストの依頼も増えてきたことから、これらの活動を通じて管理栄養士を含む保健医療専門職への啓蒙活動を行うとともに、自身の研究活動の円滑な推進に取り組み、日本人の日常生活にすぐに適用可能な科学的エビデンスの確立を通じて、国民（県民）の生活の質向上や医療費抑制に貢献したい。“妊娠前からはじめる妊産婦のための食生活指針”が14年ぶりにリニューアルし、2021年3月31日付けで厚生労働省から公表されたことから、当該指針改定事業検討委員の一員として、一般の方から専門職に至るまで、広く広報活動および啓蒙活動にも注力したい。

## 准教授 荒井 裕介 博士（農芸化学）

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和2年度は、教育面では、遠隔による授業実施においても担当する領域の基礎的な知識技術の習得ができるよう、動画や資料の工夫をしながら講義・実習を実施する。研究面では参加する共同研究を適切に実施する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・公衆栄養学Ⅰ.
- ・公衆栄養学Ⅱ.
- ・栄養疫学.
- ・公衆栄養学実習.
- ・公衆栄養臨地実習.
- ・栄養管理臨地実習.
- ・事前指導.
- ・事後指導.
- ・管理栄養士導入教育.
- ・卒業研究.
- ・千葉県の健康づくり.
- ・専門職間の連携活動論.

##### 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）

- ・公衆衛生学（金沢医科大学）.
- ・公衆栄養学（大阪市立大学）.

### III 研究記録

#### 1 著書（著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所）

- ・高橋佳子，高松まり子，荒井裕介他：公衆栄養概論（エスカパーシク）（第9版），2020年4月，同文書院，東京.
- ・押野榮司，森恵子，荒井裕介他：改訂カレント公衆栄養学，2020年10月，建帛社，東京.
- ・荒井裕介，阿部絹子，今井具子他：管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 公衆栄養学2021年版，2021年3月，医歯薬出版，東京.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 3 審議会、委員会、国家試験委員等の実績（活動団体名称、委員名称、活動期間）

- ・船橋市。ふなばし健やかプラン21（第2次）推進評価委員会委員。2020年10月～2021年3月.

## 5 学会, 学術団体への貢献

### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本栄養改善学会, 日本公衆衛生学会, 日本高血圧学会, 日本疫学会,
- ・日本栄養士会, 神奈川県栄養士会.

### 2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・特定非営利活動法人日本栄養改善学会, 理事, 2019年11月～現在に至る.
- ・特定非営利活動法人日本栄養改善学会, 評議員, 2006年11月～現在に至る.
- ・特定非営利活動法人日本栄養改善学会, 関東・甲信越支部会副支部長, 2020年8月～現在に至る.
- ・特定非営利活動法人日本栄養改善学会, 第68回学術総会実行委員長, 総務委員長, 2020年10月～現在に至る.
- ・一般社団法人日本公衆衛生学会, 代議員, 2019年7月～現在に至る.
- ・一般社団法人日本公衆衛生学会, 公衆衛生分野における行政管理栄養士のあり方委員会委員, 2018年2月～現在に至る.
- ・第22回国際栄養学会議プログラム委員, 2019年4月～現在に至る.

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・学術推進企画委員会, 広報委員会, 国際交流委員会.

### 2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・卒業研究担当

## VI 評価 (成果および改善すべき事項)

教育面では遠隔授業においても学生が担当する領域の基礎的な知識技術の修得ができるよう, 講義ではスライドのわかりやすい記述や解説説明に努めた. 研究面では参加する共同研究にて専門的立場から発言するとともに必要な研究報告を行ったが, 研究の成果を論文までまとめることができなかった.

## VII 次年度の目標

教育面では, 担当する領域の基礎的な知識技術の習得ができるよう, 引き続き講義・実習の工夫をしながら実施する. 研究面ではデータの解析をすすめて論文化に取り組む. また共同研究に取り組む.

## 准教授 金澤 匠 博士（農学）

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

2020年度は、研究費の獲得による研究の推進及びその研究成果の公表（学会発表や学術論文投稿）を目指す。また教育の面でも、授業や実習の内容に関して工夫をすることで内容の充実を図る。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・体験ゼミナール.
- ・栄養学Ⅰ（基礎）.
- ・栄養学Ⅱ（応用）.
- ・食品学各論.
- ・食品学実験.
- ・基礎栄養学.
- ・基礎栄養学実習.
- ・卒業研究.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・金澤匠，細山田康恵：肥満ラットの肝オートファジーに対するカロテノイド摂取の効果，千葉県立保健医療大学紀要，第12巻，第1号，99p，2021年3月31日.
- ・細山田康恵，金澤匠，山田正子：高脂肪食摂取ラットの脂質代謝に及ぼすカプサイシンの影響，千葉県立保健医療大学紀要，第12巻，第1号，106p，2021年3月31日.
- ・鈴木亜夕帆，細山田康恵，金澤匠，渡邊智子：野菜類の調理前の殺菌操作における成分変化および残存塩素量，千葉県立保健医療大学紀要，第12巻，第1号，109p，2021年3月31日.

#### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・細山田康恵，金澤匠，山田正子：高脂肪食摂取ラットの脂質代謝に及ぼすカプサイシンの影響，日本栄養改善学会，2020年9月2日，北海道・一般演題紙上開催.
- ・鈴木亜夕帆，細山田康恵，金澤匠，渡邊智子：野菜類の調理前の殺菌操作における成分変化および残存塩素量，日本栄養改善学会，2020年9月2日，北海道・一般演題紙上開催.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 5 学会，学術団体への貢献

##### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本農芸化学会，日本生化学会，日本栄養・食糧学会，日本栄養改善学会，日本食品科学工学会.

##### 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本栄養改善学会，評議員，2016年11月1日～2020年10月31日（任期満了）.



## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

・総務企画委員会. 危機管理委員会. 社会貢献委員会. 進路支援委員会. 動物実験研究倫理審査部会. 学内意向調査委員会.

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

研究に関しては、科研費や学内共同研究費を獲得することができず、またコロナ禍による遠隔授業への対応等があったため、満足のいく活動及び成果は得られなかった。教育においても、遠隔授業が主となったため通常の授業と同様の質の担保が難しかった。そのような中で、丁寧な説明を心掛けた動画などの教材作成、学生との疑問点の共有など工夫した授業を行うことができた。また学生実験では、消毒の徹底や密を避けるなど感染対策を行いながら進めることができた。

## VII 次年度の目標

2021年度は、研究費の獲得による研究の推進及びその研究成果の公表（学会発表や学術論文投稿）を引き続き目指す。また教育の面でも、遠隔授業への対応も含めて引き続き講義や実験・実習の内容に関して工夫をし、更なる内容の充実を図る。

## 准教授 河野 公子 修士 (家政学)

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和2年度は、教育者として研鑽を積むこと。特にコロナ禍における授業方法と学生とのコミュニケーションの取り方について工夫することを心がけるとともに学びの環境を整える努力をしたい。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・給食経営活動論Ⅰ.
- ・給食経営管理論Ⅱ.
- ・給食経営管理実習.
- ・給食経営管理臨地実習.
- ・食事設計と調理実習.
- ・在宅栄養支援論.
- ・管理栄養士導入教育.
- ・事前指導(臨地実習).
- ・事後指導(臨地実習).
- ・専門職間の連携活動論.
- ・総合演習.
- ・発達歯科衛生学Ⅱ.
- ・卒業研究.
- ・管理栄養士国家試験対策講座.

##### 2) 他大学, 大学院等の非常勤講師 (科目名, 大学名)

- ・いのちと生活Ⅰ 栄養学(講義 千葉科学大学).
- ・栄養学(講義 和洋女子大学).

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者: 題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・細山田康恵, 東本恭幸, 河野公子, 海老原泰代, 阿曾菜美, 岡田亜紀子, 峰村貴央, 島田美恵子, 麻賀多美代, 麻生智子, 鈴鹿祐子, 雄賀多 聡, 竹内弥彦, 江戸優裕, 岡村太郎, 渡邊智子: 千葉県の高齢者ための健康づくりプログラム (ほい大健康プログラム) の評価に関する研究, 千葉県立保健医療大学紀要, 12-1, 63-67, 2021.
- ・岡田亜紀子, 東本恭幸, 河野公子, 海老原泰代, 峰村貴央, 細山田康恵: 地域高齢者支援における大学生の体験型学習によって得られる学修効果の検証, 12-1, 69-75, 2021.
- ・細山田康恵, 東本恭幸, 河野公子, 海老原泰代, 岡田亜紀子, 峰村貴央: 地域高齢者支援における大学生の体験型学習によって得られる学修効果の検証, 千葉県立保健医療大学紀要, 12-1, 121, 2021.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

#### 1) 千葉県内

- ・松戸保健所における新型コロナ陽性者への電話確認、電話相談、事務処理(2020年5月12日).

### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）

- ・千葉市あんしんケアセンターにおける美浜区多職種連携活動(2020年3月11日).

### 5 学会、学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本給食経営管理学会.
- ・日本栄養士会、千葉県栄養士会.

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学生委員会、進路支援委員会、特色科目委員会、初期医療通訳ボランティア育成、図書委員会.

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・栄養学科運営会議、卒業研究担当.

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

コロナ禍における分かり易い動画作成やオンライン授業方法と学生とのコミュニケーションの取り方について工夫するとともに対面授業における安全な学びの環境を整える努力を行った。また、臨地実習新規受け入れ先の調整に苦慮したが年間計画期間内に実施することができた。

## VII 次年度の目標

コロナ終息の兆しがみえないことから、安全な大学生活を過ごすとともに効率的な時間の調整を行い、学生の育成のために更なる努力をしていきたい。また、千葉県内の学外活動を充実させたい。

## 講師 海老原 泰代 博士 (生活環境学)

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和2年度は、特に新たな生活習慣が求められる中で、大学の授業の在り方も安全に配慮しつつ教育効果の向上を目指した授業方法を検討していきたい。研究面においては、外部資金へ応募するとともに、これまで館山市など県内の関係者と協力して取り組んできた千葉県の健康課題に引き続き取り組む。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
  - ・専門職間の連携活動論.
  - ・管理栄養士導入教育.
  - ・栄養教育論Ⅰ.
  - ・栄養教育論Ⅱ.
  - ・栄養教育手法論.
  - ・栄養教育論実習.
  - ・栄養教諭教育実習 事前・事後指導.
  - ・栄養教諭教育実習.
  - ・総合演習.
  - ・卒業研究.
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)
  - ・栄養学、千葉市青葉看護専門学校.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線)

- ・海老原泰代、加藤理津子、千歳はるか：児童向けがん予防の栄養教育教材開発を目的としたインタビュー調査、日本食育学会誌、第14巻、第2号、107-113、2020.
- ・細山田康恵、東本恭幸、河野公子、海老原泰代、阿曾菜美、岡田亜紀子、峰村貴央、島田美恵子、麻賀多美代、麻生智子、鈴鹿祐子、雄賀多聡、竹内弥彦、江戸優裕、岡村太郎、渡邊智子：千葉県の高齢者のための健康づくりプログラム (ほい大健康プログラム) に関する評価、千葉保健大紀要、第12巻、第1号、63-67、2021.
- ・岡田亜紀子、東本恭幸、河野公子、海老原泰代、峰村貴央、細山田康恵：地域高齢者支援における大学生の体験型学習によって得られる学修効果の検証、千葉保健大紀要、第12巻、第1号、69-75、2021.

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル、主催学会 (学会名称)、開催日、場所等、本人下線)

- ・海老原泰代、加藤理津子、千歳はるか：栄養教諭によるがんを含む生活習慣病予防教育の実施可能性について～インタビュー調査、第8回日本食育学会学術大会、令和2年5月23～24日、東京家政学院大学(誌上開催に変更).
- ・海老原泰代、加藤理津子、千歳はるか：児童へのよるがんを含む生活習慣病予防教育の実施可能性について～インタビュー調査、第67回日本栄養改善学会学術総会、令和2年9月2日、札幌コンベンションセンター(誌上開催に変更).

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 3 審議会、委員会、国家試験委員等の実績（活動団体名称、委員名称、活動期間）

- ・第68回日本栄養改善学会学術総会実行委員会、総務委員会、副委員長、2020年10月1日～現在に至る。

### 4 職能団体委員等（職能団体名称、委員名称、活動期間）

- ・千葉県栄養士会、研究教育部会役員、2016年4月1日～現在に至る。

### 5 学会、学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本公衆衛生学会、日本健康教育学会、日本臨床栄養協会、日本肥満学会、NPO法人西東京臨床糖尿病研究会、千葉県学校保健学会、日本栄養改善学会、日本食育学会、
- ・日本栄養士会、千葉県栄養士会。

#### 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・千葉県学校保健学会、評議員、2017年4月1日～現在に至る。
- ・日本栄養改善学会、評議員、2018年11月1日～現在に至る。

### 7 その他

- ・「がんを含む生活習慣病知識と食行動の関連—学校教職員へのアンケートより—」結果報告会、館山市教育委員会、館山市養護教諭、2020年3月9日、報告書による報告。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教務委員会、学部長候補者選考予備選挙管理委員会、栄養教諭教職課程運営委員会。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・1年生担任、栄養学科運営会議。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

令和2年度は、特に新たな生活習慣が求められる中で、大学の授業を学外実習含めて安全に配慮しながら実施できた。遠隔授業でも動画を作成し、事前課題で授業への取り組みを促し、事後課題で学生の理解度を確認するなど試行錯誤であったが周囲と協力し合うことで教育効果向上をはかることができた。研究面においては、外部資金へ応募した。現地訪問はかなわなかったが館山市とも関係者と協力して健康課題に取り組むことができた。

## VII 次年度の目標

令和3年度は、特に感染症対策等の安全に配慮して大学での充実した学びを提供したい。さらに遠隔授業の教育効果の向上を目指して授業方法を検討していきたい。研究面においては、外部資金へ応募するとともに、引き続き子どものころからの生活習慣病予防等の健康課題について千葉県内外で取り組む。

## 講師 鈴木 亜夕帆 博士 (学術)

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和2年度は、教育と研究、そして、社会貢献についても視野にいれながら努力を続けたい。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・食事設計と調理.
- ・調理科学実験.
- ・調理実習.
- ・体験ゼミナール.
- ・千葉県の健康づくり.
- ・総合演習.
- ・食育論 I.
- ・食育論 II.
- ・食生活教育論.
- ・学校栄養教育論.
- ・教職実践演習.

### III 研究記録

#### 1 著書 (著者本人下線：著書, 発行年, 発行所, 発行場所)

- ・渡邊智子, 鈴木亜夕帆：ちば型食生活食事実践ガイドブック本編, 2021年, 千葉県・千葉県教育庁.
- ・渡邊智子, 鈴木亜夕帆：ちば型食生活食事実践ガイドブック資料編, 2021年, 千葉県・千葉県教育庁.
- ・渡邊智子, 鈴木亜夕帆：ちば型食生活食事実践ガイドブック概要版 (グー・パー食生活ガイドブック), 2021年, 千葉県・千葉県教育庁.

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・鈴木亜夕帆, 細山田康恵, 金澤匠, 渡邊智子：野菜類の調理前の殺菌操作における成分変化および残存塩素量, 千葉県立保健医療大学紀要, 12, 1, 109, 2021.

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・鈴木亜夕帆, 細山田康恵, 金澤匠, 渡邊智子：野菜類の調理前の殺菌操作における成分変化および残存塩素量, 第67回日本栄養改善学会学術総会, 9月2日-4日, 誌上開催.
- ・峰村貴央, 荻野目望, 山岸海, 鈴木亜夕帆, 佐々木梓, 渡邊智子：昆布だしのグルタミン酸量及びヨウ素量に及ぼす昆布の部位及び調理方法の影響, 第67回日本栄養改善学会学術総会, 9月2日-4日, 誌上開催.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

#### 1) 千葉県内

- ・千葉県保健福祉局健康福祉部健康推進課 千葉市食育&消費者教育情報誌「おいしくタベル たのしくマナブ Vol. 6」監修（本学学生担当部分）

### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）

- ・松戸保健所新型コロナウイルス感染症対策応援 5月13日、14日、16日。

### 3 審議会、委員会、国家試験委員等の実績（活動団体名称、委員名称、活動期間）

- ・文部科学省科学技術・学術審議会、食品成分委員会及び作業部会専門委員。

### 5 学会、学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・栄養改善学会、調理科学会、千葉学校保健学会。

### 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・株式会社LEOC（給食受託会社）プロフェッショナル育成を目的とした社内研修制度「LEOC 大学院」における栄養学部 講師、社内管理栄養士対象。9月19日、11月7日、12月17日、1月23日、1月28日、3月5日、3月6日。オンライン。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・倫理委員会

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・栄養学科運営会議、・栄養学科3年生担任

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、新型コロナウイルス感染症対策のための授業対応として種々の工夫を行った。研究活動では、一定の成果があったが、予定した内容は達成できなかった。

## VII 次年度の目標

担当授業において、自ら考え、問題解決する思考が育つような授業展開を目指してさらに改善を行う。継続している研究について成果を出せるように努力する。



## 助教 阿曾 菜美 博士 (人間環境学)

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、教育や研究の様々な面で影響を受けることが予想される。そのような中でも、遠隔授業や感染対策を講じた実験実習など、科目担当者と協力し新たな手法を取り入れ、教育の質を落とさない工夫をしていきたい。研究活動においては、被験者と接触する実験や遠方での学会参加等は慎重になる必要があるが、論文執筆や新たな実験計画の立案等、置かれた環境下でできることを模索していきたい。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
  - ・専門職間の連携活動論.
  - ・生理学実験.
  - ・生化学実験.
  - ・応用栄養学実習.
  - ・食品加工学実習.
  - ・解剖学実験.
  
- 2) 他大学, 大学院等の非常勤講師 (科目名, 大学名)
  - ・栄養学 (千葉市青葉看護学校).

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者: 題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・細山田康恵, 東本 恭幸, 河野 公子, 海老原泰代, 阿曾 菜美, 岡田亜紀子, 峰村 貴央, 島田美恵子, 麻賀多美代, 麻生 智子, 鈴鹿 祐子, 雄賀多 聡, 竹内 弥彦, 江戸 優裕, 岡村 太郎, 渡邊 智子: 千葉県の高齢者のための健康づくりプログラム(いま大健康プログラム)に関する評価, 千葉県立保健医療大学紀要, 12巻, 1号, p63, 2021年.

#### 3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・阿曾 (染矢) 菜美: 甘味と脂質に対する感受性に気分状態と一過性ストレスが与える影響, 第21回千葉県栄養改善学会, 2021年2月6日, オンライン・誌上開催.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 5 学会, 学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - ・日本生理学会. 日本体力医学会. 日本食生活学会. 日本病態栄養学会. The American Physiological Society.
  
- 2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)
  - ・International Journal of Sports Medicine, 査読者. 2020年5～8月.

## V 管理・運営記録

- 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）  
・栄養学科運営会議. 4年生副担任. 国試対策委員.

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

新型コロナウイルス感染症予防に配慮しながら，教育および研究活動を行った. 対面で実施した実験実習補助科目については，環境衛生や健康チェック，蜜を防ぐ工夫など感染対策を講じながら実施した. また，オンラインで実施した科目については，実験のデモ動画の撮影や編集等を行った. 制約の多い1年であったが，科目担当者と連携して教育の質を可能な限り確保しながら，安全に実験実習を遂行することができた.

## VII 次年度の目標

千葉県立保健医療大学での経験を糧に，引き続き，研究・教育活動および社会貢献に力を注ぎたい.

## 助教 生魚 薫 修士 (家政学)

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和2年度は、臨床栄養及び給食経営管理分野の担当教員とともに教育活動に励み、自身の研究についても遂行していく。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・臨床栄養学実習.
- ・栄養ケアマネジメント論実習.
- ・栄養ケアマネジメント論演習.
- ・事前・事後指導.
- ・給食経営管理実習.
- ・臨床栄養臨地実習.
- ・給食経営管理臨地実習.

### III 研究記録

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・生魚薫, 杉浦令子, 村田光範：児童生徒の体格に合わせた学校給食エネルギー量算出の必要性について, 第67回日本栄養改善学会学術総会, 9月2～4日, 札幌コンベンションセンター (誌上開催).
- ・生魚薫, 鈴木一成：当院における妊娠糖尿病患者への取り組み 無痛分娩を希望し, 来院された1例, 第36回 日本糖尿病・妊娠学会学術集会, 11月13～26日, Web 開催.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称, 活動期間, 場所等)

##### 2) 千葉県外

- ・鈴木糖尿病内科クリニック栄養指導 (2019年11月～継続中).

#### 2 地域への保健医療活動 (診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

- ・習志野保健所派遣要請 (2021年1月18, 19).

#### 5 学会, 学術団体への貢献

##### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本臨床栄養代謝学会, 日本栄養改善学会, 日本臨床栄養学会, 日本病態栄養学会, 日本成長学会, 日本肥満学会, 日本小児保健協会, 日本小児科学会, 日本糖尿病・妊娠学会.
- ・日本栄養士会, 千葉県栄養士会.

## V 管理・運営記録

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称 活動期間は特に記載のない限り年度内）

・栄養学科運営委員, 1年生副担, 栄養学科履行係

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

コロナ禍と前期授業補助の初年度ということもあり、対面授業、遠隔授業、感染対策など新しい授業様式に戸惑いがあった。科目担当教員と相談しながら、学生の実習・演習、臨地実習が円滑に遂行するように努めた。副担として1年生を担当した、担任と相談しながら健康管理・学習環境の支援を心掛けた。研究活動では、感染対策を取りながら、データ収集を継続してきた。研究同様に感染対策を取りながら、糖尿病患者における栄養指導の継続と患者支援の成果発表をすることができた。

## VII 次年度の目標

引き続き、教育活動に専念する。研究活動においては、前年度構築したデータをもとに研究成果報告に取り掛かる。また、感染対策を取りながら、糖尿病患者への栄養指導を続けていきたい。

## 助教 田村 友峰子 修士（生命科学）

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令教育と研究の両立とともに、社会貢献の機械を作る。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・食品加工実習.
- ・食品衛生学実習.
- ・給食経営管理実習.
- ・給食経営管理臨地実習.
- ・事前指導.
- ・事後指導.

## 助教 岡田 亜紀子 修士（学術）

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和2年度は、県民の方々、学生への貢献はもちろんのこと、教育活動関連科目に関連する分野の原著論文を1報作成できるよう、時間管理、業務の効率化に努める。学位取得に向け、研究活動に励む。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・公衆栄養学実習。
- ・公衆栄養臨地実習。
- ・事前指導。
- ・事後指導。
- ・栄養教育論実習。
- ・栄養教諭教育実習。
- ・栄養教諭教育実習。事前・事後指導。
- ・食品衛生学実験。
- ・専門職間の連携活動論。

##### 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）

- ・臨床栄養代謝学Ⅱ（神奈川県立衛生看護専門学校）。

### III 研究記録

#### 1 著書（著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所）

- ・岡田亜紀子：食と健康，5月号，p. 41, 58-59, 2020, (公社) 日本食品衛生協会，東京。
- ・岡田亜紀子：食と健康，7月号，p. 60, 76-77, 2020, (公社) 日本食品衛生協会，東京。
- ・岡田亜紀子：食と健康，8月号，p. 47, 64-65, 2020, (公社) 日本食品衛生協会，東京。
- ・岡田亜紀子：食と健康，10月号，p. 43, 62-63, 2020, (公社) 日本食品衛生協会，東京。
- ・岡田亜紀子：食と健康，12月号，p. 41, 60-61, 2020, (公社) 日本食品衛生協会，東京。
- ・岡田亜紀子：食と健康，2月号，p. 41, 60-61, 2021, (公社) 日本食品衛生協会，東京。

#### 2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・細山田康恵，東本恭幸，河野公子，海老原泰代，阿曾菜美，岡田亜紀子：千葉県の高齢者のための健康づくりプログラム（ほい大健康プログラム）に関する評価，千葉県立保健医療大学紀要，12, 1, 63-67, 2021. (査読あり)
- ・岡田亜紀子，東本恭幸，河野公子，海老原泰代，峰村貴央，細山田康恵：地域高齢者支援における大学生の体験型学習によって得られる学修効果の検証，千葉県立保健医療大学紀要，12, 1, 69-75, 2021. (査読あり)

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 5 学会、学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本栄養改善学会、クリニカルバス学会、日本臨床栄養協会、千葉県学校保健学会、日本在宅栄養管理学会、
- ・公衆衛生学会、日本在宅医療学会、・日本栄養士会、千葉県栄養士会。

### 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・大人のための食育講座、幸手市立図書館、高齢者でも免疫力は高まる！食事のお話①、2020年10月24日、幸手市立図書館視聴覚室。
- ・大人のための食育講座、幸手市立図書館、高齢者でも免疫力は高まる！食事のお話①、2020年11月8日、幸手市立図書館視聴覚室。
- ・成田市生涯大学院教養講座、成田市教育委員会生涯学習課、楽しむ食生活のすすめ、2021年2月1日・3日、成田市生涯大学校。（コロナ感染症により開催中止）

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・栄養学科3年生副担任。

### 3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演、ラジオ出演等＞

- ・進学説明会、2020年7月20日、千葉県立千葉北高等学校。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、COVID-19 感染症予防対策を念頭に置き、学科教員と連携して学生対応をおこなった。遠隔授業のための新たな教育ツールとして本学に導入された Microsoft Teams を中心としたアプリケーションソフトの利用方法を習得し、対面・遠隔の混交で複雑化した学習環境によってもたらされる影響をなるべく少なく、学生の学修成果が平時に近づくよう、科目責任者と学生を支援することに努めた。

研究活動では、教育活動関連科目に関連する分野の資料を筆頭著者として1報作成したものの、博士号取得のための研究が進まなかったため、次年度の目標としたい。大学の運営、社会貢献活動では、大学、県職員の一員として、貢献先の依頼に応えられるよう努力した。

## VII 次年度の目標

県民の方々、学生への貢献はもちろんのこと、博士号取得のための原著論文を1報以上作成できるよう、時間管理、業務の効率化に努める。



## 助教 峰村 貴央 博士（食品栄養学）

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和2年度は、前年度までの反省点を生かし、次年度の目標も教育・研究・社会貢献の3つを挙げ、これらを同時に実践ができるように業務スタイルの確立に努める。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・調理科学実験.
- ・食品化学実験.
- ・食品学実験.
- ・食品衛生学実験.
- ・基礎栄養学実習.
- ・調理実習.
- ・食事設計と調理実習.
- ・体験ゼミナール.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・Takao Minemura, Shingo Matsumori, Sayuri Akuzawa: Comparison of cooked rice and starch paste properties of mutant rice: Journal of Japan Health Medicine Association, 29, 425-433.
- ・細山田康恵，東本恭幸，河野公子，海老原泰代，岡田亜紀子，峰村貴央：地域高齢者支援における大学生の体験型学習によって得られる学修効果の検証：千葉県立保健医療大学紀要，12(1)，121.
- ・細山田康恵，東本恭幸，河野公子，海老原泰代，阿曾菜美，岡田亜紀子，峰村貴央，上野佳代，鈴木恵子，島田美恵子，麻賀多美代，麻生智子，鈴鹿祐子，雄賀多聡，竹内弥彦，江戸優裕，岡村太郎，渡邊智子：千葉県の高齢者のための健康づくりプログラム（いまい大健康プログラム）の評価に関する研究：千葉県立保健医療大学紀要，12(1)，69-75.
- ・岡田亜紀子，東本恭幸，河野公子，海老原泰代，峰村貴央，細山田康恵：地域高齢者支援における大学生の体験型学習によって得られる学修効果の検証：千葉県立保健医療大学紀要，12(1)，63-67.

#### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・山洞なつめ，秋葉舞子，石井礼菜，佐伯佳恵，寺内恵美子，河合美佐子，峰村貴央，小西敏郎，鈴木礼子：大学生の食環境とエネルギー産生栄養素バランスについて：第79回日本公衆衛生学会総会，2020.10.20-22.
- ・秋葉舞子，石井礼菜，山洞なつめ，佐伯佳恵，寺内恵美子，河合美佐子，峰村貴央，小西敏郎，鈴木礼子：大学生のビタミンC摂取量と食物摂取頻度，食環境，味質識別能について：第79回日本公衆衛生学会総会，2020.10.20-22.
- ・石井礼菜，秋葉舞子，山洞なつめ，佐伯佳恵，寺内恵美子，河合美佐子，峰村貴央，小西敏郎，鈴木礼子：大学生の脂質摂取量と菓子～食環境・栄養・味質識別能の横断的調査：第79回日本公衆衛生学会総会，2020.10.20-22.
- ・峰村貴央，荻野目望，山岸海，鈴木亜夕帆，佐々木梓，渡邊智子：昆布だしのグルタミン酸量及びヨウ素量に及ぼす昆布の部位及び調理方法の影響：第67回日本栄養改善学会学術総会，2020.9.2-4.

## 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金 基盤研究 A，東ユーラシア東辺における古代食の多角的視点による解明とその栄養価からみた疾病，研究分担者。
- ・2020 年度千葉県立保健医療大学 学内共同研究，緑豆澱粉の理化学的特性に関する研究，研究代表者。

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・松戸保健所派遣，2021. 1. 3.

### 5 学会，学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本食品科学工学会，日本調理科学会，日本応用糖質科学会，日本栄養改善学会，日本健康医学会，日本給食経営管理学会，千葉県学校保健学会。

## V 管理・運営記録

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・2 年生副担任。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

今年度の目標も業務バランスを意識することだったが，社会や環境の変化から生じた行動の制限により，思うような活動ができなかった。教育・社会貢献活動は，先々を見越した行動をとることができず，臨機応変に対応する力や教育経験が不足していると痛感した。一方で，研究活動において，停滞傾向にあった自らの研究課題は，実験の完遂および関連論文の掲載ができた。また，他大学との共同研究などはおおむね順調に取り組むことができた。来年度には，着任時に取得した学内共同研究課題の論文掲載や科研費の研究をまとめた著書が発売される予定である。

## VII 次年度の目標

次年度は，研究活動はこれまで以上に取組み，成果を出していきたい。教育活動・社会貢献は自分のできる範囲で精力的に取り組んでいく。



# 齒科衛生學科



## 教授（兼）学科長 麻賀 多美代 博士（工学）

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

教育においては、学生が主体的に学習に取り組み、教育目標を達成できるよう、教育内容の質の向上を目指す。臨床実習については、実習先の指導者と連携を図り、限られた実習日を有効に生かした実習ができるように検討する。研究については地域包括ケアに関連した研究成果を発信するよう努める。そして、積極的に大学の管理・運営や社会貢献活動に参加する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・ 歯科衛生学概論.
- ・ 歯科衛生基礎演習.
- ・ 発達歯科衛生学Ⅱ(成人・高齢者).
- ・ 顎口腔機能リハビリテーション論.
- ・ 演習Ⅲ（口腔機能リハビリテーション）.
- ・ 在宅歯科衛生管理論Ⅰ.
- ・ 歯科診療室基礎実習.
- ・ 総合演習.
- ・ 歯科診療室総合実習.
- ・ 継続・個別支援実習.
- ・ 発達歯科衛生実習Ⅱ（成人・高齢者）.
- ・ 看護技術論Ⅱ（生活援助技術）.
- ・ 連携活動論.
- ・ 卒業研究.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・ 今井宏美, 麻賀多美代, 坂下貴子, 榎本麻里, 茂野香おる, 小林 毅, 木村亜由美, 酒巻裕之, 三澤哲夫: ブラッシング介助技術習得のための教育教材開発に向けた基礎的研究, 産業保健人間研究, 21, 1, 1-10, 2020.
- ・ 鈴鹿祐子, 麻生智子, 河野 舞, 酒巻裕之, 金子 潤, 荒川 真, 石川裕子, 麻賀多美代, 大川由一: 口腔機能低下症の現状と啓発についての検討, 千葉県立保健医療大学紀要, 12, 1, 11-18, 2021.
- ・ 麻賀多美代, 麻生智子, 大川由一, 鈴鹿祐子, 酒巻裕之, 河野 舞, 金子 潤, 荒川 真, 石川裕子, 島田美恵子: 地域高齢者への健康増進プログラムにおける学生ボランティアの参加, 千葉県立保健医療大学紀要, 12, 1, 77-81, 2021.
- ・ 細山田康恵, 東本恭幸, 河野公子, 海老原泰代, 阿曾菜美, 岡田亜紀子, 峰村貴央, 島田美恵子, 麻賀多美代, 麻生智子, 鈴鹿祐子, 雄賀多聡, 竹内弥彦, 江戸優裕, 岡村太郎, 渡邊智子: 千葉県の高齢者のための健康づくりプログラム (ほい大健康プログラム) に関する評価, 千葉県立保健医療大学紀要, 12, 1, 63-67, 2021.
- ・ 麻賀多美代, 大川由一, 酒巻裕之, 河野 舞, 麻生智子, 鈴鹿祐子: 介護予防と口腔機能の回復・維持・向上にかかわる歯科衛生士の人材育成プログラムの実践, 千葉県立保健医療大学紀要, 12, 1, 116, 2021.
- ・ 佐藤紀子, 石井邦子, 細山田康恵, 麻賀多美代, 成田悠哉, 岡村太郎, 三和真人, 雄賀多聡, 田邊政裕: 保健医療大学取組報告会ー保健・医療・福祉の連携拠点としてー, 12, 1, 2021.

### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・酒巻裕之，麻賀多美代：万能型看護実習モデルを用いた口腔健康管理における医療安全教育の検証，第10回日本歯科衛生教育学会，2019年12月18-28日，Web開催。
- ・麻賀多美代，大川由一，酒巻裕之，麻生智子，島田美恵子，河野 舞，金子 潤，荒川 真，鈴鹿祐子，石川裕子，岡村太郎：地域高齢者におけるオーラルフレイルの予防に向けた健康増進プログラムの実践—誤嚥による肺炎予防のために—，第59回千葉県公衆衛生学会，2021年2月，誌上開催。
- ・鈴鹿祐子，麻生智子，河野 舞，酒巻裕之，金子 潤，荒川 真，石川裕子，麻賀多美代，大川由一：歯科来院患者に対する口腔機能低下症の啓発についての検討，第59回千葉県公衆衛生学会，2021年2月，誌上開催。
- ・酒巻裕之，麻賀多美代，麻生智子，鈴鹿祐子，山中紗都，河野 舞，荒川 真，金子 潤，大川由一：歯科診療室臨床実習用CC Snapshot 評価票の有用性に関する検討，第39回日本歯科医学教育学会総会・学術大会，2020年9月25日-10月24日，Web開催。

### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究（C），地域高齢者におけるオーラルフレイルの予防に向けた健康増進プログラムの実践と評価—誤嚥による肺炎予防のために—，研究代表者。
- ・学長裁量研究，コーチングを活用した糖尿病患者の歯科診療に関する歯科衛生士の人材育成プログラムの実践，研究協力者。

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

- 1) 千葉県内
  - ・障害者の口腔衛生指導，2020年4月，千葉県リハビリテーションセンター更生園。
  - ・オーラルフレイル予防プログラム，2020年4月～現在に至る。UR さつきが丘団地。
  - ・千葉市お口のボランティア活動，2020年10月～2021年2月，千葉県立保健医療大学。

### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・継続個別支援・歯科診療補助の実施，2020年4月～2021年3月，千葉県立保健医療大学歯科診療室。

### 3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- ・日本歯科医療振興財団，歯科衛生士試験委員会幹事委員，2020年4月～現在に至る。
- ・千葉県歯科衛生士育成協議会，役員，2020年4月～現在に至る。
- ・全国大学歯科衛生士教育協議会，副会長，2020年4月～2021年3月。
- ・歯科衛生学教育モデルコアカリキュラム策定会議，コアメンバー，2020年9月～現在に至る。
- ・国公立大学法人等歯科医療従事者養成機関担当者会議，担当者，2020年4月～2021年3月。

### 5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - ・日本歯科衛生士会，千葉県歯科衛生士会，日本歯周病学会，日本口腔ケア学会，日本咀嚼学会，日本歯科衛生学会。
  - ・日本歯科衛生教育学会，日本摂食嚥下リハビリテーション学会，日本歯科医学教育学会，日本口腔衛生学会。
  - ・日本口腔内科学会，日本口腔外科学会，日本公衆衛生学会。
- 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）
  - ・日本歯科衛生学会査読者，2020年4月～現在に至る。

### 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- ・日歯認定歯科助手講習会講師，千葉県歯科医師会，高齢者の対応，歯科助手，2020年9月27日，千葉県立保健医療大学。



## 7 その他

- ・全国大学歯科衛生士教育協議会令和元年度第1回理事会・総会. 2020年5月9日.
- ・全国大学歯科衛生士教育協議会令和元年度第2回理事会・臨時総会. 2020年9月5日. Web開催, 市ヶ谷貸会議室.
- ・千葉県立保健医療大学取組報告会. 2020年11月12日. 千葉県庁.
- ・令和元年度国公立大学法人等歯科医療従事者養成機関担当者会議. 2020年11月20日. Web会議.

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・大学運営会議. 将来構想検討委員会. 人事委員会. 教員再任審査委員会. 教員資格審査委員会. 自己点検・評価委員会. 教授会.

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科衛生学科会議. 歯科診療室会議.
- ・お口の健康守り隊サークル. 顧問.

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

学科長として、学科教員の協力のもと、学科の円滑な運営ができるよう責任を果たすことができた。教育では、講義科目がCOVID-19の影響により遠隔授業となったため、授業動画の作成では学生の端末機器を考慮し、見やすい画面と画像などを多く取り入れるよう工夫した。繰り返し視聴し、自己学習ができる授業教材の作成を心掛けた。演習、実習については、感染予防に留意し、一人ひとりの状況を踏まえて教育を行うよう努めた。研究では科研費の助成が最終年度であったが、COVID-19の影響により、地域在住高齢者を対象としたオーラルフレイルを予防するためのプログラムを実施することができなかった（1年の延長を申請）。フィールドでの活動はできなかったが、今まで行った活動をまとめることができたことは一つの成果である。歯科診療室を中心に地域住民に対する口腔の健康に対して社会貢献することができた。

## VII 次年度の目標

教育においては、遠隔授業教材のさらなる工夫と、COVID-19の影響により中止となる臨床実習を補うための授業を実施し、担当科目における教育内容の充実をはかる。研究については最終年度となる地域包括ケアに関連した研究の成果を発信するよう努める。そして、学科長として学科の円滑な運営に努め、積極的に大学の管理・運営や社会貢献活動に取り組む。

## 教授 酒巻 裕之 博士 (歯学)

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和2年度は、特に教育面では、学生が予習・復習を行うように、授業開始時にはミニテスト、授業終了時には振り返りならびにポートフォリオの活用を指導しながら授業を進める。臨床実習では、医療や介護を必要とする対象者とした口腔健康管理に関するシミュレーション教育を継続する。大学の管理・運営について、入試実施委員会委員長として、入学試験が円滑に進むように所掌事項を遂行する。教務委員会副委員長として、委員会所掌を遂行する。研究面では、学長裁量研究において、社会貢献に係る歯科衛生士の人材育成として、糖尿病患者に対するコーチングに関する研修を行う。社会貢献において、歯科診療室において、日本口腔外科学会、日本口腔科学会等において認定された資格を活用した歯科診療や千葉県口腔がん検診（個別検診）の充実を図り、地域住民に貢献する。特に新型コロナウイルス感染症対策には最善の努力を講じる。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・口腔病理学.
- ・歯科感染予防学.
- ・顎口腔外科学.
- ・顎口腔機能論.
- ・歯科衛生基礎演習.
- ・発達歯科衛生学 I (小児).
- ・歯科診療室基礎実習.
- ・継続・個別支援実習.
- ・臨床実習Ⅲ (病院実習).
- ・歯科診療室総合実習.
- ・卒業研究.

##### 2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)

- ・口腔・顎顔面領域の疾患-②。口腔外科学 (診療の基本-②)。日本大学松戸歯学部 兼任講師.
- ・顎顔面外科学。北原学院千葉歯科衛生専門学校 非常勤講師.

### III 研究記録

#### 1 著書 (著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所。)

- ・和気裕之、依田哲也 監修、岡本俊宏 他3名編、酒巻裕之、他29名著：有病者歯科治療ハンドブック 医科×歯科、第1版、2020、デンタルダイヤモンド社、東京.
- ・一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会監修 松井恭平 他3名編、酒巻裕之、他13名著：最新歯科衛生士教本 顎・口腔粘膜疾患—口腔外科・歯科麻酔、第1版第13刷 (増補)、2021、医歯薬出版、東京。(増補箇所執筆)

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線)

- ・今井宏美、麻賀多美代、坂下貴子、榎本麻里、茂野香おる、小林 毅、木村亜由美、酒巻裕之、三澤哲夫：ブラッシング介助技術習得のための教育教材開発に向けた基礎的研究、産業保健人間工学研究、21、1、1-10、2020.
- ・鈴鹿祐子、麻生智子、河野 舞、酒巻裕之、金子 潤、荒川 真、石川裕子、麻賀多美代、大川由一：口腔機能低下症の

現状と啓発についての検討, 千葉県立保健医療大学紀要, 12, 1, 11-18, 2021.

- ・麻賀多美代, 麻生智子, 大川由一, 鈴鹿祐子, 酒巻裕之, 河野 舞, 金子 潤, 荒川 真, 石川裕子, 島田美恵子: 地域高齢者への健康増進プログラムにおける学生ボランティアの参加, 千葉県立保健医療大学紀要, 12, 1, 77-81, 2021.
- ・麻賀多美代, 大川由一, 酒巻裕之, 河野 舞, 麻生智子, 鈴鹿祐子: 介護予防と口腔機能の回復・維持・向上にかかわる歯科衛生士の人材育成プログラムの実践, 千葉県立保健医療大学紀要, 12, 1, 116, 2021.

### 3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・酒巻裕之, 麻賀多美代, 麻生智子, 鈴鹿祐子, 山中紗都, 河野 舞, 荒川 真, 金子 潤, 大川由一: 歯科診療室臨床実習用 CC Snapshot 評価票の有用性に関する検討, 第 39 回日本歯科医学教育学会総会・学術大会, 2020 年 9 月 25 日-10 月 24 日, 誌上・Web 開催.
- ・浅枝麻夢可, 吉田幸恵, 柳田 学, 吉田直美, 杉本久美子, 久保田絢子, 鈴木 瞳, 大川由一, 酒巻裕之, 山中紗都: 大学新入生における口腔内状況と口腔保健への意識との関連について, 日本歯科衛生学会第 15 回学術大会, 2020 年 9 月 20-21 日, 誌上開催.
- ・酒巻裕之, 麻賀多美代: 万能型看護実習モデルを用いた口腔健康管理における医療安全教育の検証, 第 10 回日本歯科衛生教育学会, 2020 年 12 月 18-28 日, Web 開催.
- ・室橋由里子, 平山幸子, 粕谷和可菜, 内山今日子, 小河原克則, 高橋喜久雄, 田中よしこ, 鋤柄由希子, 酒巻裕之: 歯科衛生士学生の病院実習に対する意識調査—臨床実習アンケートより—, 第 19 回千葉県歯科医学大会, 2021 年 2 月 7 日, 千葉市.
- ・麻賀多美代, 大川由一, 酒巻裕之, 麻生智子, 島田美恵子, 河野 舞, 金子 潤, 荒川 真, 鈴鹿祐子, 石川裕子, 岡村太郎: 地域高齢者におけるオーラルフレイルの予防に向けた健康増進プログラムの実践—誤嚥による肺炎予防のために—, 第 59 回千葉県公衆衛生学会, 2021 年 2 月, 誌上開催.
- ・鈴鹿祐子, 麻生智子, 河野 舞, 酒巻裕之, 金子 潤, 荒川 真, 石川裕子, 麻賀多美代, 大川由一: 歯科来院患者に対する口腔機能低下症の啓発についての検討, 第 59 回千葉県公衆衛生学会, 2021 年 2 月, 誌上開催.

### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金基盤研究 (C), 地域高齢者におけるオーラルフレイルの予防に向けた健康増進プログラムの実践と評価—誤嚥による肺炎予防のために—, 研究分担者.
- ・学長裁量研究, コーチングを活用した糖尿病患者の歯科診療に関わる歯科衛生士の人材育成プログラムの実践, 研究責任者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称, 活動期間, 場所等)

#### 1) 千葉県内

- ・オーラルフレイル予防プログラム, 2020 年 4 月～現在に至る. UR さつきが丘団地.

### 2 地域への保健医療活動 (診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

- ・歯科診療. 2009 年 4 月～現在に至る. 千葉県立保健医療大学歯科診療室.
- ・日本口腔外科学会専門医 (第 770 号). 1996 年 10 月 1 日～現在に至る.
- ・日本口腔外科学会指導医 (第 664 号). 2001 年 10 月 1 日～現在に至る.
- ・日本糖尿病協会歯科医師登録医. 2013 年 9 月 1 日～現在に至る. 糖尿病患者の歯科診療に当たる.
- ・がん患者歯科医療連携登録医. 2013 年 10 月 3 日～現在に至る. 2015 年 2 月 16 日全国に名簿が公表される.
- ・日本歯科放射線学会歯科放射線准認定医 (第 783 号). 2018 年 4 月 1 日～現在に至る.
- ・日本口腔内科学会専門医 (第 65 号). 2019 年 10 月 1 日～現在に至る.
- ・日本口腔内科学会指導医 (第 44 号). 2019 年 10 月 1 日～現在に至る.
- ・ICD 協議会インфекションコントロールドクター (ICD) (第 MC 0202 号). 2020 年 1 月 1 日～現在に至る.
- ・千葉市口腔がん検診検診医. 2020 年 6 月 1 日～2021 年 1 月 15 日. 検診数 52 件. 千葉県立保健医療大学歯科診療室.
- ・千葉県歯科医師会認定口腔がん検診医 (第 2018-262 号). 2018 年 3 月 18 日～現在に至る.

- ・総合病院国保旭中央病院 手術指導, 2011年4月1日～現在に至る。

## 5 学会、学術団体への貢献

### 1) 所属学会・学術団体

- ・International Association of Oral and Maxillofacial Surgeons, Asian Association of Oral and Maxillofacial Surgeons, 日本口腔外科学会, 日本口腔科学会, 日本口腔内科学会, 日本歯科医学教育学会, 日本歯科衛生学会, 日本歯科衛生教育学会, 日本口腔診断学会, 日本臨床口腔病理学会, 日本臨床細胞診学会, 日本有病者歯科医学会, 日本老年歯科医学会, 日本小児歯科学会, 日本大学口腔科学会, 日本看護技術学会, 日本医療安全学会, 日本口腔ケア学会, 日本公衆衛生学会, 日本顎顔面インプラント学会, 日本医学教育学会。

### 2) 学会、学術団体への貢献(学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本大学口腔科学会, 評議員, 2007年4月1日～現在に至る。
- ・日本口腔科学会, 評議員, 2009年4月1日～現在に至る。
- ・日本口腔内科学会, 評議員, 2009年6月1日～現在に至る。
- ・日本口腔外科学会, 代議員, 2012年9月2日～2020年7月31日。
- ・日本医療安全学会, 代議員, 2014年4月1日～現在に至る。理事, 2018年3月21日～現在に至る。
- ・日本医療安全学会, 広報委員, 2016年4月1日～現在に至る。
- ・日本歯科衛生学会雑誌, 外部査読員, 2013年4月1日～現在に至る。
- ・日本歯科医学教育学会, 評議員, 2019年4月1日～現在に至る。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・教授会, 教務委員会, 入試改革検討委員会, 入試実施委員会(委員長)。

### 2 学科/専攻内委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・歯科衛生学科会議, 歯科診療室会議, 教務委員会, 入試実施委員会。

## VI 評価(成果および改善すべき事項)

令和2年度, 特に教育面では, 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により, 教務委員として対面授業における教室の割振りや, 自身の担当科目におけるMicrosoft Teamsを活用した遠隔授業を行った。遠隔授業は初めての試みであった。講義内容を録音したスライドをストリーミング動画配信することで, 教科書や配布資料とともに講義内容を伝えるようにした。授業中の学生の反応を確認することが困難であることから, 授業内容は90分間で完結するように設定した。授業の開始時には出席と健康状態についてFormsで回答することで記録に残した。授業終了時には振り返りについてFormsによる課題を行った。振り返りについて, 授業内容に関する問題・正答・問題の解説文の提出, Suskieによる学生の自己考察を深める質問に回答する項目を設け, 実際に学生が毎回の授業について具体的に振り返ることができるように努めた。また, 後期科目では, 学生自身がポートフォリオの作成をし, その評価を総合判定に加味することで, 遠隔定期試験の欠点を補うように配慮した。臨床では, 新型コロナウイルス感染症の感染対策に関して感染コントロールドクターの立場から提案しながら感染対策を実践した。臨床実習では, 感染対策を実践しながら, 歯科医療従事者として知識と技術を習得する機会と捉えて, 学生が確実に習得するように努めた。病院実習においては, 文部科学省高等教育局医学教育課「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う看護師等養成所における隣地実習の取り扱いについて」(2020年6月22日付)をふまえて, 実習施設指導者と相談し, 学生一人当たり5日間の隣地実習を実施した。残りの期間は本学歯科診療室における歯科診療を病院実習の歯科診療に読み替えて実践した。さらに特に高齢者の医薬品適正使用の観点から, 嚥下機能に影響を及ぼす医薬品について学生は分担してまとめた。病院実習の内容については, 期間が短いため学生間で差を認めたことから発表会を行い, 学生同士で情報共有を図った。学生は病院における歯科・口腔外科の役割や診療内容等について更なる学びを深めることができた。

大学の管理・運営について, 入試実施委員会委員長として, 入学者選抜が公平・公正に円滑に実施されるように所掌事項を遂行した。新型コロナウイルス感染症の拡大による一般選抜の追試験実施の決定から, 入試問題作成数を追加し, 感染対策

に係る試験室や必要担当者数の増加による配分、感染対策の実施等の新たな設定を短期間で立案・準備をせざるを得ない状況となり、さらには担当職員の長期療養休暇のために困難を極めた。多々課題を残すことになるも、教職員の協力のお陰で、受験者が不利益を被る事象は発生せず、入学者選抜を行うことができた。教務委員会は副委員長として、入試改革検討委員会には入試実施委員会委員長の立場で参加し、委員会所掌を遂行した。

研究面では、学長裁量研究において、社会貢献に係る歯科衛生士の人材育成として、糖尿病患者に対するコーチングに関する研修をWeb研修会形式で行うことができた。

社会貢献では、歯科診療室において、日本口腔外科学会、日本口腔科学会等において認定された資格を活用した歯科診療や千葉県口腔がん検診（個別検診）の充実を図り、地域住民に貢献した。特に新型コロナウイルス感染症対策には最善の努力を講じた。

## Ⅶ 次年度の目標

令和3年度は、特に教育面では、「新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた活動指針」をふまえて、学生が予習・復習を行うように、授業形態に応じて開始時にはミニテスト、授業終了時には振り返りならびにポートフォリオの活用を指導しながら授業を進める。臨床実習では、可及的に実習施設における実習ができるように配慮した実習とし、医療や介護を必要とする対象者とした口腔健康管理に関するシミュレーション教育を継続する。大学の管理・運営について、危機管理委員会委員長として、大学の平時の危機管理について、マニュアルの作成等、所掌事項を遂行する。教務委員会は副委員長として、入試改革検討委員では委員として委員会所掌を遂行する。研究面では、学長裁量研究において、社会貢献に係る歯科衛生士の人材育成として、高齢社の医薬品適正使用に係る歯科衛生士の役割について学ぶ研修を行う。社会貢献では、歯科診療室において、日本口腔外科学会、日本口腔科学会等において認定された資格を活用した歯科診療や千葉県口腔がん検診（個別検診）の充実を図り、地域住民に貢献する。特に新型コロナウイルス感染症対策には最善の努力を講じる。

## 教授 大川 由一 博士 (歯学)

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

昨年度と同様、専門科目の授業では事前課題を課すとともに、アクティブ・ラーニング型授業を実施する。これまで継続している共同研究活動や社会貢献活動に積極的に取り組む。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・口腔衛生学.
- ・地域歯科衛生学.
- ・衛生行政.
- ・歯科衛生統計学.
- ・演習V (地域歯科衛生).
- ・総合演習.
- ・歯科診療室基礎実習.
- ・歯科診療所実習.
- ・発達歯科衛生実習 I (小児).
- ・地域歯科衛生実習.
- ・歯科診療室総合実習.
- ・歯科診療室総合実習.

##### 2) 他大学, 大学院等の非常勤講師 (科目名, 大学名)

- ・歯科医療管理学. 東京歯科大学.
- ・衛生学公衆衛生学. アポロ歯科衛生士専門学校.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者: 題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・大川由一: 歯科衛生研究をはじめよう! 進めよう! 発表しよう! ~研究の進め方・論文のまとめ方~, 日本歯科衛生学会雑誌, 15, 2, 14-18, 2021.
- ・鈴鹿祐子, 麻生智子, 河野 舞, 酒巻裕之, 金子 潤, 荒川 真, 石川裕子, 麻賀多美代, 大川由一: 口腔機能低下症の現状と啓発についての検討, 千葉県立保健医療大学紀要, 12, 1, 11-18, 2021.
- ・麻賀多美代, 麻生智子, 大川由一, 鈴鹿祐子, 酒巻裕之, 河野 舞, 金子 潤, 荒川 真, 石川裕子, 島田美恵子: 地域高齢者への健康増進プログラムにおける学生ボランティアの参加, 千葉県立保健医療大学紀要, 12, 1, 77-81, 2021.
- ・麻賀多美代, 大川由一, 酒巻裕之, 河野 舞, 麻生智子, 鈴鹿祐子: 介護予防と口腔機能の回復・維持・向上にかかわる歯科衛生士の人材育成プログラムの実践, 千葉県立保健医療大学紀要, 12, 1, 116, 2021.

#### 3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・浅枝麻夢可, 吉田幸恵, 柳田 学, 吉田直美, 杉本久美子, 久保田絢子, 鈴木 瞳, 山中紗都, 酒巻裕之, 大川由一: 大学新入生における口腔内状況と口腔保健への意識との関連について, 日本歯科衛生学会第15回学術大会, 2020年9月, 誌上開催.



- ・前田彩絵, 大川由一, 島田美恵子, 金子 潤: 歯科衛生士の就業継続要因と離職・復職条件について, 第15回日本歯科衛生学会学術大会, 2020年9月, 誌上開催.
- ・大澤航介, 平田創一郎, 大川由一, 田代宗嗣: 二次医療圏からみた障害者に対する専門的歯科医療機関の分布に関する研究, 日本障害者歯科学会第38回総会および学術大会, 2021年9月25日-10月11日, Web開催.
- ・吉田 隆, 有泉祐吾, 大川由一, 柳澤伸彰, 佐古 亮, 古澤成博: 高等教育における専門職養成教育の課題 高校生にとって人気の医療職と医療職に対する考え方, 第39回日本歯科医学教育学会総会・学術大会, 2020年9月25日-10月24日, 誌上・Web開催.
- ・酒巻裕之, 麻賀多美代, 麻生智子, 鈴鹿祐子, 山中紗都, 河野 舞, 荒川 真, 金子 潤, 大川由一: 歯科診療室臨床実習用CC Snapshot 評価票の有用性に関する検討, 第39回日本歯科医学教育学会総会・学術大会, 2020年9月25日-10月24日, 誌上・Web開催.
- ・麻賀多美代, 大川由一, 酒巻裕之, 麻生智子, 島田美恵子, 河野 舞, 金子 潤, 荒川 真, 鈴鹿祐子, 石川裕子, 岡村太郎: 地域高齢者におけるオーラルフレイルの予防に向けた健康増進プログラムの実践 ―誤嚥による肺炎予防のために―, 第59回千葉県公衆衛生学会, 2021年2月, 誌上開催.
- ・鈴鹿祐子, 麻生智子, 河野 舞, 酒巻裕之, 金子 潤, 荒川 真, 石川裕子, 麻賀多美代, 大川由一: 歯科来院患者に対する口腔機能低下症の啓発についての検討, 第59回千葉県公衆衛生学会, 2021年2月, 誌上開催.

#### 4 学術集会での招待講演(教育講演や基調講演)やシンポジウム等(学術集会名, テーマ, 開催日, 場所等)

- ・日本歯科衛生学会 第15回学術大会 日本口腔衛生学会共催企画「研究に挑戦しよう! ―歯科衛生研究の進め方―」, 2020年8月10日, 誌上開催.

#### 5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金基盤研究(C), 地域高齢者におけるオーラルフレイルの予防に向けた健康増進プログラムの実践と評価 ―誤嚥による肺炎予防のために―, 研究分担者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 1 地域におけるボランティア活動等(活動名称, 活動期間, 場所等)

#### 1) 千葉県内

- ・オーラルフレイル予防プログラム, 2020年4月～現在に至る. UR さつきが丘団地.

### 2 地域への保健医療活動(診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

- ・歯科診療, 2009年4月～現在に至る. 千葉県立保健医療大学歯科診療室.

### 3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績(活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・(一社) 全国歯科衛生士教育協議会. 理事. 2014年4月1日～現在に至る.
- ・(一社) 全国歯科衛生士教育協議会. 教育委員会理事. 2014年4月1日～現在に至る.
- ・(一社) 全国歯科衛生士教育協議会. 教育問題検討委員会委員. 2014年4月1日～現在に至る.
- ・(一社) 全国歯科衛生士教育協議会. 認定委員会委員. 2014年4月1日～現在に至る.

### 5 学会, 学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本口腔衛生学会. 日本公衆衛生学会. 国際歯科研究学会(IADR). 国際歯科研究学会日本部会(JADR). 日本老年歯科医学会. 日本歯科医療管理学会. 日本歯科医学教育学会. 社会歯科学会. 日本歯科衛生学会. 日本歯科衛生教育学会. 日本障害者歯科学会. 東京歯科大学学会.

#### 2) 学会, 学術団体への貢献(学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本歯科衛生学会. 顧問. 2015年7月1日～現在に至る.
- ・日本歯科衛生教育学会. 理事. 2019年4月1日～現在に至る.



- ・日本歯科衛生教育学会. 編集委員会査読委員. 2013年4月1日～現在に至る.
- ・日本歯科衛生教育学会. 利益相反委員会委員. 2019年4月1日～現在に至る.
- ・日本口腔衛生学会. 歯科衛生士委員会委員. 2017年5月31日～現在に至る.
- ・Community Dental Health. Reviewer. 2019年11月11日～現在に至る.

## 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称. 主催 団体名称. 講演テーマ等. 対象. 開催日. 時場所）

- ・2020年度東京歯科大学大学院講義. 臨床・基礎研究に必要な統計解析の基本について. 東京歯科大学大学院生. 2020年10月8-9日. 東京歯科大学.

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・大学運営会議. 教授会. 自己点検・評価委員会. 将来構想検討委員会. 総務・企画委員会. キャンパス・ハラスメント防止対策委員会. 紀要編集部会. 教員資格審査委員会(理学・准教授)2020.4.30～. 教員資格審査委員会(栄養・教授)2020.5.25～. 教員資格審査委員会(理学・助教)2020.8.31～. 教員資格審査委員会(看護・教授)2020.12.3～.

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科診療室長 (2015年4月1日～現在に至る). 歯科衛生学科第4学年チューター.

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

新型コロナウイルス感染症の伴う遠隔授業が主体となったことからグループワークなどのアクティブ・ラーニング型授業が制限されたが、オンデマンド授業については学生の高い評価が得られた。研究活動においては、学内外の研究者と共同研究に取組み、その成果を学会や学術雑誌で発表した。

## VII 次年度の目標

遠隔授業をより充実させるともに対面授業を効果的に組み合わせて、学生の主体的学修を支援する。研究や社会貢献については、活動が制限される中でより多くの実績が残せるよう工夫しながら取り組む。

## 教授 島田 美恵子 博士 (体育学)

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

2020年4月現在、コロナウイルス感染症蔓延による教育システムの変更で、過去に経験しなかった開講方法・研究活動が求められている。

- ① 学生・教員ともに納得できる授業を開講する、ネット環境による「授業評価」や「コメントの返却」を活用する。
- ② 進捗が遅れている科学研究費「疾患活動性が低いリウマチ患者への機器を活用した自己管理における意思決定支援の手法の開発」について、被験者を確定し、知見を得、公表できる形にする。
- ③ 社会貢献委員会は、WEB上での公開講座システムを構築する、新・ほい大健康プログラムを軌道にのせる。
- ④ 共通教育運営会議で検討すべき課題を整理し、学内での共通理解を語る。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
  - ・体験ゼミナール (科目責任者)。
  - ・千葉県の健康づくり。
  - ・健康スポーツ科学。
  - ・生涯身体運動科学。
  - ・運動生理学総論。
  - ・健康と運動。
  - ・生理学実験。
  - ・卒業研究。

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・島田美恵子, 金子 潤, 荒川 真, 河野 舞, 綾部誠也, 濃野 要: 地域在住高齢者における長期縦断調査からみたソーシャルキャピタルと健康状態との関係, 公益財団法人健康・体力づくり財団, 令和元年度健康運動指導研究助成研究成果報告書, 133-139, 2020.
- ・Yoshiaki Nomura, Mieko Shimada, Erika Kakuta, Ayako Okada, Ryoko Otsuka, Yasuko Tomizawa, Chieko Taguchi, Kazumune Arikawa, Hideki Daikoku, Tamotsu Sato, Nobuhiro Hanada: Mortality-and Health-Related Factors in a Community-Dwelling of Oldest-Older Adults at the Age of 90: A 10-Year Follow-Up Study, Int J Environ Res Public Health, 17, 24, 9584, 2020.
- ・Yoshiaki Nomura, Erika Kakuta, Ayako Okada, Ryoko Otsuka, Mieko Shimada, Yasuko Tomizawa, Chieko Taguchi, Kazumune Arikawa, Hideki Daikoku, Tamotsu Sato, Nobuhiro Hanada, Effects of self-assessed chewing ability, tooth loss and serum albumin on mortality in 80-year-old individuals: a 20-year follow-up study, BMC Oral Health, 20, 1, 122, 2020.
- ・Yoshiaki Nomura, Erika Kakuta, Ayako Okada, Ryoko Otsuka, Mieko Shimada, Yasuko Tomizawa, Chieko Taguchi, Kazumune Arikawa, Hideki Daikoku, Tamotsu Sato, Nobuhiro Hanada, Impact of the Serum Level of Albumin and Self-Assessed Chewing Ability on Mortality, QOL, and ADLs for Community-Dwelling Older Adults at the Age of 85: A 15 Year Follow up Study, Nutrients, 12, 11, 3315, 2020.
- ・Yoshiaki Nomura, Erika Kakuta, Ayako Okada, Ryoko Otsuka, Mieko Shimada, Yasuko Tomizawa, Chieko Taguchi,

Kazumune Arikawa, Hideki Daikoku, Tamotsu Sato, Nobuhiro Hanada, Oral Microbiome in Four Female Centenarians, Applied Sciences, 10, 15, 5312, 2020.

- ・麻賀多美代, 麻生智子, 大川由一, 鈴鹿祐子, 酒巻裕之, 河野 舞, 金子 潤, 荒川 真, 石川裕子, 島田美恵子: 地域高齢者への健康増進プログラムにおける学生ボランティアの参加, 千葉県立保健医療大学紀要, 12, 1, 77-81, 2021.
- ・細山田康恵, 東本恭幸, 河野公子, 海老原泰代, 阿曾菜美, 岡田亜紀子, 峰村貴央, 島田美恵子, 麻賀多美代, 麻生智子, 鈴鹿祐子, 雄賀多聡, 竹内弥彦, 江戸優裕, 岡村太郎, 渡邊智子: 千葉県の高齢者のための健康づくりプログラム (ほい大健康プログラム) に関する評価, 千葉県立保健医療大学紀要, 12, 1, 63-67, 2021.
- ・河野 舞, 金子 潤, 島田美恵子, 荒川 真, 雄賀多聡: 若年者における不良姿勢が咬合関係に及ぼす影響, 千葉県立保健医療大学紀要, 12, 1, 98, 2021.
- ・島田美恵子, 金子 潤, 荒川 真, 河野 舞, 岡村太郎, 綾部誠也, 濃野 要: 虚弱高齢者の生活機能は回復するか—長期縦断調査による解析, 千葉県立保健医療大学紀要, 12, 1, 100, 2021.
- ・成田悠哉, 河原春菜, 神保安奈, 牛澤一樹, 西山貴裕, 坂田祥子, 島田美恵子, 岡村太郎: プロボノ人材の作業療法士による介護予防教室の実践—当大学の取り組み—, 千葉県立保健医療大学紀要, 12, 1, 2021.

### 3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・Mieko Shimada, Jun Kaneko, Makoto Arakawa, Mai Kono, Taro Okamura, Nobuko Hongu, Physical Fitness Changes in Prefrail Elderly Adults After 4-years' s Participation of Community-Based Health-care Classes, American College of Health Medicine Annual Meeting, May 2020, Online.
- ・島田美恵子, 綾部誠也, 山本直史, 飛奈卓郎, 永山 寛, 濃野 要, 本宮暢子, 吉武 裕, 宮崎秀夫, 地域在住高齢者における長期縦断調査からみたソーシャルキャピタルと健康状態との関係, 第75回日本体力医学会, 2020年9月, Web開催.
- ・三宅理江子, 島田美恵子, 地域在住自立高齢者の栄養状態と体組成や食品摂取の多様性, ADLの関連, 第67回日本栄養改善学会, 2020年9月, 誌上開催.
- ・前田彩絵, 大川由一, 島田美恵子, 金子 潤: 歯科衛生士の就業継続要因と離職・復職条件について, 第15回日本歯科衛生学会学術大会, 2020年9月, 誌上開催.
- ・麻賀多美代, 大川由一, 酒巻裕之, 麻生智子, 島田美恵子, 河野 舞, 金子 潤, 荒川 真, 鈴鹿祐子, 石川裕子, 岡村太郎, 地域高齢者におけるオーラルフレイルの予防に向けた健康増進プログラムの実践—誤嚥による肺炎予防のために—, 第59回千葉県公衆衛生学会, 2021年2月, 誌上開催.

### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金基盤研究 (C), 疾患活動性が低いリウマチ患者への機器を活用した自己管理における意思決定支援の手法, 研究代表者.
- ・学内共同研究費, 後期高齢者におけるソーシャルキャピタル醸成は当人の健康寿命を何年延伸する可能性があるか, 研究代表者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称, 活動期間, 場所等)

#### 2) 千葉県外

- ・オリンピックボランティア説明会出席. アンケート回答など. 東京.
- ・神奈川県横須賀市浦上台北町内会. 定期清掃活動参加.

### 2 地域への保健医療活動 (診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

- ・流山市南部地域包括支援センター体力測定と講演. 2020年8月~2021年2月. 流山ケアセンター.
- ・幕張ファミリーハイツ体操教室. 2020年8~11月 (計6回). 千葉市美浜区.
- ・ほい大健康プログラム. 2020年11月. 千草台団地.
- ・口腔と全身の健康状態に関する92歳郵送調査. 2020年7月. 新潟.

## 5 学会、学術団体への貢献

### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本体力医学会、日本体育学会、日本測定評価学会、日本バイオメカニクス学会、日本栄養改善学会、日本栄養・食糧学会、日本口腔衛生学会、日本公衆衛生学会、大学体育連合、日本疫学会、American College of Sports Medicine.

## 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・千葉県男女共同参画センター連携講座「コロナ時代を元気に過ごす 今 私たちができる健康づくり」2月9日-3月31日、オンライン動画配信。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・大学運営会議、教授会、社会貢献委員会（委員長）、学術推進委員会、特色科目委員会、自己点検・評価委員会、将来構想委員会、危機管理委員会（副委員長）、図書委員会、人事委員会、資格審査委員会、共通教育運営会議（会議長）。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科衛生学科会議、歯科衛生学科2年生チューター（2020年5月まで）。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

- ① 遠隔授業による講義や、対面授業と遠隔授業を組み合わせたハイブリッド型など、Teamsの操作を学びつつ、可能な授業形態を試みた。作業部会員とともに全学でとりくむ、新入生を対象とした「体験ゼミナール」は、反省点は多々あるものの、暗中模索の中、例年同様の学生の満足度を得られた。
- ② 科学研究費を得た課題「疾患活動性が低いリウマチ患者への機器を活用した自己管理における意思決定支援の手法の開発」は、対象者の強い活動自粛の意向を受け、ほとんど進捗できなかった。
- ③ 今年度、WEB上での公開講座システムを構築する情報収集、学内での打ち合わせに多くの時間を費やしたが、結果として千葉県立保健医療大学としての公開講座開講、情報発信はできなかった。なぜ開講に至らなかったの反省を次年度以降に活かしたい。ほい大健康プログラムは11月に開講できた。
- ④ 「大学において教養科目を学ぶ意義」を、検討する必要性も共有も求められない現状では、共通教育運営会議は何も活動しないことが円滑な大学運営に貢献することではないかと感じ、委員長としては、ほとんど活動しなかった。Teams上で開講される、非常勤講師が担当する一般教養科目・保健医療基礎科目について、その開講補助に尽力した。

## VII 次年度の目標

- ① 科学研究費「疾患活動性が低いリウマチ患者への機器を活用した自己管理における意思決定支援の手法の開発」について、論文としてまとめる。
- ② 共通教育運営会議で検討すべき課題を整理し、学内での共通理解を語る。
- ③ 令和3年度より担った委員会活動を把握し、継承するとともに、令和2年度からの申し送り事項について改善を語る。
- ④ 過去に取得したデータをまとめ、論文として発表する。

## 教授 石川 裕子 博士 (歯学)

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

学科内教員とさらに協力し、授業・実習をより学生が理解できやすい内容にする。研究については、科研・歯科衛生士教育課題ともに、論文投稿できるように進める。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・千葉県の健康づくり.
- ・歯科衛生体験演習 I.
- ・歯科衛生アセスメント論.
- ・歯科保健指導・健康教育論.
- ・歯科保健指導演習 I.
- ・演習IV 保健指導・カウンセリング.
- ・歯科診療室基礎実習.
- ・継続個別支援実習.
- ・発達歯科衛生実習 I (小児).
- ・歯科診療室総合実習.
- ・病院実習.
- ・卒業研究.

### III 研究記録

#### 1 著書 (著者本人下線：著書, 発行年, 発行所, 発行場所)

- ・全国歯科衛生士教育協議会監修, 石川裕子, 他：歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版第2刷 (増補), 2021, 医歯薬出版, 東京.

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・鈴鹿祐子, 麻生智子, 河野 舞, 酒巻裕之, 金子 潤, 荒川 真, 石川裕子, 麻賀多美代, 大川由一：口腔機能低下症の現状と啓発についての検討, 千葉県立保健医療大学紀要, 12, 1, 11-18, 2021.
- ・麻賀多美代, 麻生智子, 大川由一, 鈴鹿祐子, 酒巻裕之, 河野 舞, 金子 潤, 荒川 真, 石川裕子, 島田恵美子：地域高齢者への健康増進プログラムにおける学生ボランティアの参加, 12, 1, 77-81, 2021.

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・石川裕子, 高阪利美, 畠中能子, 合場千佳子：歯科衛生士の研究状況と歯科衛生研究に関する要望, 第11回日本歯科衛生教育学会総会・学術大会, 2020年12月18-28日, Web開催.
- ・鈴鹿祐子, 麻生智子, 河野 舞, 酒巻裕之, 金子 潤, 荒川 真, 石川裕子, 麻賀多美代, 大川由一：口腔機能低下症の現状と啓発についての検討, 第59回千葉県公衆衛生学会, 2021年2月8-15日, 誌上開催.

#### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金基盤研究 (C), 歯の発生過程における Shh シグナルによる静的幹細胞維持機構の解明, 研究代表者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

#### 1) 千葉県内

- ・オーラルフレイル予防プログラム、2020年4月～現在に至る。UR さつきが丘団地。
- ・新型コロナ対応協力。2020年5月19-21日、松戸保健所。

### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）

- ・継続個別支援・歯科診療補助の実施。2018年9月～現在に至る。千葉県立保健医療大学歯科診療室。

### 4 職能団体委員等（職能団体名称、委員名称、活動期間）

- ・（一社）全国歯科衛生士教育協議会。教育委員。2009年～現在に至る。
- ・（一社）全国歯科衛生士教育協議会。教育問題検討委員会。歯科衛生学体系化小委員会委員。2019年3月～2020年4月。

### 5 学会、学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本歯科衛生学会。日本歯科衛生教育学会。日本歯科基礎医学会。日本歯科医学教育学会。

#### 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本歯科衛生教育学会。副理事長・常任理事・理事。2016年～現在に至る。
- ・日本歯科衛生教育学会。評議員。2013年～現在に至る。
- ・日本歯科衛生教育学会第11回学術大会大会長。2019年～2021年3月31日（大会期間：2020年12月18-20日）。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教授会。教員資格審査委員会。特色科目運営委員会。教務委員会。FD・SD委員会。研究倫理審査委員会。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科衛生学科会議。歯科診療室会議。歯科衛生学科1年生チューター。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

授業及び実習については、学科内の教員と協力することで、学生が理解しやすい内容にすることができた。研究については、科研課題および歯科衛生士教育研究ともに、論文投稿中である。改善すべき事項としては、今後、学科内における研究や活動を積極的にを行うようにすべきと考えられる。

## VII 次年度の目標

学科内教員と授業内容や評価等を再考し、授業・実習科目内容を改善する。また、学科内教員と研究に繋がる活動を行い、学会発表および論文投稿へと進める。



## 准教授 金子 潤 博士 (歯学)

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

教育面では、新設の「歯科衛生体験演習Ⅱ」が実施初年度の学年を迎えるため、科目運営に万全を期す。研究面では、できるだけ昨年度の研究計画の遅れを取り戻し、学会発表にこぎつけたい。歯科診療に関しては、引き続き治療経過の口腔内写真を資料として残すように心がける。大学運営では、認証評価部会長として部会員と協力して次回認証評価に向けた準備を進める。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・専門職間の連携活動論.
- ・歯科衛生体験演習Ⅰ.
- ・歯科衛生体験演習Ⅱ.
- ・歯科保存学.
- ・歯科診断学.
- ・歯科診療室基礎実習.
- ・歯科診療所実習.
- ・発達歯科衛生実習Ⅰ (小児).
- ・発達歯科衛生実習Ⅱ (成人・高齢者).
- ・歯科診療室総合実習.
- ・卒業研究.

##### 2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)

- ・歯科審美学. 北原学院歯科衛生専門学校 (昼間部, 夜間部).
- ・歯科審美学. 東邦歯科医療専門学校.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線)

- ・金子 潤：エビデンスに基づいたホワイトニングの説明—治療前編 Q2. どうして白くなるのですか？—, 日本歯科評論, 80, 7, 78-79, 2020.
- ・鈴鹿祐子, 麻生智子, 河野 舞, 酒巻裕之, 金子 潤, 荒川 真, 石川裕子, 麻賀多美代, 大川由一：口腔機能低下症の現状と啓発についての検討, 千葉県立保健医療大学紀要, 12, 1, 11-18, 2021.
- ・麻賀多美代, 麻生智子, 大川由一, 鈴鹿祐子, 酒巻裕之, 河野 舞, 金子 潤, 荒川 真, 石川裕子, 島田美恵子：地域高齢者への健康増進プログラムにおける学生ボランティアの参加, 千葉県立保健医療大学紀要, 12, 1, 77-81, 2021.
- ・河野 舞, 金子 潤, 島田美恵子, 荒川 真, 雄賀多聡：若年者における不良姿勢が咬合関係に及ぼす影響, 千葉県立保健医療大学紀要, 12, 1, 98, 2021.
- ・島田美恵子, 金子 潤, 荒川 真, 河野 舞, 岡村太郎, 綾部誠也, 濃野 要：虚弱高齢者の生活機能は回復するか—長期縦断調査による解析, 千葉県立保健医療大学紀要, 12, 1, 100, 2021.



### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・前田彩絵，大川由一，島田美恵子，金子 潤：歯科衛生士の就業継続要因と離職・復職条件について，第15回日本歯科衛生学会学術大会，2020年9月，誌上開催。
- ・酒巻裕之，麻賀多美代，麻生智子，鈴鹿祐子，山中紗都，河野 舞，荒川 真，金子 潤，大川由一：歯科診療室臨床実習用CC Snapshot 評価票の有用性に関する検討，第39回日本歯科医学教育学会総会・学術大会，2020年9月25日-10月24日，Web開催。
- ・荒川 真，金子 潤：う蝕と味覚の敏感さの相関一統報，第153回日本歯科保存学会学術大会，2020年11月16-30日，Web開催。
- ・麻賀多美代，大川由一，酒巻裕之，麻生智子，島田美恵子，河野 舞，金子 潤，荒川 真，鈴鹿祐子，石川裕子，岡村太郎：地域高齢者におけるオーラルフレイルの予防に向けた健康増進プログラムの実践—誤嚥による肺炎予防のために—，第59回千葉県公衆衛生学会，2021年2月，誌上開催。
- ・鈴鹿祐子，麻生智子，河野 舞，酒巻裕之，金子 潤，荒川 真，石川裕子，麻賀多美代，大川由一：歯科来院患者に対する口腔機能低下症の啓発についての検討，第59回千葉県公衆衛生学会，2021年2月，誌上開催。
- ・Mieko Shimada, Jun Kaneko, Makoto Arakawa, Mai Kono, Taro Okamura, Nobuko Hongu, Physical Fitness Changes in Prefrail Elderly Adults After 4-years' s Participation of Community-Based Health-care Classes, American College of Health Medicine Annual Meeting, May 2020, Online.

### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究（C），大気圧低温プラズマを応用した歯科漂白治療の検討，研究代表者。
- ・科学研究費補助金基盤研究（C），味覚の敏感さを利用した新たなカリエスリスク判定法の可能性，研究分担者。
- ・学内共同研究費，地域高齢者における効率的な口腔機能向上プログラムの検討，研究分担者。
- ・学内共同研究費，後期高齢者におけるソーシャルキャピタル醸成は当人の健康寿命を何年延伸する可能性があるか，研究分担者。

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・歯科診療．2013年8月1日～現在に至る．千葉県立保健医療大学歯科診療室。
- ・日本歯科保存学会歯科保存治療専門医．2004年7月1日～現在に至る。
- ・日本歯科審美学会認定医．2016年9月15日～現在に至る。
- ・美容口腔管理学会指導医（Diplomate）．2005年10月23日～現在に至る。
- ・日本歯科色彩学会認定医．2002年7月14日～現在に至る。
- ・口腔機能向上プログラム．2020年8月～2021年2月．流山市南部地域包括支援センター。

### 5 学会，学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本歯科保存学会．日本歯科審美学会．日本歯科色彩学会．美容口腔管理学会．日本接着歯学会．日本歯内療法学会．日本歯科衛生学会．日本歯科医学教育学会．日本歯科衛生教育学会．日本アンチエイジング歯科学会．北海道歯学会。

#### 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本歯科審美学会．理事．「歯科審美」編集委員会副委員長．ホワイトニングコーディネーター委員会委員．選挙管理委員会委員．2012年4月1日～現在に至る。
- ・日本歯科色彩学会．常任理事．編集部門統括．ニュースレター編集委員会委員長．「歯科の色彩」編集委員会委員．表彰委員会委員．2004年4月1日～現在に至る。
- ・美容口腔管理学会．幹事．「The Journal of Cosmetic Oral Care」編集委員，2003年1月1日～現在に至る。
- ・日本歯科衛生学会．「日本歯科衛生学会雑誌」外部査読委員．2014年5月1日～現在に至る。
- ・”The Journal of Dental and Maxillofacial Research” Editorial Board．2018年5月～現在に至る。
- ・第20回美容口腔管理学会学術講演会 一般講演座長．令和2年11月8日．Web開催。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学生委員会. 自己点検・評価委員会. 入試改革検討委員会. 認証評価部会（部会長）. IR部会（副部会長）. 紀要編集部会. 共同研究審査部会. キャンパス・ハラスメント防止対策委員会相談員. 学長候補者学内意向調査委員会（委員長）.

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科衛生学科会議. 歯科診療室会議. 歯科衛生学科3年生チューター.

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育面では、オンライン授業の動画コンテンツを担当する科目ごとにすべて作製することができた。研究面では、科研の2年目であったがコロナ禍で共同研究機関との研究が進捗せず、予備実験1回のみの実施に終わった。臨床面では、診療日数を縮小しながらも、感染対策を徹底して歯科診療室での診療業務を継続した。大学運営では、認証評価部会において次回の認証評価受審機関を選定・決定した。学会活動では、第28回日本歯科色彩学会の大会長となっていたが1年延期が決定し、あらためて2021年度の開催に向けて準備をスタートさせた。

## VII 次年度の目標

次年度より新任地に赴くことになり、千葉県立保健医療大学での様々な経験を活かして引き続き精進していきたい。

## 准教授 荒川 真 博士 (歯学)

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

教育、研究および診療の三面において前年度以上の成果を出していきたい。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・歯周治療学.
- ・歯科材料学.
- ・国際歯科衛生学.
- ・歯科診療室基礎実習.
- ・歯科診療室総合実習.
- ・卒業研究.
- ・継続個別支援実習.
- ・発達歯科衛生実習 I (小児).
- ・専門職間の連携活動論.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線)

- ・鈴鹿祐子, 麻生智子, 河野 舞, 酒巻裕之, 金子 潤, 荒川 真, 石川裕子, 麻賀多美代, 大川由一: 口腔機能低下症の現状と啓発についての検討, 千葉県立保健医療大学紀要, 12, 1, 11-18, 2021.
- ・麻賀多美代, 麻生智子, 大川由一, 鈴鹿祐子, 酒巻裕之, 河野 舞, 金子 潤, 荒川 真, 石川裕子, 島田美恵子: 地域高齢者への健康増進プログラムにおける学生ボランティアの参加, 千葉県立保健医療大学紀要, 12, 1, 77-81, 2021.
- ・河野 舞, 金子 潤, 島田美恵子, 荒川 真, 雄賀多聡: 若年者における不良姿勢が咬合関係に及ぼす影響, 千葉県立保健医療大学紀要, 12, 1, 98, 2021.
- ・島田美恵子, 金子 潤, 荒川 真, 河野 舞, 岡村太郎, 綾部誠也, 濃野 要: 虚弱高齢者の生活機能は回復するか—長期縦断調査による解析, 千葉県立保健医療大学紀要, 12, 1, 100, 2021.

#### 3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・酒巻裕之, 麻賀多美代, 麻生智子, 鈴鹿祐子, 山中紗都, 河野 舞, 荒川 真, 金子 潤, 大川由一: 歯科診療室臨床実習用 CC Snapshot 評価票の有用性に関する検討, 第 39 回日本歯科医学教育学会総会・学術大会, 2020 年 9 月 25 日-10 月 24 日, Web 開催.
- ・麻賀多美代, 大川由一, 酒巻裕之, 麻生智子, 島田美恵子, 河野 舞, 金子 潤, 荒川 真, 鈴鹿祐子, 石川裕子, 岡村太郎: 地域高齢者におけるオーラルフレイルの予防に向けた健康増進プログラムの実践—誤嚥による肺炎予防のために—, 第 59 回千葉県公衆衛生学会, 2021 年 2 月, 誌上開催.
- ・鈴鹿祐子, 麻生智子, 河野 舞, 酒巻裕之, 金子 潤, 荒川 真, 石川裕子, 麻賀多美代, 大川由一: 歯科来院患者に対する口腔機能低下症の啓発についての検討, 第 59 回千葉県公衆衛生学会, 2021 年 2 月, 誌上開催.
- ・荒川 真, 金子 潤: う蝕と味覚の敏感さの相関—続報—, 第 153 回日本歯科保存学会学術大会, 2020 年 11 月 16-30 日, Web 開催.
- ・Mieko Shimada, Jun Kaneko, Makoto Arakawa, Mai Kono, Taro Okamura, Nobuko Hongu, Physical Fitness Changes in

Prefrail Elderly Adults After 4-years' s Participation of Community-Based Health-care Classes, American College of Health Medicine Annual Meeting, May 2020, Online.

#### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究（C）、味覚の感受性を利用した新たなカリエスリスク判定法の可能性、研究代表者。
- ・科学研究費補助金基盤研究（C）、大気圧低温プラズマを応用した歯科漂白治療の検討、研究分担者。
- ・学内共同研究費、地域高齢者における効率的な口腔機能向上プログラムの検討、研究分担者。
- ・学内共同研究費、後期高齢者におけるソーシャルキャピタル醸成は当人の健康寿命を何年延伸する可能性があるか、研究分担者。

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）

- ・歯科診療、2016年4月～現在に至る。千葉県立保健医療大学歯科診療室。
- ・口腔機能向上プログラム、2020年8月～現在に至る。流山市南部地域包括支援センター。

#### 4 職能団体委員等（職能団体名称、委員名称、活動期間）

- ・全国大学歯科衛生士教育協議会、理事・編集副委員長、2020年4月～2021年3月。

#### 5 学会、学術団体への貢献

##### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本歯科保存学会、日本歯周病学会、日本歯科理工学会、日本歯科衛生教育学会、日本歯科医学教育学会。

##### 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本歯科衛生教育学会 研究倫理審査委員 2019年4月～現在に至る。

### V 管理・運営記録

#### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・広報委員会、国際交流委員会、衛生委員会、自己点検・評価実施推進部会、専門職間の連携活動論実施部会。

#### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科衛生学科会議、歯科診療室会議、歯科衛生学科1年生チューター。

### VI 評価（成果および改善すべき事項）

#### 《広報委員会》

本学HPで発信するコンテンツの作成を行った。  
年2回の学内PCメンテナンスの補助を行った。

#### 《衛生委員会》

学内の定期的巡視を行った。

#### 《歯科診療室》

本学歯科診療室にて、夏休み期間中や学生実習が無い期間も基本的にはお通4日9:30から16:00の間診療を継続してきた。

### VII 次年度の目標

引き続き各種業務を着実に継続、発展させたい。

## 准教授 河野 舞 博士 (歯学)

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

2020年度の目標は、教育面において学生の学習意欲を喚起する授業を行い、授業の改善に努める。研究活動では年度内に論文を投稿し、学外研究助成につなげるための新規研究にも取り組むことである。また、歯科診療室での歯科診療および大学運営に関しても引き続き委員会活動を理解し、役割を遂行する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
  - ・ 歯科補綴学.
  - ・ チーム歯科医療論.
  - ・ 歯科衛生基礎演習.
  - ・ 演習 I (歯科材料・歯科診療補助).
  - ・ 歯科診療室基礎実習.
  - ・ 歯科診療室総合実習.
  - ・ 病院実習.
  - ・ 卒業研究.
  - ・ 専門職間の連携活動論.
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)
  - ・ 臨床実習 I・II. 北海道医療大学歯学部.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線)

- ・ 河野 舞, 白井 要, 村田幸枝, 川西克弥, 松岡紘史, 長澤敏行: 診療参加型臨床実習における歯学部臨床実習生のメンタルヘルスの現況, 日本歯科医学教育学会誌, 1, 36, 13-26, 2020.
- ・ 鈴鹿祐子, 麻生智子, 河野 舞, 酒巻裕之, 金子 潤, 荒川 真, 石川裕子, 麻賀多美代, 大川由一: 口腔機能低下症の現状と啓発についての検討, 千葉県立保健医療大学紀要, 12, 1, 11-18, 2021.
- ・ 麻賀多美代, 麻生智子, 大川由一, 鈴鹿祐子, 酒巻裕之, 河野 舞, 金子 潤, 荒川 真, 石川裕子, 島田美恵子: 地域高齢者への健康増進プログラムにおける学生ボランティアの参加, 千葉県立保健医療大学紀要, 12, 1, 77-81, 2021.
- ・ 麻賀多美代, 大川由一, 酒巻裕之, 河野 舞, 麻生智子, 鈴鹿祐子: 介護予防と口腔機能の回復・維持・向上にかかわる歯科衛生士の人材育成プログラムの実践, 千葉県立保健医療大学紀要, 12, 1, 116, 2021.
- ・ 河野 舞, 金子 潤, 島田美恵子, 荒川 真, 雄賀多聡: 若年者における不良姿勢が咬合関係に及ぼす影響, 千葉県立保健医療大学紀要, 12, 1, 98, 2021.
- ・ 島田美恵子, 金子 潤, 荒川 真, 河野 舞, 岡村太郎, 綾部誠也, 濃野 要: 虚弱高齢者の生活機能は回復するか—長期縦断調査による解析, 千葉県立保健医療大学紀要, 12, 1, 100, 2021.

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル、主催学会 (学会名称)、開催日、場所等、本人下線)

- ・ Mieko Shimada, Jun Kaneko, Makoto Arakawa, Mai Kono, Taro Okamura, Nobuko Hongu, Physical Fitness Changes in Prefrail Elderly Adults After 4-years' s Participation of Community-Based Health-care Classes, American

College of Health Medicine Annual Meeting, May 2020, Online.

- ・酒巻裕之, 麻賀多美代, 麻生智子, 鈴鹿祐子, 山中紗都, 河野 舞, 荒川 真, 金子 潤, 大川由一: 歯科診療室臨床実習用CC Snapshot 評価票の有用性に関する検討, 第39回日本歯科医学教育学会総会・学術大会, 2020年9月25日-10月24日, 誌上・Web開催.
- ・川西克弥, 村田幸枝, 河野 舞, 越野 寿, 川上智史, 長澤敏行: 臨床実地試験トライアルにおける評価者間一致率に関する考察, 第39回日本歯科医学教育学会総会・学術大会, 2020年9月25日-10月24日, 誌上・Web開催.
- ・麻賀多美代, 大川 由一, 酒巻 裕之, 麻生 智子, 島田 恵美子, 河野 舞, 金子 潤, 荒川 真, 鈴鹿 祐子, 石川裕子, 岡村太郎: 地域高齢者におけるオーラルフレイルの予防に向けた健康増進プログラムの実践—誤嚥による肺炎予防のため—to, 第59回日本公衆衛生学会, 2021年2月, 誌上開催.
- ・鈴鹿祐子, 麻生智子, 河野 舞, 酒巻裕之, 金子 潤, 荒川 真, 石川裕子, 麻賀多美代, 大川由一: 歯科来院患者に対する口腔機能低下症の啓発についての検討, 第59回千葉県公衆衛生学会, 2021年2月, 誌上開催.

#### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金基盤研究 (C), 大気圧低温プラズマを応用した歯科漂白治療の検討, 研究分担者.
- ・科学研究費補助金基盤研究 (C), 自家歯牙片とインプラントを併用したハイブリッド歯周組織再生療法, 研究分担者.
- ・学内共同研究, 地域高齢者における効率的な口腔機能向上プログラムの検討, 研究代表者.
- ・学内共同研究, 後期高齢者におけるソーシャルキャピタル醸成は当人の健康寿命を何年延伸する可能性があるか, 研究分担者.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称, 活動期間, 場所等)

##### 1) 千葉県内

- ・オーラルフレイル予防プログラム, 2020年4月～現在に至る. UR さつきが丘団地.
- ・口腔機能向上プログラム, 2020年8月～現在に至る. 流山市南部地域包括支援センター.
- ・新型コロナ対応協力, 2020年1月21日. 習志野保健所.

#### 2 地域への保健医療活動 (診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

- ・歯科診療, 2017年4月から現在に至る. 千葉県立保健医療大学歯科診療室.

#### 5 学会, 学術団体への貢献

##### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本補綴歯科学会, 日本歯科医学教育学会, 日本口腔インプラント学会, 日本歯科理工学会, 日本歯科審美学会, 日本老年歯科医学会, 日本摂食嚥下リハビリテーション学会, 北海道医療大学歯学会.

### V 管理・運営記録

#### 1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・共通教育運営会議, 学術推進企画委員会, 学内共同研究審査部会, 研究倫理審査委員会, 動物部会, 教育研究年報部会, キャンパス・ハラスメント防止対策委員会相談員.

#### 2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・歯科衛生学科会議, 歯科診療室会議, 歯科衛生学科4年生副チューター.

### VI 評価 (成果および改善すべき事項)

教育面については担当科目の位置づけを理解するとともに, 遠隔授業用に全ての教材を新製し, 動画教材数を増やすなど, 教育効果の改善に努めた. 研究活動では昨年までの研究成果をまとめて論文投稿に至ることができたが, 新規研究において

はCOVID-19の影響で地域高齢者への介入を行うことができず、研究が停滞してしまった。大学運営においては、学内共同研究審査部会長としてWebを活用した発表会の運営や審査方式へ柔軟に対応することができたと考える。社会貢献では感染対策を徹底して歯科診療室における歯科診療を通じ、地域住民の方々に貢献できたと考える。

## VII 次年度の目標

次年度以降、ニューノーマルを意識しながら過去の常識を改善し、Webを活用しながら効率化を図りたいと考える。教育面ではオンライン授業のデザインや方法を様々なコンテンツで学修し、学生の学習意欲を喚起する授業を行うことに努める。研究活動では、新たな研究計画の立案や2020年度に行えなかったデータの収集に努める。歯科診療室での歯科診療は継続し、大学運営に貢献できるよう努力する。



## 講師 麻生 智子 学士（教養）

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

2020年度は、新型コロナウイルス感染症が拡大し、年度当初は対面授業が中止となったことから、演習、実習においては、代替となる動画等を作成し、対面が可能となるまで知識の補充、技術の基本が学習できるように工夫する。講義においては、遠隔授業でも、予習、復習の習慣がつくように教育内容の充実に努める。研究、社会貢献両面を持つ「オーラルフレイル予防のための健康プログラム」研究は最終年度となっていることから、研究代表者と相談し、感染状況をみながら進めていきたいと考える。高齢者の口腔機能を維持、向上させるために研究分担者として準備、実施、結果の集計などを行う。歯科衛生士として臨床での患者とのかかわりは今年度も授業とのバランスをみて、感染予防を心がけて行いたいと考える。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・ 歯科疾患予防学.
- ・ 歯科衛生基礎演習.
- ・ 演習Ⅰ（歯科材料・歯科診療補助）.
- ・ 演習Ⅱ（歯科予防処置）.
- ・ 演習Ⅴ（地域歯科衛生）.
- ・ 総合演習.
- ・ 継続・個別支援実習.
- ・ 発達歯科衛生実習Ⅰ（小児）.
- ・ 地域歯科衛生実習.
- ・ 卒業研究.
- ・ 専門職間の連携活動論.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・ 鈴鹿祐子，麻生智子，河野 舞，酒巻裕之，金子 潤，荒川 真，石川裕子，麻賀多美代，大川由一：口腔機能低下症の現状と啓発についての検討，千葉県立保健医療大学紀要，12，1，11-18，2021.
- ・ 麻賀多美代，麻生智子，大川由一，鈴鹿祐子，酒巻裕之，河野 舞，金子 潤，荒川 真，石川裕子，島田美恵子：地域高齢者への健康増進プログラムにおける学生ボランティアの参加，千葉県立保健医療大学紀要，12，1，77-81，2021.
- ・ 細山田康恵，東本恭幸，河野公子，海老原泰代，阿曾菜美，岡田亜紀子，峰村貴央，島田美恵子，麻賀多美代，麻生智子，鈴鹿祐子，雄賀多聡，竹内弥彦，江戸優裕，岡村太郎，渡邊智子：千葉県の高齢者のための健康づくりプログラム（ほい大健康プログラム）に関する評価，千葉県立保健医療大学紀要，12，1，63-67，2021.
- ・ 麻賀多美代，大川由一，酒巻裕之，河野 舞，麻生智子，鈴鹿祐子：介護予防と口腔機能の回復・維持・向上にかかわる歯科衛生士の人材育成プログラムの実践，千葉県立保健医療大学紀要，12，1，116，2021.

#### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・ 鈴鹿祐子，麻生智子，河野 舞，酒巻裕之，金子 潤，荒川 真，石川裕子，麻賀多美代，大川由一：口腔機能低下症の現状と啓発についての検討，千葉県公衆衛生学会，2021年2月，誌上開催.
- ・ 麻賀多美代，大川由一，酒巻裕之，麻生智子，島田美恵子，河野 舞，金子 潤，荒川 真，鈴鹿祐子，石川裕子，岡村

太郎：地域高齢者におけるオーラルフレイルの予防に向けた健康増進プログラムの実践 ―誤嚥による肺炎予防のために―，千葉県公衆衛生学会，2021年2月。誌上開催。

- ・酒巻裕之，麻賀多美代，麻生智子，鈴鹿祐子，山中紗都，河野 舞，荒川 真，金子 潤，大川由一：歯科診療室臨床実習用CC Snapshot 評価票の有用性に関する検討，第39回日本歯科医学教育学会総会・学術大会，2020年9月25日-10月24日，Web開催。

#### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究（C），地域高齢者におけるオーラルフレイルの予防に向けた健康増進プログラムの実践と評価 ―誤嚥による肺炎予防のために―，研究分担者。
- ・学長裁量研究，コーチングを活用した糖尿病患者の歯科診療に関わる歯科衛生士の人材育成プログラムの実践，研究分担者。

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

- 1) 千葉県内
  - ・オーラルフレイル予防プログラム，2020年4月～現在に至る。UR さつきが丘団地。

#### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・継続個別支援・歯科診療補助の実施，2020年4月～2021年3月，千葉県立保健医療大学歯科診療室。

#### 5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - ・日本歯周病学会，日本咀嚼学会，日本歯科衛生学会，日本歯科医学教育学会，日本歯科衛生教育学会，日本口腔衛生学会，日本口腔ケア学会。
- 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）
  - ・日本歯科衛生教育学会，評議員，2019年4月1日～2021年3月31日。
  - ・日本歯科衛生教育協議会，編集委員会（事前抄録担当委員），2019年4月1日～2021年3月31日。

#### 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- ・日歯認定歯科助手講習会，千葉県歯科医師会主催「診療室管理・アシスタントワーク・患者対応」，歯科助手，2020年9月27日，千葉県立保健医療大学。

### V 管理・運営記録

#### 1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・入試実施委員会，進路支援委員会，広報委員会。

#### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科衛生学科会議，歯科診療室会議。

### VI 評価（成果および改善すべき事項）

担当科目については，新型コロナウイルス感染症の拡大によって5月までの授業はすべて遠隔授業となり，動画や授業資料の作成に力を注いだ。演習，実習科目では技術教育が困難となったが，感染に配慮しながら教員間で相談し，可能な限り実施した。次年度は，遠隔授業では学生の発言を促すような双方向の授業や学生の理解度を確認しながら，さらに改善して

いきたい。演習・実習では感染対策を行った上で授業形式を工夫し、より確実な技術習得を目指したい。「継続・個別支援実習」では、4年生は、症例報告をポスター発表形式で実施し、活発な発表、質疑応答が学生主体で行われ、充実した学びとなったことが確認できた。3年生は、感染対策を行い、人数を制限しながら実習を行った。研究では、研究分担者として協力した「オーラルフレイル予防のための健康プログラム」、学長裁量研究「口腔機能低下症の現状と啓発についての検討」で研究代表者が学会発表と論文を投稿し掲載された。委員会、部会、学科会議には、必ず出席し、積極的に大学・学科の業務を遂行した。学生実習がない時期が続いた期間に本学歯科診療室に歯科衛生士として臨床での患者との関わりを持つことができた。時間的に難しい時期もあるが、自分の臨床技術の確認や学生への指導につなげるために可能な限り実施した。

## Ⅶ 次年度の目標

次年度は、担当科目については、遠隔授業でも学生が充実した学びを得たと感じられるように講義内容を改善し、演習・実習内容も技術の修得に向けて充実させたいと考えている。研究では、研究、社会貢献両方の側面を持つ「オーラルフレイル予防のための健康プログラム」については1年間延長されたことから、高齢者の口腔機能を維持、向上させるために研究分担者として、研究代表者と協力して進めていきたい。歯科衛生士として臨床での患者との関わりは、学生への指導に生かすことができるのでできるだけ継続したい。

## 講師 鈴鹿 祐子 修士 (学術)

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和2年度は、教育は、学生が興味を持ち、積極的に勉強に取り組めるような授業ができるように努めたい。研究については、教育、臨床の業務とのバランスを調整し、学会発表、論文投稿をしたい。社会貢献については引き続き、地域のオーラルフレイルについての啓発に取り組み、また、職能団体へも積極的に関わりたいと思う。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・チーム歯科医療論.
- ・歯科医療安全論.
- ・発達歯科衛生学 I (小児).
- ・リスクマネジメント論.
- ・演習 I (歯科材料・歯科診療補助).
- ・演習 II (歯科予防処置).
- ・総合演習.
- ・歯科衛生体験演習 II.
- ・歯科診療室基礎実習.
- ・歯科診療室総合実習.
- ・継続・個別支援実習.
- ・歯科診療所実習.
- ・発達歯科衛生実習 I (小児).
- ・卒業研究.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線)

- ・鈴鹿祐子, 麻生智子, 河野 舞, 酒巻裕之, 金子 潤, 荒川 真, 石川裕子, 麻賀多美代, 大川由一: 口腔機能低下症の現状と啓発についての検討, 千葉県立保健医療大学紀要, 12, 1, 11-18, 2021.
- ・麻賀多美代, 麻生智子, 大川由一, 鈴鹿祐子, 酒巻裕之, 河野 舞, 金子 潤, 荒川 真, 石川裕子, 島田美恵子: 地域高齢者への健康増進プログラムにおける学生ボランティアの参加, 千葉県立保健医療大学紀要, 12, 1, 77-81, 2021.
- ・細山田康恵, 東本恭幸, 河野公子, 海老原泰代, 阿曾菜美, 岡田亜紀子, 峰村貴央, 島田美恵子, 麻賀多美代, 麻生智子, 鈴鹿祐子, 雄賀多聡, 竹内弥彦, 江戸優裕, 岡村太郎, 渡邊智子: 千葉県の高齢者のための健康づくりプログラム (ほい大健康プログラム) に関する評価, 千葉県立保健医療大学紀要, 12, 1, 63-67, 2021.
- ・麻賀多美代, 大川由一, 酒巻裕之, 河野 舞, 麻生智子, 鈴鹿祐子: 介護予防と口腔機能の回復・維持・向上にかかわる歯科衛生士の人材育成プログラムの実践, 千葉県立保健医療大学紀要, 12, 1, 116, 2021.

#### 3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・鈴鹿祐子, 麻生智子, 河野 舞, 酒巻裕之, 金子 潤, 荒川 真, 石川裕子, 麻賀多美代, 大川由一: 歯科来院患者に対する口腔機能低下症の啓発についての検討, 第59回千葉県公衆衛生学会, 2021年2月, 誌上開催.
- ・麻賀多美代, 大川由一, 酒巻裕之, 麻生智子, 島田美恵子, 河野 舞, 金子 潤, 荒川 真, 鈴鹿祐子, 石川裕子, 岡村

太郎：地域高齢者におけるオーラルフレイルの予防に向けた健康増進プログラムの実践 一誤嚥による肺炎予防のために  
一，第59回千葉県公衆衛生学会，2021年2月，誌上開催。

- ・酒巻裕之，麻賀多美代，麻生智子，鈴鹿祐子，山中紗都，河野 舞，荒川 真，金子 潤，大川由一：歯科診療室臨床実習用CC Snapshot 評価票の有用性に関する検討，第39回日本歯科医学教育学会総会・学術大会，2020年9月25日-10月24日，Web開催。

#### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学長裁量研究，コーチングを活用した糖尿病患者の歯科診療に関わる歯科衛生士の人材育成プログラムの実践，研究分担者。

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

##### 1) 千葉県内

- ・オーラルフレイル予防プログラム，2020年4月～現在に至る。UR さつしが丘団地。

#### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・継続個別支援・歯科診療補助の実施，2020年4月～2021年3月。千葉県立保健医療大学歯科診療室。

#### 3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- ・千葉県歯科衛生士育成協議会，運営委員，2019年4月1日～現在に至る。

#### 4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・千葉県歯科衛生士会，総務理事，2020年6月～現在に至る。

#### 5 学会，学術団体への貢献

##### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本障害者歯科学会，ヘルスカウンセリング学会，日本歯周病学会，日本歯科衛生学会，日本咀嚼学会，日本歯科医学教育学会，日本歯科衛生教育学会，日本口腔ケア学会。

##### 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本歯科衛生教育学会・評議員，編集委員会事前抄録担当委員，2020年4月～2021年3月。

#### 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- ・令和2年度 未就業歯科衛生士復職支援研修会，千葉県歯科医師会，現在のTBI TBI の実践，歯科衛生士，2020年10月18日，ハロー貸会議室千葉駅前。

### V 管理・運営記録

#### 1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学生委員会，社会貢献委員会，危機管理委員会，IR 部会。

#### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科衛生学科会議，歯科診療室会議。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育については、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、遠隔授業という新しい試みがあった。慣れないことではあったが、動画作成等をしてできるだけ学生にとってわかりやすい教材作りを心掛けた。大変な作業であったが、授業の内容を見直すよききっかけにもなった。演習・実習についてはできる限りの感染予防対策を講じた。学内外ともに学生の協力もあり無事に終了した。

研究については、学会発表、論文投稿ができた。

社会貢献については、積極的に職能団体の活動に参加できたと思う。

## VII 次年度の目標

令和3年度、教育は、引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止における対策を講じながら安全に工夫をしながら実習をできる限り行いたいと思う。

研究については、現在まとめているものを発表、また、論文投稿したいと思う。新しい研究にも着手したい。

また、新型コロナウイルス感染による影響は続くと思われるが、社会貢献もできることから行っていきたいと思う。

## 講師 山中 紗都 修士 (障害科学)

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

育児休業復帰の年となるため、ワークライフバランスを考えて無理なく業務をすすめていくとともに、自身にできる教育・研究活動のペースを掴んでいく。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
  - ・歯科診療室基礎実習.
  - ・歯科診療室総合実習.
  - ・継続個別支援実習.
  - ・歯科診療所実習.
  - ・発達歯科衛生実習 I (小児).
  - ・総合演習.
  - ・歯科衛生アセスメント論.
  - ・歯科保健指導演習 I.
  - ・演習 I (歯科材料・歯科診療補助).
  - ・演習IV 保健指導・カウンセリング.
  - ・専門職の連携活動論.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・山中紗都, 吉田直美, 佐藤まゆみ: 終末期, ターミナルケアに関わる歯科衛生士の体験に関する質的研究, 千葉県立保健医療大学紀要, 12, 1, 110, 2021.

#### 3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・浅枝麻夢可, 吉田幸恵, 柳田 学, 吉田直美, 杉本久美子, 久保田絢子, 鈴木 瞳, 大川由一, 酒巻裕之, 山中紗都: 大学新入生における口腔内状況と口腔保健への意識との関連について, 日本歯科衛生学会第15回学術大会, 2020年9月20-21日, 誌上開催.
- ・酒巻裕之, 麻賀多美代, 麻生智子, 鈴木祐子, 山中紗都, 河野 舞, 荒川 真, 金子 潤, 大川由一: 歯科診療室臨床実習用 CC Snapshot 評価票の有用性に関する検討, 第39回日本歯科医学教育学会総会・学術大会, 2020年9月25日-10月24日, Web 開催.

#### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・学内共同研究, 地域高齢者における効率的な口腔機能向上プログラムの検討, 研究分担者.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 2 地域への保健医療活動 (診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

- ・継続個別支援・歯科診療補助の実施. 2020年4月～2021年3月. 千葉県立保健医療大学歯科診療室.



## 5 学会、学術団体への貢献

### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本歯科衛生学会、日本歯科衛生教育学会、日本歯科医学教育学会、日本歯周病学会、日本有病者歯科医療学会、日本歯科審美学会。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・図書委員会。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科衛生学科会議、歯科診療室会議、歯科衛生学科2年副チューター。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

2020年5月に育児休業より復帰したが、コロナウイルス感染予防に関わる授業方針の変更により、教育活動においては、講義系科目を遠隔授業に変換し、対面演習の際には感染予防対策を講じ、併せて従来の方法を大きく変更する等、方針変化に対応することで精一杯になってしまった。しかし、学生の実習期間の短縮および実習内容の変更に伴った、専門的知識・技術獲得の補完対策として学内実習を充実することに努めることが出来たと感じる。研究活動については、新たな研究に取り組むことが出来ず、これまでの研究のまとめにも着手できなかったため、次年度以降の課題となった。大学運営に関わる業務については、復帰初年度であることを考慮して頂き、あまり活動は多くなかったが、次年度以降は積極的に貢献したいと思う。

## VII 次年度の目標

新型コロナウイルスの感染予防対策に引き続き考慮しながら、授業の運営を行っていきたいと考える。昨年度の経験より、遠隔授業の長所と短所を活かし、より充実した授業展開に努めたい。また、新々カリキュラムの完成年度となるため、自身の携わる科目についての全体的な構成について改めて見直しを行っていきたいと感じる。研究活動については、新たな研究に着手するとともに、これまでの研究をまとめる活動を引き続き行っていきたい。

## 講師 佐久間 貴士 修士（工学）

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和2年度は、特に着任初年度のため、まずは本学の環境に慣れることを目標とし、コロナ禍におけるオンライン授業の環境整備と運営に尽力する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
  - ・情報リテラシーⅠ.
  - ・体験ゼミナール.
  - ・統計学.
  - ・情報リテラシーⅡ.
  - ・情報倫理.
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）
  - ・情報入門. 千葉商科大学.
  - ・環境統計学実習. 立正大学.

### III 研究記録

#### 3 発表（発表者：発表タイトル、主催学会（学会名称）、開催日、場所等、本人下線）

- ・Takashi Sakuma : A study of the use of e-books to revitalize tourist destinations, 15th International Conference on Knowledge, Information and Creativity Support System, Nov 25th 2020 - Nov 27th 2020, Online.
- ・佐久間貴士, 小堀光芳, 山下倫範 : EPUB 電子書籍を利用した教育コンテンツ作成に関する検討, 第5回 国際 ICT 利用研究学会 全国大会, 2020年12月6日, バーチャルカンファレンス.
- ・佐久間貴士 : 保険医療系大学における情報倫理教育の取り組み, 第9回 国際 ICT 利用研究学会 研究会, 2021年3月21日, Web 開催.

#### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究 (C), ESD におけるエネルギー環境教育の新たな位置づけ-地方の視点からの再考, 研究分担者.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 5 学会、学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - ・国際 ICT 利用研究学会. 情報文化学会. 教育システム情報学会. コンピュータ利用教育学会. 情報システム学会. 日本環境教育学会. 日本環境学会.
- 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）
  - ・国際 ICT 利用研究学会. 理事. 2016年4月～現在に至る.
  - ・第5回 国際 ICT 利用研究学会 全国大会. 全国大会審査委員会. 2020年12月6日.

- ・第5回 国際 ICT 利用研究学会 全国大会. セッションP 座長. 2020年12月6日.

## 7 その他

- ・令和2年度千葉県立保健医療大学紀要第12巻. 査読報告書作成. 2020年10月28日.

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・広報委員会. 危機管理委員会. 共通教育運営委員会. 入試実施委員会. IR 部会. 体験ゼミナール作業部会.

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科衛生学科会議.

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

オンライン授業を見据えた自作マニュアルを作成し配布, 学科内で説明会も実施した. マニュアルにおいては, 他学科からも多くの評価を受けることができた. WebOC 実施後のアンケートの作成・集計・解析を行い, その内容を委員会で共有, 委員長が教授会等で報告していると聞いている. これにより, 受験生のニーズが明確となり, 次年度の活動に繋がる骨組みが出来上がったと考えている. 加えて, IR 部会においては卒業時アンケートを作成, その展開立案も行い, 本部会においても尽力したと評価している. 学内 FD 活動や文科省関連の研修等にも積極的に参加した.

## VII 次年度の目標

次年度は, 着任二年目となるため, まだ慣れていない本学の環境への順応と理解に務めることを目標とし, コロナ禍におけるオンライン授業の環境整備と運営に尽力する. また, 携わる委員会の運営等にも尽力し, 大学運営に貢献できるよう努力する.

## 助教 栗原 涼子 博士（理工学）

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

歯科診療室において、各学生の実習目標の達成になるための指導を行う。また、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策を講じると共に歯科診療室の円滑な運営や管理を行い、学生教育のみならず、歯科治療を通して地域住民に対しての社会貢献を行う。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
  - ・歯科診療室基礎実習.
  - ・歯科診療室総合実習.
  - ・体験ゼミナール.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等. 活動期間. 場所等）

- ・歯科診療補助の実施. 2020年4月～2021年3月. 千葉県立保健医療大学歯科診療室.

#### 5 学会、学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - ・日本歯科衛生学会. 日本歯科衛生教育学会. 日本スポーツ歯科医学会. 日本口腔ケア学会. 東京歯科大学学会.
  - 日本摂食嚥下リハビリテーション学会.

### V 管理・運営記録

#### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科衛生学科会議. 歯科診療室会議.

### VI 評価（成果および改善すべき事項）

社会貢献では歯科診療室において新型コロナウイルス感染症に対しての感染予防策を講じることにより、緊急事態宣言が発動後も継続して地域住民の方々に対して歯科治療の提供に貢献ができたと考える。教育においては、新型コロナウイルス感染症の影響で実習人数制限がはかられたが、新型コロナウイルス感染症に対しての感染予防策を講じての実習指導を行うことができた。しかし、状況把握をすることが中心となってしまう、情報共有が円滑に進まなかったこともあり、十分な成果をあげることができなかった。

### VII 次年度の目標

学内外の研究者と共同研究に取り組み、その成果を学会発表や論文公表するなど、教育・研究・管理運営・社会貢献のバランスを考えて取り組んでいきたい。

リハビリテーション学科  
理学療法学専攻



## 教授 三和 真人 博士 (障害科学)

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和2年度は、特に論文の掲載までには至らなかった研究データをまとめて行きたい。また、図書委員長（図書館長を兼ねる）としてコロナ禍の中、2度の緊急事態宣言発出によって開館や閲覧の時間など図書館運営の対応に翻弄されたが、電子書籍やジャーナルなどの書籍を増やして、学生へのサービスの充実を図っていく。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・理学療法概論.
- ・人体の機能実習.
- ・運動学実習.
- ・機能解剖学.
- ・理学療法臨床測定学.
- ・日常生活活動学.
- ・日常生活活動学演習.
- ・物理療法学.
- ・運動器障害理学療法学特論.
- ・神経系障害理学療法学特論.
- ・老年期障害理学療法学.
- ・生体機能計測学.
- ・理学療法発展領域論.
- ・理学療法技術論.
- ・臨床実習Ⅰ（体験実習）.
- ・臨床実習Ⅱ（評価実習）.
- ・臨床実習Ⅲ（総合実習）.
- ・臨床実習Ⅳ（総合実習）.
- ・卒業研究.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・三和真人：AIによる高齢者転倒予防のための予測システムの構築にむけて，公益法人 三井住友海上財団 研究結果報告書集，24，7，65-69，2020.
- ・三和真人，藤尾公哉，江戸優裕，雄賀多 聡，高橋宣成：健常成人上肢の感覚神経伝導速度—正中神経における分枝による違い—，千葉県立保健医療大学紀要 研究結果報告書集，12，1，96，2020.
- ・三和真人，雄賀多 聡・大谷拓哉・藤尾公哉・江戸優裕，山口高史：AI応用による高齢者の転倒予防のための予測システムの構築について，千葉県立保健医療大学紀要 研究結果報告書集，12，1，111，2020.



- ・堀本佳誉, 佐藤一成, 大須田佑亮, 高橋尚明, 三和真人: 発達障害理学療法分野において臨床実習学生が経験可能な疾患と侵襲性がそれほど高くない行為についての調査, 2 千葉県立保健医療大学紀要 研究結果報告書集, 12, 1, 117, 2020.

### 3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・佐藤一成, 堀本佳誉, 高橋尚明, 大須田祐亮, 三和真人: 発達障害理学療法分野において臨床実習学生が経験可能な疾患と侵襲性がそれほど高くない行為についての調査, 第 18 回日本神経理学療法学会大会, 2020 年 11 月 28 日-29 日, オンライン.
- ・三和真人: 健康寿命を延ばす運動療法が高齢者にとって金科玉条になり得るのだろうか, 第 25-26 回千葉県理学療法学会, 2020 年 3 月 6 日-7 日, オンライン.

### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・2020 年度千葉県立保健医療大学共同研究助成, 加速度信号による振戦評価方法の研究, 研究代表者.
- ・2020 年度千葉県立保健医療大学共同研究助成, 健康成人の足部の形態および機能の総合的評価, 研究分担者.
- ・2020 年度千葉県立保健医療大学共同研究助成, 3 次元動作解析システムを用いたベッドからの起き上がり動作中の関節角度計測法の信頼性, 研究分担者.
- ・2020 年度千葉県立保健医療大学共同研究助成, 多関節運動連鎖の観点での歩行分析演習の教育効果: 理学療法学生における異常歩行の原因推論能力向上に向けた取り組み, 研究分担者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 4 職能団体委員等 (職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・一般社団法人リハビリテーション教育評価機構. 評価認定委員会評価委員. 2014 年 4 月～現在.
- ・一般社団法人千葉県理学療法士会. 理事. 2018 年 4 月 1 日～現在.
- ・一般社団法人千葉県理学療法士会. 研究倫理委員会. 2019 年 4 月 1 日～現在.
- ・公益社団法人リハビリテーション医学会. 学会プログラム委員. 2019 年 11 月 1 日～現在.

### 5 学会, 学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本リハビリテーション医学会, 日本理学療法士協会, 日本臨床神経生理学学会, 日本電気生理運動学学会, 日本運動療法学会, 日本体力医学会, 世界理学療法士学会, 世界電気生理運動学学会, 全国大学肺理学療法研究会, 全国大学理学療法教育学会, 世界リハビリテーション医学会, コ克蘭ジャパン研究会.

#### 2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本理学療法士協会. 第 25 回日本基礎理学療法学会抄録査読委員. 2019 年 9 月～現在.
- ・日本リハビリテーション医学会. 第 57 回日本リハビリテーション医学会学術集会抄録査読委員. 2019 年 11 月～現在.

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・図書館長.
- ・大学運営会議, 共通教育会議, 自己点検評価委員会, 将来構想検討委員会, 総務・企画委員会, 入試改革委員会, 教員再任委員会, 人事委員会, 図書情報委員会.
- ・教員資格審査委員会 (栄養学科 教授) 令和 2 年 2 月～4 月応募者なし, 教員資格審査委員会 (看護学科 講師) 令和 2 年 2 月～7 月, 教員資格審査委員会 (理学療法学専攻 講師) 令和 2 年 2 月～5 月, 教員資格審査委員会 (理学療法学専攻 准教授) 令和 2 年 3 月～5 月, 教員資格審査委員会 (理学療法学専攻 教授) 令和 2 年 6 月応募者なし, 教員資格審査委員会 (理学療法学専攻 講師) 令和 2 年 6 月書類不合格, 教員資格審査委員会 (理学療法学専攻 助教) 令和 2 年 6 月書類不合格, 教員資格審査委員会 (看護学科 助教) 令和 2 年 7 月～令和 3 年 1 月, 教員資格審査委員会 (看護学科 助教) 令和 2 年 7 月～令和 3 年 1 月, 教員資格審査委員会 (理学療法学専攻 講師) 令和 2 年 9 月～令和 3 年 1 月不合格, 教員資格審査委員会

(理学療法学専攻 助教) 令和2年10月～令和3年1月, 教員資格審査委員会 (理学療法学専攻 教授) 令和2年10月～令和3年3月応募者なし.

## 2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・リハビリテーション学科長 (兼) 理学療法学専攻長, リハビリテーション学科教授会, リハビリテーション学科会議, 理学療法学専攻会議.

## VI 評価 (成果および改善すべき事項)

リハビリテーション学科や理学療法専攻の授業調整, 学内の各種委員会等の出席が多く, 自己の研鑽をする時間が就業中に作れず, 自宅に持ち込んで処理をすることも多々あった. 毎年のことながら, 論文作成と学会発表の準備をする時間が作れなかった.

## VII 次年度の目標

担当授業科目を減らし, 余らせた時間を有効に使って, 論文作成に取り組みたい. また, 学会発表を行いたい.

## 教授 雄賀多 聡 医学博士

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和2年度は、特に副学長として大学全体の管理運営に注力する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・リハビリテーション概論.
- ・画像診断学.
- ・人体の構造 I.
- ・人体の構造実習.
- ・医学総論.
- ・整形外科学総論.
- ・整形外科学各論.
- ・理学療法評価学 I.
- ・臨床実習 II.
- ・臨床実習 III.
- ・臨床実習 IV.
- ・卒業研究.
- ・病態学 II.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 3 審議会、委員会、国家試験委員等の実績（活動団体名称、委員名称、活動期間）

- ・千葉労働局、労災協力医、2020年4月～2021年3月.

#### 5 学会、学術団体への貢献

##### 1) 所属学会・学術団体

- ・千葉医学会、日本整形外科学会、東日本整形災害外科学会、関東整形災害外科学会、日本脊椎脊髄病学会、日本小児整形外科学会、日本職業・災害医学会、日本骨粗鬆症学会、日本腰痛学会、日本足の外科学会、日本抗加齢医学会、日本リハビリテーション医学会、日本運動器科学会、日本小児股関節研究会、千葉県ロコモティブシンドローム研究会、日本公衆衛生学会.

##### 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本職業・災害医学会、評議員、2020年4月～2021年3月.

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・大学運営会議. 総務・企画委員会. 自己点検・評価委員会. キャンパス・ハラスメント防止対策委員会. 将来構想検討委員会. 危機管理委員会. 広報委員会. 教授会. 研究等倫理委員会動物部会. 共通教育運営会議. 教員資格審査委員会（栄養学科・応用栄養学教授）. 教員資格審査委員会（栄養学科・解剖生理学教授）. 教員資格審査委員会（看護学科・成人看護学講師）. 教員資格審査委員会（看護学科・内科学教授）. 教員資格審査委員会（栄養学科・教育学准教授）. 教員資格審査委員会（栄養学科・応用栄養学教授）.

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科会議. 理学療法学専攻会議. リハビリテーション学科教授会.

## VI 評価

- ・危機管理委員会委員長・副学長として、COVID-19 対策に尽力した.
- ・管理運営部門学内委員会総括委員長としての活動はやや不十分であった.
- ・コロナ禍中での遠隔授業作成に時間を取られ、研究活動は不活発であった.

## VII 次年度の目標

令和2年度末で定年退職.

## 准教授 堀本 佳誉 博士 (理学療法学)

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和2年度は、教育面では理学療法士に必要な知識と技術を理解しやすいよう伝達し、学びを深める意欲を持てるように工夫することを継続する。2年生の担任として学生生活が円滑に送れるようにサポートすることを目標とする。研究面では、研究費を与えられるレベルの研究を計画し実施すること、また学長裁量研究費の採択を受けた研究を論文化することを目標とする。社会貢献として、特に発達障害分野理学療法に関して貢献することを継続する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・運動療法学.
- ・神経系障害評価学.
- ・生体機能計測学.
- ・発達障害理学療法学.
- ・発達障害理学療法学演習.
- ・発達障害理学療法学特論.
- ・理学療法評価学Ⅱ.
- ・理学療法評価学Ⅲ.
- ・理学療法概論.
- ・千葉県の健康づくり.
- ・専門職間の連携活動論.
- ・臨床実習Ⅰ(体験実習).
- ・臨床実習Ⅱ(評価実習).
- ・臨床実習Ⅲ(総合実習).
- ・臨床実習Ⅳ(総合実習).
- ・卒業研究.

### III 研究記録

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・佐藤一成, 堀本佳誉, 高橋尚明, 大須田祐亮, 三和真人：発達障害理学療法分野において臨床実習学生が経験可能な疾患と侵襲性がそれほど高くない行為についての調査, 第18回日本神経心理学療法学会大会, 2020年11月28日-29日, オンライン.

#### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・学内共同研究費, 健常成人の足部の形態および機能の総合的評価, 研究代表者.
- ・学内共同研究費, 加速度信号による振戦評価方法の研究, 研究分担者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

#### 2) 千葉県外

- ・コクラン日本語翻訳ボランティア，2020年4月～現在に至る。

### 4 職能団体委員等（職能団体名称、委員名称、活動期間）

- ・千葉県理学療法士会、障がい児・者支援部部長、2019年10月～現在に至る。
- ・千葉県理学療法士会、倫理審査委員、2019年度～現在に至る。

### 5 学会、学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本理学療法士協会、日本重症心身障害学会、重症心身障害療育学会、理学療法科学学会、コクランジャパン。

#### 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・千葉県理学療法士会、論文査読者、2019年度～現在に至る。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教務委員会、研究倫理委員会、特色科目運営委員会、危機管理委員会、専門職間の連携活動論運営部会部長、研究年報作成部会。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科会議、理学療法学専攻会議。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育面ではリモート講義となり、深い理解を与えることが困難であった。対面での講義では理解できていない部分のフォローができたと考える。研究面では、共同研究費を得ることが出来、共同研究者と研究を進められたことで目標は達成できた。ただ、論文作成に時間がかかっており、反省点である。社会貢献活動においては、千葉県理学療法士会障がい児・者支援部部長として発達障害分野理学療法に関して貢献することができたと考える。

## VII 次年度の目標

教育面では理学療法士に必要な知識と技術を理解しやすいよう伝達し、学びを深める意欲を持てるように工夫することを継続する。3年生の担任として学生生活が円滑に送れるようにサポートすることを目標とする。研究面では、研究費を与えられるレベルの研究を計画し実施すること、また2019年に学長裁量研究費の採択を受けた研究と2020年に共同研究費の採択を受けた研究を論文化することを目標とする。社会貢献として、特に発達障害分野理学療法に関して千葉県理学療法士会の活動を通して貢献することを継続する。

## 准教授 大谷 拓哉 博士 (保健学)

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

学内共同研究を研究計画通りに遂行し，社会に還元できる知見を得る。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・運動学 I.
- ・理学療法概論.
- ・理学療法測定学.
- ・理学療法測定学演習.
- ・運動学実習.
- ・物理療法学.
- ・日常生活活動学演習.
- ・理学療法臨床測定学.
- ・老年期障害理学療法学.
- ・神経系障害理学療法学.
- ・神経系障害理学療法学特論.
- ・機能解剖学.
- ・生体機能計測学.
- ・臨床体験実習.
- ・臨床実習 II.
- ・臨床実習 III.
- ・臨床実習 IV.
- ・卒業研究.

### III 研究記録

#### 1 学術論文・その他 (著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年. 本人下線)

- ・三和真人，雄賀多聡，大谷拓哉，藤尾公哉，江戸優裕，山口高史：AI 応用による高齢者の転倒予防のための予測システムの構築について，千葉県立保健医療大学紀要，12 巻，1 号，111，2021.

#### 2 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者)

- ・学内共同研究，3 次元動作解析システムを用いたベッドからの起き上がり動作中の関節角度計測法の信頼性，研究代表者.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 1 職能団体委員等 (職能団体名称，委員名称，活動期間)

- ・千葉県理学療法士会，学術局学術誌編集部長，2020. 4. 1～2021. 3. 31.



## 2 学会、学術団体への貢献

### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本理学療法士学会、日本基礎理学療法学会、理学療法科学学会、日本ヘルスプロモーション理学療法学会、バイオメカニズム学会。

### 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・保健医療学学会 学術誌「保健医療学雑誌」、論文査読者、2020年11月9日～2020年12月1日。
- ・第25回日本基礎理学療法学会学術大会、演題査読者（2題）、2020年8月7日～2020年8月8日。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学生委員会、学術推進企画委員会、国際交流委員会、自己点検評価実施推進部会、入試実施委員会、学内共同研究審査部会、学長意向調査委員会。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・臨床実習担当。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

コロナ禍における臨床実習の開講は非常に困難なものであったが、例年通りとはいかないまでも、なんとか学生には臨床現場での実習を経験させることができた。一方、コロナ禍の影響により研究被験者に予定していた学生に来学してもらうことが出来なくなり、計画通りに研究を遂行できなかったことは反省点である。

## VII 次年度の目標

可能な限り、学生には臨床現場での実習を経験できるよう、関係各所と調整を行う。また、新指定規則に対応した臨床実習に切り替わる時期であるため、スムーズな切り替えができるよう努める。

## 講師 江戸 優裕 博士（保健医療学）

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和2年度は、新型コロナウイルス流行に伴って教育・研究・社会貢献・管理運営のそれぞれにおいて態勢の変化が求められると考える。先行き不透明な情勢ではあるが質の低下を招かぬよう、前任者や関係者と連携をとって円滑な業務遂行に努める。大学や職能団体から任せられた役割を果たすとともに、自身の研究にも注力したい。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・専門職間の連携活動論.
- ・機能解剖学.
- ・日常生活活動学演習.
- ・物理療法学.
- ・物理療法学演習.
- ・運動学実習.
- ・臨床運動学.
- ・理学療法臨床測定学.
- ・運動器障害理学療法学.
- ・運動器障害理学療法学演習.
- ・運動器障害理学療法学特論.
- ・老年障害理学療法学.
- ・生体機能計測学.
- ・卒業研究.
- ・臨床体験実習.
- ・臨床実習Ⅱ.
- ・臨床実習Ⅲ.
- ・臨床実習Ⅳ.

##### 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）

- ・理学療法学（国立障害者リハビリテーションセンター）.
- ・リハビリテーション論Ⅰ（平成国際大学）.
- ・リハビリテーション論Ⅱ（平成国際大学）.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・谷畑和幸、江戸優裕：肩関節複合体アライメントと立位における足圧中心位置の関係：投球動作コッキング期を想定した検討，理学療法科学，第35巻6号，775-778，2020.
- ・佐藤俊彦、江戸優裕，西村沙紀子，福井勉：足部形状変化と歩行時下肢関節モーメント積分値の検討，文京学院大学総合研究所紀要，第21巻，223-227，2021.

- ・細山田康恵, 東本恭幸, 河野公子, 海老原泰代, 阿曾菜美, 岡田亜紀子, 峰村貴央, 島田美恵子, 麻賀多美代, 麻生智子, 鈴鹿祐子, 雄賀多聡, 竹内弥彦, 江戸優裕, 岡村太郎, 渡邊智子: 千葉県の高齢者のための健康づくりプログラム (ほい大健康プログラム) に関する評価, 千葉県立保健医療大学紀要, 第12巻1号, 63-67, 2021.

### 3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・江戸優裕: 踵骨回内外と下腿回旋の運動連鎖に着目した動態および歩行解析, 第25回日本基礎理学療法学会大会, 2020年12月12日-18日, web.
- ・江戸優裕, 松村勇人, 西澤岳: 変形性膝関節症者における踵骨-下腿の運動連鎖とラテラルウェッジ効果の関係, 第25-26回合同千葉県理学療法士学会, 2021年3月7日-21日, web.

### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・日本学術振興会科学研究費 (若手研究), 前足部および後足部の回内外による運動連鎖を用いた歩行コントロール法, 研究代表者.
- ・千葉県立保健医療大学学内共同研究費 (一般), 多関節運動連鎖の観点での歩行分析演習の教育効果: 理学療法学生における異常歩行の原因推論能力向上に向けた取り組み, 研究代表者.
- ・千葉県立保健医療大学学内共同研究費 (一般), 3次元動作解析システムを用いたベッドからの起き上がり動作中の関節角度計測法の信頼性, 研究分担者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 2 地域への保健医療活動 (診療・技術指導等. 活動期間. 場所等)

- ・UR都市機構共催ほい大健康プログラム, 2020年11月7日. 千草台団地.

### 4 職能団体委員等 (職能団体名称. 委員名称. 活動期間)

- ・千葉県理学療法士会. 代議員, 2019年度~現在に至る.
- ・千葉県理学療法士会. 学術企画研修部員, 2019年11月~現在に至る.

### 5 学会, 学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本理学療法士学会. 臨床歩行分析研究会. バイオメカニクス学会. 理学療法科学学会. 日本臨床バイオメカニクス学会. International Society of Posture and Gait Research. International Society of Biomechanics.

#### 2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名. 役職. 活動期間)

- ・第25回日本基礎理学療法学会学会大会. 演題査読委員. 令和2年度.
- ・第25-26回合同千葉県理学療法士学会. 学術局相談役. 令和2年度.
- ・第25-26回合同千葉県理学療法士学会. 一般演題座長. 令和3年3月7日.
- ・第25-26回合同千葉県理学療法士学会. 演題査読委員. 令和2年度.

### 7 その他

- ・医歯薬出版. 理学療法士・作業療法士国家試験模擬試験作問委員, 2017年度~現在に至る.
- ・日本理学療法士協会. フレイル対策推進マネージャー. 2020年11月30日.
- ・千葉県介護予防の推進に資する専門職育成研修. 2021年2月11日・2月20日.

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・入試実施委員会、学術推進企画委員会、進路支援委員会、広報委員会、学部長選考予備選挙管理委員会、相談員、紀要編集部会、専門職間の連携活動論作業部会、ほい大健康プログラム実行委員。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科会議、理学療法学専攻会議。

### 3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演、ラジオ出演等＞

- ・WEB オープンキャンパス施設紹介。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

コロナ禍において、対面での業務の制限とともに各種遠隔への切り替えが余儀なくされたこともあり、成果は十分とは言えなかった。オンライン技術を駆使しつつ、コロナ禍に対応した態勢を構築することが課題となったと捉えている。

## VII 次年度の目標

令和3年度はコロナ禍に入って2年目となるため、オンライン技術を駆使し、特に教育をはじめとした各業務の質の担保に努める。また、2年生の担任として、登校制限によって接点が減少している学生生活のサポートを行う。引き続き、大学や職能団体から任せられた役割を果たすとともに、自身の研究にも注力する。

## 助教 酒井 克也 博士 (理学療法学)

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和2年度は、着任初年度のため、特に助教業務と所属した委員会の活動内容を知り、業務を滞りなく遂行することを目標とした。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・運動学実習.
- ・機能解剖学.
- ・理学療法評価学Ⅰ.
- ・理学療法評価学Ⅲ.
- ・理学療法評価学演習.
- ・理学療法応用評価学.
- ・物理療法学.
- ・物理療法学演習.
- ・神経系障害理学療法学演習.
- ・老年期理学療法学.
- ・生体機能計測学.
- ・人体の機能実習.
- ・臨床体験実習.
- ・臨床実習Ⅱ.
- ・臨床実習Ⅲ.
- ・臨床実習Ⅳ.

##### 2) 他大学, 大学院等の非常勤講師 (科目名, 大学名)

- ・リハビリテーション概論 (法政大学).

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者: 題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・Megumi Okawada, Fuminari Kaneko, Keiichiro Shindo, Masaki Yoneta, Katsuya Sakai, Kohei Okuyama, Kazuto Akaboshi, Meigen Liu: Kinesthetic illusion induced by visual stimulation influences sensorimotor event-related desynchronization in stroke patients with severe upper-limb paralysis: A pilot study. *Restorative Neurology and Neuroscience*, 38(6), 455 - 465 2020.
- ・Katsuya Sakai, Keisuke Goto, Rui Watanabe, Junpei Tanabe, Kazu Amimoto, Ken Kumai, Keiichiro Shibata, Kenji Morikawa, Yumi Ikeda: Immediate effects of visual-motor illusion on resting-state functional connectivity. *Brain and Cognition*, 146(105632), 2020.
- ・Katsuya Sakai, Tsubasa Kawasaki, Yumi Ikeda, Keita Tominaga, Kohei Kurihara: Relationship between motor estimation error and physical function in patients with Parkinson's disease. *Medicines*, 7(43), 2020.

- ・Katsuya Sakai, Yumi Ikeda, Kazu Amimoto, Keisuke Goto, Kenji Morikawa, Ken Kumai: Brain regions activated during visual motor illusion of the ankle joint movement. The Journal of Asian Rehabilitation Science, 3(2), 17 - 22, 2020.
- ・酒井克也, 池田由美, 栗田康平, 熊井健: 要介護認定者の2ステップテストを用いた認識誤差と生活空間との関連. 理学療法の科学と研究, 12(1), 9-13, 2020.
- ・池田由美, 酒井克也: VR技術のリハビリテーションへの応用. 脳神経内科, 93(1), 1-5, 2020.

### 3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・Junpei Tanabe, Kazu Amimoto, Katsuya Sakai, Shinpei Osaki, Tetsuya Nagahata, Yusuke Hashimoto, Shioko Hayashi, Nao Yoshihiro: The immediate effect of Kinesthetic illusion induced by visual stimulation(KiNVis)with “power image” on ankle dorsiflexion disorders in stroke hemiplegic patients. 第18回日本神経理学療法学会学術集会 2020年11月27日, 京都.
- ・Junpei Tanabe, Kazu Amimoto, Katsuya Sakai, Tetsuya Nagahata, Yusuke Hashimoto, Masaki Takeshima, Tokuei Kataoka: Effects of kinesthetic illusion induced by visual stimulation on the ankle joint for sit-to-stand in a hemiplegic stroke patient: AB single-case design. The International Society of Electrophysiology and Kinesiology XXIII 2020 2020年7月14日, Japan.
- ・Katsuya Sakai, Yumi Ikeda, Keisuke Goto, Junpei Tanabe, Kazu Amimoto, Ken Kumai: Effect of visual-motor illusion on functional brain connectivity during motor imagery. The International Society of Electrophysiology and Kinesiology XXIII 2020 2020年7月14日, Japan.
- ・酒井克也, 池田由美, 後藤圭介, 田邊淳平, 熊井健, 柴田恵一郎, 森川健史: 視覚性運動錯覚が運動イメージ中の脳機能結合に与える影響. 第25-26回合同千葉県理学療法士学会, 2021年3月7日, 千葉.
- ・酒井克也, 川崎翼, 池田由美, 富永啓太, 栗原康平: パーキンソン病患者の認識誤差と身体機能との関連. 第18回日本神経理学療法学会学術集会, 2020年11月27日, 京都.
- ・酒井克也, 池田由美, 栗原康平, 君成田弘八: 2ステップテストの見積もり誤差が身体機能, 生活空間に及ぼす影響 -多施設共同研究-. 第7回日本予防理学療法学会学術大会, 2020年9月27日, 群馬.
- ・酒井克也, 川崎翼, 池田由美, 君成田弘八, 長谷川彰子: パーキンソン病患者の2ステップ距離は身体機能や生活空間と関連する. 第57回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2020年8月21日, 京都.

### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・学内共同研究 (若手), 視覚性運動錯覚は運動実行時の脳機能結合と類似するか. 研究代表者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 5 学会, 学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本理学療法士協会. 理学療法科学学会. 日本ニューロリハビリテーション学会. 日本保健科学学会. 臨床神経生理学学会.

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会 (委員会名/活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・教務委員会. 自己点検・評価実施推進部会. 危機管理委員会. 図書委員会. 社会貢献委員会. 体験ゼミナール作業部会. 千葉県の健康づくり作業部会.

### 2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・リハビリテーション学科会議. 理学療法学専攻会議.

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

今年度の目標は着任初年度のため、特に助教業務と所属した委員会の活動内容を知り、業務を滞りなく遂行することであった。助教業務と委員会業務は、新型コロナウイルスの影響で通常の形態を知らなかったが、臨機応変に対応しながら進めることができた。成果としては、多くの研究論文を出版することができた。

## VII 次年度の目標

次年度の目標は、助教業務を独立して遂行することと、新型コロナウイルスの感染状況に留意しながら、対面での授業を円滑に進めることである。さらに、論文投稿を継続して行うことである。





リハビリテーション学科  
作業療法学専攻



## 教授 兼 作業療法学専攻長 岡村 太郎 博士 (医学)

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和2年度は、特に感染対策を基底にし、学生の教育や指導を行い、臨床実習で問題のあった学生の指導を行う。国家試験対策は成績が芳しくない対象について援助を行い、国家試験の合格と全員就職を目標とした。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・体験ゼミナール.
- ・作業療法概論.
- ・作業療法基礎理論. 分担
- ・基礎作業学実習. 分担
- ・精神作業療法評価学.
- ・精神作業療法評価学実習.
- ・精神作業療法学.
- ・精神作業療法学演習.
- ・地域社会参加支援学.
- ・作業療法管理学.
- ・作業療法研究法.
- ・作業療法ゼミナール A①, A②.
- ・作業療法セミナー.
- ・臨床体験実習.
- ・評価実習 I・II.
- ・総合実習 I・II.
- ・地域作業療法学実習.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線)

- ・プロボノ人材の作業療法士による介護予防教室の実践—当大学の取り組み—, 千葉県立保健医療大学紀要, 第四巻1号. 成田悠哉, 岡村太郎, 島田美恵子, 神保安奈, 牛澤一樹, 河原春奈, 西山貴裕, 坂田祥子
- ・千葉県の高齢者のための健康づくりプログラム(ほい大健康プログラム)に関する評価. 千葉県立保健医療大学紀要, 第四巻1号. 細山田康恵, 東本恭幸, 河野公子, 海老原泰代, 阿曾菜美, 岡田亜紀子, 峰村貴央, 上野佳代, 鈴木恵子, 島田美恵子, 麻賀多美代, 麻生智子, 鈴鹿祐, 雄賀多聡, 竹内弥彦, 江戸優裕, 岡村太郎, 渡邊智子 (学内査読付き)

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・回復期リハビリテーション病棟における Routine Task Inventory-Expanded と他の評価項目との関係—日本での使用可能性—, 第54回日本作業療法学会, 2020年9月25日～10月25日, 新潟, 渡辺陵介, 伊賀博紀, 岡村太郎
- ・集合住宅在住の高齢者に対する作業療法士が行う介護予防教室の取り組み, 第54回日本作業療法学会, 2020年9月25日～10月25日, 新潟, 河原春菜, 岡村太郎, 牛澤一樹, 坂田祥子, 辻川将弘

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 3 審議会、委員会、国家試験委員等の実績（活動団体名称、委員名称、活動期間）

- ・公益財団法人大学基準協会、大学評価委員会大学評価第35分科会委員、2020年4月から2021年3月31日

### 5 学会、学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本作業療法士協会、千葉県作業療法士会、日本公衆衛生学会、

#### 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・一般社団法人千葉作業療法士会:学術部査読委員、令和2年度
- ・一般社団法人千葉作業療法士会学会委員会、演題査読委員、令和2年度

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・大学運営会議、共通教育運営会議、入試改革検討委員会、自己点検・評価委員会(委員長)、認証評価部会、自己点検・評価実施推進部会、IR委員会(部会長)、人事委員会、教員資格審査委員会、教員再任資格審査委員会、教授会、将来構想検討委員会。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科会議、作業療法学専攻会議、作業療法学専攻長。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

卒業生は、全員就職できたが、国家試験に関して1名不合格となった。新入生は、新型コロナウイルスの流行のため、授業開始が遅延し、遠隔授業を強いられたが、順調に座学の知識は順調に獲得したようである。一方、実習・演習を伴う授業により獲得されるコミュニケーション力や臨床への準備ができていない。今後、臨床・演習・実習を通じた臨床力に関連するトレーニングが改善されるべき事項である。

## VII 次年度の目標

目標として、積極的に感染予防を考慮しつつ、面接授業による学生のコミュニケーションや対人関係の力の向上を目指したい。また、外部への研修・ボランティアなどの参加を、可能な限り実施を目標としたい。国家資格の全員取得をめざしたい。

## 教授 山本 達也 博士 (医学)

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和2年度は、特に基本的な学内業務（教育、管理運営）に加えCOVID-19に対する専攻内の感染対策を医師としての立場から推進することを目的とした。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・人体の構造 1.
- ・人体の構造実習.
- ・内科学総論.
- ・内科学各論.
- ・神経内科学総論.
- ・神経内科学各論.
- ・老年科学.
- ・臨床医学概論.
- ・臨床薬理学.
- ・画像診断学.

##### 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）

- ・脳神経内科学（千葉大学大学院）.
- ・疾病治療論Ⅲ（葵会柏看護専門学校）.

### III 研究記録

#### 1 著書（著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所）

- ・山本達也（分担執筆）：認知症の排泄ケアベッドサイドマニュアル（p124-127執筆），2020年8月，中外医学社

#### 2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

英文

- ・Yamamoto T, Sakakibara R, Uchiyama T, Kuwabara S. Subthalamic Stimulation Inhibits Bladder Contraction by Modulating the Local Field Potential and Catecholamine Level of the Medial Prefrontal Cortex. *Front Neurosci.* 2020 Sep 3;14:917. doi: 10.3389/fnins.2020.00917. PMID: 33013304; PMCID: PMC7509452.
- ・Liu W, Yamamoto T, Yamanaka Y, Asahina M, Uchiyama T, Hirano S, Shimizu K, Higuchi Y, Kuwabara S. Neuropsychiatric symptoms in Parkinson's disease after subthalamic nucleus deep brain stimulation. *Front Neurol.* in press doi: 10.3389/fneur.2021.656041.
- ・Sakakibara R, Ogata T, Aiba Y, Tateno F, Uchiyama T, Yamamoto T. Does Depression Contribute to the Bladder and Bowel Complaint in Parkinson's Disease Patients? *Mov Disord Clin Pract.* 2020 Dec 27;8(2):240-244. doi: 10.1002/mdc3.13124. PMID: 33553494; PMCID: PMC7853193.
- ・Yakufujiang M, Higuchi Y, Aoyagi K, Yamamoto T, Sakurai T, Abe M, Okahara Y, Izumi M, Nagano O, Yamanaka Y, Hirano S, Shiina A, Murata A, Iwadata Y. Predicting Neurocognitive Change after Bilateral Deep Brain Stimulation of

Subthalamic Nucleus for Parkinson's Disease. World Neurosurg. 2021 Mar;147:e428-e436. doi: 10.1016/j.wneu.2020.12.081. Epub 2021 Jan 5. PMID: 33359524.

- Sakakibara R, Shimizu A, Takahashi O, Aiba Y, Tateno F, Sugisaki Y, Suzuki H, Yamamoto T, Uchiyama T, Yamanishi T. Lower urinary tract function in frontotemporal lobar degeneration: A preliminary observation. Auton Neurosci. 2020 Dec;229:102719. doi: 10.1016/j.autneu.2020.102719. Epub 2020 Aug 26. PMID: 32871389.
- Kakinuma S, Beppu M, Sawai S, Nakayama A, Hirano S, Yamanaka Y, Yamamoto T, Masafumi C, Aisihær X, Aersilan A, Gao Y, Sato K, Sakae I, Ishige T, Nishimura M, Matsushita K, Satoh M, Nomura F, Kuwabara S, Tanaka T. Monoamine oxidase B rs1799836 G allele polymorphism is a risk factor for early development of levodopa-induced dyskinesia in Parkinson's disease. eNeurologicalSci. 2020 Apr 6;19:100239. doi: 10.1016/j.ensci.2020.100239. PMID: 32346620; PMCID: PMC7183157.
- Sugiyama A, Yokota H, Yamanaka Y, Mukai H, Yamamoto T, Hirano S, Koide K, Ito S, Kuwabara S. Vertical pons hyperintensity and hot cross bun sign in cerebellar-type multiple system atrophy and spinocerebellar ataxia type 3. BMC Neurol. 2020 Apr 27;20(1):157. doi: 10.1186/s12883-020-01738-9. PMID: 32340608; PMCID: PMC7184719.
- Tsuchiya A, Terayama K, Sakakibara R, Panicker J, Tateno F, Aiba Y, Haruta H, Akiba T, Ogawa A, Shimizu A, Takahashi O, Yamamoto T, Uchiyama T, Suzuki H, Yano M. Urodynamic and gait analyses in multiple system atrophy. J Neurol Sci. 2020 Apr 15;411:116676. doi: 10.1016/j.jns.2020.116676. Epub 2020 Jan 14. PMID: 32001376.

#### 和文

- 山本達也, 桑原聡 検査からみる神経疾患 超音波による残尿(排尿障害)測定 Clinical Neuroscience (0289-0585)38 巻12号 Page1612-1613(2020.12)
- 山本達也, 【神経因性膀胱】中枢神経障害(脳)による神経因性膀胱 脳神経内科 (2434-3285)93 巻4号 Page497-501(2020.10)
- 山本達也, 多系統萎縮症では運動障害と下部尿路機能障害は相関しない 自律神経 (0288-9250)57 巻3号 Page181-183(2020.09)
- 山本達也, 杉山淳比古 パーキンソン病における難治性排尿障害に対する新規脳深部刺激療法の開発 千葉県立保健医療大学紀要 第12巻 第1号 95p

### 3 発表(発表者:発表タイトル, 主催学会(学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- Yamamoto T, Liu W, Yamanaka Y, Asahina M, Uchiyama T, Hirano S, Shimizu K, Higuchi Y, Kuwabara S. Preoperative impulsivity leads to better QOL after deep brain stimulation in Parkinson's disease 第61回日本神経学会総会 2020.8.31-9.2 岡山 (web参加)
- Yamamoto T, Sakakibara R, Uchiyama T, Kuwabara S. Subthalamic nucleus deep brain stimulation modulate urinary afferent signals by changing the activity of medial prefrontal cortex in Parkinson's disease model rat. 50th International Continence Society. 2020.11.19-22 web開催
- Yamamoto T, Liu W, Yamanaka Y, Asahina M, Uchiyama T, Hirano S, Shimizu K, Higuchi Y, Kuwabara S. Preoperative impulsivity leads to better QOL after deep brain stimulation in Parkinson's disease International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders 2020 (MDS 2020) 2020.9.12-16 web開催
- 山本達也, 櫻井透, 樋口佳則, 平野成樹, 山中義崇, 内山智之, 桑原聡 第14回パーキンソン病・運動障害疾患コングレスプログラム 2021.02 web参加
- 山本達也, 山中義崇, 平野成樹, 内山智之, 樋口佳則, 桑原聡 第27回日本排尿機能学会 2020.10.15-17 品川



- 4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名，テーマ，開催日，場所等）
- ・山本達也 パーキンソン病における脳深部刺激療法の役割 第14回日本作業療法研究学会・学術大会 2020.11.14-15 web開催
  - ・山本達也 Autonomic Nervous System: 自律神経障害のみで発症する神経難病～各科連携による in situ 診断 膀胱障害(排尿障害初発型のMSA) 第73回日本自律神経学会総会 2020.11.20-21 千葉
- 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）
- ・学内共同研究費，パーキンソン病における神経活動と $\alpha$ シヌクレインの関係，研究代表者
  - ・科学研究費補助金 基盤研究（C）経頭蓋電気刺激による脳神経疾患での姿勢制御異常に対する新規治療開発 研究分担者

#### IV 社会貢献・国際交流記録

- 3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）
- ・第46回日本神経学会神経内科専門医試験 試験問題作成

#### 5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
- ・日本内科学会，日本神経学会，日本自律神経学会，日本排尿機能学会，日本パーキンソン病・運動障害疾患学会
  - ・Movement Disorder Society，International Continence Society
- 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）
- ・日本神経学会 代議員 2019年4月1日～現在に至る
  - ・日本排尿機能学会 代議員 2018年5月1日～現在に至る
  - ・日本自律神経学会 評議員 2017年4月1日～現在に至る

#### V 管理・運営記録

- 1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）
- ・教務委員会，学術推進委員会，国際交流委員会，紀要編集部会。
- 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）
- ・作業療法学専攻会議（毎週火曜日）

#### VI 評価（成果および改善すべき事項）

- ・目標としていた本学における教育，管理運営を円滑に行うことについては概ね達成されたと考えられる。
- ・作業療法専攻内のCOVID-19対策について，実習参加学生に対するCOVID-19に関する講義，学外実習手引き（感染対策）作成に貢献できたと考えられる。
- ・研究活動についても論文発表・学会発表など概ね達成されたと考えられる。
- ・本専攻教員との共同研究を今後進めていく必要があると思われる。

#### VII 次年度の目標

新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い，学生教育に大きな影響がでているため，可能な限り教育の質を保つとともに作業療法専攻長として適切な管理・運営に努める。

## 准教授 安部 能成 博士 (保健学)

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和2年度は、特に新型コロナ感染に端を発する諸問題を踏まえ、講義科目を遠隔配信するとともに実技実習科目では更なる工夫を要した。講義科目においてはライブ配信することにより出欠の問題を回避し、最終評価においては対面による筆記試験を導入し、最小限度のコミュニケーションを確保した。実技実習科目においては、感染症対策から導入して、将来的に学生が臨床場面で遭遇する問題について、学内でも取り上げておくこととした。しかしながら、元より時間を要していた実技試験については極めて不十分なものに留まざるを得ず、さらなる検討を要する課題となった。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・作業療法評価学概論.
- ・身体作業療法評価学.
- ・身体作業療法評価学実習.
- ・作業療法ゼミナールB.
- ・作業運動学実習.
- ・作業療法治療学Ⅱ演習.
- ・社会的適応支援学演習.
- ・見学実習.
- ・評価実習.
- ・総合実習.
- ・卒業研究

##### 2) 他大学, 大学院等の非常勤講師 (科目名, 大学名)

- ・聖学院大学大学院人間福祉学研究科 (スピリチュアルケア論).

### III 研究記録

#### 1 著書 (著者本人下線: 著書, 発行年, 発行所, 発行場所)

- ・安部能成, 認知機能の評価 (pp. 192-207), 図解 作業療法技術ガイド 第4版, 2020年2月5日, 文光堂, 東京.

#### 2 学術論文・その他 (著者: 題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・Kazunari Abe, Palliative care as public health and human rights - not only cancer but also other field of health, FOLIA PALLIATRICA, 2020.

#### 3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・安部能成, 骨転移に関する治療戦略の変遷, 緩和・支持・心のケア合同学術大会, 2020年8月8日, 国立京都国際会館.
- ・安部能成, がん緩和ケアの邂逅, 第58回日本癌治療学会, 2020年10月24日, 国立京都国際会館.
- ・安部能成, 骨転移神話, 第17回JKTがんリハビリテーション・フォーラム, 2021年3月8日, 順天堂大学医学部附属病院.

- 4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名，テーマ，開催日，場所等）
- ・第58回日本癌治療学会，第18回CRC教育セミナー司会，2020年10月24日，国立京都国際会館。
  - ・第23回在宅ホスピス協会全国大会 in 宇都宮，教育講演座長，2020年12月5日，栃木県総合文化センター。

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

- 1) 千葉県内
  - ・千葉大学医学部附属病院地域医療連携部在宅医療インテンシブコース講師
- 2) 千葉県外
  - ・高知大学医学部がんプロフェッショナルコース講師

### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・白河厚生総合病院骨メタカンファレンス・アドバイザー

### 4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・千葉県作業療法士会機関紙「作業療法」査読委員
- ・千葉県作業療法士会アドバイザー

### 5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - ・日本癌学会，日本癌治療学会，日本がんサポーターティブケア学会，日本緩和医療学会，日本臨床死生学会，日本サイコロジ学会，日本在宅医療連合学会，日本死の臨床研究会，日本ホスピス・在宅ケア研究会，大学病院の緩和ケアを考える会，日本在宅ホスピス協会，多施設緩和ケア研究会，ロコモケア研究会，EAPC (European Association of Palliative Care)。
- 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）
  - ・日本癌治療学会（理事，代議員）
  - ・日本緩和医療学会（機関紙編集委員）
  - ・日本がんサポーターティブケア学会（骨転移と骨の健康部会/副部会長，評議員）
  - ・日本在宅医療連合学会（評議員）
  - ・多施設緩和ケア研究会（世話人）
  - ・日本在宅ホスピス協会（世話人）
  - ・大学病院の緩和ケアを考える会（世話人）

### 7 その他

Reviewer of these journals below; British Medical Journal Supportive & Palliative Care, Disability and Rehabilitation, Palliative Care Research, Palliative Medicine, Scandinavian Occupational therapy.

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学生委員会，図書委員会

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

担当講義に対する貴重なフィードバックを踏まえ、講義科目や実習科目について改善の試みを継続する。教材の取捨選択により受講してくる学生の理解は改善したように感じられたが、網羅的な情報提供の減少により、とくに国家試験の模擬試験における学生の知識不足、臨床実習場面において、臨床実習指導者から臨床で必須とされる実技に対する技能不足を指摘されることがあったことから、この点についても一層の改善を検討していく。

## VII 次年度の目標

確かに、教育機関としての大学では知識の習得が基盤であり、その上に実技を身に着けて技能を習得するという学習のステップがある。しかしながら、国家試験の成績における知識不足の露呈、及び、臨床実習において臨床実習指導者の指摘を活用して、より一層の学習効率の向上が望まれる。しかしながら、コロナ禍により対面授業には大きな制約があり、オンラインでのアクセスが知識偏重となっていることが明らかになっているので、更なる工夫を設定することが目標となる。

## 准教授 藤田 佳男 博士（リハビリテーション科学）

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

カリキュラムの変更に伴う新規開設科目の準備を行う。既存の科目については、実践面を重視した内容に改善する。研究活動については、他分野に研究内容を広げ、成果のアウトプットに注力する。社会貢献活動については、県内での高齢者・障害者の運転について啓発を行う。また、専門職に対して教育活動を行う。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
  - ・千葉県健康づくり.
  - ・人体の機能実習.
  - ・作業運動学 I.
  - ・作業運動学実習.
  - ・高次神経機能作業療法学.
  - ・日常生活活動技術学.
  - ・日常生活活動学.
  - ・日常生活活動技術学演習 .
  - ・臨床体験実習.
  - ・体験ゼミナール.
  - ・評価実習 I・II.
  - ・総合実習 I・II.
  - ・作業療法ゼミナール①②.
  - ・地域作業療法学実習.
  - ・卒業研究.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・藤田 佳男, 三村将：リハビリテーションと運転再開 運転に関する作業療法士の取り組み, 精神科治療学 35 巻 5 号, 511-516, 2020.
- ・藤田 佳男：自動車運転支援と多職種連携, リハビリテーション連携科学 21 巻 1 号, 2-10, 2020.
- ・藤田 佳男：高齢者および障害者に対する交通安全教育について, 交通安全教育, 2020 年 12 月号, No656, 6-17, 2020
- ・Sawada T, Tomori K, Sakaue K, Higashikawa Y, Ohno K, Okita Y, Seike Y, Fujita Y, Umeda M. : Evaluating the Content Validity of a New On-Road Driving Test. Physical & Occupational Therapy In Geriatrics. , Published online: 03 Feb 2021, <https://doi.org/10.1080/02703181.2021.1873476>.

#### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・文部科学省科学研究費助成事業（若手研究），高齢者の運転適性を評価および訓練する方法の開発，研究代表者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 3 審議会, 委員会, 国家試験委員などの実績(活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会, 令和2年度 厚生労働省老人健康保増進等事業「ハンドル形電動車椅子の安全利用に係る調査研究事業」検討委員会委員および作業部会部会長, 2020年8月から2021年3月まで
- ・全日本指定自動車教習所協会連合会, 「高齢運転者支援士」試験作問委員, 2020年4月から2021年3月まで
- ・東京都医師会, 高齢社会における運転技能および運転環境検討委員会委員, 2019年8月から2021年5月まで

### 4 職能団体委員等(職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・日本作業療法士協会制度対策部「運転と作業療法特設委員会」, 委員長, 2018年度~2021年度

### 5 学会, 学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本作業療法士協会. 日本老年医学会. 日本老年精神医学会. 認知神経科学会. 日本高次脳機能障害学会自動車技術会. 日本公衆衛生学会. 日本リハビリテーション工学協会. 運転と認知機能研究会運転と作業療法研究会. 日本安全運転・医療研究会. 日本交通心理学会. 日本認知心理学会. 日本交通科学学会.

#### 2) 学会, 学術団体への貢献(学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・運転と認知機能研究会 事務局長, 2008年~
- ・運転と作業療法研究会 代表 2014年~
- ・日本安全運転・医療研究会 幹事, 2016年~
- ・日本作業療法士協会 学会演題査読委員 2014年~

### 6 講演会(公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等(会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日時, 場所)

- ・障害者教習指導員研修, 全日本指定教習所協会連合会, 高次脳機能障害者の特性と指導法, 教習指導員, 2020年10月9日, 東京都.
- ・高齢運転者支援士研修, 全日本指定教習所協会連合会, 高次脳機能障害者の特性と指導法, 教習指導員, 2020年11月5日, 東京都.
- ・筑波大みんなラボカフェ, 「自動車運転リハビリをご存じですか?高齢者と運転について一緒に考えましょう」, 一般高齢者, 2020年11月20日, 茨城県.
- ・日本老年学会あり方委員会, 「運転作業療法」, 日本老年学会あり方委員, 2021年2月24日, 東京都(Web開催).
- ・近畿作業療法連絡協議会, 「運転と地域での移動に関する最近のトピックス」, 近畿地方作業療法士会員, 2021年2月28日, 大阪府(Web開催).
- ・南多摩高次脳機能障害支援センター, 東京都高次脳機能障害支援事業「専門的リハビリテーションの充実」事業.
- ・令和2年度 専門職向け研修「セラピストによる脳損傷者の運転再開支援」, 保健医療専門職, 2021年3月15日, 東京都(Web開催).

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・特色科目運営会, 入試改革検討委員会. 入試実施委員会, 研究等倫理審査委員会

### 2 学科/専攻内委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・リハビリテーション学科会議, 作業療法学専攻会議, 実習ワーキンググループ, 学内実習ワーキンググループ

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

今年度はCOVID-19の影響により、授業や実習関連の対策に多くの労力を費やした。まず、学外実習の代替とした学内での演習や実習課題の検討を行うために学内実習ワーキンググループを編成した。ワーキンググループではリーダーとして学生が学ぶべき内容の分析を行ったうえで、各教員と協力してコンテンツの作成や外部講師への依頼を行った。次にこのような環境下でも、学生および協力施設の安全性を確保した上で学外実習が行えるよう準備を行った。まず、各教員とこの環境下での実習を行う意味や目的について再確認を行った上で、専攻の実習に関する基本的な考え方である「臨床実習ポリシー」を作成した。次にそれに基づいて学生への指導や施設への説明文書等の準備を行った。さらに短期間でも学生に臨床経験をさせるために、複数の施設にヒアリングを行った上で実習形態について検討を重ね、3週間の学外実習（短期特別実習）を設定し施設への依頼を行った。その結果、短期特別実習、評価実習、地域作業療法学実習は、すべての学生が大過なく体験することが出来た。

しかし研究については、実験対象者が高齢者であるため、この環境下での実施は困難であった。また、教育関連業務にほとんどの時間を費やした結果、論文執筆などにも時間をとれなかったことが反省点である。この対策として次年度以降、実施可能な実験計画を立てることや、業務の効率化を一層図ることにより研究に時間を費やせるようにすることが課題である。

## VII 次年度の目標

教育活動に関して学外実習や学内演習での感染対策等については、一定の蓄積が出来たことからこれを継続し、安全な教育の実施に努める。また、理学療法士作業療法士養成施設指導ガイドラインの改訂に合わせた授業や実習等の改変準備を行う。新規開設科目の準備を継続して行う。既存の科目については再度検討を行い、より効果的な内容への変換を図る。

研究活動については、学外研究費の獲得を第一目標とし、引き続き実験の実施および成果のアウトプットに注力する。社会貢献活動については、今年度は十分に実施できなかった高齢者・障害者の運転や地域移動について啓発を行う。また、専門職に対して教育活動を行う。



## 准教授 有川 真弓 博士 (保健科学)

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

2020年度は、共同研究の結果を全国学会で発表したい。また、社会貢献活動にも力を注いでいきたい。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・作業分析学.
- ・人間発達学.
- ・作業療法基礎理論.
- ・基礎作業学・演習.
- ・基礎作業学実習.
- ・作業療法ゼミナール.
- ・作業療法評価学総論.
- ・発達期作業療法学.
- ・作業療法学IV演習.
- ・日常生活活動技術学演習.
- ・社会的適応支援学演習.
- ・作業療法セミナー.
- ・臨床体験実習.
- ・評価実習Ⅰ.
- ・評価実習Ⅱ.
- ・総合実習Ⅰ.
- ・総合実習Ⅱ.
- ・地域作業療法学実習.
- ・卒業研究.
- ・専門職間の連携活動論.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線)

- ・松尾 真輔, 有川 真弓：障害者モデル導入による学内検査測定実習前後の学生の気分状態と臨床実習適応能力の自己評価の変化について, 千葉県立保健医療大学紀要, 11-1, 45-49, 2020.
- ・有川真弓, 松尾真輔：作業療法士が行う地域資源評価チェックリストの作成に向けたパイロットスタディ, 千葉県立保健医療大学紀要, 12-1, 108, 2020

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・島崎貴子, 西宮由貴, 高木佳菜子, 有川真弓：小児がん患者に対する作業療法介入の影響について, 第54回日本作業療学会, 2020.9.25-10.2, WEB開催.
- ・有川真弓, 松尾真輔：地域資源チェックリスト作成に向けたパイロットスタディー-就労支援関連を中心に-, 第54回日本作業療学会, 2020.9.25-10.2, WEB開催.

- 4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名，テーマ，開催日，場所等）
- ・日本発達系作業療法学会第9回学術大会，理事シンポジウムⅠ座長，2021.3.6，WEB開催。
  - ・日本発達系作業療法学会第9回学術大会，理事シンポジウムⅡ座長，2021.3.6，WEB開催。
  - ・日本発達系作業療法学会第9回学術大会，シークレット企画「発達OTどこへいく？私が考える発達系の作業療法」シンポジウム，2021.3.6，WEB開催。

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・大田区小学校 特別支援学級医療専門相談，2020年6月～2021年3月。
- ・足立区発達障害児支援事業 専門研修等講師，2020年6月1日～2021年3月31日。
- ・練馬区障害児保育巡回指導，2020年4月1日～2021年3月31日。

### 3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- ・市川市障害支援区分認定審査会審査委員，2020年4月1日～2021年3月31日。
- ・一般社団法人リハビリテーション教育評価機構評価員，2020年4月1日～2021年3月31日。

### 4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・日本作業療法士協会，制度対策部部員，2020年4月1日～2021年3月31日。
- ・日本作業療法士協会，学会演題査読委員，2020年4月1日～2021年3月31日。
- ・日本作業療法士協会，代議員，2020年4月1日～2021年3月31日。
- ・千葉県作業療法士会，事務局長，2020年4月1日～2021年3月31日。
- ・千葉県作業療法士会，代議員，2020年4月1日～2021年3月31日。
- ・千葉県作業療法士会，理事，2020年4月1日～2021年3月31日。
- ・千葉県作業療法士会，学術部発達障害委員会委員，2020年4月1日～2021年3月31日。
- ・千葉県作業療法士会，学術部査読委員，2020年4月1日～2021年3月31日。
- ・千葉県作業療法士会，WEB研修班委員，2020年4月1日～2021年3月31日。
- ・千葉県作業療法士会，臨床実習指導者講習会特設委員会委員，2020年4月1日～2021年3月31日。

### 5 学会，学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本作業療法士協会，千葉県作業療法士会，日本感覚統合学会，日本作業行動学会，日本LD学会，日本発達系作業療法学会，日本リハビリテーション連携科学学会，日本発達障害学会，日本特殊教育学会。

#### 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本感覚統合学会，効果研究委員，2020年4月1日～2021年3月31日。
- ・日本発達系作業療法学会，理事，2020年4月1日～2021年3月31日。
- ・JDDネットワーク多職種連携委員会，副委員長，2010年4月1日～2021年3月31日。

### 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- ・練馬区立旭町保育園園内研修（講師），練馬区立旭町保育園，子どもの発達に合わせた体幹作り-姿勢の保持と上肢操作の発達のために-，練馬区に勤務する職員，2020年9月1日，練馬区立旭町保育園。
- ・練馬区立栄町保育園園内研修（講師），練馬区立栄町保育園，子どもの発達に合わせた体幹作り-姿勢の保持と上肢操作の発達のために-，練馬区に勤務する職員，2020年11月17日，練馬区立栄町保育園。
- ・習志野市立大久保第二保育所所内研修（講師），習志野市立大久保第二保育所，感覚統合理論について，習志野市立大久保第二保育所職員，2020年11月20日，習志野市立大久保第二保育所。

- ・学校を理解して支援ができる作業療法士の育成研修会実践編（講師）. 千葉県作業療法士会, 講義「アセスメント演習（人的環境・児童生徒）」, 講義「起こりそうなこと・まとめ」, 作業療法士. 2020年12月5-6日. 千葉県立保健医療大学幕張キャンパス.

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教務委員会, 危機管理委員会, キャンパス・ハラスメント防止対策委員会相談員

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科会議, 作業療法学専攻会議, 学内実習ワーキンググループ, 臨床実習ワーキンググループ

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

共同研究の結果を全国学会で発表した。新型コロナウイルス感染症の影響により、対面でのディスカッションが必要な研究活動等が進まなかった。職能団体の委員会活動はオンラインでの会議を中心に例年よりも活発に活動できた。年度の後半からは、社会貢献活動にも取り組むことができた。

## VII 次年度の目標

2021年度は、コロナ禍での遠隔教育指導が続くと思われるが、制限のある中でなるべく教育効果を高めていきたい。また、可能な範囲で社会貢献活動にも力を注いでいきたい。

## 講師 吉野 智佳子 博士 (学術)

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

臨床実習担当の変更に伴い、評価実習と総合実習の2科目分での実習施設確保のための交渉を行い、次期担当者への引き継ぎを行いながら臨床実習の準備を行っていく。就職相談は必要があれば相談に応じ、県内就職者数を確保していきたい。昨年度実施した学内共同研究について、学会発表や学術論文の投稿を進めたい。4年の担任となるため、就活支援や国家試験対策をしっかり進めたい。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・体表解剖学.
- ・体験ゼミナール.
- ・作業運動学Ⅱ.
- ・作業運動学演習.
- ・作業運動学実習.
- ・身体作業療法学Ⅰ.
- ・身体作業療法学Ⅱ.
- ・作業療法学Ⅰ演習 (神経・心肺機能系).
- ・日常生活活動援助学.
- ・日常生活活動援助学演習.
- ・作業療法セミナー.
- ・専門職間の連携活動論.
- ・臨床体験実習.
- ・評価実習Ⅰ, Ⅱ.
- ・総合実習Ⅰ, Ⅱ.
- ・地域作業療法学実習.
- ・卒業研究.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線)

- ・吉野智佳子, 森田良文: 視覚遮断環境下での手の把握 (ピンチ) 力調整能力と各指の役割分担の検討, 千葉県立保健医療大学紀要. 第12巻第1号, 107p, 2021年3月.

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・吉野智佳子, 森田良文: 視覚遮断環境下での手の把握 (ピンチ) 力調整能力と各指の役割分担の検討, 第11回学内共同研究発表会, 2021年9月7日～11日, web開催.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

#### 1) 千葉県内

- ・車いす講習会，2020年10月～11月オンライン開催，千葉大学公認学生ボランティアサークル チャレンジド・サポートみのり。

### 4 職能団体委員等（職能団体名称、委員名称、活動期間）

- ・日本作業療法士協会，教育部 部員（養成教育委員会），2009年～現在。
- ・千葉県作業療法士会，教育部 部員，2019年～現在。

### 5 学会、学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本作業療法士協会，千葉県作業療法士会，日本義肢装具学会，脳機能とリハビリテーション研究会，日本作業療法研究学会，日本生理人類学会，日本人間工学会，日本臨床神経生理学学会，日本シーティング・コンサルタント協会，日本呼吸ケア・リハビリテーション学会，日本心臓リハビリテーション学会，日本リハビリテーション医学会，日本ハンドセラピイ学会。

#### 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本作業療法士協会，事例報告登録制度審査委員，2010年9月～現在に至る。
- ・日本作業療法士協会，学会演題審査委員，2018年1月～現在に至る。
- ・日本作業療法士協会，認定作業療法士（2018年5月～2028年4月）。
- ・千葉県作業療法士会，学術誌査読委員，2013年4月～現在に至る。
- ・日本作業療法研究学会，理事，2007年11月～現在に至る。
- ・日本作業療法研究学会，第14回日本作業療法研究学会学術集会大会長（web開催），2020年11月14-15日。
- ・日本義肢装具学会，正会員，用語委員，2014年10月～2020年10月。
- ・日本呼吸ケア・リハビリテーション学会，初級呼吸ケア指導士（2018年4月～2024年3月）。

### 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催 団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・千葉県作業療法士会 現職者研修会2「実践のための作業療法研究」web開催 講師 2021年2月21日，キー局：植草学園大学。
- ・日本作業療法士協会主催 千葉県作業療法士会運営 臨床実習指導者講習会 web開催 講師・ファシリテーター，2020年12月26-27日，キー局：八千代リハビリテーション学院。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・入試実施委員会，広報委員会，学術推進企画委員会，紀要編集部会，進路支援委員会，専門職間の連携活動論作業部会，自己点検・評価実施推進部会。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科会議，作業療法学専攻会議。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

コロナ禍のため、臨床実習受け入れのお断りが多くなり、その後の実習形態の変更を余儀なくされた。最終学年の担任として、就職活動のサポートを心がけたが、対面での見学会が中止となり、オンライン開催の比重が増え、学生が現場のイメージを持つことに難渋しているように思われた。国家試験対策ではコロナ禍の中、感染者を出すことなく国家試験に送り出すことができた。研究活動は臨床実習業務が過多となり、ほぼできず、学会発表のエントリーを1件行うことが精一杯であった。

## VII 次年度の目標

臨床実習担当の変更に伴い、次期担当者への引き継ぎをしっかりと行いながら臨床実習の準備を行っていく。新々カリキュラムが3年までの講義にてほぼ移行するため、授業内容について指定規則の漏れがないかなど他教員と確認していきたい。就職相談は必要があれば相談に応じ、県内就職者数を確保していきたい。学会発表や学术论文の投稿を進めたい。

## 講師 松尾 真輔 修士 (学術)

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

2020年度は、専門知識の取得と国家試験対策、臨床場面を意識した指導を行い、講義の中で学習内容のバランスを考え、学生が卒後の臨床に向けより良い理解につながるよう指導していき、教育効果の質の向上につなげる。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・体験ゼミナール.
- ・千葉県の健康づくり.
- ・専門職間の連携活動論.
- ・基礎作業学実習.
- ・人体の機能実習.
- ・作業運動学実習.
- ・作業療法基礎理論.
- ・作業療法評価学総論.
- ・身体作業療法評価学.
- ・身体作業療法評価学実習.
- ・日常生活活動援助学演習.
- ・老年期作業療法学.
- ・地域作業療法学概論.
- ・作業療法セミナー.
- ・作業療法ゼミナール.
- ・臨床体験実習.
- ・評価実習 I・II.
- ・総合実習 I・II.
- ・地域作業療法学実習.
- ・卒業研究.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線)

- ・ Is The Allen Cognitive Level Screen-5 (ACLS-5) suitable for clinical use in Japan? -Correlations between ACLS-5 and other measurement systems-: Taro Okamura, Anna Miyamoto, Yuya Narita, Sachiko Sakata, Shinsuke Matsuo, Daisuke Sato: The Bulletin of Chiba Prefectural University of Health Sciences, 11, 1, 3-10, 2020.



## IV 社会貢献・国際交流記録

### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）

- ・フェルマータ船橋、MTDLP 活用におけるリハスタッフへの技術指導、2019年9月～2020年12月

### 4 職能団体委員等（職能団体名称、委員名称、活動期間）

- ・千葉県作業療法士会、千葉中央ブロック代議員、2014年4月～現在に至る
- ・千葉県作業療法士会、千葉県生活行為向上マネジメント委員会、委員、2013年8月～現在に至る
- ・千葉県作業療法士会、千葉県作業療法誌、査読者、2014年4月～現在に至る
- ・千葉県作業療法士会、災害対策委員会、委員、2015年4月～現在に至る
- ・千葉県POS連盟、千葉POS災害対策委員会、委員、2016年1月～現在に至る
- ・千葉県作業療法士会、副会長、2018年6月～現在に至る
- ・千葉県作業療法士会、運転特設委員会・担当理事、2018年6月～現在に至る
- ・千葉県POS連盟、理事、2018年6月～現在に至る

### 5 学会、学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本作業療法士協会、千葉県作業療法士会、日本公衆衛生学会、千葉県POS連盟。

#### 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・千葉県POS連盟、理事会出席、2018年7月～現在に至る
- ・千葉県作業療法士会、理事会出席（毎月第1水曜日）
- ・千葉県作業療法士会、定時総会出席、2020年6月
- ・千葉県POS連盟、地域ケア会議研修会運営スタッフ、2021年2月
- ・千葉県作業療法士会、予算総会出席、2021年3月

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・キャンパス・ハラスメント防止委員会、紀要編集部会員、社会貢献委員会、総務企画委員会、危機管理委員会、IR部会、自己点検・評価委員会報告書作成等部会、教育研究年報編集部員、体験ゼミナール部会員。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科会議、作業療法学専攻会議、臨床実習指導者会議。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

2020年度は、COVID-19の影響により臨床実習科目を中心とした学生指導や臨床実習指導者会議などの専攻業務で状況に合わせた企画準備を要し、適宜修正しながらの業務運営となった。さらに委員会や部会員としても他学科と専攻との調整を密に行い、講義内容や講義方法の変更を余儀なくされた。しかしながら全体的に1年を通じて、大学専攻内での運営業務や学生指導で滞りなく取り組めた。また学外でも社会貢献として、COVID-19の影響を受けながらも、県士会活動などで積極的に実施できるよう連携を取りながら、組織運営に携わることができた。

## VII 次年度の目標

次年度もCOVID-19の影響が予測される中、自身が関わる業務について滞りなく従事し、学生指導等で円滑に行えるよう意識しながら取り組んでいきたい。

## 助教 成田 悠哉 修士（リハビリテーション）

対象期間：2020年5月1日～2021年3月31日まで

### I 年度当初の目標

2020年度は、着任初年度のため、教育及び学内運営に関する専門的知識や手順の習得に努め、効率的に業務を進めるよう取り組む。研究活動については、これまで地域貢献活動の成果を報告する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・体験ゼミナール.
- ・千葉県の健康づくり.
- ・専門職間の連携活動論.
- ・基礎作業学実習.
- ・身体作業療法評価学実習.
- ・社会的適応支援学.
- ・臨床体験実習.
- ・評価実習Ⅰ・Ⅱ.
- ・総合実習Ⅰ・Ⅱ.
- ・地域作業療法学実習.
- ・卒業研究.

### III 研究記録

#### 1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所）

- ・成田悠哉：閉じこもり予防・支援マニュアル，編集：荒井秀典・山田実，介護予防ガイド 実践・エビデンス編 平成 31 年度厚生労働科学研究費 長寿科学政策研究事業，国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター.

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・プロボノ人材の作業療法士による介護予防教室の実践—当大学の取り組み—，成田悠哉，河原春奈，神保安奈，牛澤一樹，西山貴裕，坂田祥子，島田美恵子，岡村太郎：千葉県立保健医療大学紀要，12，1，27-31，2021.
- ・Factors Associated With Post-Stroke Apathy in Subacute Stroke Patients: Daisuke Ito, Tomoya Tanaka, Yota Kunieda, Yosuke Kimura, Daisuke Ishiyama, Naohito Nishio, Yuhei Otobe, Shingo Koyama, Shunsuke Ohji, Mizue Suzuki, Takeo Ichikawa, Hideyuki Ogawa, Yuya Narita, Taiki Yoshida, Minoru Yamada, Kunitsugu Kondo: Psychogeriatrics, 20, 5, 780-781, 2020.
- ・Is The Allen Cognitive Level Screen-5 (ACLS-5) suitable for clinical use in japan? -Correlations between ACLS-5 and other measurement systems-: Taro Okamura, Anna Miyamoto, Yuya Narita, Sachiko Sakata, Shinsuke Matsuo, Daisuke Sato: The Bulletin of Chiba Prefectural University of Health Sciences, 11, 1, 3-10, 2020.
- ・Relationship between Sarcopenia and Swallowing Capacity in Community-Dwelling Older Women: Mizue Suzuki, Yosuke Kimura, Yuhei Otobe, Tomoe Kikuchi, Hiroaki Masuda, Ryota Taguchi, Shu Tanaka, Yuya Narita, Shuhei Shino, Haruhiko Kusumi, Minoru Yamada: Gerontology, 66, 6, 549-552, 2020.

- Reliability and Validity of a New Toileting Assessment Form for Patients With Hemiparetic Stroke: Shin Kitamura, Yohei Otaka, Yudai Murayama, Kazuki Ushizawa, Yuya Narita, Naho Nakatsukasa, Kunitsugu Kondo, Sachiko Sakata: PM&R, 13, 3, 289-296, 2021.
- Reliability and Validity of a New Transfer Assessment Form for Stroke Patients: Shin Kitamura, Yohei Otaka, Yudai Murayama, Kazuki Ushizawa, Yuya Narita, Naho Nakatsukasa, Kunitsugu Kondo, Sachiko Sakata: PM&R, 13, 3, 282-288, 2021.

#### IV 社会貢献・国際交流記録

##### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- 松戸保健所応援，2020年6月1日～8日，松戸保健所
- 習志野保健所応援，2020年1月22日，松戸保健所

##### 4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- 千葉県作業療法士会，災害対策委員会，委員，2015年4月～現在
- 千葉県作業療法士会，事務局Web研修班，班員，2020年7月～現在

##### 5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - 日本作業療法士協会，千葉県作業療法士会。
- 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）
  - 千葉県作業療法士会，学術誌編集委員会，委員，2020年4月～現在。

##### 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催，団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- 地域在住高齢者に対する介護予防教室の開催，2020年12月5日，UR都市機構さつきが丘団地

#### V 管理・運営記録

##### 1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- 紀要編集部会員，体験ゼミナール部会員，学内共同研究審査部会。

##### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- リハビリテーション学科会議，作業療法学専攻会議，臨床実習ワーキンググループ，学内実習ワーキンググループ，臨床実習指導者会議。

#### VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では，体験ゼミナールや臨床実習の運営に携わり，一連の進め方や手続きを学ぶことができた。また，身体作業療法学実習では，グループ担当として実技指導や臨床推論指導に関わり，学生教育に努めた。研究活動では，これまでのUR都市機構での地域コミュニティの促進活動について，成果を報告した。委員会業務は初年度であり十分に貢献できなかった点が課題である。社会貢献では，千葉県の職能団体の委員としてコロナ禍における運営に携わった。

#### VII 次年度の目標

教育活動では，臨床体験実習を主担当として円滑に運営を進める。研究活動では，新規研究課題の検討，研究資金の獲得を目指す。大学管理運営では，広報委員としてコロナ禍における大学広報に従事する。社会貢献では，UR都市機構における活動を継続し，外部専門職との関りも再開していく。

別表（看護学科 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
特色科目	体験ゼミナール	特色1	1前	1					○	必修3単位
	千葉県の健康づくり	特色2	2後	1				○		
	専門職間の連携活動論	特色3	4後	1				○		
	社会実習（ボランティア活動）	特色4	2・3・4			1			○	
一般教養科目	人間理解群	心理学	一般1	1・2・3・4前		2		○		選択 4単位 (※1)
		哲学	一般2	1・2・3・4前		2		○		
		文学	一般3	1・2・3・4前		2		○		
		歴史と文化	一般4	1・2・3・4前		2		○		
		生命倫理	一般5	1・2・3・4後		2		○		
		宗教学	一般6	1・2・3・4後		2		○		
		教育学	一般7	1・2・3・4後		2		○		
		人間関係論	一般8	1・2・3・4前		2		○		
		コミュニケーション理論と実際	一般9	1・2・3・4前		2		○		
		健康スポーツ科学	一般10	1・2・3・4前後		1			○	
		生涯身体運動科学	一般11	1・2・3・4前後		1			○	
	生活と環境群	生活とデザイン	一般12	1・2・3・4後		2		○		選択 6単位 (※2)
		法学（日本国憲法）	一般13	1・2・3・4前		2		○		
		社会学	一般14	1・2・3・4後		2		○		
		文化人類学	一般15	1・2・3・4前		2		○		
		経済学	一般16	1・2・3・4前		2		○		
		国際関係論	一般17	1・2・3・4後		2		○		
		社会福祉学	一般18	1・2・3・4前		1		○		
		国際的な健康課題	一般19	1・2・3・4後		1		○		
		人権・ジェンダー	一般20	1・2・3・4後		2		○		
		科学論	一般21	1・2・3・4前		2		○		
		環境変化と生態	一般22	1・2・3・4後		2		○		
		観察生物学入門	一般23	1・2・3・4前後		2		○		
		生物学	一般24	1・2・3・4前後		2		○		
		物理学	一般25	1・2・3・4前		2		○		
		化学	一般26	1・2・3・4前		2		○		
	情報理解群	統計学	一般27	1後	1				○	必修 2単位
		情報リテラシーⅠ	一般28	1前	1				○	
		情報リテラシーⅡ	一般29	1・2・3・4後		1			○	
		情報倫理	一般30	1・2・3・4後		1		○		
		実践統計学	一般31	2・3・4前		1		○		
	外国語群	英語Ⅰ（講読）	一般32	1・2・3・4前		1			○	必修 2単位 + 選択 2単位
		英語Ⅱ（英会話）	一般33	1・2・3・4前		1			○	
		英語Ⅲ（講読・記述）	一般34	1・2・3・4後		1			○	
		英語Ⅳ（英語コミュニケーション）	一般35	1・2・3・4後		1			○	
		英語Ⅴ（保健医療英語）	一般36	2後	2			○		
		英語Ⅵ（応用英語）	一般37	1・2・3・4後		1			○	
		英語Ⅶ（上級英語）A	一般38	2・3・4後		1		○		
		英語Ⅶ（上級英語）B	一般39	2・3・4後		1		○		

【一般教養科目】選択科目から選択8単位

※1 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」を含み4単位を選択して履修する。

※2 生活と環境群における選択科目の履修方法について

「文化人類学」「国際関係論」「国際的な健康課題」から1科目及び生物の科目（「観察生物学入門」又は「生物学」）、「物理学」，「化学」のうち2科目を含む6単位以上を選択して履修する。

別表（看護学科 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	保健1	2前		1		○			必修16単位 + 選択4単位
		生化学総論	保健2	2前	1			○			
		栄養学Ⅰ（基礎）	保健3	1後	1			○			
		栄養学Ⅱ（応用）	保健4	1後		1		○			
		心の健康	保健5	1・2・3・4後			1	○			
		薬理学Ⅰ（総論）	保健6	1後	1			○			
		薬理学Ⅱ（各論）	保健7	1後	1			○			
		病理学Ⅰ（総論）	保健8	1前	1			○			
		病理学Ⅱ（各論）	保健9	1前	1			○			
		微生物学Ⅰ（総論）	保健10	1前	1			○			
		微生物学Ⅱ（各論）	保健11	1前	1			○			
		発達心理学	保健12	2前		1		○			
		臨床心理学	保健13	1後		1			○		
	健康と保健医療システム	健康論	保健14	1前		1		○			
		公衆衛生学Ⅰ（基礎）	保健15	1前	1			○			
		公衆衛生学Ⅱ（応用）	保健16	2後	1			○			
		疫学・保健統計Ⅰ（基礎）	保健17	3前	1			○			
		疫学・保健統計Ⅱ（応用）	保健18	3前	1			○			
		リハビリテーション概論	保健19	2後		1		○			
		救命・救急の理論と実際	保健20	2前	1			○			
		画像診断学	保健21	2後		1		○			
		保健医療福祉論Ⅰ（基礎）	保健22	2後	1			○			
		保健医療福祉論Ⅱ（応用）	保健23	2後	1			○			
		食育論Ⅰ（基礎）	保健24	3前		1		○			
		食育論Ⅱ（応用）	保健25	3前		1		○			
		健康と運動	保健26	1後		1		○			
		家族社会学	保健27	1前		1		○			
		医療経営管理論	保健28	3前		1		○			
		リスクマネジメント論	保健29	2後		1		○			
専門科目	専門基礎科目	人体の構造と機能Ⅰ（総論、外皮・免疫系、消化器系、呼吸器系）	看1	1前	1			○		【専門科目】 必修76単位 + 選択3単位	
		人体の構造と機能Ⅱ（循環器系、腎・泌尿器系、内分泌系、生殖器系）	看2	1前	1			○			
		人体の構造と機能Ⅲ（造血器系、骨・筋肉系、神経系、感覚器系）	看3	1後	1			○			
		病態学Ⅰ（内科系疾病論）	看4	2前	2			○			
		病態学Ⅱ（外科系疾病論）	看5	2前	2			○			
		病態学Ⅲ（高齢者・精神疾病論）	看6	2前	1			○			
		臨床検査論	看7	2前	1			○			
	基礎看護科目	看護学入門	看8	1前	1			○			
		看護学原論	看9	1前	1				○		
		看護倫理	看10	2後	1			○			
		看護技術論Ⅰ（生活援助技術）	看11	1後	2				○		
		看護技術論Ⅱ（フィジカルアセスメント技術）	看12	1後	1				○		

別表（看護学科 2019年度以降入学生用）

専門科目	基礎看護科目	看護技術論Ⅲ（検査治療技術）	看 13	2 前	2			○		【専門科目】 （再掲） 必修76単位 + 選択3単位	
		看護技術論Ⅳ（看護過程展開技術）	看 14	2 後	1			○			
		看護技術論Ⅴ（統合技術演習）	看 15	2 後	1			○			
		日常生活調整方法論	看 16	2 前		1		○			
		看護学入門実習	看 17	1 前	2				○		
		基礎看護学実習	看 18	2 前	2				○		
		医療生活支援	臨床看護学概論	看 19	2 後	1			○		
	臨床看護学方法論Ⅰ（急性期・がん）		—	3 前	2			○			
	臨床看護学方法論Ⅱ（慢性期・終末期）		—	3 前	2			○			
	臨床看護学方法論Ⅲ（臨床看護技術演習）		—	3 後・4 前	1			○			
	ターミナルケア論		看 22	3 前		1		○			
	急性期看護学実習		—	3 後・4 前	2				○		
	慢性期看護学実習		—	3 後・4 前	3				○		
	療養生活支援		精神看護学概論	看 25	1 後	1			○		
			高齢者・在宅看護学概論	看 26	1 後	1			○		
			高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ	看 27	2 後	1			○		
			高齢者看護学方法論Ⅱ	—	3 前	1			○		
			在宅看護学方法論Ⅱ	—	3 前	1			○		
			精神看護学方法論Ⅰ	看 30	2 後	1			○		
			精神看護学方法論Ⅱ	—	3 前	1			○		
			退院支援論	—	3 前		1		○		
			高齢者看護学実習	看 31	3 後・4 前	3					○
			在宅看護学実習	看 32	3 後・4 前	1					○
	精神看護学実習		看 33	3 後・4 前	2				○		
	健康生活支援		地域看護学概論	看 34	2 前	2			○		
			地域看護学方法論Ⅰ	看 35	2 後	1			○		
			地域看護学方法論Ⅱ	看 36	3 前	2			○		
		地域看護学方法論Ⅲ	看 37	3 前	1			○			
		地域看護学実習	看 38	3 後・4 前	3				○		
		看護政策論	看 55	4 後		1		○			
	育成支援	育成期看護学概論	看 39	2 前	1			○			
		小児看護学方法論Ⅰ	看 40	2 後	1			○			
		小児看護学方法論Ⅱ	看 41	3 前	1			○			
		小児地域ケア論	—	3 前		1		○			
		母性看護学方法論Ⅰ	看 42	2 後	1			○			
		母性看護学方法論Ⅱ	看 43	3 前	1			○			
		母性看護学実習	看 44	3 後・4 前	2				○		
		小児看護学実習	看 45	3 後・4 前	2				○		
		助産学概論	看 46	3 前		1		○			
		助産診断・技術学Ⅰ	—	3 前		1		○			
		助産診断・技術学Ⅱ	—	4 前		2		○			
	助産診断・技術学Ⅲ	—	4 通		2		○				
専門科目	実践看護科目	育成支援	助産診断・技術学Ⅳ	—	4 後	2			○	【専門科目】 （再掲） 必修76単位 + ○ ○ ○	
			助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）	看 51	3 後	1					
			助産学実習Ⅱ（継続支援）	看 52	4 通	2					
			助産学実習Ⅲ（産婦ケア）	—	4 通	3					

別表（看護学科 2019年度以降入学生用）

発展看護科目	看護管理論	—	4前	1		○		選択3単位
	災害看護学	看56	3前	1		○		
	看護キャリア発達論	看57	2後	1		○		
	看護管理実習	—	4前	1				
	総合実習	看59	4後	3			○	
	看護研究	看60	4通	2			○	
	看護学統合	看61	4後	1			○	
	リーダーシップ論	看62	2前	1		○		
	国際看護論	看64	2前		1		○	
	家族看護論	看65	2後		1		○	

## 先修条件

## 【特色科目】

- 1 「千葉県健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「社会実習（ボランティア活動）」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。

## 【一般教養科目】

- 1 「実践統計学」を履修するには「統計学」の単位を修得済みであること。
- 2 「英語Ⅶ(上級英語)A」「英語Ⅶ(上級英語)B」を履修するには「英語Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ,またはⅥ」の選択2単位を修得済みであること。



別表（看護学科 2019年度以降入学生用）

先修条件

【専門科目】

- 1 下記の実習科目および「看護学統合」を履修するには、表に示す所定の科目の単位を既に修得していること、又は同じ学期に単位の修得が見込まれていること。

配当年次	授業科目の名称	履修に先立って修得しておかなければならない 授業科目の名称																																					
		講義科目						演習科目						実習科目																									
		看護学入門	精神看護学概論	臨床看護学概論	育成期看護概論	地域看護学概論	高齢者・在宅看護概論	看護管理論	看護学原論	看護技術論Ⅰ～Ⅲ	看護技術論Ⅳ・Ⅴ	地域看護学方法論Ⅲ	精神看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ	高齢者看護学方法論Ⅱ	在宅看護学方法論Ⅱ	母性看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	小児看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	臨床看護学方法論Ⅲ	助産学・技術学Ⅱ	看護学入門実習	基礎看護学実習	急性期看護学実習	慢性期看護学実習	精神看護学実習	在宅看護学実習	地域看護学実習	高齢者看護学実習	母性看護学実習	小児看護学実習	助産学実習Ⅰ	小児看護学実習	総合実習						
1前	看護学入門実習	○																																					
2前	基礎看護学実習	○	○					○	○											○																			
3後～4前	急性期看護学実習			○						○									○	○	○																		
	慢性期看護学実習			○						○										○	○																		
	地域看護学実習				○	○					○	○									○	○																	
	精神看護学実習		○								○	○									○	○																	
	在宅看護学実習										○			○	○						○	○																	
	高齢者看護学実習										○			○	○						○	○																	
	母性看護学実習				○						○						○				○	○																	
小児看護学実習				○						○						○				○	○																		
4前	看護管理実習									○														○	○														
4通	助産学実習Ⅱ																			○																		○	
	助産学実習Ⅲ																			○																		○	
4後	総合実習																																						
	看護学統合																																						○

○：単位を既に修得していること、又は同じ学期に単位の修得が見込まれていること。

別表（看護学科 2019年度以降入学生用）

進級要件

以下の要件を満たした者でなければ、3年次に進級できない。

- 1 1・2年次に配当された特色科目および保健医療基礎科目の必修科目の単位を修得済みの者。
- 2 1・2年次に配当された専門科目のうち、専門基礎科目、基礎看護科目の必修科目の単位を修得済みの者。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	4単位	20単位	24単位
保健医療基礎科目	16単位	4単位	20単位
専門科目	76単位	3単位	79単位
合計	99単位	27単位	126単位

○ 助産課程に関する特記事項

助産課程選択の場合は、「助産学概論」及び「助産診断・技術学Ⅰ」の計2単位を選択必修とするほか、別途、「助産診断・技術学Ⅱ」、「助産診断・技術学Ⅲ」、「助産診断・技術学Ⅳ」及び、「助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）」、「助産学実習Ⅱ（継続支援）」、「助産学実習Ⅲ（産婦ケア）」の計12単位が必要である。

○ 養護教諭二種に関する特記事項

「保健師」の免許を基礎資格として「養護教諭二種免許状」を取得する場合、「法学（日本国憲法）」、「健康スポーツ科学」、「生涯身体運動科学」、「英語Ⅴ（保健医療英語）」、「情報リテラシーⅠ」及び「情報リテラシーⅡ」の計8単位が必要である。

○ 総合実習と看護学統合に関する特記事項

「総合実習」と「看護学統合」の履修は、卒業に必要な単位の修得が見込まれている必要がある。

(看護学科 2018年度以前入学者用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
特色科目	体験ゼミナール	特色1	1前	1					○	必修3単位
	千葉県健康づくり	特色2	2後	1				○		
	専門職間の連携活動論	特色3	4後	1				○		
一般教養科目	人間理解群	心理学	一般1	1・2・3・4前		2		○		選択 4単位 (※1)
		哲学	一般2	1・2・3・4前		2		○		
		文学	一般3	1・2・3・4前		2		○		
		歴史と文化	一般4	1・2・3・4前		2		○		
		生命倫理	一般5	1・2・3・4後		2		○		
		宗教学	一般6	1・2・3・4後		2		○		
		教育学	一般7	1・2・3・4後		2		○		
		人間関係論	一般8	1・2・3・4前		2		○		
		コミュニケーション理論と実際	一般9	1・2・3・4前		2		○		
		健康スポーツ科学	一般10	1・2・3・4前後		1			○	
		生涯身体運動科学	一般11	1・2・3・4前後		1			○	
	生活と環境群	生活とデザイン	一般12	1・2・3・4後		2		○		選択 6単位 (※2)
		法学(日本国憲法)	一般13	1・2・3・4前		2		○		
		社会学	一般14	1・2・3・4後		2		○		
		文化人類学	一般15	1・2・3・4前		2		○		
		経済学	一般16	1・2・3・4前		2		○		
		国際関係論	一般17	1・2・3・4後		2		○		
		社会福祉学	一般18	1・2・3・4前		1		○		
		国際的な健康課題	一般19	1・2・3・4後		1		○		
		人権・ジェンダー	一般20	1・2・3・4後		2		○		
		科学論	一般21	1・2・3・4前		2		○		
		環境変化と生態	一般22	1・2・3・4後		2		○		
		観察生物学入門	一般23	1・2・3・4前後		2		○		
		生物学	一般24	1・2・3・4前後		2		○		
		物理学	一般25	1・2・3・4前		2		○		
		化学	一般26	1・2・3・4前		2		○		
	情報理解群	統計学	一般27	2後	1				○	必修 2単位
		情報リテラシーⅠ	一般28	1前	1				○	
		情報リテラシーⅡ	一般29	1・2・3・4後		1			○	
		情報倫理	一般30	1・2・3・4後		1		○		
	外国語群	英語Ⅰ(基礎講読)	—	1・2・3・4前		1			○	必修 2単位 + 選択 2単位
		英語Ⅱ(基礎英会話)	—	1・2・3・4前		1			○	
		英語Ⅲ(講読・記述)	一般34	1・2・3・4後		1			○	
		英語Ⅳ(英会話)	—	1・2・3・4後		1			○	
		英語Ⅴ(保健医療英語)	一般36	2後		2		○		
		英語Ⅵ(応用英語)	一般37	1・2・3・4後		1			○	

【一般教養科目】選択科目から選択8単位

※1 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」を含み4単位を選択して履修する。

※2 生活と環境群における選択科目の履修方法について

「文化人類学」「国際関係論」「国際的な健康課題」から1科目及び生物の科目(「観察生物学入門」又は「生物学」)、「物理学」、「化学」のうち2科目を含む6単位以上を選択して履修する。

(看護学科 2018年度以前入学者用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	保健1	2前		1		○		必修16単位 + 選択4単位
		生化学総論	保健2	2前	1			○		
		栄養学Ⅰ(基礎)	保健3	1後	1			○		
		栄養学Ⅱ(応用)	保健4	1後		1		○		
		心の健康	保健5	1・2・3・4前			1	○		
		薬理学Ⅰ(総論)	保健6	1後	1			○		
		薬理学Ⅱ(各論)	保健7	1後	1			○		
		病理学Ⅰ(総論)	保健8	1前	1			○		
		病理学Ⅱ(各論)	保健9	1前	1			○		
		微生物学Ⅰ(総論)	保健10	1前	1			○		
		微生物学Ⅱ(各論)	保健11	1前	1			○		
		発達心理学	保健12	2前		1		○		
		臨床心理学	保健13	1後		1			○	
	健康と保健医療システム	健康論	保健14	1前		1		○		
		公衆衛生学Ⅰ(基礎)	保健15	1前	1			○		
		公衆衛生学Ⅱ(応用)	保健16	2後	1			○		
		疫学・保健統計Ⅰ(基礎)	保健17	3前	1			○		
		疫学・保健統計Ⅱ(応用)	保健18	3前	1			○		
		リハビリテーション概論	保健19	2後		1		○		
		救命・救急の理論と実際	保健20	2前	1			○		
		保健医療福祉論Ⅰ(基礎)	保健22	2後	1			○		
		保健医療福祉論Ⅱ(応用)	保健23	2後	1			○		
		食育論Ⅰ(基礎)	保健24	3前		1		○		
		食育論Ⅱ(応用)	保健25	3前		1		○		
		健康と運動	保健26	1後		1		○		
		家族社会学	保健27	1前		1		○		
		医療経営管理論	保健28	4後		1		○		
		リスクマネジメント論	保健29	2後	1			○		
		専門科目	専門基礎科目	人体の構造と機能Ⅰ(骨・筋・神経系)	—	1前	1			
人体の構造と機能Ⅱ(呼吸器・循環器・消化器系)	—			1前	1			○		
人体の構造と機能Ⅲ(泌尿器・生殖器・感覚器系)	—			1後	1			○		
病態学Ⅰ(内科系疾病論)	看4			2前	2			○		
病態学Ⅱ(外科系疾病論)	看5			2前	2			○		
病態学Ⅲ(高齢者・精神疾病論)	看6			2前	1			○		
臨床検査実習	—			2前	1				○	
基礎看護科目	看護学入門		看8	1前	1				○	
	看護倫理		看10	2後	1				○	
	看護技術論Ⅰ(生活援助技術)		看11	1前	2				○	
	看護技術論Ⅱ(看護共通技術)		—	1後	1				○	

(看護学科 2018年度以前入学者用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
専門科目	基礎看護科目	看護技術論Ⅲ (フィジカルアセスメント技術)	—	2 前	2				○	
		看護技術論Ⅳ (検査治療技術)	—	2 後	2				○	
		看護技術論Ⅴ (看護過程展開技術)	—	2 後	1				○	
		看護ふれあい体験学習	—	1 前	2					○
		基礎看護学実習	看 18	2 前	2					○
	医療・生活支援	成人看護学概論	—	2 後	1			○		
		成人看護学方法論Ⅰ	看 20	3 前	2			○		
		成人看護学方法論Ⅱ	看 21	3 前	2			○		
		がん看護学	—	2 後	1			○		
		ターミナルケア論	看 22	3 前		1		○		
		成人看護学実習 (急性期)	看 23	3 後・4 前	3					○
		成人看護学実習 (慢性期)	看 24	3 後・4 前	3					○
	療養支援	こころの健康と看護	—	1 後	1			○		
		療養支援看護概論	—	2 前	1			○		
		高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ	看 27	2 後	1				○	
		高齢者・在宅看護学方法論Ⅱ	看 28	3 前	2				○	
		精神看護学方法論	看 29	3 前	2				○	
		高齢者看護学実習	看 31	3 後・4 前	3					○
		在宅看護学実習	看 32	3 後・4 前	1					○
	健康支援	精神看護学実習	看 33	3 後・4 前	2					○
地域看護学概論		看 34	2 前	2			○			
地域看護学方法論Ⅰ		看 35	2 後	1			○			
地域看護学方法論Ⅱ		看 36	3 前	2			○			
地域看護学方法論Ⅲ		看 37	3 前	2			○			
地域看護学実習	看 38	3 後・4 前	3					○		
育成支援	育成支援看護概論	—	2 前	1			○			
	小児看護学方法論Ⅰ	看 40	2 後	1				○		
	小児看護学方法論Ⅱ	看 41	3 前	1				○		
	母性看護学方法論Ⅰ	看 42	2 後	1				○		
	母性看護学方法論Ⅱ	看 43	3 前	1				○		
	母性看護学実習	看 44	3 後・4 前	2					○	
	小児看護学実習	看 45	3 後・4 前	2					○	
	助産学概論	看 46	3 前		1		○			
	助産診断・技術学Ⅰ (実践基礎)	看 47	3 前		1		○			
	助産診断・技術学Ⅱ (ライフサイクル各期)	看 48	4 前		2			○		
	助産診断・技術学Ⅲ (分娩期)	看 49	4 通		2			○		
	助産診断・技術学Ⅳ (ハイリスク分娩)	看 50	4 後		2			○		
	助産学実習Ⅰ (産婦ケア体験)	看 51	3 後		1				○	
助産学実習Ⅱ (継続支援)	看 52	4 通		3				○		
助産学実習Ⅲ (分娩期ケア)	看 53	4 通		3				○		

【専門科目】  
(再掲)  
必修 7.5 単位  
+  
選択 4 単位

(看護学科 2018 年度以前入学者用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
専門科目	発展看護科目	看護管理学	看 54	4 前	1			○		
		感染看護学	—	2 後		1		○		
		看護政策論	看 55	4 後		1		○		
		災害看護学	看 56	3 前	1			○		
		看護キャリア発達論	看 57	2 前		1		○		
		看護管理学実習	看 58	4 前	1					○
		総合実習	看 59	4 後	2					○
		看護研究	看 60	4 通	2				○	
		看護学統合	看 61	4 後	1				○	
		リーダーシップ論	看 62	4 後		1		○		
		継続看護方法論	看 63	4 後		1		○		
		国際看護論	看 64	2 前		1		○		
		家族看護学概論	—	2 後		1		○		
		家族看護学方法論	看 66	3 前		1		○		

先修条件

【特色科目 (平成28年度入学生より適用する)】

1. 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
2. 「専門職間の連携活動論」を履修するには「体験ゼミナール」, 「千葉県の健康づくり」の単位を修得済みであること。

【専門科目】

1. 下記の実習科目および「看護学統合」を履修するには、表に示す所定の科目の単位を既に修得していること、又は同じ学期に単位の修得見込みであること。

配当年次	授業科目の名称	履修に先立って修得しておかなければならない授業科目の名称																									
		講義科目						演習科目						実習科目													
		看護学入門	こころの健康と看護	成人看護学概論	育成支援看護概論	地域看護学概論	療養支援看護概論	看護管理学	看護技術論ⅠⅡⅢ	看護技術論ⅣⅤⅥ	成人看護学方法論ⅠⅡ	地域看護学方法論ⅠⅡⅢ	精神看護学方法論	高齢者・在宅看護学方法論ⅠⅡ	母性看護学方法論ⅠⅡ	小児看護学方法論ⅠⅡ	看護ふれあい体験学習	基礎看護学実習	成人看護学実習(急性期)	成人看護学実習(慢性期)	精神看護学実習	在宅看護学実習	地域看護学実習	高齢者看護学実習	母性看護学実習	小児看護学実習	総合実習
1前	看護ふれあい体験学習	○																									
2前	基礎看護学実習	○	○					○								○											
3後 ~ 4前	成人看護学実習(急性期)			○					○	○						○	○										
	成人看護学実習(慢性期)			○					○	○						○	○										
	地域看護学実習					○			○		○					○	○										
	精神看護学実習						○		○			○				○	○										
	在宅看護学実習						○		○				○			○	○										
	高齢者看護学実習						○		○				○			○	○										
	母性看護学実習				○				○					○		○	○										
小児看護学実習				○				○						○	○	○											
4前	看護管理学実習						○											○	○								
4後	総合実習																	○: 選択する領域の実習									
	看護学統合																	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○: 単位を既に修得していること、又は同じ学期に単位の修得見込みであること。



卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	4単位	20単位	24単位
保健医療基礎科目	16単位	4単位	20単位
専門科目	75単位	4単位	79単位
合計	98単位	28単位	126単位

○ 助産課程に関する特記事項

助産課程選択の場合は、「助産学概論」及び「助産診断・技術学Ⅰ（実践基礎）」の計2単位を選択必修とするほか、別途、「助産診断・技術学Ⅱ（ライフサイクル各期）」、「助産診断・技術学Ⅲ（分娩期）」、「助産診断・技術学Ⅳ（ハイリスク分娩）」及び、「助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）」、「助産学実習Ⅱ（継続支援）」、「助産学実習Ⅲ（分娩期ケア）」の計13単位が必要である。

○ 養護教諭二種に関する特記事項

「保健師」の免許を基礎資格として「養護教諭二種免許状」を取得する場合、「法学（日本国憲法）」、「健康スポーツ科学」、「生涯身体運動科学」、「英語Ⅴ（保健医療英語）」、「情報リテラシーⅠ」及び「情報リテラシーⅡ」の計8単位が必要である。

○ 総合実習と看護学統合に関する特記事項

「総合実習」と「看護学統合」の履修は、卒業に必要な単位の修得が見込まれている必要がある。

(看護学科 2020年度以前編入学生用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
特色科目	体験ゼミナール	特色1	3前	1					○	必修3単位
	千葉県の健康づくり	特色2	3後	1				○		
	専門職間の連携活動論	特色3	4後	1				○		
一般教養科目	人間理解群	心理学	一般1	3・4前		2		○		選択 4単位 (※1)
		哲学	一般2	3・4前		2		○		
		文学	一般3	3・4前		2		○		
		歴史と文化	一般4	3・4前		2		○		
		生命倫理	一般5	3・4後		2		○		
		宗教学	一般6	3・4後		2		○		
		教育学	一般7	3・4後		2		○		
		人間関係論	一般8	3・4前		2		○		
		コミュニケーション理論と実際	一般9	3・4前		2		○		
		健康スポーツ科学	一般10	3・4後		1			○	
		生涯身体運動科学	一般11	3・4前後		1			○	
	生活と環境群	生活とデザイン	一般12	3・4後		2		○		選択 6単位 (※2)
		法学(日本国憲法)	一般13	3・4前		2		○		
		社会学	一般14	3・4後		2		○		
		文化人類学	一般15	3・4前		2		○		
		経済学	一般16	3・4前		2		○		
		国際関係論	一般17	3・4後		2		○		
		社会福祉学	一般18	3・4前		1		○		
		国際的な健康課題	一般19	3・4後		1		○		
		人権・ジェンダー	一般20	3・4後		2		○		
		科学論	一般21	3・4前		2		○		
		環境変化と生態	一般22	3・4後		2		○		
		観察生物学入門	一般23	3・4前後		2		○		
		生物学	一般24	3・4前後		2		○		
		物理学	一般25	3・4前		2		○		
		化学	一般26	3・4前		2		○		
	情報理解群	統計学	一般27	3後	1				○	必修 2単位
		情報リテラシーⅠ	一般28	3前	1				○	
		情報リテラシーⅡ	一般29	3・4後		1			○	
		情報倫理	一般30	3・4後		1		○		
外国語群	英語Ⅰ(基礎講読)	—	3・4前		1			○	必修 2単位 + 選択 2単位	
	英語Ⅱ(基礎英会話)	—	3・4前		1			○		
	英語Ⅲ(講読・記述)	一般34	3・4後		1			○		
	英語Ⅳ(英会話)	—	3・4後		1			○		
	英語Ⅴ(保健医療英語)	一般36	3後	2			○			
	英語Ⅵ(応用英語)	一般37	3・4後		1			○		

※1 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」を含み4単位を選択して履修する。

※2 生活と環境群における選択科目の履修方法について

「文化人類学」「国際関係論」「国際的な健康課題」から1科目及び生物の科目(「観察生物学入門」又は「生物学」)、「物理学」、「化学」のうち2科目を含む6単位以上を選択して履修する。

## (看護学科 2020年度以前編入学生用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習				
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	保健 1	3 前		1		○		必修 16 単位 + 選択 4 単位			
		生化学総論	—	—	1			○					
		栄養学Ⅰ (基礎)	—	—	1			○					
		栄養学Ⅱ (応用)	保健 4	3 後		1		○					
		薬理学Ⅰ (総論)	—	—	1			○					
		薬理学Ⅱ (各論)	—	—	1			○					
		病理学Ⅰ (総論)	—	—	1			○					
		病理学Ⅱ (各論)	—	—	1			○					
		微生物学Ⅰ (総論)	—	—	1			○					
		微生物学Ⅱ (各論)	—	—	1			○					
		発達心理学	保健 12	4 前		1		○					
		臨床心理学	保健 13	3 後		1			○				
	健康と保健医療システム	健康論	保健 14	3 前		1		○					
		公衆衛生学Ⅰ (基礎)	—	—	1			○					
		公衆衛生学Ⅱ (応用)	—	—	1			○					
		疫学・保健統計Ⅰ (基礎)	保健 17	3 前	1			○					
		疫学・保健統計Ⅱ (応用)	保健 18	3 前	1			○					
		リハビリテーション概論	保健 19	3 後		1		○					
		救命・救急の理論と実際	保健 20	3 前	1			○					
		保健医療福祉論Ⅰ (基礎)	保健 22	3 後	1			○					
		保健医療福祉論Ⅱ (応用)	保健 23	3 後	1			○					
		食育論Ⅰ (基礎)	保健 24	3 前		1		○					
		食育論Ⅱ (応用)	保健 25	3 前		1		○					
		健康と運動	保健 26	3 後		1		○					
		家族社会学	保健 27	3 前		1		○					
		医療経営管理論	保健 28	4 後		1		○					
		リスクマネジメント論	保健 29	4 後	1			○					
		専門科目	専門基礎科目	人体の構造と機能Ⅰ (骨・筋・神経系)	—	—	1				○		【専門科目】 必修 7 6 単位 + 選択 3 単位
				人体の構造と機能Ⅱ (呼吸器・循環器・消化器系)	—	—	1				○		
人体の構造と機能Ⅲ (泌尿器・生殖器・感覚器系)	—			—	1			○					
病態学Ⅰ (内科系疾病論)	—			—	2			○					
病態学Ⅱ (外科系疾病論)	—			—	2			○					
病態学Ⅲ (高齢者・精神疾病論)	—			—	1			○					
臨床検査実習	—			—	1				○				
基礎看護科目	看護学入門			—	—	1				○			
	看護倫理		看 10	3 後	1				○				
	看護技術論Ⅰ (生活援助技術)		—	—	2				○				
	看護技術論Ⅱ (看護共通技術)		—	—	1				○				
	看護技術論Ⅲ (フィジカルアセスメント技術)		—	—	2				○				
	看護技術論Ⅳ (検査治療技術)		—	—	2				○				

(看護学科 2020 年度以前編入学生用)

		看護技術論Ⅴ（看護過程展開技術）	—	—	1			○		
		看護ふれあい体験学習	—	—	2				○	
		基礎看護学実習	—	—	2				○	
専門科目	医療・生活支援	成人看護学概論	—	3 後	1			○		
		成人看護学方法論Ⅰ	—	—	2			○		
		成人看護学方法論Ⅱ	—	—	2			○		
		がん看護学	—	3 後	1			○		
		ターミナルケア論	看 22	3・4 前		1		○		
		成人看護学実習（急性期）	—	—	3					○
		成人看護学実習（慢性期）	—	—	3					○
	療養支援	こころの健康と看護	—	3 後	1			○		
		療養支援看護概論	—	3 後	1			○		
		高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ	—	—	1				○	
		高齢者・在宅看護学方法論Ⅱ	—	—	2				○	
		精神看護学方法論	—	—	2				○	
		高齢者看護学実習	—	—	3					○
		在宅看護学実習	—	—	1					○
	健康支援	精神看護学実習	—	—	2					○
		地域看護学概論	看 34	3 前	2			○		
		地域看護学方法論Ⅰ	看 35	3 後	1			○		
		地域看護学方法論Ⅱ	看 36	3 前	2			○		
		地域看護学方法論Ⅲ	看 37	3 前	2			○		
	育成支援	地域看護学実習	看 38	3 後	3					○
		育成支援看護概論	—	3・4 前	1			○		
		小児看護学方法論Ⅰ	—	—	1				○	
		小児看護学方法論Ⅱ	—	—	1				○	
母性看護学方法論Ⅰ		—	—	1				○		
母性看護学方法論Ⅱ		—	—	1				○		
母性看護学実習		—	—	2					○	
小児看護学実習		—	—	2					○	
	助産学概論	看 46	3 前		1		○			
	助産診断・技術学Ⅰ（実践基礎）	看 47	3 前		1		○			

【専門科目】  
（再掲）  
必修 7 6 単位  
+  
選択 3 単位

(看護学科 2020 年度以前編入学生用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
専門科目	発展看護科目	看護管理学	看 54	4 前	1			○		【専門科目】 (再掲) 必修 7 6 単位 + 選択 3 単位
		感染看護学	—	4 後		1		○		
		看護政策論	看 55	4 後		1		○		
		災害看護学	看 56	3 前	1			○		
		看護キャリア発達論	看 57	3 後	1			○		
		看護管理学実習	看 58	4 前	1				○	
		総合実習	看 59	4 後	2				○	
		看護研究	看 60	4 通	2				○	
		看護学統合	看 61	4 後	1				○	
		リーダーシップ論	看 62	4 後		1		○		
		継続看護方法論	看 63	4 後		1		○		
		国際看護論	看 64	3 前		1		○		
		家族看護学概論	—	3 後		1		○		
		家族看護学方法論	看 66	4 前		1		○		

先修条件

【特色科目】

- 1 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること.
- 2 「専門職間の連携活動論」を履修するには「体験ゼミナール」, 「千葉県の健康づくり」の単位を修得済みであること.

【専門科目】

- 1 下記の実習科目および「看護学統合」を履修するには, 表に示す所定の科目の単位を既に修得していること, 又は同じ学期に単位の修得見込みであること.

配当年次	授業科目の名称	履修に先立って修得しておかなければならない授業科目の名称																												
		講義科目						演習科目						実習科目																
		看護学入門	こころの健康と看護	成人看護学概論	育成支援看護概論	地域看護学概論	療養支援看護概論	看護管理学	看護技術論Ⅰ～Ⅲ	看護技術論Ⅳ～Ⅴ	成人看護学方法論Ⅰ	成人看護学方法論Ⅱ	地域看護学方法論Ⅰ～Ⅲ	精神看護学方法論	高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ～Ⅱ	母性看護学方法論Ⅰ～Ⅱ	小児看護学方法論Ⅰ～Ⅱ	看護ふれあい体験学習	基礎看護学実習	成人看護学実習(急性期)	成人看護学実習(慢性期)	精神看護学実習	在宅看護学実習	地域看護学実習	高齢者看護学実習	母性看護学実習	小児看護学実習	総合実習		
1前	看護ふれあい体験学習	○																												
2前	基礎看護学実習	○	○															○												
3後 ～ 4前	成人看護学実習(急性期)			○					○	○	○							○	○											
	成人看護学実習(慢性期)			○					○	○	○							○	○											
	地域看護学実習					○			○			○						○	○											
	精神看護学実習						○		○				○					○	○											
	在宅看護学実習						○		○					○				○	○											
	高齢者看護学実習						○		○					○				○	○											
	母性看護学実習								○						○			○	○											
小児看護学実習								○								○	○	○												
4前	看護管理学実習						○												○	○										
4後	総合実習																													
	看護学統合																			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○ : 単位を既に修得していること, 又は同じ学期に単位の修得見込みであること.

(看護学科 2020年度以前編入学生用)

#### 卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	4単位	20単位	24単位
保健医療基礎科目	16単位	4単位	20単位
専門科目	76単位	3単位	79単位
合計	99単位	27単位	126単位

#### ○ 養護教諭二種に関する特記事項

「保健師」の免許を基礎資格として「養護教諭二種免許状」を取得する場合、「法学（日本国憲法）」、「健康スポーツ科学」、「生涯身体運動科学」、「英語Ⅴ（保健医療英語）」、「情報リテラシーⅠ」及び「情報リテラシーⅡ」の計8単位が必要である。

#### ○ 総合実習と看護学統合に関する特記事項

「総合実習」と「看護学統合」の履修は、卒業に必要な単位の修得が見込まれている必要がある。



別表（栄養学科 2019 年以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
特色科目	体験ゼミナール	特色 1	1 前	1					○	必修 3 単位
	千葉県の健康づくり	特色 2	2 後	1				○		
	専門職間の連携活動論	特色 3	4 後	1				○		
	社会実習（ボランティア活動）	特色 4	2・3・4			1			○	
一般教養科目	人間理解群	心理学	一般 1	1・2・3・4 前		2		○		必修 2 単位 + 選択 4 単位  このうち b から 1 科目以上選択
		哲学	一般 2	1・2・3・4 前		2		○		
		文学	一般 3	1・2・3・4 前		2		○		
		歴史と文化	一般 4	1・2・3・4 前		2		○		
		生命倫理	一般 5	1・2・3・4 後	2			○		
		宗教学	一般 6	1・2・3・4 後		2		○		
		教育学	一般 7	1・2・3・4 後		2		○		
		人間関係論 b	一般 8	1・2・3・4 前		2		○		
		コミュニケーション理論と実際 b	一般 9	1・2・3・4 前		2		○		
		健康スポーツ科学	一般 10	1・2・3・4 前後		1			○	
		生涯身体運動科学	一般 11	1・2・3・4 前後		1			○	
	生活と環境群	生活とデザイン	一般 12	1・2・3・4 後		2		○		選択 6 単位  このうち ※から 1 科目以上選択 #から 1 科目以上選択
		法学（日本国憲法）	一般 13	1・2・3・4 前		2		○		
		社会学※	一般 14	1・2・3・4 後		2		○		
		文化人類学	一般 15	1・2・3・4 前		2		○		
		経済学	一般 16	1・2・3・4 前		2		○		
		国際関係論※	一般 17	1・2・3・4 後		2		○		
		社会福祉学※	一般 18	1・2・3・4 前		1		○		
		国際的な健康課題※	一般 19	1・2・3・4 後		1		○		
		人権・ジェンダー	一般 20	1・2・3・4 後		2		○		
		科学論	一般 21	1・2・3・4 前		2		○		
		環境変化と生態	一般 22	1・2・3・4 後		2		○		
		観察生物学入門	一般 23	1・2・3・4 前後		2		○		
		生物学#	一般 24	1・2・3・4 前後		2		○		
		物理学#	一般 25	1・2・3・4 前		2		○		
		化学#	一般 26	1・2・3・4 前		2		○		
	情報理解群	統計学	一般 27	1・2・3・4 後	1				○	必修 2 単位
		情報リテラシー I	一般 28	1・2・3・4 前	1				○	
		情報リテラシー II	一般 29	1・2・3・4 後		1			○	
		情報倫理	一般 30	1・2・3・4 後		1		○		
		実践統計学	一般 31	2・3・4 前		1		○		
	外国語群	英語 I（講読）	一般 32	1・2・3・4 前		1			○	必修 2 単位 + 選択 2 単位
		英語 II（英会話）	一般 33	1・2・3・4 前		1			○	
		英語 III（講読・記述）	一般 34	1・2・3・4 後		1			○	
		英語 IV（英語コミュニケーション）	一般 35	1・2・3・4 後		1			○	
		英語 V（保健医療英語）	一般 36	2 前	2			○		
		英語 VI（応用英語）	一般 37	1・2・3・4 後		1			○	
		英語 VII（上級英語）A	一般 38	2・3・4 後		1		○		
		英語 VII（上級英語）B	一般 39	2・3・4 後		1		○		

別表（栄養学科 2019 年以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	保健 1	2・4 前		1		○		
		生化学総論	保健 2	1 前			1	○		
		栄養学 I（基礎）	保健 3	2 後			1	○		
		栄養学 II（応用）	保健 4	2 後			1	○		
		心の健康	保健 5	2・4 後		1		○		
		薬理学 I（総論）	保健 6	1 後	1			○		
		薬理学 II（各論）	保健 7	1 後	1			○		
		病理学 I（総論）	保健 8	1 前	1			○		
		病理学 II（各論）	保健 9	1 前	1			○		
		微生物学 I（総論）	保健 10	1・4 前		1		○		
		微生物学 II（各論）	保健 11	1・4 前		1		○		
		発達心理学	保健 12	1・4 前		1		○		
		臨床心理学	保健 13	1・2・4 後		1			○	
	健康と保健医療システム	健康論	保健 14	1・2・4 前		1		○		必修 10 単位 + 選択 4 単位
		公衆衛生学 I（基礎）	保健 15	2 前	1			○		
		公衆衛生学 II（応用）	保健 16	2 後	1			○		
		疫学・保健統計 I（基礎）	保健 17	3 前	1			○		
		疫学・保健統計 II（応用）	保健 18	3 前	1			○		
		リハビリテーション概論	保健 19	2・3 後		1		○		
		救命・救急の理論と実際	保健 20	2・4 前		1		○		
		画像診断学	保健 21	2・3・4 後		1		○		
		保健医療福祉論 I（基礎）	保健 22	2 後	1			○		
		保健医療福祉論 II（応用）	保健 23	2 後	1			○		
		食育論 I（基礎）	保健 24	3 前		1		○		
		食育論 II（応用）	保健 25	3 前		1		○		
		健康と運動	保健 26	1・2・4 後		1		○		
		家族社会学	保健 27	1・4 前		1		○		
		医療経営管理論	保健 28	4 前		1		○		
		リスクマネジメント論	保健 29	2・4 後		1		○		
専門科目	専門基礎科目	管理栄養士導入教育	栄 1	1 前	1			○		【専門科目】 必修 7 8 単位 + 選択 7 単位
		解剖生理学 I	栄 2	1 前	2			○		
		解剖学実験	栄 3	1 後	1				○	
		解剖生理学 II	栄 4	1 後	2			○		
		生理学実験	栄 5	2 前	1				○	
		生化学	栄 6	1 前	2			○		
		栄養生化学	栄 7	1 後	2			○		
		生化学実験	栄 8	2 前	1				○	
		疾病論	栄 9	2 前	2			○		
		高齢者医療論	栄 10	3・4 後		1		○		
		食品学各論	栄 11	1 前	2			○		
		食品学実験	栄 12	1 後	1				○	
		食品学総論	栄 13	1 前	2			○		
		食品化学実験	栄 14	1 後	1				○	
		理化学概論	栄 15	1 前		1		○		

別表（栄養学科 2019年以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
専門科目	専門基礎科目	食品衛生学	栄 16	1 後	2			○		
		食品衛生学実験	栄 17	2 後	1				○	
		食品加工学	栄 18	2 前	1			○		
		食品加工学実習	栄 19	2 後	1					○
		食品微生物学	栄 20	3・4 後		1		○		
		食事設計と調理	栄 21	1 前	2			○		
		食事設計と調理実習	栄 22	2 前	1					○
		調理実習	栄 23	1 後	1					○
		調理科学実験	栄 24	1 前	1					○
	学 栄養 基礎	基礎栄養学	栄 25	1 後	2			○		
		基礎栄養学実習	栄 26	2 前	1					○
	応用栄養学	応用栄養学Ⅰ	栄 27	2 前	2			○		
		応用栄養学Ⅱ	栄 28	2 後	2			○		
		応用栄養学Ⅲ	栄 29	3 前	2			○		
		応用栄養学実習	栄 30	3 前	1					○
		スポーツ栄養学	栄 31	3・4 後		1		○		
	栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	栄 32	2 後	2			○		
		栄養教育論Ⅱ	栄 33	3 前	2			○		
		栄養教育論実習	栄 34	3 前	1					○
		栄養教育手法論	栄 35	3 前	2			○		
	臨床栄養学	臨床栄養学Ⅰ	栄 37	2 前	2			○		
		臨床栄養学Ⅱ	栄 38	2 後	2			○		
		臨床栄養学実習	栄 39	2 後	1					○
		栄養ケアマネジメント論	—	3 前	2			○		
栄養ケアマネジメント論実習		栄 41	3 前	1					○	
臨床検査学		栄 42	2 前	2			○			
在宅栄養支援論		栄 43	3・4 後		1		○			
障害者栄養支援論		栄 44	3・4 後		1		○			
公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ	栄 45	2 後	2			○			
	公衆栄養学Ⅱ	—	3 前	2			○			
	公衆栄養学実習	栄 47	3 前	1					○	
	国際栄養学	—	3・4 後		1		○			
管 給食経営 理 論	給食経営管理論Ⅰ	栄 49	2 前	2			○			
	給食経営管理論Ⅱ	栄 50	2 後	2			○			
	給食経営管理実習	栄 51	3 前	2					○	
	フードマネジメント論	栄 52	3・4 後		1		○			
演習 総合	総合演習	栄 53	4 前	1				○		
	栄養統計学	—	3 後	1			○			
	管理栄養士特別演習	—	4 通		2			○		
研究	卒業研究	栄 54	4 通	2					○	
臨地実習	臨床栄養臨地実習	栄 55	3 通	2					○	
	給食経営管理臨地実習	栄 56	3 通	2					○	
	公衆栄養臨地実習	栄 57	3 通		1				○	

【専門科目】  
（再掲）  
必修 78 単位  
＋  
選択 7 単位

別表（栄養学科 2019年以降入学生用）

科目区分		授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
専門科目	臨地実習	栄養管理臨地実習	栄 58	4 通		1				○	【専門科目】 （再掲） 必修 7 8 単位 + 選択 7 単位
		事前指導	栄 59	3 通	1				○		
		事後指導	栄 60	3 通	1				○		

別表（栄養学科 2019 年以降入学生用）

先修条件

【特色科目】

- 1 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「社会実習（ボランティア活動）」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。

【一般教養科目】

- 1 「実践統計学」を履修するには「統計学」の単位を修得済みであること。
- 2 「英語Ⅶ（上級英語）A」,「英語Ⅶ（上級英語） B」を履修するには「英語Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ,またはⅥ」の選択2単位を修得済みであること。

【専門科目】

- 1 「臨床栄養学実習」を履修するには、「臨床栄養学Ⅰ」の単位を修得済みであり、「臨床栄養学Ⅱ」の単位は修得見込みであること。
- 2 「公衆栄養学実習」を履修するには、「公衆栄養学Ⅱ」の単位を修得見込みであること。
- 3 「臨床栄養臨地実習」,「給食経営管理臨地実習」,「公衆栄養臨地実習」,「事前指導」及び「事後指導」を履修するには、3年前期に担当された必修の専門科目の単位を修得見込みであること。
- 4 「栄養教諭教育実習」及び「栄養教諭教育実習：事前・事後指導」を履修するには、管理栄養士課程の「臨床栄養臨地実習」及び「給食経営管理臨地実習」を単位修得済みであり、3年次終了までに担当された教職課程の全科目を単位修得済みであること。
- 5 「教職実践演習（栄養教諭）」を履修するには、3年次終了までに担当された教職課程の全科目を単位修得済みであり、「栄養教諭教育実習」の単位を修得見込みであること。

進級要件

以下の要件を満たした者でなければ、3年次に進級できない。

- 1 1・2年次に担当された特色科目および保健医療基礎科目の必修科目の単位を修得済みの者。
- 2 1・2年次に担当された専門科目の必修科目の単位を修得済みの者。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	6単位	1.8単位	2.4単位
保健医療基礎科目	1.0単位	4単位	1.4単位
専門科目	7.8単位	7単位	8.5単位
合計	9.7単位	2.9単位	12.6単位

別表（栄養学科 2019 年以降入学生用）

教職（栄養教諭一種）課程選択

栄養教諭一種免許取得希望者は、下表に指定する一般教養科目を含む卒業要件の 126 単位のほか、栄養教諭に関する科目を履修し、その単位を取得しなければならない。卒業時の取得単位数は 149 単位とする。

栄養教諭一種免許取得希望者の履修内容は次のとおりである。

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数	履修方法等		
一般教養科目	理解人間	健康スポーツ科学 (再掲)	一般 10	1・2・3 前後	1		
		生涯身体運動科学 (再掲)	一般 11	1・2・3 前後	1		
	環境生活と	法学（日本国憲法） (再掲)	一般 13	1・2・3 前	2		
		情報理解	情報リテラシー I (再掲)	一般 28	1・2・3 前		1
	情報リテラシー II (再掲)		一般 29	1・2・3 後	1		
	外国語群	英語 II（英会話） (再掲)	一般 33	1・2・3 前	1		3 科目のうち 2 単位を選択必修とする
		英語 IV（英語コミュニケーション） (再掲)	一般 35	1・2・3 後	1		
英語 VI（応用英語） (再掲)		一般 37	1・2・3 後	1			
栄養教諭に関する科目	栄養に係る教育に関する科目	食生活教育論	栄 61	3 前	2		
		学校栄養教育論	栄 62	3 後	2		
	教育の基礎的理解に関する科目	教職論	栄 63	1 後	2		
		教育学概論	栄 64	2 後	1		
		教育心理	栄 65	2 前	2		
		教育制度論	栄 66	2 後	1		
		カリキュラム論	栄 67	2 前	1		
		特別支援教育論	—	3 前	1		
	道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育の方法と技術	栄 68	3 前	2		
		道徳・総合的な学習・特別活動論	栄 69	2 前	1		
		生徒指導論	栄 70	3 前	1		
		教育相談	栄 71	3 後	2		
	教育実践に関する科目	教職実践演習（栄養教諭）	栄 72	4 後	2		
		栄養教諭教育実習：事前・事後指導	栄 73	4 通	1		
栄養教諭教育実習		栄 74	4 通	2			

(栄養学科 2018年度以前入学生用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
特色科目	千葉県の健康づくり	特色2	2後	1				○		必修3単位
	体験ゼミナール	特色1	1前	1					○	
	専門職間の連携活動論	特色3	4後	1				○		
一般教養科目	人間理解群	心理学	一般1	1・2・3・4前		2		○		必修9単位 + 人間理解群, 生活と環境群, 情報理解群から 選択13単位 + 外国語群から 選択2単位
		哲学	一般2	1・2・3・4前		2		○		
		文学	一般3	1・2・3・4前		2		○		
		歴史と文化	一般4	1・2・3・4前		2		○		
		生命倫理	一般5	1・2・3・4後	2			○		
		宗教学	一般6	1・2・3・4後		2		○		
		教育学	一般7	1・2・3・4後		2		○		
		人間関係論	一般8	1・2・3・4前		2		○		
		コミュニケーション理論と実際	一般9	1・2・3・4前		2		○		
		健康スポーツ科学	一般10	1・2・3・4前後		1			○	
		生涯身体運動科学	一般11	1・2・3・4前後		1			○	
	生活と環境群	生活とデザイン	一般12	1・2・3・4後	2			○		
		法学（日本国憲法）	一般13	1・2・3・4前		2		○		
		社会学	一般14	1・2・3・4後		2		○		
		文化人類学	一般15	1・2・3・4前		2		○		
		経済学	一般16	1・2・3・4前		2		○		
		国際関係論	一般17	1・2・3・4後		2		○		
		社会福祉学	一般18	1・2・3・4前		1		○		
		国際的な健康課題	一般19	1・2・3・4後	1			○		
		人権・ジェンダー	一般20	1・2・3・4後		2		○		
		科学論	一般21	1・2・3・4前		2		○		
		環境変化と生態	一般22	1・2・3・4後		2		○		
		観察生物学入門	一般23	1・2・3・4前後		2		○		
		生物学	一般24	1・2・3・4前後		2		○		
		物理学	一般25	1・2・3・4前		2		○		
		化学	一般26	1・2・3・4前		2		○		
	情報理解群	統計学	一般27	1・2・3・4後		1			○	
		情報リテラシーⅠ	一般28	1・2・3・4前	1				○	
		情報リテラシーⅡ	一般29	1・2・3・4後		1			○	
		情報倫理	一般30	1・2・3・4後	1			○		
	外国語群	英語Ⅰ（基礎講読）	一般32	1・2・3・4前		1			○	
		英語Ⅱ（基礎英会話）	一般33	1・2・3・4前		1			○	
		英語Ⅲ（講読・記述）	一般34	1・2・3・4後		1			○	
		英語Ⅳ（英会話）	一般35	1・2・3・4後		1			○	
		英語Ⅴ（保健医療英語）	一般36	2前	2			○		
		英語Ⅵ（応用英語）	一般37	1・2・3・4後		1			○	



(栄養学科 2018年度以前入学生用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	保健1	4前		1		○			必修11単位 + 選択8単位
		生化学総論	保健2	1前			1	○			
		栄養学Ⅰ(基礎)	保健3	2後			1	○			
		栄養学Ⅱ(応用)	保健4	2後			1	○			
		心の健康	保健5	2・4後		1		○			
		薬理学Ⅰ(総論)	保健6	1後	1			○			
		薬理学Ⅱ(各論)	保健7	1後	1			○			
		病理学Ⅰ(総論)	保健8	2前	1			○			
		病理学Ⅱ(各論)	保健9	2前	1			○			
		微生物学Ⅰ(総論)	保健10	1・4前		1		○			
		微生物学Ⅱ(各論)	保健11	1・4前		1		○			
		発達心理学	保健12	1・4前		1		○			
		臨床心理学	保健13	1・2・4後		1			○		
	健康と保健医療システム	健康論	保健14	1・4前		1		○			
		公衆衛生学Ⅰ(基礎)	保健15	2前	1			○			
		公衆衛生学Ⅱ(応用)	保健16	2後	1			○			
		疫学・保健統計Ⅰ(基礎)	保健17	3前	1			○			
		疫学・保健統計Ⅱ(応用)	保健18	3前	1			○			
		リハビリテーション概論	保健19	2・3後		1		○			
		救命・救急の理論と実際	保健20	2・4前		1		○			
		保健医療福祉論Ⅰ(基礎)	保健22	2後	1			○			
		保健医療福祉論Ⅱ(応用)	保健23	2後	1			○			
		食育論Ⅰ(基礎)	保健24	3前	1			○			
		食育論Ⅱ(応用)	保健25	3前		1		○			
		健康と運動	保健26	1・4後		1		○			
		家族社会学	保健27	1・4前		1		○			
		医療経営管理論	保健28	4後		1		○			
		リスクマネジメント論	保健29	2・4後		1		○			
		専門科目	専門基礎科目	管理栄養士導入教育	栄1	1前	1			○	
解剖学総論	—			1前	2			○			
解剖学実験	栄3			1後	1				○		
生理学総論	—			1後	2			○			
生理学実験	栄5			2前	1				○		
生化学	栄6			1前	2			○			
栄養生化学	栄7			1後	2			○			
生化学実験	栄8			2前	1				○		
疾病論	栄9			2前	2			○			
高齢者医療論	栄10			3後		1		○			
食品学各論	栄11			1前	2			○			
食品学実験	栄12			2前	1				○		
食品学総論演習	—			1後	2				○		
食品化学実験	栄14			2前	1				○		
理化学演習	栄15			1後		1			○		
食品衛生学	栄16			2後	2			○			

(栄養学科 2018年度以前入学生用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
専門科目	専門基礎科目	食品衛生学実験	栄 17	2 後	1					○
		食品加工学	栄 18	2 前	2			○		
		食品加工学実習	栄 19	4 前	1					○
		食品微生物学	栄 20	3 後		1		○		
		食事設計と調理	栄 21	1 前	2			○		
		食事設計と調理実習	栄 22	2 前	1					○
		調理実習	栄 23	1 後	1					○
		調理科学実験	栄 24	2 後	1					○
	学 栄養 基礎	基礎栄養学	栄 25	1 後	2			○		
		基礎栄養学実習	栄 26	2 後	1					○
	応用栄養学	応用栄養学Ⅰ	栄 27	2 後	2			○		
		応用栄養学Ⅱ	栄 28	3 前	2			○		
		応用栄養学Ⅲ	栄 29	3 後	2			○		
		応用栄養学実習	栄 30	3 前	1					○
		スポーツ栄養学	栄 31	3・4 後		1		○		
	栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	栄 32	2 後	2			○		
		栄養教育論Ⅱ	栄 33	3 前	2			○		
		栄養教育論実習	栄 34	3 前	1					○
		栄養教育手法論	栄 35	3 前	2			○		
		国際栄養学	栄 36	4 後		1		○		
	臨床栄養学	臨床栄養学Ⅰ	栄 37	2 前	2			○		
		臨床栄養学Ⅱ	栄 38	2 後	2			○		
		臨床栄養学実習	栄 39	2 後	1				○	
		栄養ケアマネジメント論演習	栄 40	3 通	2				○	
栄養ケアマネジメント論実習		栄 41	3 前	1					○	
臨床検査学		栄 42	2 前	2			○			
在宅栄養支援論		栄 43	3・4 後		1		○			
障害者栄養支援論		栄 44	3・4 後		1		○			
公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ	栄 45	2 前	2			○			
	公衆栄養学Ⅱ	栄 46	2 後	1			○			
	公衆栄養学実習	栄 47	3 前	1					○	
	栄養疫学	栄 48	4 前	1			○			
管 給食経営 理 論	給食経営管理論Ⅰ	栄 49	2 前	2			○			
	給食経営管理論Ⅱ	栄 50	2 後	2			○			
	給食経営管理実習	栄 51	3 前	2					○	
	フードマネジメント論	栄 52	3・4 後		1		○			
演 総合 習	総合演習	栄 53	4 前	1				○		
	卒業研究	栄 54	4 通		4			○		
臨地実習	臨床栄養臨地実習	栄 55	3 通	2					○	
	給食経営管理臨地実習	栄 56	3 通	2					○	
	公衆栄養臨地実習	栄 57	3 通		1				○	
	栄養管理臨地実習	栄 58	4 通		1				○	
	事前指導	栄 59	3 通	1				○		
	事後指導	栄 60	3 通	1				○		

【専門科目】  
(再掲)  
必修 7 6 単位  
+  
選択 4 単位

先修条件

【特色科目（平成28年度入学生より適用する）】

- 1 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「専門職間の連携活動論」を履修するには「体験ゼミナール」、「千葉県の健康づくり」の単位を修得済みであること。

【専門科目】

- 1 「臨床栄養学実習」を履修するには、「臨床栄養学Ⅰ」の単位を修得済みであり、「臨床栄養学Ⅱ」の単位は修得見込みであること。
- 2 「栄養ケアマネジメント論演習」及び「栄養ケアマネジメント論実習」を履修するには、「臨床栄養学実習」の単位を修得済みであること。
- 3 「公衆栄養学実習」を履修するには、「公衆栄養学Ⅰ」及び「公衆栄養学Ⅱ」の単位を修得済みであること。
- 4 「給食経営管理実習」を履修するには、「給食経営管理論Ⅰ」及び「給食経営管理論Ⅱ」の単位を修得済みであること。
- 5 「臨床栄養臨地実習」、「給食経営管理臨地実習」、「公衆栄養臨地実習」、「事前指導」及び「事後指導」を履修するには、2年生後期までに配当された必修の専門科目の単位を修得済みであり、3年前期に配当された必修の専門科目の単位を修得見込みであること。
- 6 「栄養教諭教育実習」及び「栄養教諭教育実習：事前・事後指導」を履修するには、管理栄養士課程の「臨床栄養臨地実習」及び「給食経営管理臨地実習」を単位修得済みであり、3年次終了までに配当された教職課程の全科目を単位修得済みであること。
- 7 「教職実践演習（栄養教諭）」を履修するには、3年次終了までに配当された教職課程の全科目を単位修得済みであり、「栄養教諭教育実習」の単位を修得見込みであること。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	9単位	15単位	24単位
保健医療基礎科目	11単位	8単位	19単位
専門科目	76単位	4単位	80単位
合計	99単位	27単位	126単位

教職（栄養教諭一種）課程選択

栄養教諭一種免許取得希望者は、下表に指定する一般教養科目を含む卒業要件の126単位のほか、栄養教諭に関する科目を履修し、その単位を取得しなければならない。卒業時の取得単位数は149単位とする。

栄養教諭一種免許取得希望者の履修内容は次のとおりである。

科目区分		授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数	履修方法等	
一般教養科目	理解群 人間	健康スポーツ科学 (再掲)	一般 10	1・2 前後	1		
		生涯身体運動科学 (再掲)	一般 11	1 前後・3 前	1		
	環境生活と	法学 (日本国憲法) (再掲)	一般 13	1・3 前	2		
	理解群 情報	情報リテラシー I (再掲)	一般 28	1 前	1		
		情報リテラシー II (再掲)	一般 29	1・2 後	1		
	外国語群	英語 II (基礎英会話) (再掲)	一般 33	1・2 前	1		3 科目のうち 2 単位を選択必修とする
		英語 IV (英会話) (再掲)	一般 35	1 後	1		
英語 VI (応用英語) (再掲)		一般 37	1 後	1			
栄養教諭に関する科目	栄養に係る教育に関する科目	食生活教育論	栄 61	3 前	2		
		学校栄養教育論	栄 62	3 後	2		
	教職科目	教職の意義	教職論	栄 63	1 後		2
		教育の基礎理論	教育学概論	栄 64	2 後		1
			教育心理	栄 65	2 前		2
			教育制度論	栄 66	2 後		1
		教育課程	カリキュラム論	栄 67	2 前		1
			教育の方法と技術	栄 68	3 前		2
			道徳教育・特別活動論	—	2 前		1
	生徒指導	生徒指導論	栄 70	3 前	2		
		教育相談	栄 71	3 後	2		
	総合演習	教職実践演習 (栄養教諭)	栄 72	4 後	2		
	栄養教育実習	栄養教諭教育実習：事前・事後指導	栄 73	4 通	1		
栄養教諭教育実習		栄 74	4 通	2			

別表（歯科衛生学科 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
特色科目	体験ゼミナール	特色1	1前	1					○	必修3単位
	千葉県の健康づくり	特色2	2後	1				○		
	専門職間の連携活動論	特色3	4後	1				○		
	社会実習（ボランティア活動）	特色4	2・3・4			1			○	
一般教養科目	人間理解群	心理学	一般1	1・2・3・4前		2		○		必修 9単位
		哲学	一般2	1・2・3・4前		2		○		
		文学	一般3	1・2・3・4前		2		○		
		歴史と文化	一般4	1・2・3・4前		2		○		
		生命倫理	一般5	1・2・3・4後	2			○		
		宗教学	一般6	1・2・3・4後		2		○		
		教育学	一般7	1・2・3・4後		2		○		
		人間関係論	一般8	1・2・3・4前		2		○		
		コミュニケーション理論と実際	一般9	1・2・3・4前		2		○		
		健康スポーツ科学	一般10	1・2・3・4前後	1				○	
		生涯身体運動科学	一般11	1・2・3・4前後		1			○	
	生活と環境群	生活とデザイン	一般12	1・2・3・4後		2		○		
		法学（日本国憲法）	一般13	1・2・3・4前	2			○		
		社会学	一般14	1・2・3・4後		2		○		
		文化人類学	一般15	1・2・3・4前		2		○		
		経済学	一般16	1・2・3・4前		2		○		
		国際関係論	一般17	1・2・3・4後		2		○		
		社会福祉学	一般18	1・2・3・4前		1		○		
		国際的な健康課題	一般19	1・2・3・4後		1		○		
		人権・ジェンダー	一般20	1・2・3・4後		2		○		
		科学論	一般21	1・2・3・4前		2		○		
		環境変化と生態	一般22	1・2・3・4後		2		○		
		観察生物学入門	一般23	1・2・3・4前後		2		○		
		生物学	一般24	1・2・3・4前後	2			○		
		物理学	一般25	1・2・3・4前		2		○		
		化学	一般26	1・2・3・4前		2		○		
	情報理解群	統計学	一般27	1・2・3・4後	1				○	
		情報リテラシーⅠ	一般28	1・2・3・4前	1				○	
		情報リテラシーⅡ	一般29	1・2・3・4後		1			○	
		情報倫理	一般30	1・2・3・4後		1		○		
		実践統計学	一般31	2・3・4前		1		○		
	外国語群	英語Ⅰ（講読）	一般32	1・2・3・4前		1			○	
		英語Ⅱ（英会話）	一般33	1・2・3・4前		1			○	
		英語Ⅲ（講読・記述）	一般34	1・2・3・4後		1			○	
		英語Ⅳ（英語コミュニケーション）	一般35	1・2・3・4後		1			○	
		英語Ⅴ（保健医療英語）	一般36	2前	2			○		
		英語Ⅵ（応用英語）	一般37	1・2・3・4後		1			○	
		英語Ⅶ（上級英語）A	一般38	2・3・4後		1		○		
		英語Ⅶ（上級英語）B	一般39	2・3・4後		1		○		

【一般教養科目】選択科目から選択11単位

別表（歯科衛生学科 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	保健 1	2 前		1		○		必修 13 単位 + 選択 3 単位
		生化学総論	保健 2	1 前		1		○		
		栄養学 I（基礎）	保健 3	1 後	1			○		
		栄養学 II（応用）	保健 4	1 後	1			○		
		心の健康	保健 5	1 後		1		○		
		薬理学 I（総論）	保健 6	1 後	1			○		
		薬理学 II（各論）	保健 7	1 後	1			○		
		病理学 I（総論）	保健 8	1 前	1			○		
		病理学 II（各論）	保健 9	1 前	1			○		
		微生物学 I（総論）	保健 10	1 前	1			○		
		微生物学 II（各論）	保健 11	1 前	1			○		
		発達心理学	保健 12	1 前		1		○		
		臨床心理学	保健 13	1 後		1			○	
	健康と保健医療システム	健康論	保健 14	1 前		1		○		
		公衆衛生学 I（基礎）	保健 15	2 前	1			○		
		公衆衛生学 II（応用）	保健 16	2 後		1		○		
		疫学・保健統計 I（基礎）	保健 17	3 前		1		○		
		疫学・保健統計 II（応用）	保健 18	3 前		1		○		
		リハビリテーション概論	保健 19	2 後	1			○		
		救命・救急の理論と実際	保健 20	2 前	1			○		
		画像診断学	保健 21	2・3・4 後		1		○		
		保健医療福祉論 I（基礎）	保健 22	2 後	1			○		
		保健医療福祉論 II（応用）	保健 23	2 後	1			○		
		食育論 I（基礎）	保健 24	3 前		1		○		
		食育論 II（応用）	保健 25	3 前		1		○		
		健康と運動	保健 26	1 後		1		○		
		家族社会学	保健 27	1 前		1		○		
		医療経営管理論	保健 28	4 後		1		○		
		リスクマネジメント論	保健 29	2 後		1		○		
専門科目	歯科衛生基礎	解剖学	歯 1	1 前	2			○		必修 27 単位
		生理学	歯 2	1 後	2			○		
		内科学概論	歯 3	1 後	1			○		
		高齢者医療論	歯 4	2 後	1			○		
		口腔解剖学	歯 5	1 前	2			○		
		口腔生理学	歯 6	2 前	1			○		
		口腔病理学	歯 7	1 後	1			○		
		口腔微生物学	歯 8	1 後	1			○		
		歯科薬理学	歯 9	2 前	1			○		
		歯科生化学・臨床検査法	歯 10	1 後	1			○		
		口腔衛生学	歯 11	1 後	2			○		
		歯科診断学	歯 12	2 後	1			○		
		歯科矯正学	歯 13	3 前	1			○		
		歯科材料学	歯 14	2 前	1			○		
		歯科保存学	歯 15	2 前	2			○		

別表（歯科衛生学科 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
専門科目	歯科衛生基礎	歯周治療学	歯 16	2 前	1			○			生涯歯科衛生及び歯科衛生健康推進から選択2単位	
		歯科補綴学	歯 17	2 前	2			○				
		顎口腔外科学	歯 18	2 前	2			○				
		顎口腔機能論	歯 19	2 前	1			○				
		歯科衛生基礎演習	歯 20	2 前	1				○			
	生涯歯科衛生	歯科衛生学概論	歯 21	1 前	2			○				必修 19単位
		歯科医療安全論	歯 22	2 前	1			○				
		チーム歯科医療論	歯 23	2 後	1			○				
		歯科疾患予防学	歯 24	2 前	1			○				
		発達歯科衛生学Ⅰ（小児）	歯 25	2 後	2			○				
		発達歯科衛生学Ⅱ（成人・高齢者）	歯 26	2 後	3			○				
		歯科衛生体験演習Ⅰ	歯 27	1 後	1				○			
		歯科衛生体験演習Ⅱ	歯 28	2 後	1				○			
		歯科診療補助演習	—	3 前	2				○			
		歯科予防処置演習	—	3 前	2				○			
		顎口腔機能リハビリテーション論	歯 31	2 後	1			○				
	顎口腔機能リハビリテーション演習	—	3 前	1				○				
	在宅歯科衛生管理論Ⅰ	歯 33	3 前	1			○					
	在宅歯科衛生管理論Ⅱ	歯 34	4 前		1		○					
	歯科衛生健康推進	歯科衛生アセスメント論	歯 35	3 前	1			○				必修 11単位
		保健行動科学論	歯 36	1 後	1			○				
		歯科保健指導・健康教育論	歯 37	2 前	1			○				
		歯科保健指導演習Ⅰ	歯 38	2 後	2				○			
		歯科保健指導演習Ⅱ	—	3 前	1				○			
		歯科衛生統計演習	—	3 前	1				○			
		地域歯科衛生学	歯 41	2 後	1			○				
		地域歯科衛生演習	—	3 前	1				○			
		衛生行政	歯 43	2 後	1			○				
		国際歯科衛生学	歯 44	3 前		1		○				
	臨床・臨地実習	歯科診療室基礎実習	歯 48	3 前	2					○		必修22 単位
		歯科診療所実習	歯 49	3 後	4					○		
		病院実習	歯 50	4 後	3					○		
		継続・個別支援実習Ⅰ	—	3 後	2					○		
		継続・個別支援実習Ⅱ	—	4 前	2					○		
発達歯科衛生実習Ⅰ（小児）		歯 52	4 前	2					○			
発達歯科衛生実習Ⅱ（成人・高齢者）		歯 53	4 前	2					○			
地域歯科衛生実習		歯 54	4 前	1					○			
歯科診療室総合実習Ⅰ		—	3 後	2					○			
歯科診療室総合実習Ⅱ		—	4 前	2					○			
研究	卒業研究	歯 56	3 後～4 通	2				○	必修2単位			



別表（歯科衛生学科 2019 年度以降入学生用）

先修条件

【特色科目】

- 1 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「社会実習（ボランティア活動）」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。

【一般教養科目】

- 1 「実践統計学」を履修するには「統計学」の単位を修得済みであること。
- 2 「英語Ⅶ（上級英語）A」, 「英語Ⅶ（上級英語）B」を履修するには「英語Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ, またはⅥ」の選択2科目の単位（2単位）を修得済みであること。

【専門科目】

- 1 歯科衛生基礎演習を履修するには、口腔微生物学、口腔衛生学の単位を修得済みであること。
- 2 歯科保健指導演習Ⅰを履修するには、保健行動科学論、歯科保健指導・健康教育論の単位を修得済みであること。
- 3 歯科保健指導演習Ⅱを履修するには、歯科衛生アセスメント論の単位を修得済みであること。
- 4 歯科診療室基礎実習を履修するには、歯科診療補助演習の単位を修得済みであること。
- 5 歯科診療室基礎実習及び病院実習を除く臨床・臨地実習を履修するには、保健医療基礎科目及び専門科目のうち、3年次前期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済みであること。
- 6 病院実習を履修するには、3年次後期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済みで、4年次前期に配当されているすべての必修科目の単位を修得済みであること。
- 7 卒業研究を履修するには、原則として3年次前期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済みであること。

進級要件

以下の要件を満たした者でなければ、3年次に進級できない。

- 1 1・2年次に配当された特色科目および保健医療基礎科目の必修科目の単位を修得済みの者。
- 2 1・2年次に配当された専門科目のうち、専門基礎科目、歯科衛生基礎科目の単位を修得済みの者。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	11単位	13単位	24単位
保健医療基礎科目	13単位	3単位	16単位
専門科目	81単位	2単位	83単位
合計	108単位	18単位	126単位

(歯科衛生学科 2018年度以前入学生用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
特色科目	千葉県の健康づくり	特色2	2後	1				○		必修3単位
	体験ゼミナール	特色1	1前	1					○	
	専門職間の連携活動論	特色3	4後	1				○		
一般教養科目	人間理解群	心理学	一般1	1・2・3・4前		2		○		必修 9単位
		哲学	一般2	1・2・3・4前		2		○		
		文学	一般3	1・2・3・4前		2		○		
		歴史と文化	一般4	1・2・3・4前		2		○		
		生命倫理	一般5	1・2・3・4後	2			○		
		宗教学	一般6	1・2・3・4後		2		○		
		教育学	一般7	1・2・3・4後		2		○		
		人間関係論	一般8	1・2・3・4前		2		○		
		コミュニケーション理論と実際	一般9	1・2・3・4前		2		○		
		健康スポーツ科学	一般10	1・2・3・4前後	1				○	
		生涯身体運動科学	一般11	1・2・3・4前後		1			○	
	生活と環境群	生活とデザイン	一般12	1・2・3・4後		2		○		
		法学(日本国憲法)	一般13	1・2・3・4前	2			○		
		社会学	一般14	1・2・3・4後		2		○		
		文化人類学	一般15	1・2・3・4前		2		○		
		経済学	一般16	1・2・3・4前		2		○		
		国際関係論	一般17	1・2・3・4後		2		○		
		社会福祉学	一般18	1・2・3・4前		1		○		
		国際的な健康課題	一般19	1・2・3・4後		1		○		
		人権・ジェンダー	一般20	1・2・3・4後		2		○		
		科学論	一般21	1・2・3・4前		2		○		
		環境変化と生態	一般22	1・2・3・4後		2		○		
		観察生物学入門	一般23	1・2・3・4前後		2		○		
		生物学	一般24	1・2・3・4前後	2			○		
		物理学	一般25	1・2・3・4前		2		○		
		化学	一般26	1・2・3・4前		2		○		
	情報理解群	統計学	一般27	1・2・3・4後	1				○	
		情報リテラシーⅠ	一般28	1・2・3・4前	1				○	
		情報リテラシーⅡ	一般29	1・2・3・4後		1			○	
		情報倫理	一般30	1・2・3・4後		1		○		
外国語群	英語Ⅰ(基礎講読)	一般32	1・2・3・4前		1			○	必修 2単位 + 選択 2単位	
	英語Ⅱ(基礎英会話)	一般33	1・2・3・4前		1			○		
	英語Ⅲ(講読・記述)	一般34	1・2・3・4後		1			○		
	英語Ⅳ(英会話)	一般35	1・2・3・4後		1			○		
	英語Ⅴ(保健医療英語)	一般36	2前	2			○			
	英語Ⅵ(応用英語)	一般37	1・2・3・4後		1			○		

【一般教養科目】選択科目から選択13単位

(歯科衛生学科 2018 年度以前入学生用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	保健 1	2 前		1		○		必修 16 単位 + 選択 3 単位
		生化学総論	保健 2	1 前		1		○		
		栄養学 I (基礎)	保健 3	1 後	1			○		
		栄養学 II (応用)	保健 4	1 後	1			○		
		心の健康	保健 5	1 後	1			○		
		薬理学 I (総論)	保健 6	1 後	1			○		
		薬理学 II (各論)	保健 7	1 後	1			○		
		病理学 I (総論)	保健 8	1 前	1			○		
		病理学 II (各論)	保健 9	1 前	1			○		
		微生物学 I (総論)	保健 10	1 前	1			○		
		微生物学 II (各論)	保健 11	1 前	1			○		
		発達心理学	保健 12	1 前		1		○		
		臨床心理学	保健 13	1 後		1			○	
	健康と保健医療システム	健康論	保健 14	1 前		1		○		
		公衆衛生学 I (基礎)	保健 15	2 前	1			○		
		公衆衛生学 II (応用)	保健 16	2 後	1			○		
		疫学・保健統計 I (基礎)	保健 17	3 前		1		○		
		疫学・保健統計 II (応用)	保健 18	3 前		1		○		
		リハビリテーション概論	保健 19	2 後	1			○		
		救命・救急の理論と実際	保健 20	2 前	1			○		
		保健医療福祉論 I (基礎)	保健 22	2 後	1			○		
		保健医療福祉論 II (応用)	保健 23	2 後	1			○		
		食育論 I (基礎)	保健 24	3 前	1			○		
		食育論 II (応用)	保健 25	3 前		1		○		
		健康と運動	保健 26	1 後		1		○		
		家族社会学	保健 27	1 前		1		○		
		医療経営管理論	保健 28	4 後		1		○		
		リスクマネジメント論	保健 29	2 後		1		○		
		専門科目	歯科衛生基礎	解剖学総論	—	1 前	2			
生理学総論	—			1 後	2			○		
内科学概論	歯 3			1 後	1			○		
高齢者医療論	歯 4			2 後	1			○		
口腔解剖学	歯 5			1 前	2			○		
口腔生理学	歯 6			2 前	1			○		
口腔病理学	歯 7			1 後	1			○		
口腔微生物学	歯 8			1 後	1			○		
歯科薬理学	歯 9			2 前	1			○		
歯科生化学・臨床検査法	歯 10			1 後	1			○		
口腔衛生学	歯 11			1 後	2			○		
歯科感染予防学	—			2 後	1			○		
歯科診断学	歯 12			2 後	1			○		
歯科矯正学	歯 13			3 前	1			○		
歯科材料学	歯 14			2 前	1			○		
歯科治療学 I (保存修復・歯内療法)	—			2 前	2			○		

(歯科衛生学科 2018年度以前入学生用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
専門科目	歯科衛生基礎	歯科治療学Ⅱ (歯周治療学)	—	2前	1			○		
		歯科治療学Ⅲ (歯科補綴学)	—	2前	2			○		
		顎口腔外科学	歯 18	2前	2			○		
		顎口腔機能論	歯 19	2前	1			○		
		歯科衛生基礎演習	歯 20	2前	1				○	
	生涯歯科衛生	歯科衛生学概論	歯 21	1前	2			○		
		チーム歯科医療論	歯 23	2前	1			○		
		歯科疾患予防学	歯 24	2前	1			○		
		発達歯科衛生学Ⅰ (小児)	歯 25	2後	2			○		
		発達歯科衛生学Ⅱ (成人・高齢者)	歯 26	2後	3			○		
		演習Ⅰ (歯科材料・歯科診療補助)	歯 29	3前	2				○	
		演習Ⅱ (歯科予防処置)	歯 30	3前	2				○	
		顎口腔機能リハビリテーション論	歯 31	2後	1			○		
		演習Ⅲ (口腔機能リハビリテーション)	歯 32	3前	1				○	
	在宅歯科衛生管理論Ⅰ	歯 33	3前	1			○			
	在宅歯科衛生管理論Ⅱ	歯 34	4前		1		○			
	歯科衛生健康推進	歯科衛生アセスメント論	歯 35	3前	1			○		
		保健行動科学論	歯 36	2前	1			○		
		歯科保健指導・健康教育論	歯 37	2前	1			○		
		演習Ⅳ (歯科保健指導・カウンセリング)	歯 39	2後～3前	3				○	
		歯科衛生統計学	歯 40	3前	1			○		
		地域歯科衛生学	歯 41	2後	1			○		
		演習Ⅴ (地域歯科衛生)	歯 42	3前	1				○	
		国際歯科衛生学	歯 44	3前		1		○		
		歯科医療管理論	歯 45	4前		1		○		
		社会保障・社会保険論	歯 46	3前	1			○		
	総合演習	歯 47	3後	1				○		
	臨床・臨地実習	歯科診療室基礎実習	歯 48	3前	2					○
		歯科診療所実習	歯 49	3後	4					○
		病院実習	歯 50	4後	3					○
		継続・個別支援実習	歯 51	3後・4前	4					○
		発達歯科衛生実習Ⅰ (小児)	歯 52	4前	2					○
		発達歯科衛生実習Ⅱ (成人・高齢者)	歯 53	4前	2					○
		地域歯科衛生実習	歯 54	4前	1					○
歯科診療室総合実習	歯 55	3後・4前	4					○		
研究	卒業研究	歯 56	3後～4通		3			○		

生涯歯科衛生及び歯科衛生健康推進から選択3単位

必修  
16単位

必修  
11単位

必修22  
単位

### 先修条件

#### 【特色科目 (平成28年度入学生より適用する)】

- 1 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「専門職間の連携活動論」を履修するには「体験ゼミナール」、「千葉県の健康づくり」の単位を修得済みであること。

#### 【専門科目】

- 1 歯科衛生基礎演習を履修するには、口腔微生物学、口腔衛生学の単位を修得済み、又は単位修得見込みであること。
- 2 演習Ⅰ (歯科材料・歯科診療補助)を履修するには、歯科材料学、チーム歯科医療論の単位を修得済みであること。
- 3 演習Ⅱ (歯科予防処置)を履修するには、歯科疾患予防学の単位を修得済みであること。
- 4 演習Ⅲ (口腔機能リハビリテーション)を履修するには、顎口腔機能論、顎口腔機能リハビリテーションの単位を修得済み、又は単位修得見込みであること。
- 5 演習Ⅳ (歯科保健指導・カウンセリング)を履修するには、歯科衛生アセスメント論、保健行動科学論、歯科保健指導・健康教育論の単位を修得済み、又は単位修得見込みであること。
- 6 演習Ⅴ (地域歯科衛生)を履修するには、地域歯科衛生学の単位を修得済みであること。
- 7 総合演習を履修するには、演習Ⅰ、演習Ⅱ、演習Ⅲ、演習Ⅳ、演習Ⅴすべての単位を修得済みであること。
- 8 歯科診療室基礎実習を履修するには、以下のア、イの条件を満たさなければならない。  
ア 保健医療基礎科目及び専門科目のうち、2年次後期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済みであること。  
イ 演習Ⅰ (歯科材料・歯科診療補助)の単位を修得済み、又は単位修得見込みであること。
- 9 歯科診療室基礎実習を除く臨床・臨地実習を履修するには、保健医療基礎科目及び専門科目のうち、3年次前期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済みであること。
- 10 卒業研究を履修するには、原則として4年次前期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済み、又は単位修得見込みであること。

### 卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	11単位	13単位	24単位
保健医療基礎科目	16単位	3単位	19単位
専門科目	77単位	3単位	80単位
合計	107単位	19単位	126単位

別表（リハビリテーション学科理学療法学専攻 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
特色科目	体験ゼミナール	特色1	1前	1					○	必修3単位	
	千葉県の健康づくり	特色2	2後	1				○			
	専門職間の連携活動論	特色3	4後	1				○			
	社会実習（ボランティア活動）	特色4	2・3・4			1			○		
1・2・3・4前	人間理解群	心理学	一般1	1・2・3・4前		2		○			必修4単位
		哲学	一般2	1・2・3・4前		2		○			
		文学	一般3	1・2・3・4前		2		○			
		歴史と文化	一般4	1・2・3・4前		2		○			
		生命倫理	一般5	1・2・3・4後		2		○			
		宗教学	一般6	1・2・3・4後		2		○			
		教育学	一般7	1・2・3・4後		2		○			
		人間関係論	一般8	1・2・3・4前	2			○			
		コミュニケーション理論と実際	一般9	1・2・3・4前	2			○			
		健康スポーツ科学	一般10	1・2・3・4前後		1			○		
		生涯身体運動科学	一般11	1・2・3・4前後		1			○		
	生活と環境群	生活とデザイン	一般12	1・2・3・4後		2		○			必修2単位 一般教養科目から選択12単位
		法学（日本国憲法）	一般13	1・2・3・4前		2		○			
		社会学	一般14	1・2・3・4後		2		○			
		文化人類学	一般15	1・2・3・4前		2		○			
		経済学	一般16	1・2・3・4前		2		○			
		国際関係論	一般17	1・2・3・4後		2		○			
		社会福祉学	一般18	1・2・3・4前		1		○			
		国際的な健康課題	一般19	1・2・3・4後		1		○			
		人権・ジェンダー	一般20	1・2・3・4後		2		○			
		科学論	一般21	1・2・3・4前		2		○			
		環境変化と生態	一般22	1・2・3・4後		2		○			
		観察生物学入門	一般23	1・2・3・4前後		2		○			
		生物学	一般24	1・2・3・4前後		2		○			
		物理学	一般25	1・2・3・4前	2			○			
		化学	一般26	1・2・3・4前		2		○			
情報理解群	統計学	一般27	1・2・3・4後		1			○		必修2単位	
	情報リテラシーⅠ	一般28	1・2・3・4前	1				○			
	情報リテラシーⅡ	一般29	1・2・3・4後		1			○			
	情報倫理	一般30	1・2・3・4後	1				○			
	実践統計学	一般31	2・3・4後		1			○			
外国語群	英語Ⅰ（講読）	一般32	1・2・3・4前		1			○		必修2単位 + 選択2単位	
	英語Ⅱ（英会話）	一般33	1・2・3・4前		1			○			
	英語Ⅲ（講読・記述）	一般34	1・2・3・4後		1			○			
	英語Ⅳ（英語コミュニケーション）	一般35	1・2・3・4後		1			○			
	英語Ⅴ（保健医療英語）	一般36	2前	2				○			
	英語Ⅵ（応用英語）	一般37	1・2・3・4後		1			○			
	英語Ⅶ（上級英語）A	一般38	2・3・4後		1			○			
	英語Ⅶ（上級英語）B	一般39	2・3・4後		1			○			

別表（リハビリテーション学科理学療法専攻 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	保健1	2前		1		○			必修10単位 + 選択2単位
		生化学総論	保健2	1前		1		○			
		栄養学Ⅰ（基礎）	保健3	1後	1			○			
		栄養学Ⅱ（応用）	保健4	1後		1		○			
		心の健康	保健5	1後		1		○			
		薬理学Ⅰ（総論）	保健6	1後		1		○			
		薬理学Ⅱ（各論）	保健7	1後		1		○			
		病理学Ⅰ（総論）	保健8	1前	1			○			
		病理学Ⅱ（各論）	保健9	1前		1		○			
		微生物学Ⅰ（総論）	保健10	1前	1			○			
		微生物学Ⅱ（各論）	保健11	1前		1		○			
		発達心理学	保健12	1前		1		○			
		臨床心理学	保健13	1後	1				○		
	健康と保健医療システム	健康論	保健14	1前		1		○			
		公衆衛生学Ⅰ（基礎）	保健15	2前	1			○			
		公衆衛生学Ⅱ（応用）	保健16	2後		1		○			
		疫学・保健統計Ⅰ（基礎）	保健17	3前		1		○			
		疫学・保健統計Ⅱ（応用）	保健18	3前		1		○			
		リハビリテーション概論	保健19	1後	1			○			
		救命・救急の理論と実際	保健20	2前	1			○			
		画像診断学	保健21	2後	1			○			
		保健医療福祉論Ⅰ（基礎）	保健22	2後	1			○			
		保健医療福祉論Ⅱ（応用）	保健23	2後		1		○			
		食育論Ⅰ（基礎）	保健24	3前		1		○			
		食育論Ⅱ（応用）	保健25	3前		1		○			
		健康と運動	保健26	1後		1		○			
		家族社会学	保健27	1前		1		○			
		医療経営管理論	保健28	4後		1		○			
		リスクマネジメント論	保健29	2後	1			○			
専門科目	リハビリテーション専門基礎科目	人体の構造Ⅰ（筋・骨・神経系の構造）	理1	1前	1			○			必修25単位 + 選択1単位
		人体の構造Ⅱ（脈管・内臓・感覚器の構造）	理2	1後	1			○			
		人体の構造実習	理3	1後	1				○		
		人体の機能Ⅰ（動物性功能）	理4	1前	1			○			
		人体の機能Ⅱ（植物性功能）	理5	1後	1			○			
		人体の機能実習	理6	2前	1				○		
		運動学Ⅰ（運動の基礎科学）	理7	1後	1			○			
		運動学Ⅱ（応用的運動科学）	理8	2前	1			○			
		運動学実習	理9	2後	1				○		
		臨床運動学	理10	2後	1			○			
		機能解剖学	理11	1後	1			○			
		人間工学	理12	2後		1		○			
		人間発達学	理13	2前	1			○			
		医学総論	理14	1後	1			○			
		内科学総論	理15	2前	1			○			
		内科学各論	理16	2後	1			○			
		神経内科学総論	理17	2前	1			○			
		神経内科学各論	理18	2後	1			○			
		整形外科学総論	理19	2前	1			○			



別表（リハビリテーション学科理学療法学専攻 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
	整形外科学各論	理 20	2 後	1				○		
	精神神経科学総論	理 21	2 前	1				○		
	精神神経科学各論	理 22	2 後		1			○		
	臨床薬理学	理 23	2 後	1			○			
	老年科学	理 24	3 前	1				○		
	小児科学	理 25	3 前	1				○		
	臨床医学概論	理 26	3 前	1				○		
	リハビリテーション医学	理 27	3 前	1				○		
理学療法専門基礎科目	理学療法概論	理 28	1 前	1				○		必修 20 単位
	理学療法管理学	理 29	4 後	2			○			
	運動療法学	理 30	2 前	2			○			
	理学療法評価学Ⅰ	理 31	2 前	2			○			
	理学療法評価学演習	理 32	2 前	1				○		
	理学療法評価学Ⅱ（神経系）	理 33	2 後	1			○			
	理学療法評価学Ⅲ（統合・解釈）	理 34	2 後	1				○		
	理学療法評価学Ⅳ（画像評価）	—	3 後	1			○			
	日常生活活動学	理 35	2 前	2			○			
	日常生活活動学演習	理 36	2 後	1				○		
	物理療法学	理 37	2 後	1			○			
	物理療法学演習	理 38	2 後	1				○		
	義肢装具学	—	3 前	2			○			
	義肢装具学演習	—	3 前	1				○		
理学療法研究方法論	—	3 前	1				○			
専門科目	理学療法専門科目	運動器障害理学療法学	—	3 前	2			○		必修 22 単位 + 選択 1 単位
		運動器障害理学療法学演習	—	3 後	1				○	
		神経系障害理学療法学	—	3 前	2			○		
		神経系障害理学療法学演習	—	3 後	1				○	
		内部障害理学療法学	—	3 前	2			○		
		内部障害理学療法学演習	—	3 後	1				○	
		老年期障害理学療法学	—	3 前	2			○		
		老年期障害理学療法学演習	—	3 後	1				○	
	理学療法専門科目	発達障害理学療法学	—	3 前	2			○		
		発達障害理学療法学演習	—	3 後	1				○	
		発達障害理学療法学特論	—	3 後		1		○		
		地域理学療法学	—	3 前	2			○		
		地域理学療法学演習	—	3 後	1				○	
		理学療法技術論	—	4 後	1				○	
		生体機能計測学	—	3 前		1			○	
		理学療法応用評価学	—	3 後	1				○	
		理学療法学特論Ⅰ（運動器・老年期）	—	3 後		1			○	
理学療法学特論Ⅱ（神経系・内部・地域）	—	3 後		1			○			
発展領域論（がん・予防・臨床研究解析法）	—	4 後	2				○			

別表（リハビリテーション学科理学療法学専攻 2019年度以降入学生用）

臨床実習	臨床体験実習	理 63	1 後	1					○	必修 20 単位
	評価実習	—	3 後	4					○	
	総合実習Ⅰ	—	4 前	7					○	
	総合実習Ⅱ	—	4 前	7					○	
	地域理学療法学実習	—	4 後	1					○	
研究	卒業研究	—	4 通	2				○	必修 2 単位	

## 先修条件

## 【特色科目】

- 1 「千葉県健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「社会実習（ボランティア活動）」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。

## 【一般教養科目】

- 1 「実践統計学」を履修するには「統計学」の単位を修得済みであること。
- 2 「英語Ⅶ（上級英語）A」「英語Ⅶ（上級英語）B」を履修するには「英語Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ，またはⅥ」の選択 2 単位を修得済みであること。

## 【専門科目】

- 1 2 年次配当の「リハビリテーション専門基礎科目」「理学療法専門基礎科目」を履修するには、1 年次配当の「リハビリテーション専門基礎科目」および「理学療法概論」の単位を修得済みであること。
- 2 「評価実習」を履修するには、3 学年前期までに開講するすべての必修科目の単位を修得済みであること。
- 3 「総合実習Ⅰ」，「総合実習Ⅱ」，「地域理学療法学実習」および「卒業研究」を履修するには、3 学年後期までに開講するすべての必修科目の単位を修得済みであること。

## 進級要件

以下の要件を満たした者でなければ、3 年次に進級できない。

- 1 1・2 年次に配当された特色科目および保健医療基礎科目の必修科目の単位を修得済みの者。
- 2 1・2 年次に配当された専門科目の必修科目の単位を修得済みの者。

## 卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3 単位	0 単位	3 単位
一般教養科目	10 単位	14 単位	24 単位
保健医療基礎科目	10 単位	2 単位	12 単位
専門科目	89 単位	2 単位	91 単位

(リハビリテーション学科理学療法学専攻 2018年度以前入学生用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
特色科目	体験ゼミナール	特色1	1前	1					○	必修3単位
	千葉県の健康づくり	特色2	2後	1				○		
	専門職間の連携活動論	特色3	4後	1				○		
一般教養科目	人間理解群	心理学	一般1	1・2・3・4前	2			○		必修2単位
		哲学	一般2	1・2・3・4前		2		○		
		文学	一般3	1・2・3・4前		2		○		
		歴史と文化	一般4	1・2・3・4前		2		○		
		生命倫理	一般5	1・2・3・4後		2		○		
		宗教学	一般6	1・2・3・4後		2		○		
		教育学	一般7	1・2・3・4後		2		○		
		人間関係論	一般8	1・2・3・4前		2		○		
		コミュニケーション理論と実際	一般9	1・2・3・4前		2		○		
		健康スポーツ科学	一般10	1・2・3・4前後		1			○	
		生涯身体運動科学	一般11	1・2・3・4前後		1			○	
	生活と環境群	生活とデザイン	一般12	1・2・3・4後		2		○		必修2単位 このうち「人間関係論」「コミュニケーション理論と実際」から1科目を選択  「文化人類学」「国際関係論」「国際的な健康課題」から1科目を選択
		法学（日本国憲法）	一般13	1・2・3・4前		2		○		
		社会学	一般14	1・2・3・4後		2		○		
		文化人類学	一般15	1・2・3・4前		2		○		
		経済学	一般16	1・2・3・4前		2		○		
		国際関係論	一般17	1・2・3・4後		2		○		
		社会福祉学	一般18	1・2・3・4前		1		○		
		国際的な健康課題	一般19	1・2・3・4後		1		○		
		人権・ジェンダー	一般20	1・2・3・4後		2		○		
		科学論	一般21	1・2・3・4前		2		○		
		環境変化と生態	一般22	1・2・3・4後		2		○		
		観察生物学入門	一般23	1・2・3・4前後		2		○		
		生物学	一般24	1・2・3・4前後		2		○		
		物理学	一般25	1・2・3・4前		2		○		
		化学	一般26	1・2・3・4前		2		○		
	情報理解群	統計学	一般27	1・2・3・4後	1				○	必修2単位
		情報リテラシーⅠ	一般28	1・2・3・4前	1				○	
		情報リテラシーⅡ	一般29	1・2・3・4後		1			○	
		情報倫理	一般30	1・2・3・4後		1			○	
	外国語群	英語Ⅰ（基礎講読）	一般32	1・2・3・4前		1			○	必修2単位 + 選択2単位
		英語Ⅱ（基礎英会話）	一般33	1・2・3・4前		1			○	
		英語Ⅲ（講読・記述）	一般34	1・2・3・4後		1			○	
		英語Ⅳ（英会話）	一般35	1・2・3・4後		1			○	
		英語Ⅴ（保健医療英語）	一般36	1・2・3・4前		2			○	
		英語Ⅵ（応用英語）	一般37	1・2・3・4後		1			○	

(リハビリテーション学科理学療法学専攻 2018年度以前入学生用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	保健1	2前		1		○		必修7単位 + 選択2単位
		生化学総論	保健2	1前		1		○		
		栄養学Ⅰ(基礎)	保健3	1後		1		○		
		栄養学Ⅱ(応用)	保健4	1後		1		○		
		心の健康	保健5	1後		1		○		
		薬理学Ⅰ(総論)	保健6	1後		1		○		
		薬理学Ⅱ(各論)	保健7	1後		1		○		
		病理学Ⅰ(総論)	保健8	1前	1			○		
		病理学Ⅱ(各論)	保健9	1前		1		○		
		微生物学Ⅰ(総論)	保健10	1前	1			○		
		微生物学Ⅱ(各論)	保健11	1前		1		○		
		発達心理学	保健12	1前		1		○		
		臨床心理学	保健13	1後	1				○	
	健康と保健医療システム	健康論	保健14	1前	1			○		
		公衆衛生学Ⅰ(基礎)	保健15	2前		1		○		
		公衆衛生学Ⅱ(応用)	保健16	2後		1		○		
		疫学・保健統計Ⅰ(基礎)	保健17	3前		1		○		
		疫学・保健統計Ⅱ(応用)	保健18	3前		1		○		
		リハビリテーション概論	保健19	1後	1			○		
		救命・救急の理論と実際	保健20	2前		1		○		
		保健医療福祉論Ⅰ(基礎)	保健22	2後	1			○		
		保健医療福祉論Ⅱ(応用)	保健23	2後	1			○		
		食育論Ⅰ(基礎)	保健24	3前		1		○		
		食育論Ⅱ(応用)	保健25	3前		1		○		
		健康と運動	保健26	1後		1		○		
		家族社会学	保健27	1前		1		○		
		医療経営管理論	保健28	4後		1		○		
		リスクマネジメント論	保健29	2後		1		○		
		専門科目	リハビリテーション専門基礎科目	人体の構造Ⅰ(筋・骨・神経系の構造)	理1	1前	1			
人体の構造Ⅱ(脈管・内臓・感覚器の構造)	理2			1後	1			○		
人体の構造実習	理3			1後	1				○	
人体の機能Ⅰ(動物性機能)	理4			1前	1			○		
人体の機能Ⅱ(植物性機能)	理5			1後	1			○		
人体の機能実習	理6			2前	1				○	
運動学Ⅰ(運動の基礎科学)	理7			1後	1			○		
運動学Ⅱ(応用的運動科学)	理8			2前	1			○		
運動学実習	理9			2後	1				○	
臨床運動学	理10			2後	1			○		
機能解剖学	理11			1後	1			○		
人間工学	理12			2後		1		○		
人間発達学	理13			2前	1			○		
医学総論	理14			1後	1			○		
内科学総論	理15			2前	1			○		
内科学各論	理16			2後	1			○		
神経内科学総論	理17			2前	1			○		
神経内科学各論	理18			2後	1			○		
整形外科学総論	理19			2前	1			○		

(リハビリテーション学科理学療法学専攻 2018年度以前入学生用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
	整形外科各論	理 20	2 後	1				○		
	精神神経科学総論	理 21	2 前	1				○		
	精神神経科学各論	理 22	2 後		1			○		
	老年科学	理 24	3 前	1				○		
	小児科学	理 25	3 前	1				○		
	臨床医学概論	理 26	3 前	1				○		
	リハビリテーション医学	理 27	3 前	1				○		
理学療法専門基礎科目	理学療法概論	理 28	1 前	2			○			必修 18 単位
	理学療法管理学	理 29	4 後	1			○			
	運動療法学	理 30	2 前	2			○			
	理学療法測定学	—	2 前	2			○			
	理学療法測定学演習	—	2 前	1				○		
	理学療法臨床測定学	—	2 後	1				○		
	日常生活活動学	理 35	2 前	2			○			
	日常生活活動学演習	理 36	2 後	1				○		
	物理療法学	理 37	2 後	1			○			
	物理療法学演習	理 38	2 後	1				○		
	義肢装具学	理 39	3 前	2			○			
	義肢装具学演習	理 40	3 前	1				○		
	理学療法研究方法論	理 41	3 前	1				○		
専門科目	運動器障害理学療法学	理 42	3 前	2			○			必修 23 単位 + 選択 2 単位
	運動器障害理学療法学演習	理 43	3 後	1				○		
	運動器障害理学療法学特論	理 44	3 後		1			○		
	神経系障害評価学	理 45	3 前	1			○			
	神経系障害理学療法学	理 46	3 前	2			○			
	神経系障害理学療法学演習	理 47	3 後	1				○		
	神経系障害理学療法学特論	理 48	3 後		1			○		
	内部障害理学療法学	理 49	3 前	2			○			
	内部障害理学療法学演習	理 50	3 後	1				○		
	内部障害理学療法学特論	理 51	3 後		1		○			
	老年期障害理学療法学	理 52	3 前	2			○			
	老年期障害理学療法学演習	理 53	3 後	1				○		
	発達障害理学療法学	理 54	3 前	2			○			
	発達障害理学療法学演習	理 55	3 後	1				○		
	発達障害理学療法学特論	理 56	3 後		1		○			
	地域理学療法学	理 57	3 前	2			○			
	地域理学療法学演習	理 58	3 後	1				○		
	地域理学療法学特論	理 59	3 後	1			○			
	理学療法技術論	理 60	4 後	1				○		
生体機能計測学	理 61	3 前	1				○			
理学療法発展領域論	理 62	4 後	1				○			

(リハビリテーション学科理学療法学専攻 2018年度以前入学生用)

臨床実習	臨床実習Ⅰ (体験実習)	—	1後	1					○	必修20単位
	臨床実習Ⅱ (評価実習)	理64	3後	5					○	
	臨床実習Ⅲ (運動器系総合実習)	理65	4前	7					○	
	臨床実習Ⅳ (神経系総合実習)	理66	4前	7					○	
研究	卒業研究	理67	4通	2				○		必修2単位

先修条件

【特色科目 (平成28年度入学生より適用する)】

- 1 「千葉県健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「専門職間の連携活動論」を履修するには「体験ゼミナール」、「千葉県健康づくり」の単位を修得済みであること。

【専門科目】

- 1 「運動療法学」、「臨床運動学」、「理学療法測定学」、「理学療法測定学演習」、「理学療法臨床測定学」および「神経系障害評価学」を履修するには、1年次配当の必修科目「人体の構造Ⅰ」、「人体の構造Ⅱ」、「人体の構造実習」、「運動学Ⅰ」および「機能解剖学」単位を修得済みであること。
- 2 「物理療法学」、「日常生活活動学」、「運動器障害理学療法学」、「神経系障害理学療法学」および「発達障害理学療法学」を履修するには、1年次配当の必修科目「人体の機能Ⅰ」、「人体の機能Ⅱ」の単位を修得済みであること。
- 3 「臨床実習Ⅱ」を履修するには、3学年前期までに開講するすべての必修科目の単位を修得済みであること。
- 4 「臨床実習Ⅲ」および「臨床実習Ⅳ」を履修するには、3年後期までに開講するすべての必修科目 (「臨床実習Ⅱ」を含む) の単位を修得済みであること。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	8単位	16単位	24単位
保健医療基礎科目	7単位	2単位	9単位
専門科目	87単位	3単位	90単位
合計	105単位	21単位	126単位

別表（リハビリテーション学科作業療法学専攻 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
特色科目	体験ゼミナール	特色 1	1 前	1					○	必修 3 単位
	千葉県の健康づくり	特色 2	2 後	1				○		
	専門職間の連携活動論	特色 3	4 後	1				○		
	社会実習（ボランティア活動）	特色 4	2・3・4			1			○	
一般教養科目	人間理解群	心理学	一般 1	1・2・3・4 前	2			○		必修 2 単位 + 選択 2 単位 (※4)
		哲学	一般 2	1・2・3・4 前		2		○		
		文学	一般 3	1・2・3・4 前		2		○		
		歴史と文化	一般 4	1・2・3・4 前		2		○		
		生命倫理	一般 5	1・2・3・4 後		2		○		
		宗教学	一般 6	1・2・3・4 後		2		○		
		教育学	一般 7	1・2・3・4 後		2		○		
		人間関係論	一般 8	1・2・3・4 前		2		○		
		コミュニケーション理論と実際	一般 9	1・2・3・4 前		2		○		
		健康スポーツ科学	一般 10	1・2・3・4 前後		1			○	
		生涯身体運動科学	一般 11	1・2・3・4 前後		1			○	
	生活と環境群	生活とデザイン	一般 12	1・2・3・4 後		2		○		必修 2 単位
		法学（日本国憲法）	一般 13	1・2・3・4 前		2		○		
		社会学	一般 14	1・2・3・4 後		2		○		
		文化人類学	一般 15	1・2・3・4 前		2		○		
		経済学	一般 16	1・2・3・4 前		2		○		
		国際関係論	一般 17	1・2・3・4 後		2		○		
		社会福祉学	一般 18	1・2・3・4 前		1		○		
		国際的な健康課題	一般 19	1・2・3・4 後		1		○		
		人権・ジェンダー	一般 20	1・2・3・4 後		2		○		
		科学論	一般 21	1・2・3・4 前		2		○		
		環境変化と生態	一般 22	1・2・3・4 後		2		○		
		観察生物学入門	一般 23	1・2・3・4 前後		2		○		
		生物学	一般 24	1・2・3・4 前後		2		○		
		物理学	一般 25	1・2・3・4 前	2			○		
		化学	一般 26	1・2・3・4 前		2		○		
情報理解群	統計学	一般 27	1 後	1				○	必修 2 単位	
	情報リテラシー I	一般 28	1 前	1				○		
	情報リテラシー II	一般 29	1・2・3・4 後		1			○		
	情報倫理	一般 30	1・2・3・4 後		1		○			
	実践統計学	一般 31	2・3・4 後		1		○			
外国語群	英語 I（講読）	一般 32	1・2・3・4 前		1			○	必修 2 単位 + 選択 2 単位	
	英語 II（英会話）	一般 33	1・2・3・4 前		1			○		
	英語 III（講読・記述）	一般 34	1・2・3・4 後		1			○		
	英語 IV（英語コミュニケーション）	一般 35	1・2・3・4 後		1			○		
	英語 V（保健医療英語）	一般 36	2 前	2			○			
	英語 VI（応用英語）	一般 37	1・2・3・4 後		1			○		
	英語 VII（上級英語） A	一般 38	2・3・4 後		1		○			
	英語 VII（上級英語） B	一般 39	2・3・4 後		1		○			

【一般教養科目】選択科目から選択 12 単位



別表（リハビリテーション学科作業療法学専攻 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	保健1	2前		1		○			必修9単位 + 選択1単位
		生化学総論	保健2	1前		1		○			
		栄養学Ⅰ（基礎）	保健3	1後	1			○			
		栄養学Ⅱ（応用）	保健4	1後		1		○			
		心の健康	保健5	1後		1		○			
		薬理学Ⅰ（総論）	保健6	1後		1		○			
		薬理学Ⅱ（各論）	保健7	1後		1		○			
		病理学Ⅰ（総論）	保健8	1前	1			○			
		病理学Ⅱ（各論）	保健9	1前		1		○			
		微生物学Ⅰ（総論）	保健10	1前		1		○			
		微生物学Ⅱ（各論）	保健11	1前		1		○			
		発達心理学	保健12	1前		1		○			
		臨床心理学	保健13	1後	1				○		
	健康と保健医療システム	健康論	保健14	1前	1			○			
		公衆衛生学Ⅰ（基礎）	保健15	2前		1		○			
		公衆衛生学Ⅱ（応用）	保健16	2後		1		○			
		疫学・保健統計Ⅰ（基礎）	保健17	3前		1		○			
		疫学・保健統計Ⅱ（応用）	保健18	3前		1		○			
		リハビリテーション概論	保健19	1後	1			○			
		救命・救急の理論と実際	保健20	2前	1			○			
		画像診断学	保健21	2後	1			○			
		保健医療福祉論Ⅰ（基礎）	保健22	2後	1			○			
		保健医療福祉論Ⅱ（応用）	保健23	2後	1			○			
		食育論Ⅰ（基礎）	保健24	3前		1		○			
		食育論Ⅱ（応用）	保健25	3前		1		○			
		健康と運動	保健26	1後		1		○			
		家族社会学	保健27	1前		1		○			
		医療経営管理論	保健28	4後		1		○			
		リスクマネジメント論	保健29	2後		1		○			
専門科目	リハビリテーション専門基礎科目	人体の構造Ⅰ（筋・骨・神経系の構造）	作1	1前	1			○		必修26単位 + 選択1単位	
		人体の構造Ⅱ（脈管・内臓・感覚器の構造）	作2	1後	1			○			
		人体の構造実習	作3	1後	1				○		
		人体の機能Ⅰ（動物性機能）	作4	1前	1			○			
		人体の機能Ⅱ（植物性機能）	作5	1後	1			○			
		人体の機能実習	作6	2前	1				○		
		体表解剖学	作7	1後	1			○			
		作業運動学Ⅰ（作業運動の基礎）	作8	1後	1			○			
		作業運動学Ⅱ（作業運動の応用）	作9	2前	1			○			
		作業運動学演習	作10	2前	1			○			
		作業運動学実習	作11	2後	1				○		
		作業分析学	作12	2前		1		○			
		人間工学	作13	2後		1			○		
		人間発達学	作14	2前	1				○		
		医学総論	作15	1後	1			○			
		内科学総論	作16	2前	1				○		
		内科学各論	作17	2後	1				○		
		神経内科学総論	作18	2前	1				○		
		神経内科学各論	作19	2後	1				○		

別表（リハビリテーション学科作業療法学専攻 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
	整形外科学総論	作 20	2 前	1				○			
	整形外科学各論	作 21	2 後	1				○			
	精神神経科学総論	作 22	2 前	1				○			
	精神神経科学各論	作 23	2 後	1				○			
	臨床薬理学	作 24	2 後	1			○				
	老年科学	作 25	3 前	1				○			
	小児科学	作 26	3 前	1				○			
	臨床医学概論	作 27	3 前	1				○			
	リハビリテーション医学	作 28	3 前	1				○			
基礎作業療法学	作業療法概論	作 29	1 前	1				○		必修 6 単位 + 選択 2 単位	
	作業療法管理学	—	3 後	2			○				
	作業療法基礎理論	作 31	2 前		1			○			
	作業療法研究法	—	3 前	1			○				
	基礎作業学・演習	作 33	1 前	1				○			
	基礎作業学実習	作 34	1 後	1					○		
	作業療法ゼミナール A	作 36	2 後		1			○			
	作業療法ゼミナール B	作 36	2 後		1			○			
	作業療法ゼミナール C	作 36	2 後		1			○			
	作業療法ゼミナール D	作 36	2 後		1			○			
	作業療法ゼミナール E	作 36	2 後		1			○			
	作業療法ゼミナール F	作 36	2 後		1			○			
専門科目	実践作業療法学	作業療法評価学総論	作 37	1 後	1			○		必修 29 単位	
		身体作業療法評価学	作 38	2 前	1			○			
		身体作業療法評価学実習	作 39	2 通	1						○
		身体作業療法学Ⅰ	作 40	2 後	2			○			
		身体作業療法学Ⅱ	作 41	2 後	2			○			
		身体作業療法学演習	—	3 前	1				○		
		精神作業療法評価学	作 44	2 前	1			○			
		精神作業療法評価学実習	作 45	2 通	1						○
		精神作業療法学	作 46	2 後	2			○			
		精神作業療法学演習	—	3 前	1				○		
	発達期作業療法学	作 48	2 後	1			○				
	発達期作業療法学演習	—	3 前	1				○			
	老年期作業療法学	作 49	2 後	1			○				
	老年期作業療法学演習	—	3 前	1				○			
	高次神経機能作業療法学	作 50	2 後	2			○				
	日常生活活動学	作 52	2 後	1			○				
	日常生活活動学演習	—	3 前	1				○			
	義肢装具学	—	3 前	2			○				
	福祉機器論	—	3 後	2			○				
	地域社会参加支援学	—	3 前	1			○				
地域社会参加支援学演習	—	3 後	1				○				
地域作業療法学	—	3 前	2			○					
作業療法総合演習	—	4 通			1			○			
作業療法学特論 A	—	4 通			1			○			

別表（リハビリテーション学科作業療法学専攻 2019年度以降入学生用）

	作業療法学特論 B	—	4通	1			○		
	作業療法学特論 C	—	4通	1			○		
	作業療法学特論 D	—	4通	1			○		
	作業療法学特論 E	—	4通	1			○		
	作業療法学特論 F	—	4通	1			○		
臨床実習	臨床体験実習	作60	1通	1				○	必修28単位
	評価実習Ⅰ	—	3通	4				○	
	評価実習Ⅱ	—	3通	4				○	
	総合実習Ⅰ	—	3後	8				○	
	総合実習Ⅱ	—	4前	8				○	
	地域作業療法学実習	—	4後	3				○	
研究	卒業研究	—	4通	1			○	必修1単位	

※4 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」のどちらか1つは必ず選択して履修する。

別表（リハビリテーション学科作業療法学専攻 2019年度以降入学生用）

先修条件

【特色科目】

- 1 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること.
- 2 「社会実習（ボランティア活動）」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること.

【一般教養科目】

- 1 「実践統計学」を履修するには「統計学」の単位を修得済みであること.
- 2 「英語Ⅶ（上級英語）A」「英語Ⅶ（上級英語）B」を履修するには「英語Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ，またはⅥ」の選択2単位を修得済みであること.

【専門科目】

- 1 「総合実習Ⅰ」および「総合実習Ⅱ」を履修するには、「評価実習Ⅰ」および「評価実習Ⅱ」の両科目の単位を修得済みであること.

進級要件

以下の要件を満たさなければ、3年次に進級できない。

- 1 1・2年次に配当された特色科目および保健医療基礎科目の必修科目のすべての単位を修得済みであること.
- 2 1・2年次に配当された専門科目の必修科目のすべての単位を修得済みであること.

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	8単位	16単位	24単位
保健医療基礎科目	9単位	1単位	10単位
専門科目	90単位	3単位	93単位
合計	110単位	20単位	130単位

(リハビリテーション学科作業療法学専攻 2018年度以前入学生用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
特色科目	千葉県の健康づくり	特色2	2後	1				○		必修3単位
	体験ゼミナール	特色1	1前	1					○	
	専門職間の連携活動論	特色3	4後	1				○		
一般教養科目	人間理解群	心理学	一般1	1・2・3・4前	2			○		必修 2単位 + 選択 2単位 (※4)
		哲学	一般2	1・2・3・4前		2		○		
		文学	一般3	1・2・3・4前		2		○		
		歴史と文化	一般4	1・2・3・4前		2		○		
		生命倫理	一般5	1・2・3・4後		2		○		
		宗教学	一般6	1・2・3・4後		2		○		
		教育学	一般7	1・2・3・4後		2		○		
		人間関係論	一般8	1・2・3・4前		2		○		
		コミュニケーション理論と実際	一般9	1・2・3・4前		2		○		
		健康スポーツ科学	一般10	1・2・3・4前後		1			○	
		生涯身体運動科学	一般11	1・2・3・4前後		1			○	
	生活と環境群	生活とデザイン	一般12	1・2・3・4後		2		○		必修 2単位
		法学(日本国憲法)	一般13	1・2・3・4前		2		○		
		社会学	一般14	1・2・3・4後		2		○		
		文化人類学	一般15	1・2・3・4前		2		○		
		経済学	一般16	1・2・3・4前		2		○		
		国際関係論	一般17	1・2・3・4後		2		○		
		社会福祉学	一般18	1・2・3・4前		1		○		
		国際的な健康課題	一般19	1・2・3・4後		1		○		
		人権・ジェンダー	一般20	1・2・3・4後		2		○		
		科学論	一般21	1・2・3・4前		2		○		
		環境変化と生態	一般22	1・2・3・4後		2		○		
		観察生物学入門	一般23	1・2・3・4前後		2		○		
		生物学	一般24	1・2・3・4前後		2		○		
		物理学	一般25	1・2・3・4前		2		○		
		化学	一般26	1・2・3・4前		2		○		
情報理解群	統計学	一般27	1・2・3・4後	1				○	必修 2単位	
	情報リテラシーI	一般28	1前	1				○		
	情報リテラシーII	一般29	1・2・3・4後		1			○		
	情報倫理	一般30	1・2・3・4後		1		○			
外国語群	英語I(基礎講読)	—	1・2・3・4前		1			○	必修 2単位 + 選択 2単位	
	英語II(基礎英会話)	—	1・2・3・4前		1			○		
	英語III(講読・記述)	一般33	1・2・3・4後		1			○		
	英語IV(英会話)	—	1・2・3・4後		1			○		
	英語V(保健医療英語)	一般35	2前		2		○			
	英語VI(応用英語)	一般36	1・2・3・4後		1			○		

※4 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」のどちらかを選択して履修する。

(リハビリテーション学科作業療法学専攻 2018年度以前入学生用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	保健1	2前		1		○		必修6単位 + 選択1単位
		生化学総論	保健2	1前		1		○		
		栄養学Ⅰ(基礎)	保健3	1後		1		○		
		栄養学Ⅱ(応用)	保健4	1後		1		○		
		心の健康	保健5	1後		1		○		
		薬理学Ⅰ(総論)	保健6	1後		1		○		
		薬理学Ⅱ(各論)	保健7	1後		1		○		
		病理学Ⅰ(総論)	保健8	1前	1			○		
		病理学Ⅱ(各論)	保健9	1前		1		○		
		微生物学Ⅰ(総論)	保健10	1前		1		○		
		微生物学Ⅱ(各論)	保健11	1前		1		○		
		発達心理学	保健12	1前		1		○		
		臨床心理学	保健13	1後	1				○	
保健医療基礎科目	健康と保健医療システム	健康論	保健14	1前	1			○		必修6単位 + 選択1単位
		公衆衛生学Ⅰ(基礎)	保健15	2前		1		○		
		公衆衛生学Ⅱ(応用)	保健16	2後		1		○		
		疫学・保健統計Ⅰ(基礎)	保健17	3前		1		○		
		疫学・保健統計Ⅱ(応用)	保健18	3前		1		○		
		リハビリテーション概論	保健19	1後	1			○		
		救命・救急の理論と実際	保健20	2前		1		○		
		保健医療福祉論Ⅰ(基礎)	保健21	2後	1			○		
		保健医療福祉論Ⅱ(応用)	保健22	2後	1			○		
		食育論Ⅰ(基礎)	保健23	3前		1		○		
		食育論Ⅱ(応用)	保健24	3前		1		○		
		健康と運動	保健25	1後		1		○		
		家族社会学	保健26	1前		1		○		
		医療経営管理論	保健27	4後		1		○		
		リスクマネジメント論	保健28	2後		1		○		
専門科目	リハビリテーション専門基礎科目	人体の構造Ⅰ(筋・骨・神経系の構造)	作1	1前	1			○		必修24単位 + 選択1単位
		人体の構造Ⅱ(脈管・内臓・感覚器の構造)	作2	1後	1			○		
		人体の構造実習	作3	1後	1				○	
		人体の機能Ⅰ(動物性機能)	作4	1前	1			○		
		人体の機能Ⅱ(植物性機能)	作5	1後	1			○		
		人体の機能実習	作6	2前	1				○	
		機能解剖学	—	1後		1		○		
		作業運動学Ⅰ(作業運動の基礎)	作8	1後	1			○		
		作業運動学Ⅱ(作業運動の応用)	作9	2前	1			○		
		作業運動学実習	作11	2後	1				○	
		作業運動分析学	—	2前	1			○		
		臨床運動学	—	2前		1		○		
		人間工学	作13	2後		1		○		
		人間発達学	作14	2前	1			○		
		医学総論	作15	1後	1			○		
		内科学総論	作16	2前	1			○		
		内科学各論	作17	2後	1			○		
		神経内科学総論	作18	2前	1			○		
		神経内科学各論	作19	2後	1			○		

(リハビリテーション学科作業療法学専攻 2018年度以前入学生用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
専門科目	整形外科学総論	作 20	2 前	1				○			
	整形外科学各論	作 21	2 後	1				○			
	精神神経科学総論	作 22	2 前	1				○			
	精神神経科学各論	作 23	2 後	1				○			
	老年科学	作 25	3 前	1				○			
	小児科学	作 26	3 前	1				○			
	臨床医学概論	作 27	3 前	1				○			
	リハビリテーション医学	作 28	3 前	1				○			
	基礎作業療法学	作業療法概論	—	1 前	2			○			必修 7 単位 + 選択 1 単位
		作業療法管理学	作 30	3 後		1		○			
		作業療法基礎理論	作 31	2 前		1			○		
		作業療法研究法	作 32	3 後	1			○			
		基礎作業学・演習	作 33	1 前	1				○		
		基礎作業学実習	作 34	1 後	1					○	
		作業療法評価学概論	—	1 後	1			○			
		地域作業療法学概論	作 35	3 前	1			○			
	実践作業療法学	作業療法評価学Ⅰ(神経・心肺機能系)	—	2 前	2			○			必修 3 2 単位
		作業療法治療学Ⅰ(神経・心肺機能系)	—	2 後	2			○			
		作業療法学Ⅰ演習(神経・心肺機能系)	作 42	3 前	1				○		
		作業療法評価学Ⅱ(廃用・運動機能系)	—	2 前	2			○			
		作業療法治療学Ⅱ(廃用・運動機能系)	—	2 後	2			○			
		作業療法学Ⅱ演習(廃用・運動機能系)	作 43	3 前	1				○		
		作業療法評価学Ⅲ(精神・心理機能系)	—	2 前	2			○			
		作業療法治療学Ⅲ(精神・心理機能系)	—	2 後	2			○			
		作業療法学Ⅲ演習(精神・心理機能系)	作 47	3 前	1				○		
		作業療法評価学Ⅳ(認知・知能機能系)	—	2 前	2			○			
		作業療法治療学Ⅳ(認知・知能機能系)	—	2 後	2			○			
		作業療法学Ⅳ演習(認知・知能機能系)	作 51	3 前	1				○		
日常生活活動技術学		作 53	3 前	2			○				
日常生活活動技術学演習		作 54	3 後	1				○			
日常生活活動援助学		作 55	3 前	2			○				
日常生活活動援助学演習		作 56	3 後	1				○			
社会的適応支援評価学		—	2 後	2			○				
社会的適応支援学	作 57	3 前	2			○					
社会的適応支援学演習	作 58	3 後	1				○				
作業療法セミナー	作 59	3 前~4 前	1				○				
臨床実習	臨床体験実習	作 60	1 通	1					○	必修 2 7 単位	
	評価実習Ⅰ	作 61	3 通	3					○		
	評価実習Ⅱ	作 62	3 通	3					○		
	総合実習Ⅰ	作 63	4 通	8					○		
	総合実習Ⅱ	作 64	4 通	8					○		
	地域作業療法学実習	作 65	4 通	3					○		
研究	卒業研究	作 66	4 通	1				○			



(リハビリテーション学科作業療法学専攻 2018年度以前入学生用)

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	8単位	16単位	24単位
保健医療基礎科目	6単位	1単位	7単位
専門科目	90単位	2単位	92単位
合計	107単位	19単位	126単位

先修条件

【特色科目（平成28年度入学生より適用する）】

- 1) 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2) 「専門職間の連携活動論」を履修するには「体験ゼミナール」、「千葉県の健康づくり」の両単位を修得済みであること。

【専門科目】

- 1) 「総合実習Ⅰ」および「総合実習Ⅱ」を履修するには、すでに「評価実習Ⅰ」および「評価実習Ⅱ」の両科目の単位を修得済みであること。

## 令和2年度非常勤講師一覧

氏名	科目
稲垣 三恵子	英語Ⅰ(講読)
レーン プレンディン ジョン	英語Ⅱ(英会話)
レーン プレンディン ジョン	英語Ⅳ(英語コミュニケーション)
稲垣 三恵子	英語Ⅳ(英語コミュニケーション)
稲垣 三恵子	英語Ⅴ(保健医療英語)
満田 深雪	化学
大西 仁	科学論
榎本 輝樹	環境変化と生態
榎本 輝樹	観察生物学入門①
榎本 輝樹	観察生物学入門②
安孫子 誠男	経済学
水口 章	国際関係論
牧 純	国際的な健康課題
常山 吾朗	コミュニケーション理論と実際①
常山 吾朗	コミュニケーション理論と実際②
島村 賢一	社会学
佐藤 真生子	社会福祉学
大江 満	宗教学
島村 賢一	人権・ジェンダー
高橋 良博	心理学
上野 義雪	生活とデザイン
榎本 輝樹	生物学①
榎本 輝樹	生物学②
榎本 輝樹	生物学③
小館 貴幸	生命倫理
森 禎徳	生命倫理
常山 吾朗	人間関係論
岩崎 三郎	物理学
柴 佳世乃	文学
安倍 宰	文化人類学
覺正 豊和	法学(日本国憲法)
黒崎 輝人	歴史と文化
佐久間 祐子	教育心理
佐久間 祐子	教育相談
須藤 千尋	解剖生理学Ⅱ
松澤 大輔	解剖生理学Ⅱ
藤谷 朝実	国際栄養学
藤谷 朝実	障害者栄養支援論
加藤 秀雄	フードマネジメント論
畠山 とも子	家族看護学方法論
畠山 とも子	家族看護論
駒形 朋子	国際看護論
石川 博士	病態学Ⅱ(外科系疾病論)
岡野 達弥	病態学Ⅱ(外科系疾病論)
賀川 真吾	病態学Ⅱ(外科系疾病論)
鈴木 秀海	病態学Ⅱ(外科系疾病論)
三島 敬	病態学Ⅱ(外科系疾病論)
山浦 晶	病態学Ⅱ(外科系疾病論)
渡邊 倫子	病態学Ⅱ(外科系疾病論)
米持 喬	作業療法学Ⅰ演習(神経・心肺機能系)
石川 隆志	作業療法学Ⅳ演習(認知・知能機能系)
宮本 礼子	作業療法基礎理論
保田 由美子	作業療法セミナー
佐藤 大介	作業療法評価学総論
酒井 ひとみ	社会的適応支援学
大越 満	社会的適応支援学演習

佐藤 大介	社会的適応支援学演習
大熊 明	地域作業療法学概論
浦田 敦	日常生活活動援助学
浦田 敦	日常生活活動援助学演習
加瀬澤 文芳	日常生活活動援助学演習
保田 由美子	日常生活活動技術学演習
坂田 祥子	日常生活活動技術学演習
佐藤 大介	日常生活活動技術学演習
木之瀬 隆	日常生活活動援助学演習
山口 秀紀	顎口腔外科学
野本 たかと	演習Ⅲ(口腔機能リハビリテーション)
雨宮 歩	解剖学
野本 たかと	顎口腔機能リハビリテーション論
阿部 伸一	口腔解剖学
廣内 英智	口腔解剖学
田崎 雅和	口腔生理学
奥田 克爾	口腔微生物学
望月 由加里	在宅歯科衛生管理論Ⅱ
相川 敬子	歯科医療管理論
石原 和幸	歯科衛生基礎演習
佐藤 裕	歯科生化学・臨床検査法
鈴木 俊雄	歯科薬理学
上條 英之	社会保障・社会保険論
田崎 雅和	生理学
星野 伸明	保健行動科学論
榎本 豊	歯科矯正学
葛西 一貴	歯科矯正学
加藤 邦大	運動器障害理学療法学演習
高間 省吾	運動器障害理学療法学演習
鈴木 勝	運動器障害理学療法学演習
山内 弘喜	運動器障害理学療法学特論
山本 喜美夫	運動器障害理学療法学特論
石川 修平	運動器障害理学療法学特論
石田 佳子	運動障害理学療法学演習
稲垣 武	運動療法学
鈴木 啓太	義肢装具学
須田 裕紀	義肢装具学
田口 直枝	義肢装具学
前田 雄	義肢装具学
鈴木 啓太	義肢装具学演習
須田 裕紀	義肢装具学演習
田口 直枝	義肢装具学演習
前田 雄	義肢装具学演習
万治 敦史	神経系障害理学療法学演習
中村 信義	地域理学療法学
中村 信義	地域理学療法学演習
田中 康之	地域理学療法学特論
森沢 知之	内部障害理学療法学
鶴澤 吉宏	内部障害理学療法学演習
宮原 なおみ	発達障害理学療法学特論
村永 信吾	理学療法管理学
市橋 則明	理学療法発展領域論
對馬 栄輝	理学療法発展領域論
浅川 育世	老年期障害理学療法学演習
郷 貴博	義肢装具学
郷 貴博	義肢装具学演習
忽那 俊樹	内部障害理学療法学
櫻田 弘治	内部障害理学療法学

栗田 英明	内部障害理学療法学特論
百瀬 公人	内部障害理学療法学特論
稲垣 武	理学療法技術論
川口 真	理学療法技術論
村山 尊司	理学療法技術論
高柳 正樹	小児科学
笠置 泰史	人体の機能Ⅰ(動物性機能)
笠置 泰史	人体の機能Ⅱ(植物性機能)
北村 泰子	人体の構造Ⅱ(脈管・内臓・感覚器の構造)
杉澤 淳子	精神神経科学各論
小松 尚也	精神神経科学総論
渡邊 博幸	精神神経科学総論
志村 恵	人間工学
下村 義弘	人間工学
浅野 由美	リハビリテーション医学
菊地 尚久	リハビリテーション医学
中山 一	リハビリテーション医学
遠藤 隆志	人体の機能実習
佐藤 貴一郎	医療経営管理論
高尾 公矢	家族社会学
渡辺 満利子	健康論
飯坂 真司	公衆衛生学Ⅰ(基礎)
須賀 ひとみ	公衆衛生学Ⅱ(応用)
高梨 一彦	発達心理学
清水 健	微生物学Ⅰ(総論)
清水 健	微生物学Ⅱ(各論)
福井 謙二	病理学Ⅰ(総論)
福井 謙二	病理学Ⅱ(各論)
佐藤 真生子	保健医療福祉論Ⅰ(基礎)
池崎 澄江	保健医療福祉論Ⅱ(応用)
山崎 彰美	保健医療福祉論Ⅱ(応用)
鈴木 俊雄	薬理学Ⅰ(総論)
鈴木 俊雄	薬理学Ⅱ(各論)
高橋 静子	リスクマネジメント論
谷口 清	臨床心理学
佐藤 大介	精神作業療法評価学
佐藤 大介	精神作業療法評価学実習
佐藤 大介	精神作業療法学
佐藤 大介	作業療法学Ⅲ演習
保田 由美子	身体作業療法学Ⅱ
高浜 功丞	身体作業療法学Ⅱ
大瀬 律子	身体作業療法学Ⅱ
近藤 絵美	身体作業療法学Ⅱ
越川 求	教育制度論

自己点検・評価委員会	教育研究年報作成部会
部会長	松尾 真輔 (リハビリテーション学科・作業療法学専攻)
部会員	椿 祥子 (看護学科)
	坂本 明子 (看護学科)
	河野 公子 (栄養学科)
	河野 舞 (歯科衛生学科)
	江戸 優裕 (リハビリテーション学科・理学療法学専攻)
事務局	寺田 瑞希









Annual Report of Education and Research  
Chiba Prefectural University Of Health Sciences

10-1, Wakaba 2-chome, Mihama-ku, Chiba 261-0014, Japan

Tel: 043-296-2000 / Fax: 043-272-1716